

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2017 看護学部 授業計画
看護学科

看 護 学 部

(学部略号：N)

Faculty of Nursing

看護学科

(学科略号：N)

Department of Nursing

◎教育研究上の目的

生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観、心豊かな人間性と看護実践能力を備えた人材を育成し、地域社会における保健・医療・福祉の向上、看護の発展に貢献できる看護職者を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（看護学）の学位を授与します。

■知識・理解

[DP 1] 心豊かな人間性と人や社会を理解するための幅広い教養を身につけている。
(基礎的教養)

[DP 2] 対象理解や看護実践に繋がる看護や薬に関する専門的知識を身につけている。
(専門的知識)

■思考・判断

[DP 3] 広く多元的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、問題を解決できる能力を身につけている。(問題解決力)

■関心・意欲・態度

[DP 4] 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観をもって看護を実践できる力を身につけている。(倫理観)

[DP 5] 保健医療チームの一員として、互いの立場を尊重し意欲的に他者と協働関係を築く力を身につけている。(チームワーク)

[DP 6] 地域社会と看護の発展に貢献する意思をもち、看護職として自己研鑽の姿勢を身につけている。(学習意欲・態度)

■技能・表現

[DP 7] 科学的根拠に裏打ちされた安全安楽な看護を提供するための実践能力を身につけている。(実践力)

[DP 8] 多様な人々と信頼関係を築くことができるコミュニケーション力を身につけている。(コミュニケーション力)

◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

①心豊かな人間性を涵養し、広範な教養と幅広い視野を身につけるための基礎・教養科目を配置する。また、人間や人間を取り巻く社会への理解を深めるための教養科目を配置する。

②身体を系統立てて理解し、健康・疾病に基づいた観察力、判断能力を養うための専門基

礎科目群を配置するとともに、看護を実践するうえで必要となる知識を身につけるため各看護学専門領域科目群を配置する。

■思考・判断

- ③物事を探求する研究的思考を持ち続けるための科目、広く多角的に情報を収集する能力を身につけるための専門科目およびキャリア形成科目を配置する。各看護学専門領域科目群は、講義・演習・実習の授業形態により、知識、技術、態度が体系的に思考でき、確実な問題解決能力が養われるよう専門科目に「看護学概論」、「看護学援助論」、「看護学実習」と「看護と統合の実践科目群」を段階的に配置する。

■関心・意欲・態度

- ④1～4年次まで、段階に応じた倫理観を養うための「看護倫理」、「看護学概論」、「看護学実習」、「看護研究」などの専門科目を配置する。
- ⑤1～4年次まで、薬学部との協働学習によるチームワークを涵養するためのキャリア形成科目を配置する。また、保健医療チームの一員として協働関係を築く力を養うための「看護学実習」を配置する。
- ⑥地域社会と看護の発展に貢献するために「看護研究」、「統合看護学実習」などの専門科目を配置する。また、目指す看護職像を意識したうえでキャリア設計し、将来ビジョンを明確にしていく力を育むためのキャリア形成科目や「看護学実習」の専門科目を配置する。

■技能・表現

- ⑦科学的根拠に裏打ちされた安全安楽な看護を提供するための実践能力を身につけるために、講義・演習・実習の授業形態による専門科目「看護学概論」、「看護学援助論」、「看護学実習」を段階的に配置する。
- ⑧多様な人々と信頼関係を構築するために必要なコミュニケーション力を身につけるため、キャリア形成科目に「患者コミュニケーション」、専門科目に「カウンセリング論」、「看護対人関係論」、「看護学援助論」、「看護学実習」などを配置する。

◎アドミッション・ポリシー(AP:入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

- ①国語および外国語の文章を読み解き、かつ自分の考えを論理的に文章として書くことのできる基礎的な知識を有している。
- ②看護の基礎となる生命現象に対する数学、理科（生物・化学）に関する基礎的な知識を有している。

■思考・判断

- ③自然科学の現象について自ら調べ、論理的に考えることができる力を有している。

■関心・意欲・態度

- ④倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度を有している。
- ⑤主体的に課外活動やボランティア活動に参加し、他者と相互理解しようとする姿勢を

有している。

⑥人や看護に関心があり、将来、看護職として地域社会に貢献したいと考え、主体的に学び続ける態度や柔軟な創造力を有している。

■技能・表現

⑦人と良好な関係を築き、他者の意見に耳を傾け、自分の考えも適切に相手に伝える力を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
イ		
医療経済論	田井 義人	38
エ		
英語Ⅰ	ドーマン多田 さおり	167
英語Ⅰ	中道 英美子	169
英語Ⅰ	ヘドリックⅢ ロイ	170
英語Ⅱ	ドーマン多田 さおり	171
英語Ⅱ	中道 英美子	173
英語Ⅱ	ヘドリックⅢ ロイ	174
英語Ⅲ	ドーマン多田 さおり	175
英語Ⅲ	木村 理恵子	176
英語Ⅲ	天野 貴史	178
英語Ⅳ	大塚 正人	295
疫学	小堀 栄子	30
疫学・保健統計	小堀 栄子	318
カ		
カウンセリング論	宮川 貴美子	317
家族関係論	中川 由理	35
家族看護学	後閑 容子	36
	泉川 孝子	
	鎌田 佳奈美	
	神戸 美輪子	
	白田 久美子	
	田中 結華	
	松田 千登勢	
	眞野 祥子	
家族看護学	後閑 容子	136
看護学概論	竹中 泉	40
看護関係法規	松本 葉子	320
看護管理学	竹中 泉	83
	伊藤 恵子	
	後閑 容子	
	安田 照美	
看護教育学	竹中 泉	138
韓国語Ⅰ	北島 由紀子	183
韓国語Ⅰ	北島 由紀子	184
韓国語Ⅱ	北島 由紀子	185
韓国語Ⅱ	北島 由紀子	186
看護研究Ⅰ	後閑 容子	148
看護研究Ⅱ	後閑 容子	149
看護対人関係論	田中 結華	42
看護対人関係論	田中 結華	81
看護倫理	鎌田 佳奈美	137
	赤井 由紀子	
	泉川 孝子	
	神戸 美輪子	
	白田 久美子	
	竹中 泉	
	田中 結華	

科目名	担当者	ページ
	松田 千登勢	
	眞野 祥子	
患者安全	辻 琢己	303
	岩崎 綾乃	
	鎌田 佳奈美	
	眞島 崇	
	森谷 利香	
	吉川 有葵	
患者安全	辻 琢己	305
	岩崎 綾乃	
	鎌田 佳奈美	
	眞島 崇	
	森谷 利香	
	吉川 有葵	
患者コミュニケーション	田中 結華	307
	岩崎 綾乃	
	眞島 崇	
	眞野 祥子	
患者コミュニケーション	田中 結華	309
	岩崎 綾乃	
	眞島 崇	
	眞野 祥子	
感染と防御	伊藤 潔	19
キ		
基礎看護学実習Ⅰ	竹中 泉	59
	中山 由美	
	森嶋 道子	
	佐久間 夕美子	
	北村 敦子	
基礎看護学実習Ⅱ	竹中 泉	60
	中山 由美	
	森嶋 道子	
	佐久間 夕美子	
	北村 敦子	
基礎看護技術Ⅰ	佐久間 夕美子	43
	竹中 泉	
	中山 由美	
	森嶋 道子	
	北村 敦子	
基礎看護技術Ⅰ	佐久間 夕美子	46
	竹中 泉	
	中山 由美	
	森嶋 道子	
	北村 敦子	
基礎看護技術Ⅱ	中山 由美	49
	竹中 泉	
	森嶋 道子	
	佐久間 夕美子	
	北村 敦子	
基礎看護技術Ⅱ	中山 由美	51
	竹中 泉	

科目名	担当者	ページ
	森 嶋 道 子	
	佐久間 夕美子	
	北 村 敦 子	
基礎看護技術Ⅲ	佐久間 夕美子	53
	竹 中 泉	
	中 山 由 美	
	森 嶋 道 子	
	北 村 敦 子	
基礎看護技術Ⅳ	佐久間 夕美子	55
	竹 中 泉	
	中 山 由 美	
	森 嶋 道 子	
	北 村 敦 子	
基礎看護技術Ⅳ	中 山 由 美	57
	竹 中 泉	
	森 嶋 道 子	
	佐久間 夕美子	
	北 村 敦 子	
北河内を知る	荻 田 喜代一	248
キャリアデザイン	西 鶴 智 香	293
キャリアデザイン	西 鶴 智 香	299
キャリア入門	鎌 田 佳奈美	301
教育学	朝 日 素 明	232

ケ

経済学	紀 国 正 典	240
研究入門	小 堀 栄 子	146

コ

公衆衛生学	小 堀 栄 子	34
国際看護学	松 本 葉 子	140
コミュニケーション論	櫻 井 清 華	225
コミュニケーション論	櫻 井 清 華	291

サ

災害看護論	中 山 由 美	145
	京 極 多歌子	
	松 田 千登勢	
	森 嶋 道 子	
在宅看護学援助論Ⅰ	田 中 結 華	79
	後 閑 容 子	
	坂 本 結美子	
	山 本 十三代	
在宅看護学援助論Ⅰ	田 中 結 華	130
	後 閑 容 子	
	坂 本 結美子	
	山 本 十三代	
在宅看護学援助論Ⅱ	山 本 十三代	132
	後 閑 容 子	
	坂 本 結美子	
	田 中 結 華	
在宅看護学概論	後 閑 容 子	77

科目名	担当者	ページ
	田 中 結 華	
在宅看護学概論	後 閑 容 子	128
	田 中 結 華	
在宅看護学実習	田 中 結 華	134
	後 閑 容 子	
	坂 本 結美子	
	山 本 十三代	
在宅看護学実習	田 中 結 華	135
	後 閑 容 子	
	坂 本 結美子	
	山 本 十三代	

シ

疾病・治療論Ⅰ	小 崎 篤 志	23
疾病・治療論Ⅱ	小 崎 篤 志	24
疾病・治療論Ⅲ（老年）	小 崎 篤 志	25
疾病・治療論Ⅳ（小児）	大 橋 敦	26
疾病・治療論Ⅴ（女性）	西 村 史 朋	27
疾病・治療論Ⅵ（精神）	小笠原 一 能	29
周産期医学	赤 井 由紀子	152
小児看護学援助論Ⅰ	鎌 田 佳奈美	70
	池 田 友 美	
	亀 田 直 子	
	中 山 祐 一	
小児看護学援助論Ⅰ	鎌 田 佳奈美	107
	池 田 友 美	
	大 橋 敦	
	亀 田 直 子	
	中 山 祐 一	
小児看護学援助論Ⅱ	池 田 友 美	109
	鎌 田 佳奈美	
	亀 田 直 子	
	中 山 祐 一	
小児看護学概論	鎌 田 佳奈美	69
小児看護学概論	鎌 田 佳奈美	105
	池 田 友 美	
小児看護学実習	鎌 田 佳奈美	111
	池 田 友 美	
	亀 田 直 子	
	中 山 祐 一	
小児看護学実習	鎌 田 佳奈美	112
	池 田 友 美	
	亀 田 直 子	
	中 山 祐 一	
情報リテラシー	小 堀 栄 子	191
	寺 内 睦 博	
情報リテラシー	小 堀 栄 子	192
	寺 内 睦 博	
情報リテラシーⅡ	小 堀 栄 子	292
助産学概論	赤 井 由紀子	154
	宮 本 雅 子	
助産学実習	赤 井 由紀子	164

科目名	担当者	ページ
	但馬 まり子	
	穂迫 享子	
	宮本 雅子	
助産管理論	赤井 由紀子	163
	宮本 雅子	
助産技術学演習	宮本 雅子	161
	赤井 由紀子	
	但馬 まり子	
	穂迫 享子	
助産診断・技術学Ⅰ	赤井 由紀子	156
助産診断・技術学Ⅱ	但馬 まり子	157
	赤井 由紀子	
助産診断・技術学Ⅲ	宮本 雅子	159
	但馬 まり子	
女性学	荒木 菜穂	234
女性学	荒木 菜穂	236
人体の構造と機能Ⅰ	吉田 侑矢	11
人体の構造と機能Ⅱ	岩崎 綾乃	13
人体の構造と機能Ⅲ	久家 貴寿	15
人体の構造と機能Ⅳ	山口 太郎	16
	尾中 勇祐	
心理学	樋口 隆弘	226

ス

スポーツ科学	藤林 真美	195
	江川 達郎	
スポーツ科学	藤林 真美	197
	江川 達郎	

セ

精神看護学援助論Ⅱ	山本 智津子	125
	眞野 祥子	
成人看護学援助方法	神戸 美輪子	90
	青野 美里	
	稲垣 範子	
	志戸岡 恵子	
	白田 久美子	
	竹下 裕子	
	森谷 利香	
	吉川 有葵	
精神看護学援助論Ⅰ	眞野 祥子	76
	山本 智津子	
精神看護学援助論Ⅰ	眞野 祥子	123
	小笠原 一能	
	山本 智津子	
成人看護学援助論Ⅰ	竹下 裕子	85
	稲垣 範子	
	吉川 有葵	
成人看護学援助論Ⅱ	森谷 利香	87
	青野 美里	
	志戸岡 恵子	
精神看護学概論	眞野 祥子	75

科目名	担当者	ページ
精神看護学概論	眞野 祥子	121
成人看護学概論	神戸 美輪子	61
	白田 久美子	
精神看護学実習	眞野 祥子	126
	山本 智津子	
精神看護学実習	眞野 祥子	127
	山本 智津子	
成人看護学実習Ⅰ	神戸 美輪子	91
	稲垣 範子	
	稲垣 美紀	
	竹下 裕子	
	吉川 有葵	
成人看護学実習Ⅰ	神戸 美輪子	92
	稲垣 範子	
	稲垣 美紀	
	竹下 裕子	
	吉川 有葵	
成人看護学実習Ⅱ	白田 久美子	93
	青野 美里	
	志戸岡 恵子	
	松本 葉子	
	森谷 利香	
成人看護学実習Ⅱ	白田 久美子	94
	青野 美里	
	志戸岡 恵子	
	松本 葉子	
	森谷 利香	
成人病態看護論	稲垣 美紀	63
成人病態看護論	稲垣 美紀	89
生物・化学の基礎	眞島 崇	243
生命倫理	山本 奈津子	244
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本 正治	251
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田 裕子	252
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野 英一	253
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久保 貞也	254
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴坂 貴恵	255
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	尾山 廣	257
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	居場 嘉教	258
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一色 美博	259
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	田中 賢太郎	260
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	大田 住吉	261
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石井 信輝	263
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	内部 昭彦	264
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤林 真美	265
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	水野 武	266
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	林 茂樹	267
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	荻田 喜代一	268
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	西之坊 穂	269
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢木 紀哉	270
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本 正治	271
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田 裕子	272
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野 英一	273

科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトII	久保 貞也	274
摂南大学PBLプロジェクトII	鶴坂 貴恵	275
摂南大学PBLプロジェクトII	尾山 廣	277
摂南大学PBLプロジェクトII	居場 嘉教	278
摂南大学PBLプロジェクトII	一色 美博	279
摂南大学PBLプロジェクトII	田中 賢太郎	280
摂南大学PBLプロジェクトII	大田 住吉	281
摂南大学PBLプロジェクトII	石井 信輝	283
摂南大学PBLプロジェクトII	内 部 昭彦	284
摂南大学PBLプロジェクトII	藤 林 真美	285
摂南大学PBLプロジェクトII	水 野 武	286
摂南大学PBLプロジェクトII	林 茂 樹	287
摂南大学PBLプロジェクトII	荻 田 喜代一	288
摂南大学PBLプロジェクトII	西之坊 穂	289
摂南大学PBLプロジェクトII	栢 木 紀哉	290
専門日本語F I	中 岡 樹 里	210
専門日本語F II	中 岡 樹 里	211
専門日本語R	中 岡 樹 里	221

ソ

総合看護学演習	後 閑 容 子	150
	池 田 友 美	
	泉 川 孝 子	
	荻 田 喜代一	
	神 戸 美輪子	
	小 崎 篤 志	
	小 堀 栄 子	
	白 田 久美子	
	竹 中 泉	
	田 中 結 華	
	松 田 千登勢	
	山 本 智津子	
ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	249

タ

代謝栄養学	竹 内 健 治	17
-------	---------	----

チ

地域と私	鶴 坂 貴 恵	246
中国語 I	今 中 崇 文	179
中国語 I	今 中 崇 文	180
中国語 II	今 中 崇 文	181
中国語 II	今 中 崇 文	182

テ

哲学	森 本 誠 一	228
----	---------	-----

ト

統計の基礎	小 堀 栄 子	193
	寺 内 睦 博	
統計の基礎	小 堀 栄 子	194
	寺 内 睦 博	

科目名	担当者	ページ
統合看護学実習	後 閑 容 子	151
	青 野 美 里	
	赤 井 由紀子	
	池 田 友 美	
	泉 川 孝 子	
	稲 垣 範 子	
	稲 垣 美 紀	
	小 川 宣 子	
	鎌 田 佳奈美	
	亀 田 直 子	
	神 戸 美輪子	
	北 村 敦 子	
	金 原 京 子	
	坂 本 結美子	
	佐久間 夕美子	
	志戸岡 恵 子	
	白 田 久美子	
	竹 下 裕 子	
	竹 中 泉	
	但 馬 まり子	
	田 中 真佐恵	
	田 中 結 華	
	中 山 祐 一	
	中 山 由 美	
	名 草 みどり	
	福 山 智 子	
	穂 迫 享 子	
	松 田 千登勢	
	松 本 葉 子	
	眞 野 祥 子	
	宮 本 雅 子	
	森 嶋 道 子	
	森 谷 利 香	
	山 本 智津子	
	山 本 十三代	
	吉 井 輝 子	
	吉 川 有 葵	

ニ

日本語会話F I	藤 原 京 佳	212
日本語会話F II	藤 原 京 佳	213
日本語会話R	藤 原 京 佳	222
日本国憲法	小宮山 直 子	239
日本語総合F I	古 川 由理子	208
日本語総合F II	古 川 由理子	209
日本語総合R	古 川 由理子	220
日本語読解F I	中 岡 樹 里	202
日本語読解F II	中 岡 樹 里	203
日本語読解R	中 岡 樹 里	217
日本語表現作文F I	中 岡 樹 里	206
日本語表現作文F II	中 岡 樹 里	207
日本語表現作文R	中 岡 樹 里	219

科目名	担当者	ページ
日本語表現法	南 谷 静 香	187
日本語表現法	南 谷 静 香	189
日本語文法 F I	中 岡 樹 里	204
日本語文法 F II	中 岡 樹 里	205
日本語文法 R	中 岡 樹 里	218
日本事情 F I	門 脇 薫	199
日本事情 F II	梅 野 将 之	200
日本事情 R I	門 脇 薫	214
日本事情 R II	梅 野 将 之	215

ヒ

病院薬学演習	菊 田 真 穂 小 西 麗 子 小 森 浩 二 三田村 しのぶ	313
病院薬学演習	菊 田 真 穂 小 西 麗 子 小 森 浩 二 三田村 しのぶ	315
病理学総論	小 崎 篤 志	18

フ

文学	大 橋 直 義	230
文化人類学	西 垣 有	231

ホ

法学入門	安 藤 由香里	238
保健医療福祉行政論	山 本 十三代 金 原 京 子 後 閑 容 子 松 田 千登勢	32
母性看護学援助論 I	泉 川 孝 子 名 草 みどり 福 山 智 子	73
母性看護学援助論 I	泉 川 孝 子 名 草 みどり 西 村 史 朋 福 山 智 子	115
母性看護学援助論 II	福 山 智 子 泉 川 孝 子 名 草 みどり	117
母性看護学概論	泉 川 孝 子 名 草 みどり 福 山 智 子	72
母性看護学概論	泉 川 孝 子 名 草 みどり 福 山 智 子	113
母性看護学実習	泉 川 孝 子 名 草 みどり 福 山 智 子	119
母性看護学実習	泉 川 孝 子 名 草 みどり	120

科目名	担当者	ページ
	福 山 智 子	
ボランティア活動論	森 本 誠 一	233

ヤ

薬物治療学	田 中 雅 幸	22
薬理学総論	荻 田 喜代一	21

リ

臨床看護学演習 I	松 本 葉 子 金 原 京 子 志戸岡 恵 子 辻 琢 己 名 草 みどり 山 本 智津子	141
臨床看護学演習 II	松 本 葉 子 池 田 友 美 稲 垣 範 子 菊 田 真 穂 小 森 浩 二 坂 本 結美子 塙 由美子 穂 迫 享 子	143

ロ

老年看護学援助論 I	金 原 京 子 小 川 宣 子 田 中 真佐恵 松 田 千登勢 吉 井 輝 子	65
老年看護学援助論 I	金 原 京 子 松 田 千登勢 小 川 宣 子 小 崎 篤 志 田 中 真佐恵 吉 井 輝 子	96
老年看護学援助論 II	小 川 宣 子 金 原 京 子 田 中 真佐恵 松 田 千登勢 吉 井 輝 子	99
老年看護学概論	松 田 千登勢	64
老年看護学概論	松 田 千登勢	95
老年看護学実習 I	松 田 千登勢 小 川 宣 子 金 原 京 子 田 中 真佐恵 吉 井 輝 子	67
老年看護学実習 I	松 田 千登勢 小 川 宣 子 金 原 京 子 田 中 真佐恵 吉 井 輝 子	101

科目名	担当者	ページ
老年看護学実習Ⅰ	松田千登勢	102
	小川宣子	
	金原京子	
	田中真佐恵	
	吉井輝子	
老年看護学実習Ⅱ	松田千登勢	68
	小川宣子	
	金原京子	
	田中真佐恵	
	吉井輝子	
老年看護学実習Ⅲ	松田千登勢	103
	小川宣子	
	金原京子	
	田中真佐恵	
	吉井輝子	
老年看護学実習Ⅳ	松田千登勢	104
	小川宣子	
	金原京子	
	田中真佐恵	
	吉井輝子	

專 門 科 目

科目名	人体の構造と機能 I	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 侑矢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「解剖学」「組織学」の基礎から学習を始め、「骨格」「関節」の全容を学習すると共に、全身を取りまく「骨格筋」と、骨格筋による「運動」を学習する。さらに、「末梢神経系」の支配について学習する。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心に行う。人体臓器模型等を用いた演習形式学習を行うことがある。授業は指定席で実施することがある。適宜、講義前に小テストを実施するので、普段からの学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	細胞、組織、臓器・器官の成り立ち	細胞の機能及び細胞、組織、臓器・器官の成り立ちと、人体の正常機能を維持するための仕組みについて学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
2	4 大組織	4 大組織について名称をあげ、その特徴、分布を学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
3	骨の構造、発生・成長、機能	人体の骨の構造・機能、発生と成長、全身の骨格について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
4	人体の骨格	人体の骨格 (連結を含む) について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
5	筋の構造・機能	骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
6	筋の収縮とその特徴	骨格筋、心筋、平滑筋の収縮の仕組み、収縮の特徴について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
7	体幹の骨格と筋	脊柱、胸郭、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
8	上肢の骨格と筋	上肢帯の骨格、自由上肢の骨格、上肢帯の筋群、上腕の筋群、前腕の筋群、手の筋群、上肢の運動について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
9	下肢の骨格と筋	下肢帯の骨格、自由下肢の骨格、下肢帯の筋群、大腿の筋群、下腿の筋群、足の筋群、下肢の運動について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
10	頭頸部の骨格と筋	脳頭蓋、顔面頭蓋、頭部の筋、頸部の筋について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
11	自律神経系の機能	自律神経系 (交感神経と副交感神経) の特徴・機能について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
12	自律神経系の構造	交感神経系と副交感神経系の構造について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
13	自律神経系の調節	自律神経系の神経伝達物質、受容体、調節について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
14	筋の神経支配	骨格筋、心筋、平滑筋の神経支配について学習する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。
15	総合演習	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する (1 時間) 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させ (1 時間)、これを中心に小テストに備える (1 時間)。また、講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分を見つけ、この部分を学習し、定期テストに備える。

関連科目	人体の構造と機能 II、III、IV
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学（人体の構造と機能①）」	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院
	2	メディカルイメージブック 解剖学	中島雅美 編	医歯薬出版株式会社
	3	人体の構造と機能 I 講義ノート		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト (30%)、定期試験 (70%) により総括評価する。			
学生への メッセージ	『人体の構造と機能 I II 講義ノート』を活用しながら授業をまとめ、小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。			
担当者の 研究室等	1号館3階 (病態医科学研究室)			
備考				

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩崎 綾乃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「消化器系器官」の構造と機能を学習して栄養の消化と吸収を理解する。また、「呼吸器系器官」「血液系」の構造と機能を学習して呼吸と血液のはたらきを理解する。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心とする。人体臓器模型等を用いた演習形式学習や授業を指定席で実施することがある。講義前にレポート課題の提出または小テストを実施するので、普段から学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	消化器系:	●人体の構造と機能Ⅱの概要 ●消化器系の概要 ●口腔～食道 口、咽頭、食道の構造と機能について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
2	消化器系:	●胃 胃の構造、運動、機能、調節について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
3	消化器系:	●十二指腸～胆嚢、膵臓 十二指腸、胆嚢、膵臓の構造と機能について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
4	消化器系:	●小腸 ●栄養素の消化と吸収 小腸の構造、運動、機能、調節について説明 栄養素(糖質、タンパク質、脂質)の消化・吸収とビタミンやミネラルの吸収について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
5	消化器系:	●肝臓、大腸 肝臓、大腸の構造、運動、機能、調節について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
6	消化器系:	●消化器系のまとめ 問題演習等を通して消化器系器官の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分を見つけ、その部分を復習する。 さらに、演習問題を解いて、講義ノート及びメディカルイメージブックを活用しながら、自己の理解度を確認する。
7	呼吸器系:	●呼吸器系の概要 ●鼻腔～咽頭 ●喉頭～気管、気管支 鼻腔から咽頭の構造について説明 喉頭、気管支、肺胞の構造について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
8	呼吸器系:	●呼吸筋、呼吸量 ●呼吸中枢とガス交換 呼吸運動、呼吸気量について説明 呼吸の神経調節、呼吸運動、ガスの運搬と交換について説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
9	呼吸器系:	●呼吸器系のまとめ 問題演習等を通して呼吸器系器官の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分を見つけ、その部分を復習する。 さらに、演習問題を解いて、講義ノート及びメディカルイメージブックを活用しながら、自己の理解度を確認する。
10	血液系:	●血液の機能と成分 血漿タンパク質の種類と働きについて説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
11	血液系:	●造血、血球 造血機構、血球の種類と働きについて説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
12	血液系:	●赤血球、白血球 ●血小板 赤血球、白血球の種類と働きについて説明 血小板の働きについて説明	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間) 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
13	血液系:	●血小板、止血 ●血液凝固	予習:教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する(1時間)、これを中心にレポート提出、小テストに備える(1時間)

			血小板および止血の機構について説明 血液凝固機構について説明	トに備える（1時間） 講義ノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える
	14	血液系：	●血液型 血液型について説明 ●血液系のまとめ 問題演習等を通して血液系の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	予習：教科書及び講義ノートから学習範囲を把握する（1時間）、これを中心にレポート提出、小テストに備える（1時間） 講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、その部分を復習する。 さらに、演習問題を解いて、講義ノート及びメディカルイメージブックを活用しながら、自己の理解度を確認する。
	15	総合演習	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成する。	講義、教科書、講義ノートの中で理解が不完全な部分をみつけ、その部分を学習し、定期テストに備える。
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学（人体の構造と機能①）」	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院
	2	メディカルイメージブック 解剖学	中島雅美 編	医歯薬出版株式会社
	3	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ講義ノート		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テストまたはレポート（30%）、定期試験（70%）により総括評価する。			
学生への メッセージ	『人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ講義ノート』を活用しながら授業をまとめ、小テスト、レポートを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。			
担当者の 研究室等	1号館（薬学部） 4階 臨床薬理学研究室			
備考	指定した教科書3冊は「人体の構造と機能Ⅰ」で使用するものと同じものです。必ず持ってきてください。 課題（小テスト、レポート等）については、課題提出後に内容の解説を行います。			

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久家 貴寿
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「循環器系器官」「泌尿器系器官」の構造と機能を学習して血液の循環と調節及び尿生成と体液の調節を理解する。また、「内分泌系器官」の構造と機能を学習して内臓機能の調節を理解する。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、人体臓器模型や問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心臓の構造	心臓の位置と外形、心臓の部屋と弁、心臓壁、心臓の血管と神経について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
2	心臓の機能	心臓の興奮と伝播、心電図について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
3	心臓の機能	心臓の収縮とその調節について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
4	末梢循環系の構造	血管の構造、肺循環、全身の動脈系、全身の静脈系について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
5	血液の循環調節	血圧、血液循環について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
6	血液の循環調節	血圧調節、微小循環、循環器系の病態生理について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
7	リンパ系の構造と機能	リンパ管の構造、リンパ循環について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
8	体液の調節と尿の生成	腎臓の構造と機能、糸球体の構造と機能、尿細管の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
9	体液の調節と尿の生成	傍糸球体装置、腎臓から分泌される生理活性物質、排尿路の構造について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
10	体液の調節と尿の生成	尿の貯蔵と排尿、体液調節について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
11	内分泌系による内臓機能の調節	ホルモンの化学構造と作用機序、内分泌系器官について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
12	内分泌系による内臓機能の調節	視床下部-下垂体系、甲状腺、副甲状腺 (上皮小体) について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
13	内分泌系による内臓機能の調節	膵臓、副腎、性腺の構造と分泌ホルモンの機能について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
14	内分泌系による内臓機能の調節	ホルモン分泌調節、ホルモンによる生体機能調節について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
15	総括	循環系・体液・内分泌系に関して総括する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、薬理学Ⅰ、Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	解剖生理学 - 人体の構造と機能 -	坂井健雄/岡田隆夫	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。ただし、小テスト、レポート、その他の課題等も評価に入れることもある。
学生へのメッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。
担当者の研究室等	1号館4階 生体分子分析学研究室
備考	薬理学の基礎となる教科ですから、講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。

科目名	人体の構造と機能Ⅳ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 太郎、尾中 勇祐
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「神経系器官・感覚器系器官」の構造と機能、「生体防御機構」を学習して生体情報の伝達・受容と調節や生体防御反応について理解する。また、「生殖系器官」の構造と機能を学習して生殖・発生・老化のしくみを理解する。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、人体臓器模型や問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	神経系の構造と機能	神経細胞と支持細胞、神経細胞の興奮と伝播、シナプス伝達について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
2	脊髄と脳	脊髄の構造と機能、脳の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
3	脊髄神経と脳神経	脊髄神経の構造と機能、脳神経の構造と機能、運動性上行路、感覚性下行路について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
4	脳の高次機能	脳波と睡眠、記憶、本能と情動行動、内臓調節機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
5	眼の構造と機能	眼球の構造、眼球付属器、視覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
6	耳の構造と機能	耳の構造、聴覚、平衡感覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
7	味覚、嗅覚、疼痛	味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚、痛みの分類、疼痛発生機序について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
8	皮膚の構造と機能	皮膚の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
9	生体防御	皮膚・粘膜における防御、食食作用・細胞傷害物質による防御、免疫による防御について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
10	体温	熱の出納、体温の分布と測定、体温調節について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
11	男性生殖器	男性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
12	女性生殖器	女性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
13	受精と胎児発生	生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
14	成長と老化	小児期の成長、老化について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
15	体表から見た人体の構造	体表から触知できる骨格部分・骨格筋・血管を各自が確認して部位の名称を確認する。	授業のまとめノートを作成すること。

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、薬理学Ⅰ、Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	解剖生理学 - 人体の構造と機能 -	坂井健雄/岡田隆夫	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。ただし、小テスト等の一定割合を評価に入れることもある。尚、必要に応じて課題レポートを課すことがある。

学生へのメッセージ 授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等 1号館6階 薬理学研究室

備考 薬理学の基礎となる教科ですから、講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。定期試験終了後、模範解答を公開する。

科目名	代謝栄養学	科目名(英文)	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	竹内 健治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質(アミノ酸)、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクター、プリントなどを用いて講義する。
科目学習の効果(資格)	生物系科目全般の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	糖質の代謝	食べた糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	糖質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
3	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「脂質」の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
4	脂質の代謝	食べた脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	脂質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
5	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
6	アミノ酸とタンパク質の代謝 エネルギー代謝の統合と制御	食べたタンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。 代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	アミノ酸とタンパク質の代謝の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
7	体の中の酵素の役割 代謝異常と疾患	私たちの体温は37℃、pHは中性である。このような緩和な状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。 遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する	酵素の役割の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
8	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」 遺伝情報	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。 遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」と遺伝情報の部分の教科書を授業前に読み理解しておく。授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	生物・化学の基礎など生物系科目全般
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テストと課題(25%)、定期試験(75%)で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義時間が少ないため、覚えるだけの部分は授業時間以外の学習で補ってもらおう。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねて下さい。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館5階細胞生物学研究室
------------	---------------

科目名	病理学総論	科目名(英文)	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小崎 篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に消化器および代謝内分泌疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲへと引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病理学総論(消化器2)	講義にて消化器疾患、主に食道疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
3	病理学総論(消化器3)	講義にて消化器疾患、主に胃十二指腸疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
4	病理学総論(消化器4)	講義にて消化器疾患、主に胃十二指腸疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
5	病理学総論(消化器5)	講義にて消化器疾患、主に腸および腹膜疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
6	病理学総論(消化器6)	講義にて消化器疾患、主に腸および腹膜疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
7	病理学総論(消化器7)	講義にて消化器疾患、主に胆肝脾疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
8	病理学総論(消化器8)	講義にて消化器疾患、主に胆肝脾疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
9	病理学総論(消化器9)	講義にて消化器疾患、主に胆肝脾疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の復習
10	病理学総論(代謝内分泌1)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
11	病理学総論(代謝内分泌2)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
12	病理学総論(代謝内分泌3)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の復習
13	病理学総論(代謝内分泌4)	講義にて代謝内分泌疾患、主に尿酸代謝および異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
14	病理学総論(代謝内分泌5)	講義にて代謝内分泌疾患、主に甲状腺疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
15	病理学総論(代謝内分泌6)	講義にて代謝内分泌疾患、主に副甲状腺・下垂体疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習

関連科目	疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.1 消化器		メディックメディア
	2	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌		メディックメディア
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
評価方法(基準)	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度等を評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度評価など(10%)で最終評価する。			
学生へのメッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室23			
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。			

科目名	感染と防御	科目名(英文)	Microbiology and Immunology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 潔
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	それぞれの感染症に特定のウイルスや微生物が関与することを理解するため、代表的な病原体の種類や特徴とそれらが引き起こす症状について学ぶ。また、病原体に対する生体防御機構と予防法や治療法の基礎知識を学ぶことにより、科学的な根拠に基づいて感染症の予防と治療に従事する専門職としての能力を身につける。さらに、分子生物学的・遺伝学的観点から感染と防御について概説することにより、最先端の感染症医療に対応できる能力を身につける。
到達目標	1. 代表的な病原微生物の生物学的特徴、感染経路、代表的な治療法および予防法などについて説明できる。2. 微生物の検出、取扱い、滅菌と消毒について概説できる。 3. 免疫学の発展と免疫系について説明できる。 4. 感染症の患者や家族などに対して適切な態度で接することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容を中心に PowerPoint を用いて解説する。必要に応じて練習問題や課題を出すので、正誤にかかわらず自らの考えを記すこと。PowerPoint の内容をまとめたプリントを配布するので、講義前に教科書の該当領域と合わせて熟読し、概要を理解すること。また、講義中に重要と思われる内容をマークしたり、必要に応じて書き込みすること。講義後、再度、教科書とプリントの内容を確認し、重要な内容をノートにまとめること。疑問や質問などがあれば研究室に来て確認して欲しい。
科目学習の効果(資格)	目に見えない病原体の存在とそれらの特性を理解することで、一般市民の健康と生命を守るために必要な衛生的知識を修得できる。また、感染防御と感染症治療の基礎を理解することで、感染症患者の治療や院内感染防止に役立つ知識を身につけることができる。感染症が誰にでも起こりうる病気であることを理解することで、感染症の患者やその家族に対する偏見を無くし、献身的に医療に従事する態度を醸成する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション(講義の概要について) 感染症とは何か? 病原体とは何か? 免疫とは何か?	講義の方法、資料、注意事項、評価方法について説明する。 様々な病原体によって引き起こされる感染症と、免疫の概念について解説する。	事前学習: 教科書 p. 43~p. 56 を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
2	病原体の概要と分類	病原体(プリオン・ウイルス・細菌・真菌・原虫・寄生虫)の特徴と分類、および疾患との関連について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 4~p. 9 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
3	免疫の概念	免疫反応に関与する細胞や分子の種類と、それらの働きについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 56~p. 61 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
4	免疫系のネットワーク	自然免疫と獲得免疫の特徴、および細胞性免疫反応と液性免疫反応の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 62~p. 66, p. 70~p. 71 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
5	免疫による感染防御と、免疫に基づく疾患	正常な免疫系が関与する疾患と、免疫系の過剰反応や異常によって起こる疾患の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 66~p. 70 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
6	微生物検査法・滅菌と消毒	病原微生物の存在や特性を知る方法と、それらを除去する方法について解説する。	事前学習: 教科書 p. 74~82, p. 102~p. 107 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
7	滅菌と消毒・化学療法・感染症の予防	病原体を除去したり殺滅する方法と、感染症の予防や治療について解説する。	事前学習: 教科書 p. 74~p. 100 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
8	プリオンとウイルスのアウトライン	プリオンの特徴やプリオン感染症と、ウイルスの特徴・構造・分類・増殖などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 28~p. 36, p. 189 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
9	代表的なウイルス感染症-1	ウイルス感染症の例として、ヘルペスやインフルエンザを中心に解説する。	事前学習: 教科書 p. 159~p. 183 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
10	代表的なウイルス感染症-2	ウイルス感染症の例として、後天性免疫不全症候群(AIDS)を中心に解説する。	事前学習: 教科書 p. 184~p. 190 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
11	細菌のアウトライン	細菌の形態・構造・遺伝子などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 12~p. 25 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
12	代表的な細菌感染症-1	グラム陽性菌による感染症の例として、ブドウ球菌感染症、ボツリヌス症、結核	事前学習: 教科書 p. 111~p. 126 とプリントの該当部分を熟読する。

			などについて解説する。	事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。																
	13	代表的な細菌感染症－2	グラム陰性菌やその他の細菌による感染症の例として、ペスト、コレラ、大腸菌感染症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 128～p. 158 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。																
	14	真菌・原虫・寄生虫のアウトライン	真菌・原虫・寄生虫の特徴や分類について解説する。	事前学習：教科書 p. 37～p. 41 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。																
	15	代表的な真菌・原虫・寄生虫感染症	真菌・原虫・寄生虫感染症の例として、マラリアや住血吸虫症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 191～p. 197 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。																
関連科目	生命科学概論、生物・化学の基礎、公衆衛生学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジュアル微生物学</td> <td>小田 紘</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジュアル微生物学	小田 紘	ヌーヴェルヒロカワ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジュアル微生物学	小田 紘	ヌーヴェルヒロカワ																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験（100点満点中60点以上で合格）により総合評価する。																			
学生への メッセージ	ヒトは多種多様な生物との関わり合いの中で生きている。目に見えないほど小さな生物の中には、ヒトにとって有益なものもあれば、有害なものもある。正常な免疫系は我々の身体を種々の病原体から守る役割を果たしているが、免疫系の異常によって病気が引き起こされる場合もある。ヒトと微生物の関係と免疫の仕組みを理解し、科学的な見地に基づいて感染防御に必要なことは何かを考えられる医療従事者になることを望む。																			
担当者の 研究室等	1号館5階 微生物学研究室																			
備考	感染症や免疫系、および微生物について学ぶためには、生物学の基礎的知識が不可欠であり、高校レベルの生物学の知識を有することが要求される。高校で生物学を履修していない者は、本講義を履修する前に高校の生物学の教科書や教材を参考に自己学習することを勧める。																			

科目名	薬理学総論	科目名(英文)	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	薬物療法における看護師の役割として、(1) 誤薬の防止、(2) 治療効果の確認、(3) 有害作用の予防と早期発見、(4) 服薬に対する患者指導、(5) 患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投与方法と投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的に理解し、臨床での実践へ向けた薬物療法の基盤を確かなものとする。																																																																		
到達目標	(1) 薬物療法における看護師の役割について概説できる。 (2) 薬が作用するしくみについて、受容体、イオンチャネル、酵素、などを交えて説明できる。 (3) 薬を投与した際の体内挙動(吸収、分布、代謝、排泄)について概説できる。 (4) 薬物相互作用について例を挙げて説明できる。 (5) 薬物の危険性について理解し、例を挙げて説明できる。 (6) 薬に関連した法律について概説できる。 (7) 自律神経系(交感神経・副交感神経)に作用する薬物について説明できる。 (8) 体性神経系(運動神経、知覚神経)に作用する薬物について説明できる。 (9) 心臓血管系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (10) 呼吸器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (11) 泌尿器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には指定した教科書に沿って講義を進め、必要に応じてプリントなどを配付します。また、事前学修確認テストを毎回の授業で実施するので事前学習は必ず行うこと。その詳細は授業開始時に周知します。																																																																		
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬理学を学ぶにあたって</td> <td>薬理学とはなにか、薬による病気の治療について学修する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>薬理学の基礎知識(1)</td> <td>薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>薬理学の基礎知識(2)</td> <td>薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>薬理学の基礎知識(3)</td> <td>薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>薬理学の基礎知識(4)</td> <td>薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学修する</td> <td>レポート「看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割」の作成・提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割</td> <td>看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物(1)</td> <td>神経系による情報伝達、自律神経作用薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物(2)</td> <td>交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物(3)</td> <td>筋弛緩薬・局所麻酔薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(1)</td> <td>抗高血圧薬・狭心症治療薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(2)</td> <td>心不全治療薬、抗不整脈薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(3)</td> <td>利尿薬、脂質異常症治療薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(4)</td> <td>血液に作用する薬物について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>呼吸器系に作用する薬物</td> <td>気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>泌尿器系に作用する薬物</td> <td>排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について学修する</td> <td>・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療について学修する		2	薬理学の基礎知識(1)	薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	3	薬理学の基礎知識(2)	薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	4	薬理学の基礎知識(3)	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	5	薬理学の基礎知識(4)	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学修する	レポート「看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割」の作成・提出	6	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	7	末梢での神経活動に作用する薬物(1)	神経系による情報伝達、自律神経作用薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	8	末梢での神経活動に作用する薬物(2)	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	9	末梢での神経活動に作用する薬物(3)	筋弛緩薬・局所麻酔薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	10	心臓・血管系に作用する薬物(1)	抗高血圧薬・狭心症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	11	心臓・血管系に作用する薬物(2)	心不全治療薬、抗不整脈薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	12	心臓・血管系に作用する薬物(3)	利尿薬、脂質異常症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	13	心臓・血管系に作用する薬物(4)	血液に作用する薬物について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	14	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する	15	泌尿器系に作用する薬物	排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療について学修する																																																																	
2	薬理学の基礎知識(1)	薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
3	薬理学の基礎知識(2)	薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
4	薬理学の基礎知識(3)	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
5	薬理学の基礎知識(4)	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学修する	レポート「看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割」の作成・提出																																																																
6	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
7	末梢での神経活動に作用する薬物(1)	神経系による情報伝達、自律神経作用薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
8	末梢での神経活動に作用する薬物(2)	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
9	末梢での神経活動に作用する薬物(3)	筋弛緩薬・局所麻酔薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
10	心臓・血管系に作用する薬物(1)	抗高血圧薬・狭心症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
11	心臓・血管系に作用する薬物(2)	心不全治療薬、抗不整脈薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
12	心臓・血管系に作用する薬物(3)	利尿薬、脂質異常症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
13	心臓・血管系に作用する薬物(4)	血液に作用する薬物について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
14	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
15	泌尿器系に作用する薬物	排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について学修する	・事前学修課題により事前学習を行う。 ・事前学修確認テストを中心として復習する																																																																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、薬物治療学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3</td> <td>吉岡充弘、泉 剛、井関 健</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院																																																								
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学</td> <td>古川裕之</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版																																																								
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版																																																																
評価方法(基準)	定期試験(60%)、授業中の演習課題(40%)、100点満点の60点以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で薬剤師と意見交換が出来るよう薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。質問は遠慮せず来てください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館6階(薬理学研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	薬物治療学	科目名 (英文)	Pharmacotherapeutics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 雅幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	薬理学総論で修得した薬物の作用機序をもとに、さらに幅を広げ、全身の各種疾患に対して科学的根拠に基づいた薬物治療を行うための実践的な医薬品の使用方法を学ぶ。医療チームの一員として患者の治療に貢献できる看護師となるために、医薬品を投与した際の患者の管理や観察に必要な知識・技能・態度を身につける。
到達目標	(1) 中枢神経に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (2) 免疫系、アレルギー疾患、炎症性疾患に用いる薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (3) 消化器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (4) 抗がん薬、緩和医療について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (5) 生殖系・物質代謝に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (6) 抗感染症薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (7) 救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。
授業方法と留意点	指定した教科書に沿ったスライドを使って授業を進めます。スライド内容は、授業前日までに webbox (ファイル共有システム) にアップロードします。必要に応じて板書、プリントなどを配布します。また、臨床的観点からの薬物治療や新薬の話題も提供します。小テストを 1~2 回実施する予定です。

科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験
--------------	---------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義の概要 中枢神経系に作用する薬物 (1)	講義の方法、資料、注意事項、評価方法について説明する。中枢神経系のはたらきと薬物について概説する。また、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
2	中枢神経系に作用する薬物 (2)	気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
3	中枢神経系に作用する薬物 (3)	抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
4	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬 (1)	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬 (2)	関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症、片頭痛治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
7	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、消化管運動促進薬、制吐薬などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
8	抗がん薬 (1)	がん治療に関する基礎事項について、緩和医療を交えて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
9	抗がん薬 (2)	抗がん薬各論について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
10	生殖系・物質代謝に作用する薬物	女性ホルモン関連製剤、骨粗しょう症治療薬などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
11	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
12	抗感染症薬 (1)	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
13	抗感染症薬 (2)	抗感染症薬の血中濃度測定の意義、およびその際の看護上の注意点について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
14	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、漢方医学の基礎知識について概説する。また、消毒薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
15	総合演習	第 1 回~第 14 回の講義の総合演習を行う。	教科書の該当範囲の予習・復習

関連科目	人体の構造と機能 I ~ IV、疾病・治療論 I、II、薬理学総論
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版

評価方法 (基準)	定期試験、小テスト、出席率等を加味し、100点満点の60点以上で合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で薬剤師と意見交換が出来るよう薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。質問は遠慮せず来てください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	薬理学総論と同じ教科書を使用します。
----	--------------------

科目名	疾病・治療論Ⅰ	科目名(英文)	Clinical Medicine I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小崎 篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に呼吸器および循環器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	疾病・治療論(呼吸器2)	講義にて呼吸器疾患、主に呼吸機能検査などについて学習する	教科書内授業部分の復習
3	疾病・治療論(呼吸器3)	講義にて呼吸器疾患、主に呼吸器感染症などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
4	疾病・治療論(呼吸器4)	講義にて呼吸器疾患、主に免疫・アレルギー性肺疾患および間質性肺疾患の原因、原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
5	疾病・治療論(呼吸器5)	講義にて呼吸器疾患、主に閉塞性肺疾患などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
6	疾病・治療論(呼吸器6)	講義にて呼吸器疾患、主に肺腫瘍の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
7	疾病・治療論(呼吸器7)	講義にて呼吸器疾患、主に肺循環異常・換気障害などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
8	疾病・治療論(循環器1)	講義にて循環器疾患、主に循環器の解剖生理、診察法等について学習する	教科書内授業部分の復習
9	疾病・治療論(循環器2)	講義にて循環器疾患、主に循環器の検査法等について学習する	教科書内授業部分の復習
10	疾病・治療論(循環器3)	講義にて循環器疾患、主にショックや心不全の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
11	疾病・治療論(循環器4)	講義にて循環器疾患、主に虚血性心疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
12	疾病・治療論(循環器5)	講義にて循環器疾患、主に不整脈疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
13	疾病・治療論(循環器6)	講義にて循環器疾患、主に心臓弁膜症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
14	疾病・治療論(循環器7)	講義にて循環器疾患、主に心筋・心膜疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習
15	疾病・治療論(循環器8)	講義にて循環器疾患、主に血管疾患および高血圧疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の復習

関連科目 病理学総論、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.4 呼吸器		メディックメディア
2	病気がみえる vol.2 循環器		メディックメディア	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度など(10%)で最終評価する。

学生へのメッセージ 授業には指定教科書を持参して下さい。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室23

備考 病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	疾病・治療論Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Medicine II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小崎 篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に血液・膠原病・腎および泌尿器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅲとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	疾病・治療論(血液1)	講義にて血液疾患、主に赤血球系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
3	疾病・治療論(血液2)	講義にて血液疾患、主に赤血球系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
4	疾病・治療論(血液3)	講義にて血液疾患、主に白血球・血液凝固系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
5	疾病・治療論(血液4)	講義にて血液疾患、主に白血球・血液凝固系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
6	疾病・治療論(免疫・膠原病1)	講義にて免疫・膠原病疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
7	疾病・治療論(免疫・膠原病2)	講義にて免疫・膠原病疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習
8	疾病・治療論(感染症1)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
9	疾病・治療論(感染症2)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
10	疾病・治療論(感染症3)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の復習
11	疾病・治療論(感染症4)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(4)	教科書内授業部分の復習
12	疾病・治療論(腎泌尿器1)	講義にて腎泌尿器疾患、主に腎疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
13	疾病・治療論(腎泌尿器2)	講義にて腎泌尿器疾患、主に腎疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
14	疾病・治療論(腎泌尿器3)	講義にて腎泌尿器疾患、主に泌尿器疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の復習
15	疾病・治療論(腎泌尿器4)	講義にて腎泌尿器疾患、主に泌尿器疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の復習

関連科目	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅲ
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.5 血液		メディックメディア
2	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症		メディックメディア	
3	病気がみえる vol.8 腎・泌尿器		メディックメディア	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度など(10%)で最終評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	第2回以降、講義には指定教科書を持参して下さい。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7号館3階 研究室23
----------	-------------

備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。
----	--

科目名	疾病・治療論Ⅲ	科目名(英文)	Clinical Medicine III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小崎 篤志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に脳神経および骨関節疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心にプロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには解剖学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	疾病・治療論(脳神経2)	講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(1)?	教科書内授業部分の復習
3	疾病・治療論(脳神経3)	講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(2)?	教科書内授業部分の復習
4	疾病・治療論(脳神経4)	講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患(3)および水頭症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	教科書内授業部分の復習
5	疾病・治療論(脳神経5)	講義にて脳神経疾患、主に脱髄疾患および神経変性疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。?	教科書内授業部分の復習
6	疾病・治療論(脳神経6)	講義にて脳神経疾患、主に筋疾患および神経筋接合部疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	教科書内授業部分の復習
7	疾病・治療論(脳神経7)	講義にて脳神経疾患、主に認知症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。?	教科書内授業部分の復習
8	疾病・治療論(骨疾患など)	講義にて骨疾患、主に骨折や骨粗鬆症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。?	プリントの復習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.7 脳・神経		メディックメディア
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 合格判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出题する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度など(10%)で最終評価する。

学生へのメッセージ 授業には指定教科書を持参して下さい。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室23

備考 病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	疾病・治療論Ⅳ	科目名(英文)	Clinical Medicine IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	大橋 敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	子ども特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。資料を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、解剖生理についての基礎的な知識が必要となる。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	新生児の疾患について	新生児、早産児の生理機能と代表的な疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	小児の呼吸器疾患について	小児の呼吸器の特徴と、小児に多い呼吸器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
3	小児の循環器疾患について	小児の循環器の特殊性と先天性心疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
4	小児の血液疾患・悪性腫瘍について	小児に多い血液疾患、悪性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
5	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
6	小児の神経疾患について	小児に多い神経疾患を理解する。染色体異常症、発達障害について理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
7	小児の内分泌・代謝疾患について	小児に多い内分泌疾患、成長障害、代謝性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
8	小児の感染症、免疫・アレルギーについて	小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。予防接種について理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、小児看護学概論
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
3	ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学②	中野綾美 編集	メディカ出版

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児科学 第2版	金子一成 編集	金芳堂
2	小児の疾患と看護 小児看護③	中野綾美 編集	メディカ出版
3	小児臨床看護学各論 小児看護学②	奈良間美穂 他	医学書院

評価方法(基準)	合否判定は定期試験で判定する。筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。
学生へのメッセージ	疾病・治療論Ⅳでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶にとどまらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。
担当者の研究室等備考	

科目名	疾病・治療論V	科目名(英文)	Clinical Medicine V
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	西村 史朋
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	<p>《概要》 次世代を担う母性準備期(思春期)、母性が最も発揮する時期(成熟期)、母性継承期(更年期・老年期)にある女性の、月経異常、性感染症、不妊症、ホルモン療法、婦人科疾患(子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について学ぶ。(全8回)</p>
到達目標	<p>1. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 2. 婦人科疾患(月経異常、性感染症、不妊症、子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について理解する。</p>
授業方法と留意点	講義・グループワーク・DVD鑑賞・課題などの方法で学ぶ
科目学習の効果(資格)	母性看護学援助論Ⅰ、Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習課題	事後学習課題
1	婦人科疾患の診断と治療	遺伝と出生前診断、不妊治療について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる	事後学習課題：講義内容の復習
2	婦人科疾患の診断と治療	月経困難症と子宮内膜症、子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮がんについて学ぶ。エストロゲン欠乏が関連する疾患(更年期障害・尿失禁・骨粗鬆症)等	事前学習課題：テキストを読んでくる	事後学習課題：講義内容の復習
3	妊娠の経過と異常	妊娠の成立と全身の変化。妊娠期：妊娠高血圧症候群、流産・早産、胎児発育評価と IUGR、IUGR と将来の生活習慣病、胎盤機能の異常と IUGR、羊水の機能と生理	事前学習課題：テキストを読んでくる	事後学習課題：講義内容の復習
4	妊娠期の異常	ハイリスク妊婦とは 妊娠期の異常：妊娠初期の異常(妊娠悪阻、流産、異所性妊娠)、 妊娠中期(多胎妊娠、早期産、切迫早産)、 妊娠後期(前置胎盤、常位胎盤早期剥離) 妊娠期の感染症(母子感染について、麻疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、C型肝炎、成人T細胞性白血病、パルボウイルス B19 感染症、B 群溶血性レンサ球菌感染症、梅毒、性器クラミジア、淋菌感染症、エイズ)	事前学習課題：テキストを読んでくる	事後学習課題：講義内容の復習
5	分娩の経過と異常	分娩期：陣痛発来について、胎位について、娩出力について、分娩監視装置について 分娩期：児頭の下降、フリードマン曲線 異常：産道の異常、微弱陣痛、過強陣痛、胎位の異常	事前学習課題：テキストを読んでくる	事後学習課題：講義内容の復習
6	分娩期の異常	胎児機能不全の診断について、吸引分娩、鉗子分娩、会陰部切開、帝王切開について、子癇、HELLP 症候群 *無痛分娩	事前学習課題：テキストを読んでくる	事後学習課題：講義内容の復習
7	産褥・新生児の異常	産褥期：産褥熱、精神障害、マタニティブルー、エジンバラ産後鬱診断表について、産褥血栓症	事前学習課題：テキストを読んでくる	事後学習課題：講義内容の復習
8	産褥・新生児の異常	新生児の異常：新生児仮死、新生児蘇生アルゴリズム分娩時外傷、高ビリルビン血症、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症等	事前学習課題：テキストを読んでくる	事後学習課題：講義内容の復習
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目 人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院
2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気が見える vol.10 産科		メディックメディア
2	病気が見える vol.9 婦人科、乳腺外来		メディックメディア	
3	成人看護学⑨女性生殖器	末岡 浩他	医学書院	

評価方法 (基準)	定期試験 80%、レポート課題等 20%、授業参加度等を見て総合的に評価する。
学生への メッセージ	婦人科疾患（性・生殖機能障害など）、妊娠・分娩に関する健康障害について理解を深め、身体面だけでなく心理面、社会的側面に及ぼす影響について考える機会とするなどのたくさんの問いを持って、真摯に学んで下さい。
担当者の 研究室等	連絡担当：泉川孝子（研究室 15）
備考	授業担当は非常勤講師のため、授業時間外での質問等に対する応対方法は授業開始時に知らせる。

科目名	疾病・治療論VI	科目名(英文)	Clinical Medicine VI
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小笠原 一能
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		

授業概要・目的	精神科医療における診断と治療の概念、主な精神疾患の病因、症状、診断、回復過程、治療について学ぶ。一部、現代の精神保健に関する事項についても触れる。
到達目標	各精神疾患の病因・症状・診断・回復過程・治療、現代の精神保健上の問題について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、適宜質問を受け付け、質問に対する答えや意見・感想を求めて授業への積極的参加を促す。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	総論・外因性精神疾患	精神疾患の分類・診断基準・原因・症状の捉え方に続き、外因性精神疾患(症状性精神疾患、器質性精神疾患、中毒性精神疾患、認知症など)、急性・心的外傷後ストレス障害、適応障害などの病因、症状、治療について理解する	事前：教科書「第1章III」「第2章V、VI、VII、X」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?
2	うつ病・躁うつ病・統合失調症	医学が「こころ」をどう捉えているかに続き、うつ病・躁うつ病(双極性障害)・統合失調症の病因、症状、予後、治療法、精神疾患と遺伝の関連について理解する	事前：教科書「第2章III、IV」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?
3	神経発達障害・脳神経と精神疾患	神経発達障害(精神遅滞、学習障害、注意欠如・多動性障害、自閉症スペクトラム障害など)の病因、症状、治療法について理解する	事前：教科書「第1章II」「第2章?、?」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?
4	神経症性障害・心身症・パーソナリティ障害	神経症性障害(不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体症状症)、心身症、パーソナリティ障害の分類、病因、症状、治療法について理解する	事前：教科書「第2章I、II、13」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?
5	精神科的治療Ⅰ ～基礎的介入・身体療法～	精神科で行われている治療法(支持的療法、疾患教育、生活指導、薬物療法、電気けいれん療法、高照度光療法、認知リハビリテーションなど)について理解する。漢方薬も概説する	事前：教科書「第3章I、II」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?
6	精神科的治療Ⅱ てんかん、睡眠障害、摂食障害	精神科で行われている治療法(催眠療法、精神分析療法、行動療法、認知療法、アート・セラピー、森田療法、来談者中心療法、ユマニチュードなど)について理解する。また、てんかん、睡眠障害、摂食障害の分類、症状、治療法について理解する	事前：教科書「第2章IX、14」「第3章III」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?
7	依存・乱用・嗜癖・脳波	アルコール使用障害、薬物使用障害の概念、症状、治療、依存からの回復過程、アディクション、脳波の基礎について理解する	事前：教科書「第2章VIII」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?
8	性関連障害、ストレス	性同一性障害(性別違和)、性嗜好障害の症状と治療、ストレス過程、ストレスによって起こる身体・精神的反応、労働ストレスについて理解する	事後：授業内容を整理しておいてください。?
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験84%、講義ごとのワークシート16%
----------	------------------------

学生へのメッセージ	質問は歓迎します。 社会に流布している「偏見・差別意識」「過剰なロマン的・文学的見方」の両方にとらわれない、科学的・合理的かつ(本当の意味で)人道的な精神科患者さんへの見方を考えてもらいたと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	担当教員不在の時の質問は、他の精神看護学領域の教員を経由して質問してください。
----------	---

備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 日程(日程変更を含む)は追って連絡するので、注意深く掲示板の確認をすること。
----	--

科目名	疫学	科目名(英文)	Epidemiology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	授業では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的な考え方を学ぶ。まず、疾病とそのリスク要因の関係に注目した説明変数と結果変数という考え方、因果関係と関連の違い、各研究デザインの利点と限界、そして誤差・バイアスについて学ぶ。最後に、スクリーニングについての基本事項と、人を対象とする医学研究についての倫理について取り上げる。
到達目標	疫学および保健統計を含む統計学の基本を学び、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果(資格)	健康に関する事象について、論理的捉え方・考え方ができるようになる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			・第1回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
1	疫学の概要	疫学の考え方、歴史	
2	疫学指標	割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
3	疫学研究デザイン(1)	因果推論、介入研究(1)	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
4	疫学研究デザイン(2)	介入研究(2)、観察研究(1)	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
5	疫学研究デザイン(3)	観察研究(2)	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
6	誤差とバイアス(1)	偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
7	誤差とバイアス(2)	情報バイアス、選択バイアス、交絡、交絡の調整	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
8	スクリーニング	検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC曲線	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・わからない点を解決すること(適宜)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	統計の基礎
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめて学ぶやさしい疫学 ～疫学への招待～	日本疫学会	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために	片平 潤彦	桐書房

	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 8 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、疫学・保健統計を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。 			
担当者の 研究室等	7号館3階24			
備考	なし			

科目名	保健医療福祉行政論	科目名(英文)	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 金原 京子, 後閑 容子, 松田 千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6△		

授業概要・目的	<p>人口の少子高齢化、格差の拡大など、社会のあり方が大きく変わりつつある今日、人々の生活の安心・安定を支える社会の仕組みも大きく変わる必要に迫られている。その仕組みは複雑であるが、社会の変化の流れと関連付けることで、今日の姿の必然性、そして今後のあるべき方向性が見えてくる。</p> <p>本科目では生活を支える社会的仕組みである社会保障を中心に扱い、「なぜ」「どうして」という問いを立て、それにこたえる形で授業を進める。日本の公衆衛生を向上させ、国民の健康を守ってきたのが保健医療福祉行政とその制度である。本講義ではこうした保健医療福祉行政とその制度や仕組みについて学ぶ。また、保健、医療、福祉が連携して展開されている現状について講義する。</p>
到達目標	<p>保健医療福祉行政とその制度・仕組みについて理解するとともに、制度ごとの関係や違いについても説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉行政の概要について理解できる。 2. 保健医療福祉行政の歴史的変遷について理解できる。 3. 社会福祉制度について理解できる。 4. 社会保障制度について理解できる。

授業方法と留意点	講義を中心とした授業形態とする。一部、事例検討を交えた演習携帯を取り入れる。
----------	--

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	保健医療福祉行政の概要と変遷(1) 〈後閑〉	社会福祉・社会保障とは何か 社会保障の仕組み・機能・歴史 保健医療福祉の財源	テキスト p42 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
2	保健医療福祉行政の概要と変遷(2) 〈後閑〉	社会福祉の担い手と役割 社会福祉の実践方法 社会資源の活用方法	テキスト p43～p76 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
3	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈子ども・家庭と福祉〉 〈山本〉	子ども・家庭福祉の理念と目的 子育て支援・少子化対策に関する施策 児童虐待・母子保健に関する施策	テキスト p80～p96 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
4	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈障害児・者と福祉〉 〈山本〉	障害者を守る法律の概要 障害者を支援するサービス体系 自立支援医療 障害者雇用および支援	テキスト p98～p110 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
5	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈難病対策〉 〈山本〉	難病対策の取り組み、改革の内容 難病患者に対する医療等に関する法律	テキスト p111～p119 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
6	社会福祉の制度 〈生活保護〉 〈山本〉	公的扶助制度 生活保護における生活保障 給付の要件と保護基準、見直し	テキスト p136～p149 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
7	社会福祉の制度 〈地域福祉〉 〈山本〉	地域福祉の定義と理念 地域福祉計画 保健・医療と福祉の連携	テキスト p152～p161 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
8	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 〈高齢者と福祉〉 〈松田〉	高齢者保健福祉施策の社会的背景、目的、理念、経緯 老人福祉法による高齢者支援 今後の課題 高齢者の権利擁護と虐待防止	テキスト p120～p133 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
9	社会保障制度 〈医療保険制度〉 〈松田〉	医療保険制度の沿革、しくみ 高齢者医療制度 医療保険制度の課題	テキスト p171～p186 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
10	社会保障制度 〈年金制度〉 〈山本〉	公的年金制度の意義としくみ 沿革、概要、給付 企業年金などの概要 課題	テキスト p164～p170 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
11	社会保障制度 〈雇用保険と労災保険〉 〈山本〉	雇用保険制度の役割、しくみ、課題 労災保険制度の概要、給付 業務災害、通勤災害の認定	テキスト p200～p210 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
12	社会保障制度 〈介護保険(1)〉 〈金原〉	制度創設の背景 介護保険制度の概要(意義、しくみ、実施体制と財源)	テキスト p187～p199 まで熟読してくる こと最新ニュースに留意
13	社会保障制度 〈介護保険(2)〉 〈金原〉	介護サービスの利用 介護サービスの内容	最新ニュースに留意

	14	社会保障制度 〈介護保険 (3)〉 〈金原〉	介護保険制度の見直しと課題	最新ニュースに留意																
	15	保健医療福祉行政の計画と 評価 〈山本〉	地方自治体の保健医療福祉計画 地方自治体の計画策定 計画の推進と管理・評価	最新ニュースに留意																
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、各領域の看護学概論、地域看護学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社会福祉と社会保障 (ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障)</td> <td>増田雅暢 平野かよ子 島田 美喜</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	社会福祉と社会保障 (ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障)	増田雅暢 平野かよ子 島田 美喜	メディカ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	社会福祉と社会保障 (ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障)	増田雅暢 平野かよ子 島田 美喜	メディカ出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>これからの保健医療福祉行政論</td> <td>星旦二 麻原きよみ</td> <td>日本看護協会出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>衛生行政大要</td> <td>上田茂</td> <td>日本公衆衛生協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国民衛生の動向 2017</td> <td></td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	これからの保健医療福祉行政論	星旦二 麻原きよみ	日本看護協会出版会	2	衛生行政大要	上田茂	日本公衆衛生協会	3	国民衛生の動向 2017		厚生労働統計協会
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	これからの保健医療福祉行政論	星旦二 麻原きよみ	日本看護協会出版会																	
2	衛生行政大要	上田茂	日本公衆衛生協会																	
3	国民衛生の動向 2017		厚生労働統計協会																	
評価方法 (基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義します。教科書を読むだけではわかりにくいので、社会保障制度や社会福祉制度に関する日々のニュースに関心を持って、国の動きに着目していきましょう。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁です。 																			
担当者の 研究室等	後閑容子 7号館3階研究室8 松田千登勢 7号館3階研究室6 金原京子 7号館3階研究室7 山本十三代 7号館3階研究室5																			
備考	なし																			

科目名	公衆衛生学	科目名(英文)	Introduction to Public Health
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6△		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。また、人の健康が環境から受ける影響についても取り上げる。																																																																		
到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心。視聴覚教材も用いる。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>公衆衛生とは</td><td>公衆衛生の歴史と概要</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>2</td><td>日本の人口</td><td>日本の人口の現在と将来について</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>3</td><td>健康指標</td><td>健康を測る</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>4</td><td>疾病予防と健康管理</td><td>予防医学の考え方</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>5</td><td>感染症と予防</td><td>感染症の疫学と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>6</td><td>慢性疾患と予防</td><td>慢性疾患の疫学と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>7</td><td>環境保健</td><td>環境が健康に及ぼす影響</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>8</td><td>国際保健</td><td>世界の健康・日本の健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意	2	日本の人口	日本の人口の現在と将来について	最新ニュースに留意	3	健康指標	健康を測る	最新ニュースに留意	4	疾病予防と健康管理	予防医学の考え方	最新ニュースに留意	5	感染症と予防	感染症の疫学と予防	最新ニュースに留意	6	慢性疾患と予防	慢性疾患の疫学と予防	最新ニュースに留意	7	環境保健	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意	8	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意																																																																
2	日本の人口	日本の人口の現在と将来について	最新ニュースに留意																																																																
3	健康指標	健康を測る	最新ニュースに留意																																																																
4	疾病予防と健康管理	予防医学の考え方	最新ニュースに留意																																																																
5	感染症と予防	感染症の疫学と予防	最新ニュースに留意																																																																
6	慢性疾患と予防	慢性疾患の疫学と予防	最新ニュースに留意																																																																
7	環境保健	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意																																																																
8	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	疫学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>シンプル衛生公衆衛生学 2017</td><td>鈴木庄亮</td><td>南江堂</td></tr> <tr><td>2</td><td>国民衛生の動向 2017/2018</td><td>厚生労働統計協会</td><td>厚生労働統計協会</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	シンプル衛生公衆衛生学 2017	鈴木庄亮	南江堂	2	国民衛生の動向 2017/2018	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	シンプル衛生公衆衛生学 2017	鈴木庄亮	南江堂																																																																
2	国民衛生の動向 2017/2018	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	試験 60%以上で合格。授業全 8 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけではわかりにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い。 																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	家族関係論	科目名(英文)	Family Relationship
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 由理
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6△		

授業概要・目的	本科目では、家族を構成する子どもなどの個人の発達と夫婦関係などの関係性について学び、現代家族が直面している心理面の諸問題に対する理解を講義とディスカッションを通じて深めていく。また、何からの困難を持つ個人を家族や社会の一員とみなし援助を行う具体的な介入事例や方法についての知識を身につける。これらを通じて、対人援助の対象である個人と、個人の背景としての家族をアセスメントし、適切に介入する力の基礎を養成する。
到達目標	家族は患者の治癒への意志、QOLと関係する。現場では様々な家族に出会うことが予測される。客観的に家族関係を捉える視点を持つことは的確な看護につながる。そのための知識を得ることができる。
授業方法と留意点	講義を中心とし、時々グループディスカッションを取り入れる予定である。その他、特別に必要なものがあれば授業中に伝える。質問時間を授業中に設け、毎回配布するコメントシートに質問欄を作成するので、質問についてはそこで対応する。
科目学習の効果(資格)	援助専門職として、患者、患者の家族に関わる際の心理的援助の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	家族の構造と過程	家族システムと社会との関係を概観し、コミュニケーションを通じて変化する家族の過程について学ぶ	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
3	友人関係	現代に於ける友人関係の様相について概観し、その形成と発展について学ぶ	事前学習：現代に於ける友人関係の特徴について情報収集を行う 事後学習：講義内容の整理
4	恋愛関係と配偶者選択	恋愛関係の形成と進展について学ぶ	事前学習：恋愛とは何か。自分なりの見解を考えておく。 事後学習：講義内容の整理
5	夫婦関係	現代に於ける結婚の現状について概観し、価値や夫役割、妻役割について学ぶ	事前学習：現代に於ける結婚の現状について情報収集を行う 事後学習：講義内容の整理
6	親子関係 1	発達論について概観し、対人関係の基礎的構えについて学ぶ	事前学習：印象に残っている子どもの頃のエピソードを思い出す(可能であれば家族に聞いてみる) 事後学習：講義内容の整理
7	親子関係 2	現代に於ける子育ての現状や親子関係の様相について概観し、親役割について学ぶ	事前学習：現代に於ける子育ての現状について情報収集を行う 事後学習：講義内容の整理
8	きょうだい関係	ひとりっ子、出生順位からみた子どもの心理やきょうだい関係の影響について学ぶ	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
9	多世代関係と家族の発達段階	家族形態の変化、多世代世帯の歴史と変容、家族の発達段階論について学ぶ	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
10	児童虐待・家庭内暴力	児童虐待、夫婦間暴力や子どもの暴力問題の現状と課題について概観し、家族との関連や具体的な援助法について学ぶ	事前学習：虐待に関するニュースについて情報収集を行う 事後学習：講義内容の整理
11	子どもの自殺と非行	自殺の現状、青少年非行の実態について概観し、家族との関連や具体的な援助法について学ぶ	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
12	子どもの神経症・人格障害	障害を持つ子どもの特性を概観し、その家族の形成と具体的な援助法について学ぶ	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
13	中年期・老年期家族の心理的危機	中年期・老年期の様相や課題について概観し、介護問題と対策について学ぶ	事前学習：現代に於ける介護問題の現状について情報収集を行う 事後学習：講義内容の整理
14	家族の理解と支援 1	映像資料を題材とし、多様な家族の姿について理解する	事前学習：今までの授業内容で確認しておきたい点(質問など)をまとめる 事後学習：授業で扱ったテーマや援助法についての整理
15	家族の理解と支援 2	家族を支援する具体的な方法のいくつかを概観し、家族への支援について学ぶ	事前学習：なし 事後学習：全体的な講義内容の整理

関連科目 臨床心理学 カウンセリング論 心理学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 基礎分野 家族論・家族関係論	岡堂哲雄(編)	医学書院

評価方法(基準) 授業中の課題レポート提出30%、授業参加度10%、定期試験60%を目安として総合評価する

学生へのメッセージ 身近なテーマから家族を考察していきます。積極的な参加を期待します。

担当者の研究室等 1号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	家族看護学	科目名(英文)	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子, 泉川 孝子, 鎌田 佳奈美, 神戸 美輪子, 白田 久美子, 田中 結華, 松田 千登勢, 眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3○, DP6○		

授業概要・目的	家族看護学の理論の基礎的学習をし、家族看護における看護職の役割を理解する。家族は、家族員の疾病予防や疾病回復、健康管理において、お互いに重要な役割を担う。特に疾病をもつ家族がいる場合、それぞれの家族の関係性や役割、家族としての力関係などの変化があり、さらなる問題を克服する家族の力量が問われる。本授業では、まず、家族看護学において用いられる理論を理解し、実践的の場で活用するアセスメント方法を学ぶ。そのうえで、家族のセルフケア力の向上を目指して、看護職としての家族への支援のあり方を具体的事例を用いて、考察する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護学の目的、家族の定義について理解する。 2. 家族看護に用いる理論を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族発達理論、2) 家族システム理論 3) 家族ストレス対処理論 3. 家族看護過程の理解と、家族アセスメントモデルの理解 4. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢 5. 看護の専門領域における家族看護について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護学における家族看護、2) 母性看護学における家族看護、3) 成人看護学(急性期)における家族看護、4) 成人看護学(慢性期)における家族看護、5) 老年看護学における家族看護、6) 精神看護学における家族看護、7) 在宅看護学における家族看護 			
授業方法と留意点	講義およびグループ学習を用いた参加型授業をとりいれて積極的に学べるようにする。講義のいは、既学習における学びを復習しつつ、看護の対象としての家族への理解を深めるようにする。途中で、課題をもとにグループ学習を取り入れ、学生の講義への参加を促す。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	家族看護学とは何か 看護学における家族の理解	家族看護学の定義、目的 家族看護学に求められていること 我が国の家族の現状と課題(看護の視点から)、家族と健康	テキスト1章を予習する 厚生省の指標の人口構成の章を確認する 事後学習は世帯構成と家族の変化、家族の役割について考察する。
	2	家族を理解するための理論1	1. 家族発達理論 2. 家族システム理論	テキストの該当部分を予習
	3	家族を理解するための理論2	3. 家族ストレス対処理論 1) ジェットコースター 2) ABCX, 二重ABCX 3) マッカバン MA によるモデルへの適応	テキストの該当部分を予習
	4	家族看護の過程、 家族アセスメントとは何か	家族看護過程の概要 家族のセルフケア機能	テキストの該当部分を予習
	5	家族アセスメントモデル	カルガリーアセスメントモデル ジェノグラム、エコマップの学習	テキストの該当部分を予習
	6	家族アセスメントモデル	フリードマン家族アセスメントモデル 家族生活力量モデル、家族エンパワメントモデル	テキストの該当部分を予習
	7	家族看護における基本的な考え方と看護者の役割	1. 家族成員に対する援助 2. 家族の関係性に働きかける 3. 家族単位の社会性に働きかける	テキストの該当部分を予習
	8	家族看護における看護者の基本姿勢 今までのまとめ	1. 家族との関係のあり方 2. 看護者の基本的な姿勢 3. 学習のまとめ	テキストの該当部分を予習
	9	小児看護学における家族看護	小児看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	10	母性看護学における家族看護	母性看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	11	成人看護学(急性期)における家族看護	成人(急性期)看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書の等予習
	12	成人看護学(慢性期)における家族看護	成人(慢性期)看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	13	老年看護学における家族看護	老年看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	14	精神看護学における家族看護	精神看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
	15	在宅看護学における家族看護	在宅看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。事例を用いて学習する。	資料、もしくは指定された参考書等の予習
関連科目	家族関係論ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族看護学、理論と実践 第4版	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験、グループ学習、レポートなどを総合的に評価する。授業への欠席が多い場合は期末試験を受けることはできない。 評価は期末試験80%、グループ学習への参加状況とレポートの評価を20%として評価する。			
学生への メッセージ	予習復習を行い、授業への積極的参加を期待する。			
担当者の 研究室等	教員研究室は枚方キャンパス7号館3階。			
備考				

科目名	医療経済論	科目名(英文)	Healthcare Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 医療における課題を経済学的に考察し、医療サービスの供給体制、制度及び医療機関の経営問題に関わる考察を行い、看護職に求められる経済学的視点を修得する。 看護職となるに当たって保健・医療・福祉における経済面・経営面に関する社会常識としての知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度として収入が規定されており、一般の企業における売上とは異なる収入体系とその制度の必要性について認識・理解した上で適正なコスト意識と業務改善意識を持って看護業務に従事できることを目標とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 看護職に求められる経済学視点について講義する。診療報酬制度に基づく報酬の支払いを中心に経済学による需要と供給の価格決定プロセスを比較しながら考察する。 医療における財・サービスの交換システムの特異性に焦点を置きながら、多くの看護職が勤務する病院での現状と課題について講義する。 後半は、看護職の管理的立場において求められる考え方について講義する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 看護専門職の科目だけでなく、就職・勤務にむけた経済社会の財・サービス交換活動への経済学的思考の修得を目的とする。 経済理論だけでなく実際の組織において必要とされる看護職の今後の課題に対する政策構築に関する考察についても考慮したい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	社会経済環境の変化と看護師雇用の現状	変化に伴う看護師の環境と雇用関係について講義する。	第II章
3	診療報酬制度がもたらす影響1	看護師が他職種の業務を担うメカニズムについて講義する。	第III章
4	診療報酬制度がもたらす影響2	看護師の技能評価を妨げるメカニズムについて講義する。	第IV章
5	看護師の労働供給	看護師の労働力提供の体系について説明する。その主な原因である結婚と出産・育児について講義する。	第V章
6	看護師の労働需要と市場構造	労働市場における搾取と労働力不足について講義する。	第VI章
7	人的資本論から検証する労働条件格差	看護師間で生じている賃金格差の状況を確認した上で、その格差を、教育やトレーニングにより養成される技能の差異をもって説明する「人的資産」の視点から講義する。	第VII章
8	市場の階層性が生み出す賃金格差	日本における看護師の労働市場構造において、人的投資の機会費用をはじめとして看護師の賃金を決める要因は何か、看護師の賃金決定メカニズムについて講義する。	第VIII章
9	職務価値からみた賃金格差	賃金格差を説明するもう1つの分析視角、「職務価値」と看護師の賃金との関係について講義する。	第IX章
10	看護師の雇用政策とインパクト	看護師の労働市場にどのような影響を及ぼしそして雇用にどう影響を与えたのかについて講義する。	第X章
11	よりよい看護を実現するために	看護師の働きが、そして技能が正当に評価され、消費者である患者に対してよりよい看護サービスを生産し、それをどのように提供していくかについて講義する。	第XI章
12	診療報酬および経済政策のポイント理解と習熟度確認試験。(予定)	診療報酬制度および看護職が直面する経済政策のポイントを説明し、その後論述形式での中間試験を行う。	これまでの配布資料、教科書および直筆ノートのみ持込可。
13	看護管理職の備えるべき視点1	「看護部長の基本事務、変化への対応力、看護部長の組織管理、マネジメント技法への関心度、専門看護職と組織改革、看護部門の組織文化」について講義する。	配布資料
14	看護管理職の備えるべき視点2	「変革期の人材マネジメント、看護政策対応力、院内看護政策力、情報マネジメント、コミュニケーション、看護業務の変化、苦情対応のマネジメント、組織フレームワークの再検討」について講義する。	配布資料
15	看護管理職の備えるべき視点3	「コスト意識と金銭感覚、看護情報提供と看護連携、看護業務の電子化、病院統治力」について講義する。	配布資料

関連科目 労働経済学、ミクロ経済学、経営学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護師の働き方を経済学から読み解く 看護のポリテカル・エコノミー	角田由佳	医学書院
2				
3				

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職になるための科目の修得は、国家資格取得も含め必須である。しかし、卒業後、多くの看護職が勤務する病院や福祉施設の運営は、公的な補助があるものの経済学の考え方に基づいて運営されている。 ・少子高齢化社会の到来に向けて、これからの看護職は、社会的な知識(経済学等の社会科学科目)も必要とされる。本講義は、そのための基礎的な考え方の習得を目指す。 			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス1号館7階 田井准教授室(経済学部)			
備考	社会科学分野である経済学、経営学による分析内容について、看護職の視点から必要な項目を説明する。			

科目名	看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹中 泉
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		

授業概要・目的	<p>初学者が看護学を学ぶ導入とし、基礎となる看護の基本的概念を学び、その後の看護学を発展させる基盤を形成する。看護の歴史を振り返り、看護の本質を探究し、保健医療システムとチーム医療における看護の役割を学ぶ。</p> <p>看護の倫理と法的責任を知ること、看護職者に必要な態度や社会的責任について考える。</p> <p>看護の現場と看護の機能を知ることを通して、看護の対象である人々への健康支援へのアプローチの概略を学ぶ。</p> <p>また、様々な看護理論を理解することで、自身の看護観を発展させる基礎的能力を培う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の基本的概念、看護の役割・機能について説明することができる。 2. 看護の倫理と法的責任について説明することができる。 3. 看護の歴史的発展について説明することができる。 4. 看護理論を学ぶことを通して、自身の看護観について述べるることができる。 5. 看護学に関する学びを学生同士で話し合い、発展させることができる。
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って講義を行う。新入生を看護学の世界へ導き、今後の学習を動機づける。授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料も適宜追加する。授業では要点やポイントを自分で把握し、ノートやメモをとることも必ず行うこと。また、学生による発表を課する。他学生と話し合いを重ね、意見を共有して学びを発展させる。積極的に発言し、大学生として学ぶ態度で授業に参加すること。</p> <p>授業計画は学習の進捗状況によって調整することがあるが、その際は授業で説明を行う。</p> <p>また、授業の連絡にはポータルを用いて連絡することがある、常に確認すること。</p>
科目学習の効果(資格)	すべての看護学を学ぶ導入となり、皆さんのキャリアデザインを行うための基礎となる授業科目で、必須科目となっています。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス、看護とは何か	授業ガイダンスで授業計画、評価方法等の詳細について説明する。看護及び看護学とは何かについて概観する。	事前課題：シラバスをよく読み、テキストの目次にどのような項目があるかを確認してきて下さい。 事後課題：第1章を読み返し整理して下さい。
2	看護の基本的概念(1)：人間および環境	看護における基本的概念のうち、人間及び環境を理解する。	事前課題：テキストの第2章を読んで来て下さい。 事後課題：授業で学んだ人間・環境について整理しておいて下さい。
3	看護の基本的概念(2)：健康	看護における健康の概念を理解する。	事前課題：テキストの第3章を読んで来て下さい。 事後課題：授業で学んだ健康の概念や健康を表す諸指標、看護との関係について整理しておいて下さい。
4	ライフサイクルと健康	成長と発達概念について理解する。	事前課題：テキストの第4章を読んで来て下さい。 事後課題：授業で学んだ重要な用語について整理しておいてください。
5	看護における倫理と法的責任	看護ケアを行うとき、自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味を考える。	事前課題：テキストの第6章を読んで来て下さい。 事後課題：倫理の原則、看護者の倫理綱領について復習しておいて下さい。
6	看護ケアの基本的役割	看護ケアにおける看護師の役割と責任について理解する。	事前課題：テキストの第7章を読んで来て下さい。 事後課題：今回までの講義内容から看護という職業について理解した内容をまとめ、今後の自己の課題を考え整理してください。
7	看護過程	看護過程の学習を通して、看護の現場の実際と、看護の機能、看護実践過程について知る。	事前課題：第8章を読んで来て下さい。 事後課題：看護過程の5つのステップを整理しておいて下さい。
8	看護実践のための理論的根拠(1)	看護理論の分類、看護理論の変遷について概要を理解する。	事前課題：第5章1・2・3を読んで来て下さい。 事後課題：看護理論の分類について整理しておいて下さい。
9	看護実践のための理論的根拠(2)	さまざまな看護理論について紹介する。	事前課題：第5章4を読んで来て下さい。 事後課題：代表的な理論家の理論を整理しておいて下さい。
10	看護実践のための理論的根拠(3)	さまざまな看護理論について紹介する。	事前課題：第5章4を読んで来て下さい。 事後課題：代表的な理論家の理論を整理しておいて下さい。
11	看護における法的側面	看護実践の職業的および法的規則について理解する。	事前課題：第9章を読んで来て下さい。 事後課題：保健師助産師看護師法の看護師の定義をわかりやすく説明できるよう整理しておいて下さい。
12	看護ケアと医療安全	医療安全の基本的知識を理解する。	事前課題：第9章を読んで来て下さい。 事後課題：安全に関する自己の課題について整理してください。
13	保健医療システムとチーム医療	社会における保健医療を提供するシステムと、チーム医療による様々な活動と看護の果たすべき役割について解説する。	事前課題：テキストの第10章を読んで来て下さい。 事後課題：チーム医療について整理しておいて下さい。
14	看護学の発展、まとめ(1)	グループでの学びを発表し討議することを通して、自己の看護及び看護学への考えをまとめる。	事前課題：発表準備を行って下さい。 事後課題：自分自身の看護への考え方、今後の勉強への課題を整理しておくこと。
15	看護学の発展、まとめ(2)	グループでの学びを発表し討議することを通して、自己の看護及び看護学への考えをまとめる。	事前課題：発表準備を行って下さい。 事後課題：自分自身の看護への考え方、今後の勉強への課題を整理しておくこと。

関連科目	今後学ぶ、全ての看護学の専門科目の基礎となる科目です。特に、この科目で学んだ内容を、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱで発展させ、実践する力としていきます。								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1	ナース・グラフィック 基礎看護学①看護学概論第6版	志自岐康子 編	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護理論家の業績と理論評価	筒井真優美 編	医学書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>評価は定期試験及び小テスト・レポート・グループ活動を総合して判定する。 評価割合は定期試験 (60%)、小テスト・レポート・グループ活動 (40%)</p>			
学生への メッセージ	<p>看護学を学ぶ学生として自己の課題は何か、自分自身を振り返りながら、成長していきましょう。 他の学生との意見交換を活発に行えるよう、他者にわかる表現ができるように工夫して臨みましょう。 また、自分とは異なる価値観を認め合い、発展的に学習を深められるよう取り組んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室3 竹中			
備考				

科目名	看護対人関係論	科目名(英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△, DP8◎		

授業概要・目的	看護の場における対人関係についての基本的概念・技法の理解と修得を目指す。患者-看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、「聴くこと」「話すこと」を中心に、看護場面のロールプレイ等を用いた学生同士のグループ学習を通して修得する。また、実習マナー、チーム医療での人間関係のあり方について、リフレクティブな学習方法を通して学ぶ。
到達目標	1. 患者-看護師間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2. コミュニケーションの際に必要な基本的技法について説明できる。 3. 看護場面のロールプレイを、コミュニケーションの基本的技法を用いて学生同士で行うことができる。 4. ロールプレイを通して、自分自身と他者のコミュニケーションの振り返りを行うことができる。
授業方法と留意点	講義で理論を説明し、その中で重要なコミュニケーション技法については小グループを編成し演習を行う。グループで協力して学ぶことが必要である。「知っている」と「できる」とは違う。「できる」ようになるよう、積極的に参加する態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。授業では、名札をつけて出席すること。またテキストを毎回持参すること。
科目学習の効果(資格)	患者中心の看護実践にむけて、看護の対象者と適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる力を付けます。また、全ての実習科目を行う上で、この科目での学びが重要です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うとともに、看護の場における対人関係について概要を説明する。また、対人関係を振り返り学習することの重要性、グループの協力について説明する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
2	患者-看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」「話すこと」について演習し、考えを深める。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
3	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(1)	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手が受け取っていない場合は何も伝わらない。相手の気持ちを受けとめる会話による「受容」と「傾聴」について学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
4	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(2)	「受容」と「傾聴」についてグループで練習し、相手の気持ちを受けとめる会話について、体験を通じた学びを行う。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
5	患者との会話を練習しよう(1)	模擬患者設定を使って、患者の気持ちを受けとめることを目的にロールプレイを行う。学生同士で互いに協力して、役割を変えながら繰り返し練習する。観察役がフィードバックし、よりよいコミュニケーションになるよう練習する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
6	患者との会話を練習しよう(2)	前回の続きを行う。会話を通して、患者のことに耳を傾け、その気持ちを受けとめる関わりが、「共感」につながり、看護の重要なスキルであることを体験的に理解する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
7	現場での学び、チーム医療の人間関係	現場で学ぶことについて、視聴覚教材を用いて、実習に必要なマナーについて考える。また、チーム医療で互いに尊重し合いながら率直にコミュニケーションする人間関係について学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
8	まとめ	グループに分かれ、看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について話し合い、発表する。	事前課題：特になし。 事後課題：指示したテストの出題範囲について復習しておく。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、各看護学の科目と関連します。特に、各看護学実習で現場で学ぶ際に基本となる科目です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	仲間とみながく 看護のコミュニケーション・センス	大森 武子, 矢口 みどり	医歯薬出版株式会社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
評価方法(基準)	授業の参加度とレポート(60%)、筆記試験(40%)により総合評価する。			
学生へのメッセージ	対人関係能力は看護実践に必須の基本的能力です。人と話し、「相手の立場にたって考える」姿勢をもつことが看護の基本です。また、どんな会話だったかという「事実」と、そのときの「気持ち・考え」を分けて話し合うことが重要です。コミュニケーションに失敗はありません。また、逆に100%の成功もありません。果敢に挑戦する行動を評価します。			
担当者の研究室等備考	7号館3階 研究室9(田中)			

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 竹中 泉, 中山 由美, 森嶋 道子, 北村 敦子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。 授業では、教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 技術演習は、毎回、教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示すことによって行う。また、少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目。 基礎看護技術 II の履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	療養環境の調整 (1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
3	療養環境の調整 (2)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
4	療養環境の調整 (3)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
5	療養環境の調整 (4)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
6	療養環境の調整 (5)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
7	体位の整え (1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
8	体位の整え (2)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
9	体位の整え (3)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
10	移動・移送の援助 (1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理す	

			ること。
11	移動・移送の援助(2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	移動・移送の援助(3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
16	バイタルサインの観察(3)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
19	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
20	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
21	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
22	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
23	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
24	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を

			視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
25	身体の清潔(2)	身体の清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
26	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
27	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
28	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
29	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の全身清拭を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
30	まとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目 基礎看護技術Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎看護技術	阿曾洋子	医学書院
	2			
	3			

評価方法(基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況(レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など)により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 40%、授業への参加状況 20%
学生へのメッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室4(佐久間)、研究室3(竹中)、研究室2(中山)、共同研究室1(森嶋・北村)
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 竹中 泉, 中山 由美, 森嶋 道子, 北村 敦子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。 授業では、教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 技術演習は、毎回、教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示すことによって行う。また、少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目。 基礎看護技術 II の履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	療養環境の調整 (1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
3	療養環境の調整 (2)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
4	療養環境の調整 (3)	ベッドメイキングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
5	療養環境の調整 (4)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
6	療養環境の調整 (5)	臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
7	体位の整え (1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
8	体位の整え (2)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
9	体位の整え (3)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
10	移動・移送の援助 (1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理す	

			ること。
11	移動・移送の援助(2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	移動・移送の援助(3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
16	バイタルサインの観察(3)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
19	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
20	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
21	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
22	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
23	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
24	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を

			視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
25	身体の清潔(2)	身体の清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
26	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
27	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
28	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
29	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の全身清拭を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
30	まとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
関連科目	基礎看護技術Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎看護技術	阿曾洋子	医学書院
	2			
	3			
評価方法(基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況(レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など)により評価する。 筆記試験40%、実技試験40%、授業への参加状況20%			
学生へのメッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室4(佐久間)、研究室3(竹中)、研究室2(中山)、共同研究室1(森嶋・北村)			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中山 由美, 竹中 泉, 森嶋 道子, 佐久間 夕美子, 北村 敦子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。対象者の立場に立ち、正確で安全な援助を提供できるように、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについて技術を修得する。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の1つ1つの根拠を理解し、実施することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
11	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
12	技術トレーニング/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。

	16	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	18	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	19	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	21	無菌操作 (2)	滅菌物の取り扱い、および滅菌手袋の装着等を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	22	創傷管理	ガーゼ交換などの創傷処置と包帯法・三角巾法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	23	導尿	膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	24	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	25	栄養障害の看護 (栄養)	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	26	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	27	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	28	体温維持の看護および温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や薬法など体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
	29	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実施する。	【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。																
	30	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実施する。	【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。																
関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ</td> <td>深井喜代子 (編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ</td> <td>深井喜代子 (編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社																	
2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎看護技術</td> <td>阿曾洋子他</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院								
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院																	
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験 (60%)、技術到達度チェック (10%)、課題レポート (10%)、授業参加度および授業態度 (20%)																			
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。 適宜、自己学習において、ナースィング・スキルを活用するように。																			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2 (中山)、研究室3 (竹中)、研究室4 (佐久間)、共同研究室1 (森嶋、北村)																			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。																			

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中山 由美, 竹中 泉, 森嶋 道子, 佐久間 夕美子, 北村 敦子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。対象者の立場に立ち、正確で安全な援助を提供できるように、根拠を踏まえた技術を修得する。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについて技術を修得する。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の1つ1つの根拠を理解し、実施することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
11	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
12	技術トレーニング/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。

	16	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	18	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	19	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	21	無菌操作 (2)	滅菌物の取り扱い、および滅菌手袋の装着等を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	22	創傷管理	ガーゼ交換などの創傷処置と包帯法・三角巾法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	23	導尿	膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	24	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	25	栄養障害の看護 (栄養)	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	26	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	27	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	28	体温維持の看護および温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や巻法など体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
	29	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実施する。	【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。
	30	総合トレーニング (事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実施する。	【事前課題】 演習前に学習内容を指示する。 【事後課題】 課題レポートに学びをまとめて提出する。
関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子 (編)	メヂカルフレンド社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験 (60%)、技術到達度チェック (10%)、課題レポート (10%)、授業参加度および授業態度 (20%)			
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。 適宜、自己学習において、ナーシング・スキルを活用するように。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2 (中山)、研究室3 (竹中)、研究室4 (佐久間)、共同研究室1 (森嶋、北村)			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。			

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子・竹中 泉・中山 由美・森嶋 道子・北村 敦子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習は少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	消化器系のフィジカルアセスメント(2)	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(1)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(2)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント(1)	脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント(2)	脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目 基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
	2	フィジカルアセスメントガイドブック	山内豊明	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技課題、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 50%、実技課題 10%、アセスメントの思考過程 20%、授業への参加状況 20%			
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また授業後は、視聴覚教材等を活用し、積極的に自己学習をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室4（佐久間）、研究室3（竹中）、研究室2（中山）、共同研究室1（森嶋・北村）			
備考	技術演習時の身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子・竹中 泉・中山 由美・森嶋 道子・北村 敦子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習は少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	消化器系のフィジカルアセスメント(2)	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(1)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(2)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント(1)	脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント(2)	脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目 基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
	2	フィジカルアセスメントガイドブック	山内豊明	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技課題、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 50%、実技課題 10%、アセスメントの思考過程 20%、授業への参加状況 20%			
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また授業後は、視聴覚教材等を活用し、積極的に自己学習をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室4（佐久間）、研究室3（竹中）、研究室2（中山）、共同研究室1（森嶋・北村）			
備考	技術演習時の身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護技術Ⅳ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中山 由美, 竹中 泉, 森嶋 道子, 佐久間 夕美子, 北村 敦子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP6○, DP7◎		

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。
到達目標	授業および演習を通して、看護過程の展開方法を理解できる。 具体的には、事例を活用し、情報整理、情報の分析、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価方法、看護実践時の記録の記載方法および振り返り方法などを理解できるようになる。
授業方法と留意点	教科書を基本とし、適宜、配布資料を用い説明する。また看護過程の展開方法をイメージできるように視覚教材やパワーポイントを使用する。看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	看護過程の展開 (1)	看護理論と看護過程の展開について、またヘンダーソンの理論と14の基本的ニードなどについて理解する。
2		看護過程の展開 (2)	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3		看護過程の展開 (3)	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4		看護過程の展開 (4)	事例の全体像の把握、看護問題、看護目標の立案について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5		看護過程の展開 (5)	事例を通して、看護計画の立案について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6		看護過程の演習 (1)	グループワークにて、事例の情報分類を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
7		看護過程の演習 (2) (3)	グループワークにて、事例の情報についてアセスメントを行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
8		看護過程の演習 (4) (5)	グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表する。 担当教員から指導を受け、情報整理・アセスメント内容をまとめる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
9		看護過程の演習 (6) (7)	グループにて、関連図の検討を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
10		看護過程の演習 (8) (9)	グループで作成した関連図について発表する。 担当教員から指導を受け、関連図をまとめる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
11		看護過程の演習 (10) (11)	グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
12		看護過程の演習 (12) (13)	グループで作成した看護問題、看護目標、看護計画について発表する。 担当教員から指導を受け、看護計画をまとめる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
13		看護過程の展開 (6)	看護問題、看護目標、看護計画、看護実践内容などの評価方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14		看護過程の展開 (7)	ケアの実践方法、患者の反応を記録に記載し、考察する方法が理解できる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15		看護過程の展開 (8)	個々に展開した看護過程について、担当教員より指導を受けまとめる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。 提示された課題を期日までに行ってくること。

関連科目	基礎看護技術Ⅲおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践看護アセスメント	渡辺トシ子	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポートおよびグループワークでの課題達成状況や授業参加度、授業態度などで評価する。 グループワークでの課題達成状況や参加度等 50%、レポート等 40%、小テスト 10%			
学生への メッセージ	基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。課題を達成していけるように自己学習をしっかりと行っていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室2(中山)、研究室3(竹中)、研究室4(佐久間)、共同研究室1(森嶋、北村)			
備考	授業で行った内容については、小テストを行うので、その都度、配布資料と教科書を読み直すこと。 グループワーク時の課題については、適宜、指示をしますので次回期日までに行ってくること。			

科目名	基礎看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	竹中 泉, 中山 由美, 森嶋 道子, 佐久間 夕美子, 北村 敦子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	看護学概論等の既習内容を踏まえ、保健医療の現場における看護の対象である人とその生活・健康状態、それらを取り巻く環境のあり方、看護職者やチーム専門職者の役割を体験的に学び、看護の役割や機能について理解を深め、今後の看護を学ぶ動機とする。 [実習目的] 看護の対象となる人とその人を取り巻く環境を理解する。 また、実習による体験を通して、看護の目的と役割、看護の機能する場および看護活動に関する知識を深める。																
到達目標	1) 看護の対象となる人の療養生活を支える環境のあり方を理解する。 2) 看護の対象となる人とその健康状態、生活や思いを理解し、看護職者およびその他の専門職者による援助の実際を知る。 3) 看護の目的、看護が果たす役割や機能する場、看護のあり方について自己の考えをまとめ、今後の看護を学習する上での課題を見出すことができる。 4) 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。																
授業方法と留意点	原則として実習病棟への学生配置は1グループ4～6人編成とし、各グループは教員の指導を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 実習時期 9月上旬 2. 事前学内オリエンテーション ○実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、留意事項等の説明を受ける。 ○実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 3. 病院実習 ○臨床講義：看護部長より病院の概要および看護職者の役割についての講義を受ける。 ○病院内見学：病院環境の見学を行い、各部署の機能について説明を受ける。 ○病棟実習：看護場面を見学する。 4. 学内実習 ○実習を通して学んだことを討議し、発表する。																
関連科目	看護学概論、対人関係論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	看護学生として初めての病院実習です。体調を整えて実習に臨みましょう。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室3 (竹中)、研究室2 (中山)、研究室4 (佐久間)、共同研究室1 (森嶋、北村)																
備考	実習病院 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院																

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	竹中 泉, 中山 由美, 森嶋 道子, 佐久間 夕美子, 北村 敦子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>[概要]</p> <p>医療の場で療養生活を送る対象者を受け持ち、看護過程を日常生活上のニーズに焦点をあてて実践する。既習の知識・技術を統合して、臨床における看護実践の基礎的能力を培う。看護過程は段階的に行い、対象者と人間関係を形成し、情報収集を行い分析し、看護問題を抽出する。対象者に即した援助の必要性を検討し、看護計画を立案・実施する。また看護過程の評価の方法を理解する。これらの実践過程を通して、自己の看護観について考えを深める。</p> <p>[実習目的]</p> <p>看護の対象となる人を総合的に理解し、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護を導き出すための思考を培う。また、看護職者に必要な態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と対人関係を築きながら発達段階、健康状態、日常生活に焦点を当てて情報を収集することができる。 2. 看護の場面への参加(日常生活援助・診療の補助など)を通して、対象者が必要としている支援に気づく。 3. 対象者の状態を理解するため集めた情報を関連図に記載する。 4. 気づいたことに着目して情報を集め、継続的に日々の看護計画を考える。 5. 立案した日々の看護計画を指導のもと、実施することができる。 6. 日々の看護問題、看護目標、看護計画および実施した看護について、評価、修正する方法を理解することができる。 7. 収集した情報をヘンダーソンの14のノードの枠組みで整理・統合・分析し、対象者の全体像を把握することができる。 8. 看護の支援が必要な問題を明確にし、日々の看護目標・看護計画を立案、実施・評価する。 9. 実習を通して得た学びを振り返り、看護に対する自らの考えを明らかにすることができる。 10. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法と留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習グループは、1グループ5～6名編成とし、担当教員の指導を受ける。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行う。 5. 実習にあたり、実習病院・病棟から、病棟の機能や看護職の役割について、オリエンテーションを受ける。 6. 原則として、入院中の患者を1名受持ち、対象者に適した看護過程の展開を段階的に行う。 7. 病棟実習では毎日、学生主体のカンファレンスを行う。 8. カンファレンスでは、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 9. 実習記録は、毎日必ず記録し、担当教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 10. 各自の実習における学びを各グループで検討してまとめ、互いに発表を行って共有する。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 実習前にオリエンテーションを受け、実習に必要な知識・技術の復習を行う。 2. 病院実習：2月に、以下の内容で2週間の実習を行う。 1) 対象者の紹介をうけ、人間関係を形成する。 2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活を把握するために必要な情報を、インタビューや記録、フィジカルイグザミネーション、および看護の場面への参加を通して収集する。 3) 収集した情報を整理して分析し、対象者の全体像を把握する。 4) 全体像から日常生活援助の必要性を導きだし、日々の看護上の問題を明確化する。 5) 得られた問題に対する日々の目標を適切に設定する。 6) 日々の目標を達成するための計画を立案する。 7) 計画を実施するために必要な看護技術について、対象者に応じた方法を検討する。 8) 立案した日々の計画を、指導の下で実施する。 9) 看護および実施した看護について、指導教員の指導のもと、評価・修正する。 10) 最終的に実習全体を通じた学びを振り返り、看護に対する自らの考えを述べる。 11) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術を復習して実習の準備をする。 12) 実習を行う上で必要な情報を積極的に求め、グループメンバーと共有し連携する。 13) 臨地実習指導者・指導教員からの助言を適切にうけとめ、積極的に実習に生かす。 14) 実施内容については臨地実習指導者・指導教員の指導を得てから行う。 15) 観察・実施内容については、臨地実習指導者・指導教員に適切に報告を行う。 16) 対象者の権利を尊重し、プライバシーの保護を行う。 																
関連科目	看護学概論、対人関係論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、薬物治療学など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書・なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書・なし			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教科書・なし																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>参考書・必要に応じて適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	参考書・必要に応じて適宜紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	参考書・必要に応じて適宜紹介する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録、実習態度)を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	看護の対象者への関わりを通して支援の必要性を見出し、個別性を考慮した看護を考え実践できるようになりましょう。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室3(竹中)、研究室2(中山)、研究室4(佐久間)、共同研究室1(森嶋、北村)																
備考	[実習場所] 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院																

科目名	成人看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Adult Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神戸 美輪子、白田 久美子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機状況や急性期症状を呈する健康問題をもつ成人期の対象の理解と看護、及び慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護について学習する。また成人看護に有用な主要概念・理論について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。 2. 成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。 3. 急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護について説明できる 4. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 5. 成人看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 6. リハビリテーションを必要とする対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 7. がんと共に生きる患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 8. ターミナル期にある患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 9. 成人期の特徴をとらえた統合的なアセスメント・看護過程の展開について説明できる。
授業方法と留意点	成人期にある自分を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴を理解する。成人の特徴を踏まえた急性期看護および慢性期看護を学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を活用して学習する。また臨床事例や視覚教材を活用して、主要概念や看護理論の知識を深め、実践に活用できるようなみかた・考え方を学習する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験の試験科目「成人看護学」の内容を修得するための授業科目の一つである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の区分 ・成人期の特徴 ・成人発達段階の理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第I章「成人看護学の概念と構成」、第II章「成人看護学の特性」2～4を読んでおくこと、授業後は学んだ内容の復習すること。以下の授業でも同様に復習を課す。
2	成人期の生活と健康、成人保健の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の生活状況の特徴 ・成人期の健康指標から健康問題をみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第III章「保健・医療・福祉における動向と課題」、第V章「健康レベルにおける枠組み」1～2、第II章「成人看護学特性」1を読んでおくこと。
3	保健・医療・福祉の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する保健・医療・福祉のニーズと制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第III章「保健・医療・福祉における動向と課題」を読んでおくこと。
4	急性期看護の基礎となる理論	<ul style="list-style-type: none"> ・危機状態に対する看護の基盤となる理論・モデル 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第VI章「成人看護に使用される理論・モデル3」を読んでおくこと。
5	急性期にある対象の特徴と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期の健康の急激な破綻、急激な健康破綻をきたした対象の理解と看護 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第V章「健康レベルにおける枠組み」3を読んでおくこと。
6	周手術期における対象の特徴と看護(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・周手術期の概念 ・周手術期(術前・術中・術後)看護の特徴 	<ul style="list-style-type: none"> 参考書の「周手術期看護論」に目を通しておく。
7	周手術期における対象の特徴と看護(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・周手術期(術前・術中・術後)看護の特徴 ・周手術期のチーム医療 	<ul style="list-style-type: none"> 参考書の「周手術期看護論」に目を通しておく。
8	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント、アセスメントの統合、看護展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第VII章「成人におけるヘルスアセスメント」、第VIII章「看護過程の展開」を読んでおくこと。
9	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患及び治療法の特徴 ・対象の心理・身体・社会的な特徴と看護 ・病の軌跡理論の理解と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第V章3「慢性的な経過をたどる健康障害の患者」、第VI章14「病の軌跡」を読んでおくこと。
10	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の再構築への支援が必要な対象の理解 ・支援が必要となった要因(QOL)とその援助 ・セルフケア理論の理解と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第V章4「健康再構築への支援を必要としている対象」、第VI章5「セルフケア論」を読んでおくこと。
11	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンドラゴジ理論の理解と活用 ・自己効力理論理解と活用、患者支援教育の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第VI章10「アンドラゴジ」、6「自己効力理論」を読んでおくこと。
12	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・アドヒアランス理論、エンパワーメント理論、適応理論、それぞれの理解と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書第VI章13「アドヒアランス」、8「エンパワーメント」、7「適応理論」を読んでおくこと。 ・授業後に關病記の感想文をレポートとして課す。
13	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概念の理解、リハビリテーションを必要とする対象の理解(障害受容)と看護の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第V章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと。
14	がんと共に生きる患者の理解と特徴的な看護	<ul style="list-style-type: none"> ・がんとともに生きる対象の理解(全人的苦痛をもつ患者の理解)と特徴的な看護 ・がん医療における緩和ケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に参考書の「がん看護」の「がん患者の特徴」の項に目を通しておく。
15	ターミナル期の患者の理解と特徴的な看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナル期の定義 ・ターミナル期にある対象の特徴(心理過程の理解)と必要な援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に第V章5「ターミナル期の援助を必要としている対象」を読んでおくこと。

関連科目									
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学概論(第2版)</td> <td>大西和子、岡部聡子編</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学概論(第2版)	大西和子、岡部聡子編	ヌーベルヒロカワ
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	成人看護学概論(第2版)	大西和子、岡部聡子編	ヌーベルヒロカワ						

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2015/2016 (厚生指標)		
	2	周手術期看護論 (第3版)	雄西智恵美、秋元典子	ヌーベルヒロカワ
	3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ
評価方法 (基準)	定期試験及びレポート課題を総合して総括的評価をする。尚レポート課題は授業中に説明する。 定期試験(90%)、レポート(10%)			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では広範な内容を網羅し、かつ聞き慣れない専門用語が多いため、予習・復習を欠かさず行いましょう。 ・成人看護学の基礎となる内容で広範囲にわたる講義を行うので、遅刻・欠席をせず、時間を有効に活用しましょう。 ・対象の理解を深め適切な援助を展開していくためにも、闘病記を読み、また身近な人の体験談を聞くなど試みてみましょう。 			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室22 (白田)			
備考				

科目名	成人病態看護論	科目名(英文)	Adult Nursing in Clinical State
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○		

授業概要・目的	<p>【概要】 看護実践においては、様々な機能障害を有し、また症状を呈する成人期の人々に対して、看護を提供する場面に遭遇する。患者の各々の病態について、発生機序・程度・経過・増悪あるいは軽減させる要因を理解する必要がある。本科目では、成人期にある対象の主要な機能障害や症状を取り上げて、病態とその病態が対象者に及ぼす身体的・心理的・社会的な影響及び的確なアセスメントと看護援助の方法について学習する。</p> <p>【目的】 疾病やそれに伴う治療・処置、または、事故や災害などにより発現あるいは増悪する身体症状について、その体験が成人期の対象やその家族に与える身体的・心理社会的影響をふまえ、アセスメントから看護実践につなげる方法を理解する。なお、疾病については発症から終末までのすべての病期を含む。</p>
---------	--

到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各機能障害および症状を発現する病態を理解する。 2. 機能障害がもたらす今後の予測される経過とそれに対する看護方針を理解する。 3. 機能障害の予防、緩和、また症状に伴う苦痛の軽減のための看護実践方法を理解する。
------	--

授業方法と留意点	授業方法は講義を中心として、一部は模擬患者(DVD等)を用いて演習を行う。
----------	---------------------------------------

科目学習の効果(資格)	病態や症状に関する看護方法は、看護を実践するうえで不可欠な基礎的能力です。
-------------	---------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護1	脳神経・感覚機能障害のある患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習	事後:教科書および資料の復習
2	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護2	「意識障害」「頭痛」「運動麻痺」の症状を呈する患者のアセスメント	事前:病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習	事後:教科書および資料の復習
3	呼吸機能障害のある患者の看護1	呼吸機能障害のある患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習	事後:教科書および資料の復習
4	呼吸機能障害のある患者の看護2	「呼吸困難」「咳嗽・喀痰」の症状を呈する患者のアセスメント	事前:病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習	事後:教科書および資料の復習
5	循環機能障害のある患者の看護1	循環機能障害のある患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習	事後:教科書および資料の復習
6	循環機能障害のある患者の看護2	「ショック」「浮腫」「脱水」の症状を呈する患者のアセスメント	事前:病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習	事後:教科書および資料の復習
7	消化機能障害のある患者の看護1	消化機能障害のある患者の理解と看護	事前:病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習	事後:教科書および資料の復習
8	消化機能障害のある患者の看護2	「便秘」「下痢」「悪心・嘔吐」「腹痛」の症状を呈する患者のアセスメント	事前:病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習	事後:教科書および資料の復習
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ、病理学総論、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、Ⅱ
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名	
			1	2
1	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版	高木永子監修	学研	
2				
3				

番号	書籍名	著者名	出版社名	
			1	2
1	病気がみえる Vol. 1 消化器	福本陽平 監修	メディックメディカ	
2	病気がみえる Vol. 2 循環器	荻原誠久 監修	メディックメディカ	
3	病気がみえる Vol. 4 呼吸器	滝澤 始 監修	メディックメディカ	

評価方法(基準)	定期試験(80%)、レポート課題(20%)により総括評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。原則として演習を欠席した場合の補講は実施しない。
-----------	--

担当者の研究室等	研究室26(稲垣)
----------	-----------

備考	
----	--

科目名	老年看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6◎, DP8△		

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための理論と看護の役割を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢化の現状を学び、高齢者の身体・心理・社会的変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 超高齢社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者の身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢者をとりまく医療・福祉・看護の制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。 老年看護における倫理的課題について理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。毎回、講義資料を配布しますが、この内容も重要な資料となります。 普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験の科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況、に関してグループワークを通して学習します。	高齢社会白書などの統計データを事前に準備・学習し、グループで内容をまとめてください。
3	加齢現象の理解(1):身体的	老年期にある人の身体的変化について学習します。	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
4	加齢現象の理解(2):認知機能・心理・社会的変化	老年期にある人の認知機能・心理的・社会的変化について学習します。	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
5	高齢者とその家族の理解	高齢者と家族を取り巻く社会情勢、介護する家族の特徴とそれに応じたケアについて学習します。	社会情勢とその介護の状況について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
6	高齢者をとりまく関連法:医療制度・介護保険制度他	高齢者にかかわる医療・介護・福祉の制度と施策について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
7	高齢者への様々な場における看護活動	高齢者看護を実践する場として、病院・施設・在宅における高齢者看護の特徴について学びます。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
8	老年看護における倫理的課題	高齢者の意思決定、エンドオブライフケア・高齢者虐待など倫理的課題について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、 看護関係法規
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座:老年看護学	北川公子	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学概論	正木治恵、真田弘美	南江堂
2	最新老年看護学	水谷信子、水野敏子他	日本看護協会出版会	
3				

評価方法(基準)	定期試験(100%)
学生へのメッセージ	予習、復習はもちろんのことですが、できるだけ高齢者に関わる機会を増やして、高齢者を理解してください。
担当者の研究室等備考	7号館3階

科目名	老年看護学援助論 I	科目名 (英文)	Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 京子、小川 宣子、田中 真佐恵、松田 千登勢、吉井 輝子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	<p>(概要) 高齢者の生きてきた背景や価値観を踏まえたうえで、「高齢者が望む生活は何か」を重視する生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の QOL を高める具体的ケアについて学びます。そのために、講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生きてきた時代背景について調べるグループ学習等を行い、高齢者理解を深めます。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(金原京子/8 回) 認知症高齢者の理解と支援 (3)、高齢者の生きてきた時代背景(2)、高齢者の生活機能から捉えた看護 (コミュニケーション・食事・アクティビティケア)</p> <p>(小川宣子/2 回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息①②)</p> <p>(田中真佐恵/1 回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (清潔)</p> <p>(吉井輝子/1 回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (排泄)</p> <p>(松田千登勢、金原京子、小川、田中真佐恵、吉井輝子/3 回) 高齢者疑似体験、アクティビティケアの企画・運営</p>
---------	--

到達目標	<p>1) 高齢者に生じやすい認知症への理解を深め、生活への影響や具体的援助を考えることができる。</p> <p>2) 加齢や疾患に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助を考えることができる。</p> <p>3) 高齢者の生きてきた時代背景を知り、長年の生活で培われた価値観や生活習慣を尊重する態度を養う。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生きてきた時代背景のグループ学習、アクティビティケアの企画・運営等の演習を行います。これらはグループで実施するので、欠席しないようにしましょう。また、各講義や演習時に課すレポートも評価の対象になるので、必ず提出するようにしてください。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、後日、課題を提出してください。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験
--------------	---------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	高齢者の生活機能から捉えた看護 (1 : コミュニケーション)	【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。
2	高齢者疑似体験	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。	演習方法について事前にオリエンテーションを行います。レポート課題があります。
3	認知症高齢者の理解と支援 (1)	【演習】 視聴覚教材を通して、認知症高齢者及び家族への理解を深めます。	視聴前と視聴後にレポート課題を出します。
4	高齢者の生きてきた時代背景 (1)	【演習】 高齢者の時代背景を学習する意義について学んだ後、グループに分かれ、テーマ毎で時代背景を調べ、高齢者の価値観や社会的側面の理解を深めます。	グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について、後日、発表をしてもらいます。
5	認知症高齢者の理解と支援 (2)	【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。	老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
6	認知症高齢者の理解と支援 (3)	【講義】 認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアについて学習します。	前回の講義内容についての小テストを行います。復習の上、参加してください。
7	高齢者の生きてきた時代背景 (2)	【演習】 第 4 回で行ったグループワークの発表を通して、高齢者の価値観や社会的側面の理解を深めます。	他のグループの発表を聞き、高齢者の生きてきた時代背景についての総合的に理解しましょう。他のグループ発表に対してのピア評価を実施します。
8	高齢者の生活機能から捉えた看護 (2 : 活動と休息①)	【講義】 高齢者における活動と休息のバランスや、活動状況に影響を与える心身の特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。
9	高齢者の生活機能から捉えた看護 (3 : 活動と休息②)	【講義】 高齢者の活動・休息は、心身の機能の変化によって安全・安楽が脅かされやすくなります。高齢者の安全、安楽を支えるアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	前回の講義資料を復習して授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。
10	高齢者の生活機能から捉えた看護 (4 : アクティビティケア)	【講義】 ゲストスピーカーを招き、高齢者の活動 (アクティビティケア) の実際について学びます。	講義後、レポート課題を出します。

	11	高齢者の生活機能から捉えた看護（5：アクティビティケアの企画）	【演習】 高齢者向けのアクティビティをグループ単位で企画してもらいます。	グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について、後日、発表をしてもらいます。																
	12	高齢者の生活機能から捉えた看護（6：アクティビティケアの発表）	【演習】 実施したグループワークの発表を行います。運営者以外は、高齢者役としてアクティビティに参加し、アクティビティの評価を行ってもらいます。	高齢者役として参加したアクティビティに対して、ピア評価を行ってもらいます。																
	13	高齢者の生活機能から捉えた看護（7：食事）	【講義】 高齢者の食・栄養における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。																
	14	高齢者の生活機能から捉えた看護（8：排泄）	【講義】 高齢者の排泄機能における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。																
	15	高齢者の生活機能から捉えた看護（9：清潔/身じたく）	【講義】 高齢者の皮膚の状態等を踏まえながら、清潔/身じたくに関するアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、薬理学総論、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅱ、看護基礎技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 老年看護学</td> <td>北川公子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医学書院の生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図</td> <td>山田律子、井出訓</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 老年看護学	北川公子	医学書院	2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 老年看護学	北川公子	医学書院																	
2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 40%																			
学生への メッセージ	既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護学概論で学んだ「加齢現象」をもとにしての学習になります。しっかりと復習、理解した上で、老年看護学援助論に取り組みましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階																			
備考																				

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松田 千登勢, 小川 宣子, 金原 京子, 田中 真佐恵, 吉井 輝子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 介護保険サービスを利用しながら地域で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とのかかわりを通して、高齢者の理解を深めるとともに高齢者観を培う。</p> <p>【実習目的】 地域で暮らす高齢者とのかかわりを通して、高齢者の身体的・心理的・社会的変化や特徴を理解する。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的特徴を理解する。 2. 地域で暮らす高齢者の「思い」を知る。 3. 高齢者の地域での生活状況を知る。 4. 老年看護のあり方について自己の考えをまとめることができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>月曜日 学内：オリエンテーション 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：グループワーク・発表、個人面談、記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学概論 老年看護学実習 II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	既習の「看護学概論」「コミュニケーション論」「看護対人関係論」で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢・小川 宣子・金原 京子・田中 真佐恵・吉井 輝子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とのかかわりを通して、個性に応じた日常生活援助の実際を知る。また、高齢者・家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について学ぶ。</p> <p>【実習目的】 地域で生活する高齢者・家族の身体的・心理的・社会的特徴および社会資源についての理解を深め、高齢者の生活を支える方法について考える力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・心理的および社会的変化を踏まえ、高齢者の全体像を理解できる。 2. 高齢者の個性に応じた日常生活援助が実施できる。 3. 高齢者・家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について理解できる。 4. 介護保険施設における看護師の役割について理解できる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：グループワーク・発表、個人面談、記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学概論、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学援助論Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	既習の老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰで学んだ内容を確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	小児看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		

授業概要・目的	小児看護学の対象である子どもと家族の理解を踏まえ、発達の促進および健康保持増進に向けた看護者の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。
到達目標	1. 小児看護の対象である子どもと家族を理解する 2. 子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護者の役割と機能を理解する 3. 小児看護によく適用される発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる
授業方法と留意点	子どもの成長・発達の一般原則を理解し、子どものイメージ化を促すため、視聴覚教材や事例を多く用いて講義を進める。また、毎回、事前課題を提示し、それをもとに講義を展開したり、グループワークなどを取り入れながら授業を進める。学習した内容については、身近な子どもの姿を通じて、振り返りができるような課題も取り入れ、学生が主体的に本科目に取り組めるよう工夫をする。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	小児看護学の概観、子どもの特徴	・小児看護学の構成を概観し、授業の進め方、評価について ・子どもの発達区分、特徴について ・保健統計からみた子どもと家族、および子どもを取り巻く環境について	事前課題：教科書「序章 小児看護学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。 事後課題：身近にいる子どもを観察し、その内容や気づきをまとめる
2	子どもを取り巻く医療・小児看護の変遷とこれからの課題	・小児医療・看護の歴史と変遷について ・小児看護の対象と目標について ・小児看護の場と看護の特徴について	事前課題：授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
3	子どもの最善の利益	・子どもの権利条約、医療における子どもの権利について ・小児医療で起こりやすい倫理的問題について	事前課題：授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
4	小児看護で用いる概念と理論	・発達理論 (ピアジェ、エリクソン) について ・母子関係理論 (ボウルビー) 等について	事前課題：授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
5	子どもの成長・発達の特徴Ⅰ	・成長・発達の一般原則について ・成長・発達への影響因子について ・成長・発達過程について ・成長・発達の評価について	事前課題：授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
6	子どもの成長・発達の特徴Ⅱ	・子どもの形態的成長と機能的発達の特徴について	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
7	子どもの事故防止と安全予防接種	・子ども死亡原因について ・発達段階によっておこりやすい事故について ・子どもが事故を起こしやすい要因について ・予防接種の目的について ・定期予防接種と任意予防接種について ・予防接種の対象疾患について	事前・事後課題：子どもと家族を守るための社会制度・社会資源について、グループでまとめる
8	子どもと家族を守るための社会制度・社会資源	母子保健法、学校保健安全法、児童虐待防止法、予防接種法等について、グループ毎に発表する。	事前・事後課題：小児看護学概論の内容を踏まえ、身近にいる子どもを観察し、
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、生命倫理
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学概論・小児保健	松尾宣武・濱中喜代	メヂカルフレンド社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	前期の定期試験および課題やグループワーク内容を総合して評価する。 定期試験 80%、課題・グループワーク 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解することを目指しましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもにも目を向け、洞察を深めてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館・3階、研究室17 (鎌田)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	小児看護学援助論 I	科目名 (英文)	Pediatric Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 亀田 直子, 中山 祐一
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 2. 子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 3. 子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 4. 子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 5. 子ども特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解する。
授業方法と留意点	小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識を活用を促す。小児看護学における援助技術については、事前にグループ学習し、学生が主体となってデモンストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児援助論II、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	病気や入院に対する子どもの理解	子どもの病気の特徴について概観する 子どもは病気や入院をどのように理解するか(認知発達段階の特徴を踏まえ、子どもが病気や入院をどう理解するかについて)	事前課題：小児看護学概論の復習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	健康問題や入院が子どもに及ぼす影響について 健康問題が入院が家族に及ぼす影響について 子どもと家族にとって適切な外来および入院環境について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関する自己学習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
3	子どもの発達段階に応じた日常生活と看護 I	食べる機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた食援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
4	子どもの発達段階に応じた日常生活と看護 II	睡眠の機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた睡眠援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
5	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 III	排泄の機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた排泄援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
6	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 IV	身だしなみを整えるの機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた身だしなみを整える援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
7	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 V	遊びの機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた遊びの援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
8	子どもによく見られる症状と看護	啼泣、不機嫌、発熱、発疹、けいれん、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
9	子どもによくみられる症状と看護	呼吸困難、痛み、意識障害、浮腫、掻痒感など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
10	小児看護技術 (日常生活援助)	定額していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 歩行可能な幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
11	小児看護技術 (日常生活援助)	定額していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 歩行可能な幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
12	健康問題のある子どもをもつ家族の理解	障害のある子どもを出産し、育てている母親をゲストスピーカーに招き、心理過程や体験を理解することで看護のあり方を考える	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
13	子どものヘルスアセスメント	子どもとのコミュニケーションについて ヘルスアセスメントの目的・意義について 子どもの観察と情報収集の方法について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる

			て		
	14	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：技術演習内容の振り返り	
	15	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：技術演習内容の振り返り	
関連科目	小児看護学概論、基礎看護技術				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健		松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護		松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
	3	ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学②		中野綾美 編集	メディカ出版
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	小児科学 第2版		金子一成 編集	金芳堂
	2	小児の疾患と看護 小児看護③		中野綾美 編集	メディカ出版
	3	小児臨床看護学各論 小児看護学②		奈良間美穂 他	医学書院
評価方法 (基準)	後期の定期試験 70%、課題、演習、グループワーク 30%とし総合的に評価する				
学生への メッセージ	小児看護学援助論 I では非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。				
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室17(鎌田)、18(池田)				
備考	技術のレポート課題についてはフィードバックをしますので、それらをもとにリフレクションを行い実習に生かしてください。				

科目名	母性看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	泉川 孝子, 名草 みどり, 福山 智子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		

授業概要・目的	母性看護の基盤となる概念を理解し、母性とはなにかを幅広く捉え、人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。母性の特性については、母性保健の動向や現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題を理解し、現代女性・家族へのサポートについて考える。
到達目標	1. 母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について理解する。 2. 人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。 3. 母性看護の変遷や母性保健統計の動向、母子保健施策から現状を理解する。 4. 現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題について理解する。 5. 女性のライフステージ各期における諸問題、看護について理解する。 6. 現代の女性・家族の健康に関与する諸問題へのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。
授業方法及び留意点	事前の学習課題は展開される講義内容が書かれているテキスト部分をよく読んでくる。グループ課題もあり、主体的に参加してください。母子保健、生殖医療等に関する情報を、新聞、雑誌などから見聞を広め問題意識をもつてのぞみましょう。
科目学習の効果(資格)	授業内容は、看護師国家試験の母性看護学の科目に出題されることがあり、国家試験に直結する科目です。また、助産選択に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性の概念について	母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について学ぶ。 ?セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて学ぶ(講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習?
2	母性看護の対象を取り巻く社会について1	母性看護の歴史の変遷と現状、日本と諸外国の助産の歴史、について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
3	母性看護の対象を取り巻く社会について2	母子保健統計からみた動向、母子保健施策からみた現状、母性看護に必要な法制度について理解する(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
4	母性看護の対象理解	人間の性差について理解し、セクシュアリティについて学ぶ。母性の発達・成熟・継承。母性と親性について理解し、子どもへの愛や親となる過程の支援に必要なことを学ぶ。女性のライフサイクル、母性各期(小児期、思春期、成熟期、更年期、老いて理解する(講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
5	思春期の健康と看護	思春期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、思春期におけるセクシュアリティの課題について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
6	成熟期の健康と看護	成熟期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、成熟期のセクシュアリティの課題について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
7	更・老年期の健康と看護	更年期・老年期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、セクシュアリティの課題について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
8	リプロダクティブヘルスケア	女性の健康に関与する、性感染症・妊娠中絶・喫煙・DV、国際化社会等におけるリプロダクティブヘルスケアについて理解する(講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 人体の構造と機能、食生活論、家族関係論、疾病治療論、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、地域看護学、家族看護学、看護倫理、女性学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	親と子のきずな	クラウス・ケネル	医学書院
	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院

評価方法(基準) 定期試験、授業参加度(提出課題・授業態度等)を総合して判定する。
割合: 定期試験 85% (泉川 75点、福山 5点、名草 5点)、提出課題等 15%

学生へのメッセージ セクシュアリティ、母性、家族に関する社会状況や問題、法改正などの情報や報道等に関心を向け自分自身の考え方を広げて行きましょう。授業は学生と教員とのパートナーシップで、力を合わせて実りある内容にしましょう。

担当者の研究室等 泉川孝子: 研究室 15、福山智子: 研究室 13、名草みどり: 研究室 11

備考

科目名	母性看護学援助論 I	科目名 (英文)	Maternal Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	泉川 孝子、名草 みどり、福山 智子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	<p>《概要》 妊娠期・分娩期・産褥期の生理的变化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントと看護の方法について学ぶ。 (オムニバス 方式/全15回)</p>
到達目標	1. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 2. 正常経過にある妊産婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。 3. 異常経過にある妊産婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。
授業方法と留意点	講義・グループワーク・DVD鑑賞・課題、演習などの方法で学ぶ
科目学習の効果 (資格)	母性看護学援助論Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	母性の発揮を促す看護	子どもを生み育てるあたり生じる遺伝、不妊の問題、不妊治療を受ける女性の心理的特徴からその支援、看護について理解する	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
2	妊娠期の心理と社会的特性	1. 妊娠期の心理的变化 2. 親となる心理的变化と母性の心理を把握するための理論を学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
3	妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護	1. 妊婦検診の実際と妊娠経過のアセスメントについて学ぶ 2. 妊婦が受ける母性保健サービスと保健指導について学ぶ 3. マイナートラブルと対処について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
4	ハイリスク妊婦の看護	1. ハイリスク妊婦 (高年、若年、過剰体重増加) 2. 異常妊娠 (感染症、妊娠高血圧症候群、血液型不適合など) 3. 合併症のある妊婦	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
5	正常分娩の経過	1. 分娩の要素と機序 2. 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 3. 分娩経過の胎児への影響 4. 分娩期の産婦・家族の心理的变化 5. 出生2時間までの新生児の生理	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
6	分娩期のアセスメントと看護	1. 分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 胎児の健康状態のアセスメントと看護 5. 出生後2時間までの新生児のアセスメントと看護 6. 母子関係形成に向けての援助	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
7	ハイリスク分娩の看護	1. 分娩期の異常と看護 2. 産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
8	帝王切開術と看護	帝王切開術を受けた産婦のアセスメントと看護について学ぶ 母子分離、喪失感覚、悲嘆へのケアについて学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
9	産婦の身体的変化	退行性変化と進行性変化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
10	産婦の心理・社会的変化	Rubinの母親への適応過程、家族の心理的变化について学ぶ。	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
11	産褥期の異常と看護 1	子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、会陰裂傷・会陰切開を行った産婦、乳房にトラブルのある産婦	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
12	産褥期の異常と看護 2	精神にトラブルのある産婦、および新生児に問題がある産婦の看護等について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
13	新生児の生理と看護	新生児の生理と看護について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
14	育児技術に関わる援助	技術演習 新生児の抱き方と寝かせ方、オムツ、衣服の交換等	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
15	低出生体重児、高ビリルビン血症児の看護	低出生体重児のおこりやす問題と看護、ディベロップメンタルヘルスクエア、高ビリルビン血症児：黄疸のリスク因子、検査、治療と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習

関連科目 人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、

基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院
	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院
	2	病気がみえる vol.10: 産科		メディックメディア
	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版
評価方法 (基準)	定期試験 80%、提出物 20%、授業参加状況を見て総合的に評価する。			
学生への メッセージ	母性看護学は妊婦だけではなく、女性の健康を支援する看護学です。そのために、夫をはじめとした家族も看護の対象となるなど、幅広い対象に看護を行います。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」などのたくさんの問いを持って、楽しく真摯に学んで下さい。			
担当者の 研究室等	泉川孝子（研究室 15）、福山智子（研究室 13）、名草みどり（研究室 11）			
備考				

科目名	精神看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		

授業概要・目的	精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。
到達目標	心の構造と機能について説明できる。 心の健康・不健康について説明できる。 現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響があるか説明できる。 自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。 災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。 精神保健の概念について説明できる。 精神科看護師の役割について説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、視聴覚教材や精神医療に関する映画などを補助的に活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促したい。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「序章-I～IV」を読んで来てください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
2	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前：教科書①「第1章I、II」を読んで来てください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
3	心の健康とは何か(ストレスと健康、看護師のメンタルヘルス)	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSD、バーン舞うとその対処、看護職者の感情体験について理解する	事前：教科書①「第4章I～III」「第5章I～IV」「第6章I、II」教科書②「第8章III」を読んで来てください。	事後：授業内容を整理しておいてください。<看護師のメンタルヘルス
4	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神的発達論について理解する。	事前：教科書①「第2章I～V」を読んで来てください。	事後：授業内容を整理しておいてください。
5	精神保健医療福祉の歴史の変遷	欧米、日本の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前：教科書①「第7章I、II」を読んで来てください。事後：授業内容を整理しておいてください。	
6	精神看護における法と人権擁護	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)について理解する。	事前：教科書①「第7章III」を読んで来てください。事後：授業内容を整理しておいてください。	
7	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持する上での困難について理解する。	事前：教科書②「第1章I～IV」を読んで来てください。事後：授業内容を整理しておいてください。	
8	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向	自立と社会復帰、地域生活支援、認定・専門看護師制度、触法精神医療など、精神障害者の保護・医療・福祉の現状について理解する	事前：教科書②「第7章I～III」「第8章I、II」を読んで来てください。事後：授業内容を整理しておいてください。	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目 精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健	佐藤 壹三	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	渡邊博幸	メヂカルフレンド社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 定期試験(85%)及びレポート、ワークシート(15%)を総合して判定する。なおレポート課題については授業の時に説明する。

学生へのメッセージ 積極的に授業に参加してください。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室19(眞野)

備考 学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。

科目名	精神看護学援助論 I	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	精神看護を実践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者―看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者―看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者―看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるロールプレイング、プロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者―看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。
到達目標	援助的人間関係に関する理論を理解する。 援助的人間関係に関する技術を身につける。 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。 精神科救急で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、現場で働いている看護師による講義を取り入れ、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促す。 毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前：「第3章-II-B」「第6章-II-A, E」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
2	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前：「第3章-II-D」「第6章-II-B」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
3	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前：「第3章-II-B, D」「第6章-II-A, B」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
4	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前：「第3章-II-E, F」「第6章-II-B, G」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
5	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前「第3章-II-D」「第6章-II-B, C」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
6	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前第3章-II-N「第6章-II-H」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
7	援助的人間関係 (理論編 1)	患者-看護師関係の意義と特徴	事前：「第4章」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
8	援助的人間関係 (理論編 2)	対人関係論、プロセスレコード	事前：「第4章」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
9	援助的人間関係 (実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習	事後：授業内容を整理しておいてください。
10	援助的人間関係 (実践編)	プロセスレコードを記載する	事後：授業内容を整理しておいてください。
11	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返り	事後：授業内容を整理しておいてください。
12	援助的人間関係 (実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習 (症状への対応)	事前：「第6章-II-A」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
13	精神科治療と看護 (1)	薬物療法と看護	事前：「第3章-III-A」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
14	精神科治療と看護 (2)	精神療法、SST、心理教育、作業療法と看護	事前：「第3章-III-B, C, D」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
15	退院調整と地域生活支援・精神科救急に関する看護	精神障害者の退院促進と地域で生活していくための支援活動、精神科救急の現場で実践されている看護援助、精神科における看護師の役割・機能など	事後：授業内容を復習しておいてください

関連科目 精神看護学概論、精神看護学援助論II、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社
	2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準) 合否は、定期試験 (85%) 及びワークシート、演習、演習時の課題 (15%) を総合して判定する。

学生へのメッセージ 積極的に授業に参加してください。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室19 (眞野)、研究室18 (山本智)

備考 学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。
日程 (日程変更を含む) は追って連絡するので、注意深く掲示板の確認をすること。

科目名	在宅看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	後閑 容子, 田中 結華
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		

授業概要・目的	在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、QOLの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と特徴の理解ができる。 2. 在宅看護を支える制度と在宅看護の変遷について理解ができる。 3. 在宅看護に関わる社会資源とその活用方法、連携、看護職の役割を理解する 4. 在宅療養者の家族を支援する必要性を理解する 5. 在宅看護における倫理について理解する 6. 地域包括ケアシステムについて理解し在宅療養生活に必要な支援を知る 7. 在宅看護における倫理について理解する
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義を中心に進めていく予定である。教科書を用い、資料も配付する。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネジメント方法などイメージが困難な学習には、DVDの活用、事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、次講義時間を活用する、あるいは教員の研究室の方に来るなど、その時の学びを大切に、主体的に学習に取り組むこと。事前・事後学習については、授業内で別途指示することがある。
科目学習の効果 (資格)	患者の入院から退院・退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけではなく、地域社会における役割と認識を深め、社会のニーズに即した専門職のあり方を持つことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	病院などの施設内看護と訪問看護 (在宅看護) との連携: 切れ目のない看護を目指して	施設内看護と在宅看護を比較しながら、在宅看護の特性について、継続看護、在宅における医行為、チーム医療について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
3	在宅看護の法的基盤	介護保険、医療保険等、在宅看護の法的基盤や関連する制度について学ぶ。 講義を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
4	在宅看護を支える社会資源の活用と多職種連携	在宅看護を支える多様な社会資源と、その活用について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
5	在宅看護と倫理	在宅看護における倫理、特に療養者と家族の意志決定を支える看護について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
6	在宅療養者と家族への看護	療養者、および家族と看護介護家族の状況 (家族の介護負担とその軽減)、家族に関する理論などから学ぶ。 講義を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
7	地域包括ケアにおける在宅看護の役割、看護職の役割	地域包括ケア、および継続看護、チーム医療における看護職の役割を考える。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
8	訪問看護ステーションの看護	訪問看護ステーションの経営、看護管理、地域における役割について、ゲストスピーカーの講義によって学ぶ。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 家族関係論 地域看護学 専門科目の概論のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版
3			

評価方法 (基準) 小テスト・レポート (10%) 定期試験 (90%) を総合的に判断する。

学生への メッセージ	現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。病院看護との違いは、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習(予習・復習)を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。15コマを通して在宅看護の理解に達します。欠席をしないように受講することが求められます。
担当者の 研究室等	7号館 3階 第8研究室 後閑容子、第9研究室 田中結華
備考	不定期に、小テスト、レポートを行う。授業での発言や課題・討議等に取り組む姿勢も評価の対象とする。参考書は大いに参照すること。文献等は授業でも紹介する。

科目名	在宅看護学援助論 I	科目名 (英文)	Home Care Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 後閑 容子, 坂本 結美子, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		

授業概要・目的	在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。在宅療養者・家族の、健康、生活機能、およびQOLの維持・向上のための支援方法について学ぶ。具体的には、在宅看護に必要な面接技術、さまざまな発達段階や健康障害（神経難病、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケアなど）を持つ人への在宅療養支援について、事例を通じて理解する。また、在宅療養者に必要な日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術を理解する。
到達目標	1. 在宅看護に必要な面接技術について理解できる。 2. 在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる。 3. 在宅療養者に必要な医療処置技術を理解できる。 4. さまざまな発達段階や健康障害における在宅療養支援について理解できる
授業方法と留意点	講義と演習、グループワークにより授業を行う。テキストおよび配付資料、視聴覚教材を用いて理解を深める。基礎看護技術、および各看護で学ぶ看護技術を基盤として、在宅療養の場でどのように実践するかを深く考えて頂きたい。事例検討では、高度実践を専門的に行っている看護師を招いて学ぶ。授業へは主体的に取り組み、積極的に参加すること。各回にフィードバックカードの提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	在宅看護学実習に必要な技術、事例を学び、在宅看護学援助論Ⅱでの学習に関連づける。また、入院患者の退院後の生活に向けて支援する際に必要な知識・技能を習得することにつながる。看護師国家試験受験のために、単位取得が必要である。

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業オリエンテーション 在宅看護の場で必要な面接技術 (1)	在宅看護におけるコミュニケーションの特徴、面接技術、および訪問時のマナー・態度について学ぶ。	〈事前学習〉事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。 〈事後課題〉講義後のノート整理を行うこと?
	2	在宅看護の場で必要な面接技術 (2) ?	在宅看護に必要な面接技術についてグループで演習課題に取り組む。	〈事前学習〉第1回授業の内容を復習すること。 〈事後課題〉グループワークの課題提出?
	3	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (1)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例を用いてグループで取り組み、在宅での具体的援助方法について検討する。	〈事前学習〉事前に必要な看護技術について予習すること。詳細は授業時に指示する。 〈事後課題〉グループで事例検討に必要な作業を分担し、各自が行う。
	4	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (2)	前回に引き続きグループで検討する。	〈事前学習〉分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 〈事後課題〉グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること。
	5	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (3)	グループでの検討をまとめ発表準備をする。	〈事前学習〉分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 〈事後課題〉グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること。
	6	在宅看護に必要な日常生活援助技術: グループ発表と討議 (1) ??	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	〈事前学習〉分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 〈事後課題〉次回発表できるように準備すること。
	7	在宅看護に必要な日常生活援助技術: グループ発表と討議 (2)	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	〈事前学習〉他のグループの取り上げた日常生活援助技術についてテキストで予習しておくこと 〈事後課題〉各援助技術のポイントを整理しておくこと。
	8	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (1)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	〈事前学習〉テキストで各技術を予習しておくこと。 〈事後課題〉各援助技術のポイントを整理しておくこと。
	9	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (2)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	〈事前学習〉テキストで各技術を予習しておくこと。 〈事後課題〉各援助技術のポイントを整理しておくこと。
	10	神経難病をもつ在宅療養者の看護	神経難病をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅人工呼吸器による呼吸療法についても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーとして、専門看護師大杉花先生 (拓海会訪問看護ステーション) による講義と討議を行う。	〈事前学習〉テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 〈事後課題〉事例における援助のポイントを整理しておくこと。
	11	COPD をもつ在宅療養者の看護	COPD をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅酸素療法、呼吸器リハビリテーションについても合わせて学ぶ。	〈事前学習〉テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 〈事後課題〉事例における援助のポイントを整理しておくこと。
	12	認知症をもつ在宅療養者の看護	認知症をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	〈事前学習〉テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 〈事後課題〉事例における援助のポイントを整理しておくこと。
	13	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	精神疾患をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	〈事前学習〉テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 〈事後課題〉事例における援助のポイントを整理しておくこと。
	14	終末期にある在宅療養者の看護	終末期にある在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、疼痛管	〈事前学習〉テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。

			理、看取りについても合わせて学ぶ。 ゲストスピーカーとして、専門看護師船越政江先生（わたぼうし訪問看護ステーション）による講義と討議を行う。	<事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。																
15	まとめ		まとめ 本授業科目での学びについてまとめる。	<事前学習>ノート、資料を整理しておくこと。 <事後課題> 授業全体を復習し、筆記試験に備えること。																
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学、家族看護学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義・演習への参加態度 40% (フィードバックカード、グループワーク、レポート、発表、ピア評価も含める) 筆記試験 60%?																			
学生への メッセージ	在宅看護では、患者のことを「患者」とは言いません。療養者あるいは訪問看護を利用する「利用者さん」と呼称します。在宅援助方法の原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。																			
担当者の 研究室等	後閑容子 7号館 3階 第8研究室 田中結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 坂本結美子 7号館 3階 共同研究室1																			
備考																				

科目名	看護対人関係論	科目名(英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	看護の場における対人関係についての基本的概念・技法の理解と修得を目指す。患者-看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、基本的技法としての言語的・非言語的コミュニケーション、治療的コミュニケーションと非治療的コミュニケーションを学び、看護場面のロールプレイ等を用いた学生同士の体験的学習を通して修得する。また、授業全体を通じて、自分自身を振り返るリフレクション、自分と相手を共に尊重するアサーティブな人間関係のあり方について学ぶ。
到達目標	1. 患者・看護師間、医療チーム間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2. コミュニケーションの際に必要な基本的技法について説明できる。 3. 看護場面のロールプレイを、コミュニケーションの基本的技法を用いて学生同士で行うことができる。 4. ロールプレイを通して、自分自身と他者のコミュニケーションの振り返りを行うことができる。
授業方法と留意点	講義で理論を説明し、その中で重要なコミュニケーション技法については小グループを編成し演習を行う。グループで協力して学ぶことが必要である。「知っている」と「できる」とは違う。「できる」ようになるよう、積極的に参加する態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。授業では、名札をつけて出席すること。またテキストを毎回持参すること。
科目学習の効果(資格)	1年生後期の基礎看護学実習Ⅰでの実践にむけて、看護の対象者やチームのなかで適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる力を付けます。また、全ての実習科目を行う上で、この科目での学びが重要です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うとともに、看護の場における対人関係について概要を説明する。また、対人関係を振り返るためのリフレクションについて解説する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
2	患者-看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」・「話すこと」について演習し、考えを深める。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
3	相手に伝わるように話す(1)	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手が受け取っていないければ何も伝わらない。会話分析と演習を通して、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、および相手に伝わるように話すためのポイントをつかむ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
4	相手に伝わるように話す(2)	自分と異なる世代、立場の人と適切に会話をするために、敬語による表現について演習する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
5	相手の気持を受けとめる	相手の気持をうけとめることによって、相手の心を聞き、望ましい関係を築くことができる。会話事例を分析し、相手の気持を受けとめるためのポイントをつかむ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
6	自分から出る、自分を出す	自分の主張を伝え、相手に適切に働きかけるためのアサーティブネスを学ぶ。会話事例の分析を行い、会話を組み立ててロールプレイを行う。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
7	相手をもっと知る	患者と適切な関係を構築するためには、相手の立場に立って考えることが必要である。インタビューの演習を行い、さまざまな質問のしかたを用いて相手をよりよく知る方法について理解する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
8	チームビルディング	新たな集団がチームとして機能し、力を合わせて成果を挙げるための人間関係構築について、演習を通して学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
9	看護の現場で学ぶ	看護の現場では、学生もチームの一員である。チーム内で成果を挙げるための、態度、マナーや表現方法について学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
10	ケア場面でのコミュニケーション(1)	患者-看護師の会話事例を分析し、ケア場面に必要なコミュニケーションのセンスについて考えを深める。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
11	ケア場面でのコミュニケーション(2)	患者-看護師の会話事例を分析し、ケア場面に必要なコミュニケーションのセンスについて考えを深める。分析をグループ発表する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
12	看護の現場でのコミュニケーション：人間関係をスタートする	今まで学んだ技法を活用して、病棟でのチーム、スタッフや、患者に対して適切に人間関係をスタートする方法を考え	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料

			る。	について復習すること。日常生活の中で学びを練習して試みる。																
	13	看護の現場でのコミュニケーション:SBAR を使って報告する	効果的なチーム医療における報告の意義を理解する。SBAR (状況:Situation、背景:Background、評価 Assessment、提案・依頼:Recommendation)の枠組みによる報告は、そのための戦略であり、事例を用いて報告を組み立て、ロールプレイを行う。	事前課題:特になし。 事後課題:小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習して試みる。																
	14	看護の現場でのコミュニケーション:集団でのコミュニケーション	集団でのコミュニケーションについて学ぶ。特にリーダーシップとメンバーシップ、カンファレンスの持ち方などについて取り上げる。	事前課題:特になし。 事後課題:小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習して試みる。																
	15	まとめ	グループに分かれ、看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について話し合い、発表する。	事前課題:特になし。 事後課題:指示したテストの出題範囲について復習しておくこと。																
関連科目	カウンセリング論、臨床心理学、基礎看護学の各科目と関連する。内容は、実習や現場で直接役立つ技術となる。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>仲間とみがく 看護のコミュニケーション・センス</td> <td>大森 武子, 矢口 みどり</td> <td>医歯薬出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	仲間とみがく 看護のコミュニケーション・センス	大森 武子, 矢口 みどり	医歯薬出版株式会社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	仲間とみがく 看護のコミュニケーション・センス	大森 武子, 矢口 みどり	医歯薬出版株式会社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業の参加度とレポート (60%)、筆記試験 (40%) により総合評価する。																			
学生へのメッセージ	対人関係能力は看護実践に必須の基本的能力です。患者-看護師間はもちろん、医療チームの中で適切にコミュニケーションをおこなっていくことが欠かせません。講義とロールプレイなどを通じた体験に自分から進んで参加し、コミュニケーションスキルを高めましょう。																			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室9 (田中)																			
備考																				

科目名	看護管理学	科目名(英文)	Nursing Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	竹中 泉・伊藤 恵子・後閑 容子・安田 照美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>看護管理者として、組織・人材、社会・行政、情報、予算、安全などに関する基本的な学習をして、質の良い看護を効率的にかつ効果的に提供し、医療の向上のため、看護管理としてのあり方を学ぶ。具体的には、医療チームの一員として多職種との連携と看護職の専門性、看護職としてのキャリア形成、自身の健康管理などを学ぶ。さらに、最近の話題として、看護管理からみた看護職の倫理、医療安全のあり方をリスクマネジメントへの組織やチームおよび個人としての取り組みと基本的な対策に関して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>2回/後閑 容子</p> <p>1回/ 安田 照美</p> <p>2回/ 伊藤 恵子</p> <p>3回/竹中 泉</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の対象とその実践範囲を理解する。 2. 保健医療福祉職との連携と看護の専門性について理解する。 3. 病院・施設の組織におけるマネジメントのあり方の概要を理解する。 4. 看護職としてのキャリア形成について考え、現時点における自己の将来構想を具体的に述べる。 5. 医療安全と看護職の責務について自己の考えを明確にし、安全対策の基本を理解できる。 																																																																		
授業方法と留意点	適切な看護を提供するために個々の看護職者が果たす役割について、講義や少人数でのグループ討議を行い学びを深める。臨地実習での体験を看護管理の視点から学び直し発表する機会も設定する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	看護管理はどのような場においても、対象を中心に看護サービスを提供するために必要な学修である。より良い看護の提供を創造できる看護職になるために自律的な成長への課題を見出すことができる。統合看護学実習の事前学習内容を含む。看護師国家試験受験のための必須科目でもある。																																																																		
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 25%;">授業テーマ</th> <th style="width: 30%;">内容・方法 等</th> <th style="width: 35%;">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護管理の概要</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・組織とマネジメント ・看護管理の対象とその実践範囲 </td> <td> 事前課題：統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく。 事後課題：看護管理の概要について講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>保健医療福祉職との連携と看護職の専門性</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・看護に関する法律 ・看護と行政組織 ・看護と専門機関・職能団体 ・最近の保健医療福祉政策の動向 </td> <td> 事前学習：最近の保健医療福祉行政の情報収集しておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する。 </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>病院における看護管理</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスと経済のしくみ ・看護サービスマネジメント ・人的資源の確保と開発 ・労務管理 </td> <td> 事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。 </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>病院のマネジメント</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・病院・医療機関の組織と機能 ・医療事故と安全管理 ・災害対応 ・病院機能評価 </td> <td> 事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。 </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>病院、施設における看護管理</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理のスキル ・組織の理解 ・経営 </td> <td> 事前学習：臨地実習で学修した管理について振り返っておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する。 </td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>看護職としてのキャリア形成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職と生涯教育 </td> <td> 事前学習：これまでの学修した経験より自己のキャリア形成について振り返ってみる。 事後学習：自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。 </td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>医療安全と看護の責務</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全と看護の責務 </td> <td> 事前課題：看護関係法規で学んだ内容を復習しておく。 事後課題：臨地実習で学んだことと併せて看護の責務について自己の考えを整理する。 </td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>看護における安全対策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・看護業務と事故発生要因 ・医療事故の種類と安全対策 </td> <td> 事前学習：看護職が関係した医療事故について調べてみる。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要な安全対策について考え整理する。 </td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	看護管理の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・組織とマネジメント ・看護管理の対象とその実践範囲 	事前課題：統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく。 事後課題：看護管理の概要について講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。	2	保健医療福祉職との連携と看護職の専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・看護に関する法律 ・看護と行政組織 ・看護と専門機関・職能団体 ・最近の保健医療福祉政策の動向 	事前学習：最近の保健医療福祉行政の情報収集しておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する。	3	病院における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスと経済のしくみ ・看護サービスマネジメント ・人的資源の確保と開発 ・労務管理 	事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。	4	病院のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・医療機関の組織と機能 ・医療事故と安全管理 ・災害対応 ・病院機能評価 	事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。	5	病院、施設における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理のスキル ・組織の理解 ・経営 	事前学習：臨地実習で学修した管理について振り返っておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する。	6	看護職としてのキャリア形成	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職と生涯教育 	事前学習：これまでの学修した経験より自己のキャリア形成について振り返ってみる。 事後学習：自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。	7	医療安全と看護の責務	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全と看護の責務 	事前課題：看護関係法規で学んだ内容を復習しておく。 事後課題：臨地実習で学んだことと併せて看護の責務について自己の考えを整理する。	8	看護における安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・看護業務と事故発生要因 ・医療事故の種類と安全対策 	事前学習：看護職が関係した医療事故について調べてみる。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要な安全対策について考え整理する。	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	看護管理の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・組織とマネジメント ・看護管理の対象とその実践範囲 	事前課題：統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく。 事後課題：看護管理の概要について講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。																																																																
2	保健医療福祉職との連携と看護職の専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・看護に関する法律 ・看護と行政組織 ・看護と専門機関・職能団体 ・最近の保健医療福祉政策の動向 	事前学習：最近の保健医療福祉行政の情報収集しておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する。																																																																
3	病院における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスと経済のしくみ ・看護サービスマネジメント ・人的資源の確保と開発 ・労務管理 	事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。																																																																
4	病院のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・医療機関の組織と機能 ・医療事故と安全管理 ・災害対応 ・病院機能評価 	事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。																																																																
5	病院、施設における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理のスキル ・組織の理解 ・経営 	事前学習：臨地実習で学修した管理について振り返っておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する。																																																																
6	看護職としてのキャリア形成	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職と生涯教育 	事前学習：これまでの学修した経験より自己のキャリア形成について振り返ってみる。 事後学習：自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。																																																																
7	医療安全と看護の責務	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全と看護の責務 	事前課題：看護関係法規で学んだ内容を復習しておく。 事後課題：臨地実習で学んだことと併せて看護の責務について自己の考えを整理する。																																																																
8	看護における安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・看護業務と事故発生要因 ・医療事故の種類と安全対策 	事前学習：看護職が関係した医療事故について調べてみる。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要な安全対策について考え整理する。																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	保健医療福祉行政論、看護関係法規、看護学概論、各領域の看護学概論、看護倫理、実習科目全般、キャリアデザイン																																																																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 20%;">著者名</th> <th style="width: 30%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ナツガ・グラフィック 看護の統合と実践(1)看護管理 第3版</td> <td>村島さい子他</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ナツガ・グラフィック 看護の統合と実践(1)看護管理 第3版	村島さい子他	メディカ出版																																																								
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ナツガ・グラフィック 看護の統合と実践(1)看護管理 第3版	村島さい子他	メディカ出版																																																																

	2	ナース・グラフィック 看護の統合と実践(2)医療安全 第2版	松下由美子他	メディカ出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜提示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 60%、課題・グループワーク 40%			
学生への メッセージ	看護管理は管理者だけが行うものではない。チームの一員として一人一人が自分の果たす役割を認識したうえで、リーダーシップを発揮できるように取り組むこと。主体的に参加し、自己の考えを述べ、ディスカッションにより多様な考えを受止め、視野を広げられることを期待する。			
担当者の 研究室等	7号館・3階 研究室8 (後閑) 研究室25 (竹中)			
備考				

科目名	成人看護学援助論 I	科目名 (英文)	Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹下 裕子, 稲垣 範子, 吉川 有葵
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<p>【一般目標】 1. 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や、手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。 2. 麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。 3. 手術によって、形態変化や機能障害をもたらされた対象とその家族の適応および新たなセルフケア能力獲得を促すための看護援助について理解できる。 4. 手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後も、QOLのより高い生活を獲得できるよう、チーム医療のもとで行う看護援助について理解できる。 5. 手術を受ける対象とその家族の看護問題を解決するために、主体的な学習態度で取り組むことができる。</p>
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って講義を中心に授業を行う。また、重要なテーマについてグループ討議や資料作成等を行う。事前学習として、教科書の該当範囲を読んでおくこと。事後課題として、授業内容を出題範囲とした過去の看護師国家試験問題を解いておくこと（講義内で配布する）。なお、課題は提出を求めないが、事後課題（国家試験問題）は定期試験の試験範囲に含める。</p>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実習（成人看護学実習 I）において、看護援助を実践するための基盤となる。 ・ 看護師国家試験の出題範囲である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	救急医療を必要とする対象の看護援助①	救急医療における看護	事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
2	救急医療を必要とする対象の看護援助②	救急患者に対するアセスメント、救命救急処置	事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
3	周手術期にある対象の特徴と理解①	周手術期にある対象とその家族の特徴と理解、麻酔・手術侵襲に伴う生体反応	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート1理論編を読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
4	周手術期にある対象の特徴と理解②	術後疼痛の特徴と理解、疼痛マネジメント（患者管理鎮痛法：PCAの管理含む）	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート1理論編の「II 3. 術後疼痛の体験」、パートII実践編の「4. 術後の看護」について読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
5	術後合併症予防のための看護援助①	呼吸器合併症（呼吸法、排痰訓練含む）、循環器合併症予防のための看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「V 1. 肺合併症、2. 循環不全」について読んでおくこと。また、術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
6	術後合併症予防のための看護援助②	術後感染、縫合不全（創傷管理・ドレーン管理含む）	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「V 4. 術後感染、5. 縫合不全」について読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
7	術後合併症予防のための看護援助③	早期離床、日常生活援助	事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
8	周手術期過程に応じた看護援助①—術前	インフォームド・コンセントの支援、術前オリエンテーション、手術に向けた準備、手術室入室時の看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「1. 診断から手術の決定過程の看護」「2. 術前の看護」について読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
9	周手術期過程に応じた看護援助②—術中	手術室環境、麻酔の基礎知識と麻酔導入時～覚醒時の看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「2. 術中の看護」を読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
10	周手術期過程に応じた看護援助③—術直後	術直後の全身状態の観察と看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「4. 術後の看護」を読み、術直後のモニタリングのポイント・観察項目とそれぞれの正常（または基準値）についてまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
11	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助①	胃切除術を受ける対象に対する看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「VII 4. 開腹術を受ける人の看護」を読み、胃がんの原因と誘因、症状と発生機序、分類と進行度、術式と各術式の特徴（切除部位、再建方法）などをまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
12	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助②	開胸術を受ける対象に対する看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「VII 3. 開胸術を受ける人の看護」を読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
13	形態変化や機能障害への適	開頭術を受ける対象に対する看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践

	応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助③		編の「VII 1. 開頭術を受ける人の看護」を読ん どること。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解い ておくこと																
	14 形態変化や機能障害への適 応とセルフケア能力獲得促 進のための看護援助④	人工股関節置換術を受ける対象に対す る看護	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践 編のVII 7. 運動器の手術を受ける人の看護」を読み、 関節リウマチの原因と誘因、症状と発生病序、分類、 術式と各術式の特徴などをまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解い ておくこと																
	15 形態変化や機能障害への適 応とセルフケア能力獲得促 進のための看護援助⑤	腎・泌尿器科手術を受ける対象に対す る看護（腰椎麻酔）	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践 編の p. 112～p. 115 を読ん どること。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解い ておくこと																
関連科目	成人看護学概論 I・II 成人病態看護論 人体の構造と機能 I～IV 病理学総論 疾病治療論 I・II 感染と防御																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>周手術期看護論（第3版）</td> <td>雄西智恵美・秋元典子編</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ（目安価格 2,592円）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護学テキスト NICE 成人看護学 成人看護技術</td> <td>野島真奈美 他編</td> <td>南江堂（目安価格 3,240円）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美・秋元典子編	ヌーヴェルヒロカワ（目安価格 2,592円）	2	看護学テキスト NICE 成人看護学 成人看護技術	野島真奈美 他編	南江堂（目安価格 3,240円）	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美・秋元典子編	ヌーヴェルヒロカワ（目安価格 2,592円）																
2	看護学テキスト NICE 成人看護学 成人看護技術	野島真奈美 他編	南江堂（目安価格 3,240円）																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	筆記試験（80%）、授業の参加度(20%)により、総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対処を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できる ためには、十分な事前・事後学習が不可欠です																		
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室30（竹下）																		
備考																			

科目名	成人看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香、青野 美里、志戸岡 恵子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々を理解し、対象が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また代表的な慢性病をモデルにして、疾病や症状をコントロールするために必要とされる対象のセルフケア、ストレスコーピング、生活の再構築や適応を促進するための看護の援助方法について学習する。</p> <p>【学習目的】 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」とその家族が、慢性的な健康問題によって受ける心身や生活、QOL、倫理的な影響について説明できる。 2. 代表的な慢性病をモデルにして、対象とその家族の、QOLの維持・向上のために必要なセルフケア、ストレスコーピング、あるいは生活の再構築や適応の促進に向けた看護の援助方法について理解し、また、これに関連する援助技術を習得できる。 3. 代表的な慢性病をモデルにして、対象とその家族が主体的な療養生活を送り、QOLの維持・向上のために必要なチーム医療について理解し、看護の役割について説明できる。 4. 対象とその家族の看護問題の解決に向けて、主体的な学習態度で取り組むことができる。また、看護職者としての価値観、態度、信念を養う。
授業方法と留意点	授業方法は講義を中心とし、演習やグループワークを含める。事前学習と講義をつなげて理解を深め、事後には復習やレポート課題によって知識の確実な習得を目指すとともに自分の考えをまとめる。また、講義の途中で小テストを行い、知識の確認を行う。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	セルフケアを促進するための看護援助1)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
2	セルフケアを促進するための看護援助2)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護②	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
3	セルフケアを促進するための看護援助3)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
4	セルフケアを促進するための看護援助4)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護②	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
5	セルフケアを促進するための看護援助5)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
6	セルフケアを促進するための看護援助6)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護②	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。またレポートを課す。</p>	
7	ストレスコーピングを促進するための看護援助1)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
8	ストレスコーピングを促進するための看護援助2)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護②	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
9	ストレスコーピングを促進するための看護援助3)	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護①	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
10	ストレスコーピングを促進するための看護援助4)	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護②	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
11	ストレスコーピングを促進	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護	【事前学習】	

	するための看護援助 5)	護③	病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-6-2を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
12	ストレスコーピングを促進するための看護援助 6)	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-1-3を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
13	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 1)	膠原病（関節リウマチ）によりライフイベントに影響を受ける患者の理解と看護	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-6-4を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
14	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 2)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護①	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-7-3を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
15	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 3)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護②	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第Ⅴ章-7-3を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。またレポートを課す。																
関連科目	成人看護学概論、成人病態看護論、疾病・治療論Ⅰ～Ⅱ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、病理学総論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 慢性期看護</td> <td>鈴木久美他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 慢性期看護	鈴木久美他	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	成人看護学 慢性期看護	鈴木久美他	南江堂																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>慢性期看護論</td> <td>鈴木志津枝他</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)～(8)、(11)</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	慢性期看護論	鈴木志津枝他	ヌーヴェルヒロカワ	2	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)～(8)、(11)		医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	慢性期看護論	鈴木志津枝他	ヌーヴェルヒロカワ																
2	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)～(8)、(11)		医学書院																
3																			
評価方法 (基準)	筆記試験(80%)、小テスト(10%)、レポート(10%)の内容を総合して評価する。																		
学生への メッセージ	本科目ではさまざまな慢性の病を持つ対象と家族への看護を学びます。慢性の病をもつ対象への関心を深め、また今後の看護実践につなげるために、積極的に学習してください。																		
担当者の 研究室等	研究室29(森谷)																		
備考																			

科目名	成人病態看護論	科目名(英文)	Adult Nursing in Clinical State
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 看護実践においては、様々な機能障害を有し、また症状を呈する成人期の人々に対して、看護を提供する場面に遭遇する。患者の各々の病態について、発生機序・程度・経過・増悪あるいは軽減させる要因を理解する必要がある。本科目では、成人期にある対象の主要な機能障害や症状を取り上げて、病態とその病態が対象者に及ぼす身体的・心理的・社会的な影響及び的確なアセスメントと看護援助の方法について学習する。</p> <p>【目的】 疾病やそれに伴う治療・処置、または、事故や災害などにより発現あるいは増悪する身体症状について、その体験が成人期の対象やその家族に与える身体的・心理社会的影響をふまえ、アセスメントから看護実践につなげる方法を理解する。なお、疾病については発症から終末までのすべての病期を含む。</p>
---------	--

到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各機能障害および症状を発現する病態を理解する。 2. 機能障害がもたらす今後の予測される経過とそれに対する看護方針を理解する。 3. 機能障害の予防、緩和、また症状に伴う苦痛の軽減のための看護実践方法を理解する。
------	--

授業方法と留意点	授業方法は講義を中心として、一部は模擬患者（DVD等）を用いて演習を行う。
----------	---------------------------------------

科目学習の効果（資格）	病態や症状に関する看護方法は、看護を実践するうえで不可欠な基礎的能力です。
-------------	---------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護1	脳神経・感覚機能障害のある患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
2	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護2	「意識障害」「頭痛」「運動麻痺」の症状を呈する患者のアセスメント①	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
3	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護3	「意識障害」「頭痛」「運動麻痺」の症状を呈する患者のアセスメント②	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
4	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護4	「意識障害」「頭痛」「運動麻痺」の症状を呈する患者のアセスメント③	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
5	呼吸機能障害のある患者の看護1	呼吸機能障害のある患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
6	呼吸機能障害のある患者の看護2	「呼吸困難」「咳嗽・喀痰」の症状を呈する患者のアセスメント①	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
7	呼吸機能障害のある患者の看護3	「呼吸困難」「咳嗽・喀痰」の症状を呈する患者のアセスメント②	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
8	呼吸機能障害のある患者の看護4	「呼吸困難」「咳嗽・喀痰」の症状を呈する患者のアセスメント③	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
9	循環機能障害のある患者の看護1	循環機能障害のある患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
10	循環機能障害のある患者の看護2	「ショック」「浮腫」「脱水」の症状を呈する患者のアセスメント①	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
11	循環機能障害のある患者の看護3	「ショック」「浮腫」「脱水」の症状を呈する患者のアセスメント②	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
12	循環機能障害のある患者の看護4	「ショック」「浮腫」「脱水」の症状を呈する患者のアセスメント③	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
13	消化機能障害のある患者の看護1	消化機能障害のある患者の理解と看護	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
14	消化機能障害のある患者の看護2	「便秘」「下痢」「悪心・嘔吐」「腹痛」の症状を呈する患者のアセスメント①	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習
15	消化機能障害のある患者の看護3	「便秘」「下痢」「悪心・嘔吐」「腹痛」の症状を呈する患者のアセスメント②	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習	事後：教科書および資料の復習

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ、病理学総論、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版	高木永子監修	学研

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる Vol. 1 消化器	福本陽平 監修	メディックメディカ
	2	病気がみえる Vol. 2 循環器	荻原誠久 監修	メディックメディカ
	3	病気がみえる Vol. 4 呼吸器	滝澤 始 監修	メディックメディカ

評価方法（基準）	定期試験（80%）、レポート課題（20%）により総括評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。原則として演習を欠席した場合の補講は実施しない。
-----------	--

担当者の研究室等備考	研究室26（稲垣）
------------	-----------

科目名	成人看護学援助方法	科目名(英文)	Adult Nursing Skills
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	神戸 美輪子・青野 美里・稲垣 範子・志戸岡 恵子・白田 久美子・竹下 裕子・森谷 利香・吉川 有葵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>[概要] 成人期にある看護の対象となる人々の健康段階における代表的な健康問題のある事例を取り上げて、看護過程の展開について学習する。また、成人看護学において必要とされる看護技術について、演習を通して修得する。</p> <p>[目的] 成人期にある対象およびその家族のニーズを、健康レベルや生活背景を踏まえてアセスメントしたうえで、根拠に基づいた看護を計画展開できる基礎的能力を養う。また、アセスメントをもとにした模擬患者への看護援助技術の提供や患者役の体験を通して、より適切な看護援助技術の実践に向けた自己の課題に気付くことができる。学内演習の振り返りを通して、看護職者としての倫理観やより質の高い看護実践を展開する応用力を養う。</p>
---------	--

到達目標	<p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象に適切な看護技術を提供するための情報を得る方法を模擬患者への実践を通して考察する。 2. 身体情報の判断に応じた模擬患者への看護技術の実践を通して、自己の判断や技術を評価する。 3. 模擬患者の情報をもとに、根拠に基づいた看護を計画する方法を理解する。 4. 模擬患者への看護援助およびロールプレイを通して、対象への倫理的配慮をふまえた態度を考察する。
------	--

授業方法と留意点	授業方法は模擬患者(ペーパーペーシェントやシミュレーター)を用いた演習を中心に行う。原則として欠席は認めない。また、指定した事前課題を期日までにしていない場合、演習の参加を認めない。
----------	---

科目学習の効果(資格)	成人看護学実習で実際に活用する援助方法である。
-------------	-------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護過程 1	看護過程について・演習の進め方(講義)／事例(ペーパーペーシェント)をもとに看護過程を展開(演習)	事前課題: 演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。
2	看護過程 2	事例(ペーパーペーシェント)をもとに看護過程を展開(演習)	事後課題: 記録(情報の整理・解釈・分析)提出
3	看護過程 3	事例(ペーパーペーシェント)をもとに看護過程を展開(演習)	事前課題: 演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。
4	看護過程 4	事例(ペーパーペーシェント)をもとに看護過程を展開(演習)	事後課題: 記録(関連図, 統合・看護計画の明確化)提出
5	看護過程 5	事例(ペーパーペーシェント)をもとに看護過程を展開(演習)	事前課題: 演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。
6	看護過程 6	事例(ペーパーペーシェント)をもとにグループワークにより看護過程を展開(演習)	事後課題: 記録(長期目標/短期目標, 看護計画の立案)提出
7	看護過程 7	成果発表	
8	自己血糖測定・インスリン自己注射を必要とする患者への教育的援助 1	インスリン自己注射の指導媒体の作成(講義・演習)	事前課題: 演習に関する資料および課題を事前に配布する 事後課題: 実施を振り返りレポートを提出する
9	自己血糖測定・インスリン自己注射を必要とする患者への教育的援助 2	自己血糖測定・インスリン自己注射の指導と実施(演習)	第13回と同じ
10	輸液療法を必要とする患者への援助	輸液ポンプ・シリンジポンプを使用した輸液管理の実施(演習)	事前課題: 演習に関する資料および課題を事前に配布する 事後課題: 実施を振り返りレポートを提出する
11	慢性の病をもつ患者の理解に向けたコミュニケーション技法	対象への適切な看護援助に繋げるためのコミュニケーション技術(演習)	事前課題: 演習に関する資料および課題を事前に配布する 事後課題: 実施を振り返りレポートを提出する
12	術後患者の看護Ⅰ-1	術直後の全身状態の観察(演習)	事前課題: 演習に関する資料および課題を事前に配布する 事後課題: 実施を振り返りレポートを提出する
13	術後患者の看護Ⅰ-2	術直後の全身状態の観察(演習)	第12回と同じ
14	術後患者の看護Ⅱ-1	術後1日目の早期離床および清潔ケアの援助/吸引(演習)	事前課題: 演習に関する資料および課題を事前に配布する 事後課題: 実施を振り返りレポートを提出する
15	術後患者の看護Ⅱ-2	術後1日目の早期離床および清潔ケアの援助/吸引(演習)	第14回と同じ

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、疾病・治療論Ⅰ～Ⅱ、病理学総論、成人看護学概論Ⅰ～Ⅱ、成人看護援助論Ⅰ～Ⅱ、成人病態看護論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学テキスト NICE 成人看護学 成人看護技術	野島真奈美 他編	南江堂
2	看護学テキスト NICE 成人看護学 慢性期看護 改訂第2版	鈴木久美 他	南江堂	
3	成人看護学 周手術期看護論(第3版)	雄西智恵美 秋元典子 編	ヌーヴェルヒロカワ	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験(30%)、演習課題の達成状況(70%)により評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	原則として演習を欠席した場合の補講は実施しません。関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 研究室25(神戸)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	神戸 美輪子, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 吉川 有英
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を全人的に捉え、身体的・心理的危機を乗り越えて自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 周手術期における基本的な看護援助を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。 																
授業方法と留意点	<p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ5～6人編成とする。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、急性期の受持ち対象者に応じた看護過程の展開を行う。 6. 毎日学生主体のカンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 7. 実習記録は、必ず記録し、指導教員及び臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 8. 各自の実習における学びを振り返り、学びと課題を記録する。 <p>【実習施設】 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院（計3カ所）</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 対象の身体的、心理社会的状態を理解し、全体像をとらえることができる。 1-2. 対象への病名告知、治療方法・手術の説明内容を踏まえて、対象の意思決定の過程を説明できる。 1-3. 対象やその家族と援助的関係を形成できる。 2-1. 対象の全体像をとらえたうえで、看護問題を抽出し、優先順位を決定できる。 2-2. 看護計画を立案し、実施、評価、修正できる。 2-3. 受け持ち終了時に、現在の状態の要約、継続看護の視点においてサマリーを記録できる。 3-1. 【術前】手術に向けた身体的、心理社会的準備状態をふまえて、術前オリエンテーション・術前準備について理解できる。 3-2. 【術中】手術見学を通して、対象が受けた麻酔・手術内容および手術経過を説明できる。 3-3. 【術後】麻酔・手術侵襲に対する生体反応をふまえて術後合併症の予防に向けた援助ができる。 3-4. 【術後】術後合併症の早期発見につながる観察ができる。 3-5. 【術後】手術による形態機能変化に対して必要となる新たなセルフケア能力獲得をうながすための援助ができる。 4-1. 周手術期の各段階で、対象にかかわる職種や部門を挙げ、その役割を述べるができる。 4-2. 医療チームにおける看護師の役割および関係職種との協働・連携の必要性について説明できる。 5-1. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけることができる。 5-2. 対象が直面する倫理的課題を挙げ、それに対する自らの考えを述べるができる。 5-3. 対象の看護に積極的に参加し、自らの行動に責任をもつことができる。 6-1. グループディスカッションを通して、疾患・術式、個別的特徴による看護実践の違いを明確にできる。 6-2. 自らの看護実践の振り返りにより自己の課題を見出すことができる。 6-3. 文献や資料などから理論的知識を探索し、自らの学習に活用できる。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	必要に応じて適宜紹介する																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習期間出席した上で、実習内容（実習目的・目標の達成状況、記録）、実習態度を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	対象の経過は急性に短期間に変化するので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。																
担当者の研究室等備考																	

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	神戸 美輪子, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 吉川 有英
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を全人的に捉え、身体的・心理的危機を乗り越えて自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 周手術期における基本的な看護援助を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。 																
授業方法と留意点	<p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ5～6人編成とする。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、急性期の受持ち対象者に応じた看護過程の展開を行う。 6. 毎日学生主体のカンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 7. 実習記録は、必ず記録し、指導教員及び臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 8. 各自の実習における学びを振り返り、学びと課題を記録する。 <p>【実習施設】 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院（計3カ所）</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 対象の身体的、心理社会的状態を理解し、全体像をとらえることができる。 1-2. 対象への病名告知、治療方法・手術の説明内容を踏まえて、対象の意思決定の過程を説明できる。 1-3. 対象やその家族と援助的関係を形成できる。 2-1. 対象の全体像をとらえたうえで、看護問題を抽出し、優先順位を決定できる。 2-2. 看護計画を立案し、実施、評価、修正できる。 2-3. 受け持ち終了時に、現在の状態の要約、継続看護の視点においてサマリーを記録できる。 3-1. 【術前】手術に向けた身体的、心理社会的準備状態をふまえて、術前オリエンテーション・術前準備について理解できる。 3-2. 【術中】手術見学を通して、対象が受けた麻酔・手術内容および手術経過を説明できる。 3-3. 【術後】麻酔・手術侵襲に対する生体反応をふまえて術後合併症の予防に向けた援助ができる。 3-4. 【術後】術後合併症の早期発見につながる観察ができる。 3-5. 【術後】手術による形態機能変化に対して必要となる新たなセルフケア能力獲得をうながすための援助ができる。 4-1. 周手術期の各段階で、対象にかかわる職種や部門を挙げ、その役割を述べるができる。 4-2. 医療チームにおける看護師の役割および関係職種との協働・連携の必要性について説明できる。 5-1. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけることができる。 5-2. 対象が直面する倫理的課題を挙げ、それに対する自らの考えを述べるができる。 5-3. 対象の看護に積極的に参加し、自らの行動に責任をもつことができる。 6-1. グループディスカッションを通して、疾患・術式、個別的特徴による看護実践の違いを明確にできる。 6-2. 自らの看護実践の振り返りにより自己の課題を見出すことができる。 6-3. 文献や資料などから理論的知識を探索し、自らの学習に活用できる。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	必要に応じて適宜紹介する																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習期間出席した上で、実習内容（実習目的・目標の達成状況、記録）、実習態度を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	対象の経過は急性に短期間に変化するので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。																
担当者の研究室等備考																	

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	白田 久美子、青野 美里、志戸岡 恵子、松本 葉子、森谷 利香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象者を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象者が主体的に療養生活に取り組むことができるよう、看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p> <p>【目的】 慢性的な経過をたどる健康障がいをもつ対象者とその家族を理解し、その人らしく生きていくことができるよう支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。 2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 3) 対象の看護状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 5) 対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。 6) 自らの看護実践について、対象と家族のQOLの維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。 2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 4) 臨地に向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 6) 実習中に看護過程、サマリー、カンファレンス資料、レポートなどの記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。 7) 実習を通して、自己の課題を明確にする。 8) 実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。 2. 実習期間・病棟実習時間 期間…3週間 病棟実習時間…9時～16時(うち1時間を休憩とする) 3. 実習施設 独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター 関西医科大学香里病院 国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】 看護過程に沿って以下のような看護を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・バイタルサインの測定、フィジカルイグザミネーション ・日常生活上の援助 ・治療や処置に関する援助 ・患者教育 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	白田 久美子、青野 美里、志戸岡 恵子、松本 葉子、森谷 利香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象者を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象者が主体的に療養生活に取り組むことができるよう、看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p> <p>【目的】 慢性的な経過をたどる健康障がいをもつ対象者とその家族を理解し、その人らしく生きていくことができるよう支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。 2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 5) 対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。 6) 自らの看護実践について、対象と家族のQOLの維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。 2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 4) 臨地に向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 6) 実習中に看護過程、サマリー、カンファレンス資料、レポートなどの記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。 7) 実習を通して、自己の課題を明確にする。 8) 実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。 2. 実習期間・病棟実習時間 期間…3週間 病棟実習時間…9時～16時(うち1時間を休憩とする) 3. 実習施設 独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター 関西医科大学香里病院 国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】 看護過程に沿って以下のような看護を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・バイタルサインの測定、フィジカルイグザミネーション ・日常生活上の援助 ・治療や処置に関する援助 ・患者教育 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	老年看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための理論と看護の役割を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢化の現状を学び、加齢による身体・心理・社会的変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 超高齢社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者の身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢者をとりまく制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。 老年看護における倫理的課題について理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じてプリントを配布しますが、プリントの内容も重要資料となります。 普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験の科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	老年看護の概念	老年看護とは老年看護学の理念と目標、概念、活用できる理論について学びます。	老年看護を学ぶにあたり、基本的なことを講義します。テキストを予習して、概要をとらえておいてください。今後の講義や実習の根幹になるので、しっかり復習すること。
2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況に関して学習します。	高齢社会白書などの統計データを事前に準備・学習し、まとめてください。
3	加齢現象の理解 (1) 身体的変化	老年期にある人の身体的変化について学習します	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
4	加齢現象の理解 (2) 身体的変化	老年期にある人の身体的変化について学習します	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
5	加齢現象の理解 (3) 心理・社会的変化	老年期にある人の認知機能、心理・社会的変化について学習します。	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
6	加齢現象の理解 (4)	高齢者アセスメントツールについて学習します。	加齢現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
7	加齢現象の理解 (5)	加齢現象の理解の4回分の講義を通して、高齢者のとらえ方、理解を深めるためのディスカッションを行います。	今までの講義を踏まえて、復習をし、自分なりにまとめてください。
8	高齢者とその家族の理解	高齢者と家族を取り巻く社会情勢、介護する家族の特徴とそれに応じたケアについて学習します。	家族に関して参考図書等を活用して、予習・復習してください。
9	高齢者を取り巻く関連法 (1)	高齢者の保健・医療・福祉対策について、関係する制度・施策について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
10	高齢者を取り巻く関連法 (2)	高齢者の保健・医療・福祉対策として、介護保険制度について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
11	高齢者を取り巻く関連法 (3)	介護保険制度について理解を深めるために、事例検討を行います。	今までの講義を踏まえて事例に対する必要な制度について復習してください。
12	高齢者への看護活動 (1)	高齢者看護を実践する場として、病院における高齢者看護の特徴について学びます。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
13	高齢者への看護活動 (2)	高齢者看護を実践する場として、高齢者施設・在宅での高齢者看護の特徴について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
14	高齢者へのエンドオブライフ・ケア	高齢者の死に関する状況の特徴とそのケアについて学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。
15	老年看護における倫理的課題	高齢者の意思決定、高齢者虐待など倫理的課題について学習します。	参考図書等を活用して、予習・復習してください。

関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、看護関係法規
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座：老年看護学	北川公子	医学書院

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学概論	正木治恵、真田弘美	南江堂
	2	最新老年看護学	水谷信子、水野敏子	日本看護協会出版会

評価方法 (基準)	定期試験 (80%)、レポート (20%) で評価します。
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	予習、復習はもちろんのことですが、できるだけ高齢者と関わる機会を増やして、高齢者を理解してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
備考	

科目名	老年看護学援助論 I	科目名 (英文)	Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 京子, 松田 千登勢, 小川 宣子, 小崎 篤志, 田中 真佐恵, 吉井 輝子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>(オムニバス方式/全 23 回)</p> <p>(1～15 回の概要) 高齢者の生きてきた背景や価値観を踏まえたうえで、「高齢者が望む生活は何か」を重視する生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の QOL を高める具体的なケアについて学びます。そのために、講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生きてきた時代背景について調べるグループ学習等を行い、高齢者理解を深めます。</p> <p>(金原京子/8 回) 認知症高齢者の理解と支援 (3)、高齢者の生きてきた時代背景(2)、高齢者の生活機能から捉えた看護 (コミュニケーション・食事・アクティビティケア)</p> <p>(小川宣子/2 回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息①②)</p> <p>(田中真佐恵/1 回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (清潔)</p> <p>(吉井輝子/1 回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (排泄)</p> <p>(松田千登勢、金原京子、小川、田中真佐恵、吉井輝子/3 回) 高齢者疑似体験、アクティビティケアの企画・運営</p> <p>(16～23 回の概要) 看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要であるため、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。</p> <p>(小崎 篤志/8 回) 疾病・治療論(脳神経 1～7) 疾病・治療論(骨疾患など)</p>																												
到達目標	<p>1) 高齢者に生じやすい認知症への理解を深め、生活への影響や具体的援助を考えることができる。</p> <p>2) 加齢や疾患に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助を考えることができる。</p> <p>3) 高齢者の生きてきた時代背景を知り、長年の生活で培われた価値観や生活習慣を尊重する態度を養う。</p> <p>4) 主に脳神経および骨関節疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。</p>																												
授業方法と留意点	<p>(1～15 回) 講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生きてきた時代背景のグループ学習、アクティビティケアの企画・運営等の演習を行います。これらはグループで実施するので、欠席しないようにしましょう。また、各講義や演習時に課すレポートも評価の対象になるので、必ず提出するようにしてください。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、後日、課題を提出してください。</p> <p>(16～23 回) 教科書を中心にプロジェクターを用いて授業を進めますが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには解剖学・医化学などのバックグラウンドが必要となります。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めていきます。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮します。</p>																												
科目学習の効果 (資格)	本講義は病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となります。疾病・治療の理解は、エビデンスに基づいた看護に通じ、看護師国家試験や将来の臨床に資するものとなります。																												
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高齢者の生活機能から捉えた看護 (1 : コミュニケーション)</td> <td>【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。</td> <td>人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高齢者疑似体験</td> <td>【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。</td> <td>演習方法について事前にオリエンテーションを行います。レポート課題があります。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>認知症高齢者の理解と支援 (1)</td> <td>【演習】 視聴覚教材を通して、認知症高齢者及び家族への理解を深めます。</td> <td>視聴前と視聴後にレポート課題を出します。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>高齢者の生きてきた時代背景 (1)</td> <td>【演習】 高齢者の時代背景を学習する意義について学んだ後、グループに分かれ、テーマ毎で時代背景を調べ、高齢者の価値観や社会的側面の理解を深めます。</td> <td>グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について、後日、発表してもらいます。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>認知症高齢者の理解と支援 (2)</td> <td>【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。</td> <td>老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>認知症高齢者の理解と支援 (3)</td> <td>【講義】 認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアに</td> <td>前回の講義内容について的小テストを行います。復習の上、参加してください。</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	高齢者の生活機能から捉えた看護 (1 : コミュニケーション)	【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。	2	高齢者疑似体験	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。	演習方法について事前にオリエンテーションを行います。レポート課題があります。	3	認知症高齢者の理解と支援 (1)	【演習】 視聴覚教材を通して、認知症高齢者及び家族への理解を深めます。	視聴前と視聴後にレポート課題を出します。	4	高齢者の生きてきた時代背景 (1)	【演習】 高齢者の時代背景を学習する意義について学んだ後、グループに分かれ、テーマ毎で時代背景を調べ、高齢者の価値観や社会的側面の理解を深めます。	グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について、後日、発表してもらいます。	5	認知症高齢者の理解と支援 (2)	【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。	老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。	6	認知症高齢者の理解と支援 (3)	【講義】 認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアに	前回の講義内容について的小テストを行います。復習の上、参加してください。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																										
1	高齢者の生活機能から捉えた看護 (1 : コミュニケーション)	【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。																										
2	高齢者疑似体験	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。	演習方法について事前にオリエンテーションを行います。レポート課題があります。																										
3	認知症高齢者の理解と支援 (1)	【演習】 視聴覚教材を通して、認知症高齢者及び家族への理解を深めます。	視聴前と視聴後にレポート課題を出します。																										
4	高齢者の生きてきた時代背景 (1)	【演習】 高齢者の時代背景を学習する意義について学んだ後、グループに分かれ、テーマ毎で時代背景を調べ、高齢者の価値観や社会的側面の理解を深めます。	グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について、後日、発表してもらいます。																										
5	認知症高齢者の理解と支援 (2)	【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。	老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。																										
6	認知症高齢者の理解と支援 (3)	【講義】 認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアに	前回の講義内容について的小テストを行います。復習の上、参加してください。																										

			ついて学習します。	
7	高齢者の生きてきた時代背景(2)	【演習】 第4回で行ったグループワークの発表を通して、高齢者の価値観や社会的側面の理解を深めます。	他のグループの発表を聞き、高齢者の生きてきた時代背景についての総合的に理解しましょう。他のグループ発表に対してのピア評価を実施します。	
8	高齢者の生活機能から捉えた看護(2:活動と休息①)	【講義】 高齢者における活動と休息のバランスや、活動状況に影響を与える心身の特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。	
9	高齢者の生活機能から捉えた看護(3:活動と休息②)	【講義】 高齢者の活動・休息は、心身の機能の変化によって安全・安楽が脅かされやすくなります。高齢者の安全、安楽を支えるアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	前回の講義資料を復習して授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。	
10	高齢者の生活機能から捉えた看護(4:アクティビティケア)	【講義】 ゲストスピーカーを招き、高齢者の活動(アクティビティケア)の実際について学びます。	講義後、レポート課題を出します。	
11	高齢者の生活機能から捉えた看護(5:アクティビティケアの企画)	【演習】 高齢者向けのアクティビティをグループ単位で企画してもらいます。	グループ単位で行うので、欠席しないようにしてください。学習内容について、後日、発表してもらいます。	
12	高齢者の生活機能から捉えた看護(6:アクティビティケアの発表)	【演習】 実施したグループワークの発表を行います。運営者以外は、高齢者役としてアクティビティに参加し、アクティビティの評価を行ってもらいます。	高齢者役として参加したアクティビティに対して、ピア評価を行ってもらいます。	
13	高齢者の生活機能から捉えた看護(7:食事)	【講義】 高齢者の食・栄養における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。	
14	高齢者の生活機能から捉えた看護(8:排泄)	【講義】 高齢者の排泄機能における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。	
15	高齢者の生活機能から捉えた看護(9:清潔/身じたく)	【講義】 高齢者の皮膚の状態等を踏まえながら、清潔/みじたくに関するアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学、老年看護学概論で学んだことを復習し、授業に臨んでください。講義内容に関する課題を出します。	
16	疾病・治療論(脳神経1)	【講義】 脳神経、主に構造、症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。	教科書内授業部分の復習	
17	疾病・治療論(脳神経2)	【講義】 脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。(1)	教科書内授業部分の復習	
18	疾病・治療論(脳神経3)	【講義】 脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。(2)	教科書内授業部分の復習	
19	疾病・治療論(脳神経4)	【講義】 脳神経疾患、主に脳血管疾患(3)および水頭症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。	教科書内授業部分の復習	
20	疾病・治療論(脳神経5)	【講義】 脳神経疾患、主に脱髄疾患および神経変性疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。	教科書内授業部分の復習	
21	疾病・治療論(脳神経6)	【講義】 脳神経疾患、主に筋疾患および神経筋接合部疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。	教科書内授業部分の復習	
22	疾病・治療論(脳神経7)	【講義】 脳神経疾患、主に認知症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。	教科書内授業部分の復習	
23	疾病・治療論(骨疾患など)	【講義】 骨疾患、主に骨折や骨粗鬆症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。	プリントの復習	
24	—	—	—	
25	—	—	—	
26	—	—	—	
27	—	—	—	
28	—	—	—	
29	—	—	—	
30	—	—	—	

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、薬理学総論、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅱ、看護基礎技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 老年看護学	北川公子	医学書院
	2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
	3	病気がみえる vol.7 脳・神経		メディックメディア
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>(1～15回について) 定期試験 60%、レポート 40%</p> <p>(16～23回について) 定期試験を中心に判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。</p> <p>定期試験 (90%)、講義での授業態度など (10%) で評価する。</p> <p>最終的に、1～23回分を総合評価し、可否を決定する。</p>			
学生への メッセージ	既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護学概論で学んだ「加齢現象」をもとにしての学習になります。しっかりと復習、理解した上で、老年看護学援助論に取り組みましょう。授業には指定教科書を持参して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階			
備考	16～23回は、病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲで同じシリーズの教科書を使用します。			

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 宣子、金原 京子、田中 真佐恵、松田 千登勢、吉井 輝子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>加齢に伴う身体的変化や心理的变化についての知識をもとに、高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護と終末期を支える看護について学習します。</p> <p>高齢者によくみられる脳神経・循環器・呼吸器・内分泌・筋骨格系等の疾患をもつ方への援助方法を学習したうえで、健康上の課題を解決するための看護過程が展開できる能力を養います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(小川宣子/5回) 健康段階に応じた高齢者の看護、疾患を持つ高齢者の看護(運動器系)、退院支援の看護、看護過程の展開(アセスメント)、高齢者のエンドオブライフケア</p> <p>(金原京子/3回) 看護過程の展開(考え方・アセスメント)、老人看護専門看護師(CNS)の専門性と役割</p> <p>(吉井輝子/1回) 疾患を持つ高齢者の看護(脳・神経系)</p> <p>(田中真佐恵/1回) 疾患を持つ高齢者の看護(呼吸器・循環器・内分泌系)</p> <p>(松田千登勢、金原京子、小川宣子/3回) 看護過程の展開(グループワーク)、計画発表</p> <p>(松田千登勢、金原京子、小川宣子、吉井輝子、田中真佐恵/2回) 看護過程の展開(計画立案グループワーク)</p>
到達目標	<p>1) 疾患を持つ高齢者の健康障害の特徴と看護について理解できる。</p> <p>2) エンドオブライフケアが必要な高齢者と家族の看護について理解できる。</p> <p>3) 健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開ができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業はオムニバス形式で行います。基本的にはテキストを使用して授業を進めますが、適宜プリント等の補助教材を使用します。毎回、テキストと配布したプリントを必ず持参してください。講義で学習した内容については毎回復習を行い、疑問があれば、解決を図るようにしてください。また、各講義や演習時に課題を課すレポートも評価の対象となるので、必ず提出するようにして下さい。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、課題を提出してください。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>臨地実習での看護実践のために必要な基本的な知識を得ることができます。</p> <p>看護師国家試験にも必須の学習内容です。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/ 疾患をもつ高齢者の看護 (1:運動器疾患)	【講義】 骨粗鬆症や大腿骨頸部骨折、サルコペニア等、高齢者に多い筋骨格系の疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
2	疾患をもつ高齢者の看護 (2:脳神経系疾患)	【講義】 脳出血や脳梗塞等、パーキンソン病等、高齢者に多い脳・神経系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
3	疾患をもつ高齢者の看護 (3:呼吸器・循環器・内分泌疾患)	【講義】 COPD、虚血性心疾患、糖尿病等、高齢者に多い呼吸器・循環器・内分泌系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
4	看護過程の展開 (1:考え方・立案の仕方)	【講義】 老年における看護過程の展開の考え方、ポイントについて学びます。	4～14回の講義・演習で1つの事例の看護展開を行います(随時、課題を課す)。看護過程の事例展開時に、講義内容を活かしてください。
5	看護過程の展開 (2:健康段階に応じた高齢者看護)	【講義】 老年看護では、急性期・慢性期・回復期・維持期等、様々な健康段階を対象とし、各々で看護の視点も異なります。段階の見極め方や、各段階でのアセスメントの視点や看護のあり方について学習します。	テキストの該当箇所を読んで、授業に臨んでください。(別途指示)
6	看護過程の展開 (3:退院支援)	【講義】 疾患や障害を抱えながら退院していく高齢者への退院支援におけるアセスメントや看護について学習します。	テキストの該当箇所を読んで、授業に臨んでください。(別途指示)
7	老人専門看護師の実践	【講義】 老人専門看護師をゲストスピーカーに招き、急性期病院での認知症高齢者の看護の実践を学びます。入院が高齢者に与える影響や看護目標の視点について考えます。	老年看護学援助論Ⅰで学習した認知症高齢者の看護について復習して臨んでください。講義後に学びをまとめるレポートがあります。
8	看護過程の展開 (4:病態のアセスメントⅠ)	【講義】 看護過程の事例の疾患関連情報のアセスメントの視点について解説します。	講義開始前に、個別に病態をアセスメントする課題を課します。

			加齢変化を踏まえながら、二次的障害の予測を思考していきます。	講義後は、グループワークでの学びを活かしながら、個別で関連図をまとめる課題を課します。																
9	看護過程の展開 (5:病態のアセスメントⅡ)	【演習】 病態のアセスメントから、関連図へつなげるプロセスについて、グループで検討します。		演習後に、課題を提示します。																
10	看護過程の展開 (6:生活機能のアセスメントⅠ)	【講義】 看護過程の事例について、生活機能の側面からアセスメントの視点について解説します。		講義開始前に、個別に生活機能をアセスメントする課題を課します。 講義後は、グループワークでの学びを活かしながら、個別で関連図をまとめる課題を課します。																
11	看護過程の展開 (7:生活機能のアセスメントⅡ)	【演習】 生活機能のアセスメントから、関連図へつなげるプロセスについて、グループで検討します。		演習後に、課題を提示します。																
12	看護過程の展開 (8:看護計画立案Ⅰ)	【演習】 グループ単位で、関連図から浮かび上がった課題についての看護計画を立案します。		基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。																
13	看護過程の展開 (9:看護計画立案Ⅱ)	【演習】 グループ単位で、関連図から浮かび上がった課題についての看護計画を立案します。		基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。																
14	看護過程の展開 (10:発表)	【演習】 グループ単位で、立案した看護計画を発表します。		各グループの発表を通して、高齢者に生じやすい看護上の課題と、具体的な看護計画についての理解を深めましょう。自分のグループの発表のみではなく、他のグループの評価も行います。																
15	エンド・オブ・ライフケア	【講義】 高齢者のエンドオブライフケアに必要な看護の視点の理解と看取りをする家族への援助を学びます。		授業内で、課題を提示します。																
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老年看護学</td> <td>北川公子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図</td> <td>山田律子、井出訓</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	老年看護学	北川公子	医学書院	2	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	老年看護学	北川公子	医学書院																	
2	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老年看護学 概論と看護の実践 第5版</td> <td>奥野茂代、大西和子</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>老年看護技術 アセスメントとその根拠</td> <td>奥野茂代、大西和子</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ	2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ																	
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物・レポート (授業内で指示するもの) 40%																			
学生への メッセージ	疾患をもつ対象者の看護については既習のものが多いと思いますが、老年期における特徴をふまえて考えていくことが必要となります。高齢者によくみられる疾患の特徴と、どのような看護を必要とするのかについての基本を学習しますので、これまでに学習した疾病治療論や看護の実践方法について復習をしておいてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階																			
備考	看護過程の展開の演習は進度によって、内容が変更になる場合があります。授業中に案内します。																			

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢, 小川 宣子, 金原 京子, 田中 真佐恵, 吉井 輝子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とその家族の理解を深めるとともに、高齢者の個性に応じた日常生活の実際を知る。また、保健・医療福祉を取り巻く高齢者ケアのあり方と看護師の役割について学び、自己の高齢者観を培う</p> <p>【目的】 施設で生活する高齢者・家族の身体的・心理的・社会的特徴および社会資源についての理解を深め、高齢者の生活を支える方法について考える力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・心理的および社会的変化や、高齢者に生じやすい健康課題を理解できる。 2. 高齢者・家族の身体的・心理的・社会的機能をアセスメントし、生活上の課題を理解できる。 3. 高齢者の個性に応じた日常生活援助が実施できる。 4. 高齢者・家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について理解できる。 5. 保健・医療・福祉チームの中での看護の役割について理解できる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1週目) 月曜日 学内・オリエンテーション・実習準備 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：個人面談</p> <p>(2週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 学内：個人面談 金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習 II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢, 小川 宣子, 金原 京子, 田中 真佐恵, 吉井 輝子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とその家族の理解を深めるとともに、高齢者の個性に応じた日常生活の実際を知る。また、保健・医療福祉を取り巻く高齢者ケアのあり方と看護師の役割について学び、自己の高齢者観を培う</p> <p>【目的】 施設で生活する高齢者・家族の身体的・心理的・社会的特徴および社会資源についての理解を深め、高齢者の生活を支える方法について考える力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・心理的および社会的変化や、高齢者に生じやすい健康課題を理解できる。 2. 高齢者・家族の身体的・心理的・社会的機能をアセスメントし、生活上の課題を理解できる。 3. 高齢者の個性に応じた日常生活援助が実施できる。 4. 高齢者・家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について理解できる。 5. 保健・医療・福祉チームの中での看護の役割について理解できる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1 週目) 月曜日 学内・オリエンテーション・実習準備 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：個人面談</p> <p>(2 週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 学内：個人面談 金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習 II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢, 小川 宣子, 金原 京子, 田中 真佐恵, 吉井 輝子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 疾患や障がいを持ち治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の課題を、身体的・心理的・社会的側面から解決する方法を学ぶ。さらに援助においては、老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、看護者として高齢者の人権と権利を擁護する態度を養い、自己の高齢者観を深める。</p> <p>【目的】 入院治療を必要とする高齢者を総合的に理解し、もてる力を発揮してその人らしく生活できるよう健康上の課題を解決する能力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う変化や、高齢者に生じやすい健康問題から高齢者を総合的に理解できる。 2. 疾病や障害をもつ高齢者の身体的・心理的・社会的機能をアセスメントし、健康上の課題を明確にできる。 3. 健康上の課題を持つ高齢者の特性・個別性を考慮した看護計画が立案できる。 4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正することができる。 5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 学内：記録整理 金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：グループワーク・発表、個人面談、記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢, 小川 宣子, 金原 京子, 田中 真佐恵, 吉井 輝子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 疾患や障がいを持ち治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の課題を、身体的・心理的・社会的側面から解決する方法を学ぶ。さらに援助においては、老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、看護者として高齢者の人権と権利を擁護する態度を養い、自己の高齢者観を深める。</p> <p>【目的】 入院治療を必要とする高齢者を総合的に理解し、もてる力を発揮してその人らしく生活できるよう健康上の課題を解決する能力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う変化や、高齢者に生じやすい健康問題から高齢者を総合的に理解できる。 2. 疾病や障害をもつ高齢者の身体的・心理的・社会的機能をアセスメントし、健康上の課題を明確にできる。 3. 健康上の課題を持つ高齢者の特性・個別性を考慮した看護計画が立案できる。 4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正することができる。 5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1週目)</p> <p>月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 学内：記録整理 金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2週目)</p> <p>月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：グループワーク・発表、個人面談、記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	小児看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	小児看護学の対象である子どもと家族の理解し、発達促進および健康保持増進に向けた看護者の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象である子どもと家族の理解をする 2. 子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護者の役割と機能を理解する 3. あらゆる発達レベル、健康レベルにある子どもへの支援方法のあり方について理解する 4. 小児看護に用いられる発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる
授業方法と留意点	子どもの成長・発達一般原則を理解し、子どものイメージ化を促すため、視聴覚教材や事例を多く用いて講義を進める。また、毎回、事前課題を提示し、それをもとに講義を展開したり、グループワークなどを取り入れながら授業を進める。学習した内容については、身近な子どもの姿を通じて、振り返りができるような課題も取り入れ、学生が主体的に本科目に取り組めるよう工夫をする。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	
		事前・事後学習課題	
1	授業ガイダンス、小児看護学の概観、子どもとは	授業計画をもとに、小児看護学の構成を概観し、授業の進め方、評価について詳細に説明を行う。子どもに対するイメージを言語化し、大人と比較しながら子どもの特徴について、学生間で話し合う。	事前課題：教科書「序章 小児看護学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
2	子どもの特徴	子どもの範囲、発達区分、発達観 保健統計からみた子どもと家族、および子どもを取り巻く環境	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
3	小児看護とは、子どもを取り巻く医療の変遷と課題	小児医療・小児看護の変遷、小児看護の対象と目標、小児看護の場と看護の特徴	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
4	子どもの最善の利益	子どもの権利条約、医療における子どもの権利、小児医療で起こりやすい倫理的問題について	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
5	小児看護で用いる概念と理論	発達に関する概念、発達理論(ピアジェ、エリクソン)、母子関係理論(ボウルビー)、家族システム理論等	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
6	子どもの成長・発達の特徴Ⅰ	成長・発達一般原則、成長・発達への影響因子、各発達段階の特徴と主な健康問題、成長・発達の評価と家族環境アセスメント	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
7	子どもの成長・発達の特徴Ⅱ	子どもの形態的成長と機能的発達の特徴	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
8	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅰ(動く機能)	乳児期から就学前までの子どもの動く機能の特徴と日常生活援助	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
9	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅱ(食べる機能)	乳児期から就学前までの子どもの食べる機能の特徴と日常生活援助	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
10	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅲ(眠る機能)	乳児期から就学前までの子どもの眠る機能の特徴と日常生活援助	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
11	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅳ(排泄する機能)	乳児期から就学前までの子どもの排泄する機能の特徴と日常生活援助	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
12	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅴ(身だしなみを整える)	乳児期から就学前までの子どもの身だしなみを整える機能の特徴と日常生活援助	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
13	成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅶ(遊び)	乳児期から就学前までの子どもの遊ぶ機能の特徴と日常生活援助	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
14	子どもの事故の特徴と予防接種	予防接種法の意義、対象疾患、ワクチンの種類および接種時期などに関する基本的な知識	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
15	子どもを守るわが国の法律と制度について	母子保健法、学校保健安全法、児童虐待防止法、予防接種法 予防接種に関して	事前課題：授業内に提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる

関連科目 看護学概論、生命倫理

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論・小児保健	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①	中野綾美 編集	MC メディカ出版

	2	系統看護学講座 承認看護学概論 小児臨床看護学 総論 小児看護学①	奈良間美穂他	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	前期の定期試験および課題を総合して評価する。 定期試験 80%、課題 20%			
学生への メッセージ	小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解することを旨としましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもに目を向け、洞察を深めてください。			
担当者の 研究室等	7号館・3階、研究室17(鎌田)			
備考				

科目名	小児看護学援助論 I	科目名 (英文)	Pediatric Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 大橋 敦, 亀田 直子, 中山 祐一
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、子どもの健康上の問題を理解するために、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どもの疾病の原因や検査や治療法の理解を深め、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 2. 子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 3. 子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 4. 子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 5. 子ども特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解する。
授業方法と留意点	小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識を活用を促す。小児看護学における援助技術については、事前にグループ学習し、学生が主体となってデモンストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。本科目は、小児援助論II、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	病気や入院に対する子どもの理解	子どもの病気の特徴について概観する 子どもは病気や入院をどのように理解するか(認知発達段階の特徴を踏まえ、子どもが病気や入院をどう理解するかについて)	事前課題：小児看護学概論の復習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	健康問題や入院が子どもに及ぼす影響について 健康問題が入院が家族に及ぼす影響について 子どもと家族にとって適切な外来および入院環境について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関する自己学習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
3	子どもの発達段階に応じた日常生活と看護 I	食べる機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた食援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
4	子どもの発達段階に応じた日常生活と看護 II	睡眠の機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた睡眠援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
5	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 III	排泄の機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた排泄援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
6	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 IV	身だしなみを整えるの機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた身だしなみを整える援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
7	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 V	遊びの機能の発達の特徴と日常生活援助について 健康問題のある子どもへの発達段階に応じた遊びの援助について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
8	子どもによく見られる症状と看護	啼泣、不機嫌、発熱、発疹、けいれん、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
9	子どもによくみられる症状と看護	呼吸困難、痛み、意識障害、浮腫、掻痒感など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、日常生活看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
10	小児看護技術(日常生活援助)	定頭していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 歩行可能な幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
11	小児看護技術(日常生活援助)	定頭していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 歩行可能な幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
12	健康問題のある子どもをもつ家族の理解	障害のある子どもを産出し、育てている母親をゲストスピーカーに招き、心理過程や体験を理解することで看護のあり方を考える	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
13	子どものヘルスアセスメント	子どもとのコミュニケーションについて ヘルスアセスメントの目的・意義について 子どもの観察と情報収集の方法について	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる

	14	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：技術演習内容の振り返り
	15	ヘルスアセスメント技術演習	事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：技術演習内容の振り返り
	16	新生児の疾患について	新生児、早産児の生理機能と代表的な疾患を理解する	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
	17	小児の呼吸器疾患について	小児の呼吸生理の特徴と小児に多い呼吸器疾患を理解する	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
	18	小児の循環器疾患について	小児の循環生理の特殊性を理解し、先天性心疾患呼吸器疾患を理解する	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
	19	小児の血液疾患・悪性腫瘍について	小児に多い血液疾患、悪性疾患を理解する	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
	20	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
	21	小児神経疾患について	小児に多い神経疾患を理解する。染色体異常症、発達障害について理解する	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
	22	小児の内分泌・代謝疾患について	小児に多い内分泌疾患、成長障害、代謝性疾患を理解する	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
	23	小児の感染症、免疫・アレルギーについて	小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。予防接種について理解する	事前課題：教科書の該当箇所の自己学習、身体アセスメント看護技術に関するグループ演習 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
	24	—	—	—
	25	—	—	—
	26	—	—	—
	27	—	—	—
	28	—	—	—
	29	—	—	—
	30	—	—	—
関連科目	小児看護学概論、基礎看護技術			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
	3	ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学②	中野綾美 編集	メディカ出版
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児科学 第2版	金子一成 編集	金芳堂
	2	小児の疾患と看護 小児看護③	中野綾美 編集	メディカ出版
	3	小児臨床看護学各論 小児看護学②	奈良間美穂 他	医学書院
評価方法(基準)	後期の定期試験70%、課題、演習、グループワーク30%とし総合的に評価する			
学生へのメッセージ	小児看護学援助論Ⅰでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。			
担当者の研究室等	7号館 3階 研究室17(鎌田)、18(池田)			
備考	課題(試験やレポート等のフィードバックについて) ・技術のレポート課題はフィードバックをしますので、それらをもとにリフレクションを行い実習に生かしてください。			

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Pediatric Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田 友美、鎌田 佳奈美、亀田 直子、中山 祐一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	疾病・障がいがある子どもと家族の健やかな育ちを支えるために、小児期によくみられる疾患をもつ子どもの看護を理解する。また、さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を看護過程を通して考える。
到達目標	1. 疾患や障がいがある子どもと家族の援助について説明できる。 2. 急性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 3. 慢性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 4. さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を考案できる。 5. 小児看護特有の基本的技術を習得する。
授業方法と留意点	視覚教材や外部講師による講義、施設の見学を活用し、疾患や障がいのある子どもを理解しやすいように解説する。また、事例演習はグループワークによって、さまざまな健康レベルにある子どもの援助についての理解をうながす。技術演習では、事例を用いて、子どもの発達、健康状態、生活、心理面を力動的にアセスメントし、子どもと家族のニーズから抽出された看護援助を検討するためにグループワークを行なう。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	さまざまな健康障害がある子どもと家族への援助	小児看護学実習の概要 子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助	事前課題：教科書第7章VIIを読む 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	検査を受ける子どもと家族の看護	子どもの参加する権利の保障 プレパレーションについて 検査・処置技術(与薬、浣腸、救急処置)について	事前課題：教科書第7章I、IIを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
3	障がいのある子どもと家族の看護 在宅に移行する子どもと家族の看護	障がいのある子どもとその家族の意思決定、在宅に移行するための準備、地域で生活するための看護師の役割(施設見学を予定しています)	事前課題：教科書第7VIIを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
4	災害に遭遇した子どもと家族の看護 心の問題がみられる子どもと家族の看護	子どもの被災の特徴 心の問題をもつ子どもと家族への援助	事前課題：教科書7章13、7章15を読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
5	ターミナル期の子どもと家族の看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族への援助	事前課題：教科書第6章IIIを読む。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
6	子どもの実際の理解	健康障害をもつ子どもの看護 小児の看護過程に必要な発達の理解(外部講師による講義を予定しています)	事前課題：授業内に提示する。 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
7	【事例演習】急性期にある子どもと家族への看護(1)	小児の看護課程について 急性期にある子どもと家族の特徴	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
8	【事例演習】急性期にある子どもと家族の看護(2)	急性期における子どもと家族の看護過程の展開(情報収集・分析)	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
9	【事例演習】急性期にある子どもと家族の看護(3)	急性期における子どもと家族の看護過程の展開(分析の統合・計画立案)	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
10	【事例演習】慢性期にある子どもと家族への看護(1)	慢性疾患を抱えながら生活する子どもとその家族の特徴	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
11	【事例演習】慢性期にある子どもと家族の看護(2)	慢性期における子どもと家族の看護過程の展開	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
12	【事例演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護	事例による看護計画の立案	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
13	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護まとめ(1)	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
14	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護まとめ(2)	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント
15	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護まとめ(3)	立案した計画による援助の実施	事前課題：課題プリント 事後課題：課題プリント

関連科目 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武、濱中喜代	メヂカルフレンド社
2	ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術	中野綾美	メディカ出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間美保	医学書院

	2	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ
	3			
評価方法 (基準)	定期試験および課題・グループワーク・技術演習を総合的に評価する。 定期試験 70%、課題・グループワーク・技術演習 30%			
学生への メッセージ	小児看護学実習に向けての実践的な授業になります。 課題やグループワークも多いので、既習の知識を振り返りながら計画的にすすめましょう。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室16 (池田)、17 (鎌田)、共同研究室5 (亀田、中山)			
備考				

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美、池田 友美、亀田 直子、中山 祐一
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。 2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。 3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。 4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。 5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1グループ5～6人編成とし、小児病棟において2週間の実習を行う。 2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。 3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。 4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。 5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。 6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。 <p>【留意点】 小児看護学実習要綱の注意事項を参照のこと。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。 <p>【実習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 2) 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1 週目：受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 2 週目：子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。 <p>【事後の計画】 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、子ども観および今後の学生自身の課題を明確する。</p>																
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する																
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要な看護を実践して下さい。																
担当者の研究室等	鎌田研究室17、池田研究室16、亀田、中山共同研究室5																
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、枚方市立保育所																

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美、池田 友美、亀田 直子、中山 祐一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。 2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。 3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。 4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。 5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1グループ5～6人編成とし、小児病棟において2週間の実習を行う。 2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。 3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。 4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。 5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。 6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。 <p>【留意点】 小児看護学実習要綱の注意事項を参照のこと。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。 <p>【実習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 2) 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1週目：受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 2週目：子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。 <p>【事後の計画】 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、子ども観および今後の学生自身の課題を明確する。</p>																
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する																
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要な看護を実践して下さい。																
担当者の研究室等	鎌田研究室17、池田研究室16、亀田、中山共同研究室5																
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、枚方市立保育所																

科目名	母性看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	泉川 孝子, 名草 みどり, 福山 智子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	母性看護の基盤となる概念を理解し、母性とはなにかを幅広く捉え、人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。母性の特性については、母性保健の動向や現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題を理解し、現代女性・家族へのサポートについて考える。
到達目標	1. 母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について理解する。 2. 人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。 3. 母性看護の変遷や母性保健統計の動向、母子保健施策から現状を理解する。 4. 現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題について理解する。 5. 女性のライフステージ各期における諸問題、看護について理解する。 6. 現代の女性・家族の健康に関与する諸問題へのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。
授業方法と留意点	事前の学習課題は展開される講義内容が書かれているテキスト部分をよく読んでくる。グループ課題もあり、主体的に参加してください。母子保健、生殖医療等に関する情報を、新聞、雑誌などから見聞を広め問題意識をもつてのぞみましょう。
科目学習の効果 (資格)	授業内容は、看護師国家試験の母性看護学の科目に出題されることがあり、国家試験に直結する科目です。また、助産選択に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	母性の概念について 1	母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習?
2	母性の概念について 2	セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
3	母性看護の対象を取り巻く社会について 1	母性看護の歴史の変遷と現状、日本と諸外国の助産の歴史、について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
4	母性看護の対象を取り巻く社会について 2	母子保健統計からみた動向、母子保健施策からみた現状、母性看護に必要な法制度について理解する (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
5	母性看護の対象理解 1	母性看護の対象の特徴を理解し (形態・機能含む)、人間の性差について理解し、セクシュアリティについて学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
6	母性看護の対象理解 2	女性のライフサイクルと家族の発達段階における家族看護について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
7	母性看護の対象理解 3	母性の発達・成熟・継承。母性と親性について理解し、子どもへの愛や親となる過程の支援に必要なことを学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
8	母性看護における看護技術 1	周産期の死と看護、障害を持つ子どもと家族のケアについて学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
9	女性のライフステージ各期における看護?	女性のライフサイクル、母性各期 (小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期) の特徴について理解する (講義) * 11 回事例検討の説明	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
10	思春期の健康と看護 1	思春期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、思春期におけるセクシュアリティの課題について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
11	思春期の健康と看護 2	思春期の性教育における、問題行動事例をロールプレイングで検討する (一部発表)	事前学習課題: グループ発表事例の準備をする 事後学習課題: グループレポート提出 (グループで検討した事例のレポートとメンバーの役割を記載)
12	成熟期の健康と看護	成熟期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、成熟期のセクシュアリティの課題について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
13	更・老年期の健康と看護	更年期・老年期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、セクシュアリティの課題について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習
14	リプロダクティブヘルスケア	女性の健康に関与する、性感染症・妊娠中絶・喫煙・DV、国際化社会等におけるリプロダクティブヘルスケアについて理解する (講義、討議)	事前学習課題: テキスト、資料の該当部分を読んでくる 事後学習課題: グループ討議のレポート提出
15	母性看護における看護技術 2	母性看護の特殊性を踏まえた看護技術やウエルネス看護過程について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる 事後学習課題: 講義内容の復習

関連科目 人体の構造と機能、食生活論、家族関係論、疾病治療論、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、地域看護学、家族看護学、看護倫理、女性学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	親と子のきずな	クラウス・ケネル	医学書院
	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院

評価方法 (基準)	定期試験・授業参加度 (提出課題・授業態度等) を総合して判定する。 割合: 定期試験 85% (泉川 70点、福山 5点、名草 10点)、提出課題等 15%
学生へのメッセージ	セクシュアリティ、母性、家族に関する社会状況や問題、法改正などの情報や報道等に関心を向け自分自身の考え方を広げて行きましょう。授業は学生と教員とのパートナーシップで、力を合わせて実りある内容にしましょう。
担当者の	泉川孝子: 研究室 15、福山智子: 研究室 13、名草みどり: 研究室 5

研究室等	
------	--

備考	
----	--

科目名	母性看護学援助論 I	科目名 (英文)	Maternal Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	泉川 孝子, 名草 みどり, 西村 史明, 福山 智子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>《概要》 次世代を担う母性準備期 (思春期)、母性が最も発揮する時期 (成熟期)、母性継承期 (更年期・老年期) にある女性の、月経異常、性感染症、不妊症、ホルモン療法、婦人科疾患 (子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について学ぶ。 また、妊娠期・分娩期・産褥期の生理的変化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントと看護の方法について学ぶ。 (オムニバス 方式/全23回)</p>
到達目標	<p>1. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 2. 婦人科疾患 (月経異常、性感染症、不妊症、子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について理解する。 3. 正常経過にある妊産婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。 4. 異常経過にある妊産婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。</p>
授業方法と留意点	講義・グループワーク・DVD鑑賞・課題などの方法で学ぶ
科目学習の効果 (資格)	母性看護学援助論Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性の発揮を促す看護	子どもを生み育てるあたり生じる遺伝、不妊の問題、不妊治療を受ける女性の心理的特徴からその支援、看護について理解する	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
2	婦人科疾患の診断と治療	遺伝と出生前診断、不妊治療について学ぶ 月経困難症と子宮内膜症、子宮がんについて学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
3	婦人科疾患の診断と治療	STD (HIV の母子感染も含む)、エストロゲン欠乏に関連する疾患 (更年期障害・尿失禁・骨粗鬆症) について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
4	正常な妊娠経過について	母体の生理的変化と正常な妊娠経過、妊娠の成立、妊娠期の身体的特性、胎児の発育について	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
5	正常妊娠	妊娠期：妊娠期間等の概要、母子手帳発行について、全身の変化、循環器系の変化、糖代謝の変化、呼吸器系の変化、泌尿器系の変化	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
6	妊娠の異常	妊娠期：妊娠高血圧症候群、流産・早産、胎児発育評価と IUGR、IUGR と将来の生活習慣病、胎盤機能の異常と IUGR、羊水の機能と生理 分娩期：児頭の下降、フリードマン曲線	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
7	妊娠期の異常	ハイリスク妊婦とは 妊娠期の異常：妊娠初期の異常 (妊娠悪阻、流産、異所性妊娠)、妊娠中期 (多胎妊娠、早期産、切迫早産)、妊娠後期 (前置胎盤、常位胎盤早期剥離) 妊娠期の感染症 (母子感染について、風疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、C型肝炎、成人 T 細胞性白血病、パルボウイルス B19 感染症、B 群溶血性レンサ球菌感染症、梅毒、性器クラミジア、淋菌感染症、エイズ)	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
8	分娩期の異常	分娩期：陣痛発来について、胎位について、娩出力について、分娩監視装置について 分娩期の異常：産道の異常、微弱陣痛、過強陣痛、胎位の異常、胎児機能不全の診断について、帝王切開について	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
9	産褥・新生児の異常	産褥期：精神障害、マタニティブルー、エジンバラ産後鬱診断表について、新生児の異常：新生児仮死、新生児蘇生アルゴリズム、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
10	婦人科疾患、妊娠・分娩・産褥の異常	DVD 視聴、全体的まとめ (試験対策)	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
11	妊娠期の心理と社会的特性	1. 妊娠期の心理的变化 2. 親となる心理的变化と母性の心理を把握するための理論を学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
12	妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護	1. 妊婦検診の実際と妊娠経過のアセスメントについて学ぶ 2. 妊婦が受ける母性保健サービスと保健指導について学ぶ 3. マイナートラブルと対処について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習

	13	ハイリスク妊婦の看護	1. ハイリスク妊婦（高年、若年、過剰体重増加） 2. 異常妊娠（感染症、妊娠高血圧症候群、血液型不適合など） 3. 合併症のある妊婦	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	14	正常分娩の経過	1. 分娩の要素と機序 2. 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 3. 分娩経過の胎児への影響 4. 分娩期の産婦・家族の心理的变化 5. 出生2時間までの新生児の生理	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	15	分娩期のアセスメントと看護	1. 分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 胎児の健康状態のアセスメントと看護 5. 出生後2時間までの新生児のアセスメントと看護 6. 母子関係形成に向けての援助	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	16	ハイリスク分娩の看護	1. 分娩期の異常と看護 2. 産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	17	褥婦の身体的変化	退行性変化と進行性変化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	18	褥婦の心理・社会的変化	Rubin の母親への適応過程、家族の心理的变化について学ぶ。	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	19	産褥期の異常と看護 1	子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、会陰裂傷・会陰切開を行った褥婦、乳房にトラブルのある褥婦	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	20	産褥期の異常と看護 2	精神にトラブルのある褥婦、および新生児に問題がある褥婦の看護等について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	21	新生児の生理と看護	新生児の生理と看護について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	22	低出生体重児、高ビリルビン血症児の看護	低出生体重児のおこりやす問題と看護、ディベロップメンタルヘルスケア、高ビリルビン血症児：黄疸のリスク因子、検査、治療と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	23	帝王切開術と看護	帝王切開術を受けた褥婦のアセスメントと看護について学ぶ 母子分離、喪失感覚、悲嘆へのケアについて学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
	24																			
	25																			
	26																			
	27																			
	28																			
	29																			
	30																			
関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森 恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td>森 恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院																	
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>新道幸恵他訳</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>成人看護学⑨女性生殖器</td> <td>末岡 浩</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>病気がみえる vol.10:産科</td> <td></td> <td>メディックメディア</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院	2	成人看護学⑨女性生殖器	末岡 浩	医学書院	3	病気がみえる vol.10:産科		メディックメディア
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院																	
2	成人看護学⑨女性生殖器	末岡 浩	医学書院																	
3	病気がみえる vol.10:産科		メディックメディア																	
評価方法 (基準)	定期試験 80%、提出物 20%、授業参加状況を見て総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	母性看護学は妊婦だけではなく、女性の健康を支援する看護学です。そのために、夫をはじめとした家族も看護の対象となるなど、幅広い対象に看護を行います。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」などのたくさんの問いを持って、楽しく真摯に学んで下さい。																			
担当者の 研究室等 備考	泉川孝子（研究室15）、福山智子（研究室13）、名草みどり（研究室11）																			

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Maternal Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	福山 智子, 泉川 孝子, 名草 みどり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>《概要》 母性看護学実習で一組の母と新生児を受け持つ時に必要な科学的思考と母性看護技術について、講義、自己学習、グループワーク、実技演習を通して学びます。</p> <p>《目的》 マタニティサイクルにある女性が、心身共に健康な状態を維持・促進するために、科学的思考を用いて、一人一人に応じた看護を見出し、実践する方法を学ぶ。</p>
到達目標	<p>1) マタニティサイクルにある女性とその新生児が、健康な状態を維持・促進するための看護過程の方法について理解する。</p> <p>2) マタニティサイクルにある女性が、異常に移行した際に必要な看護について考えることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業方法は、講義、自己学習、グループワーク、母性看護技術の実技演習です。</p> <p>個人およびグループの課題の内容、母性看護技術の実技演習の概要、評価方法については授業で全て説明します。</p> <p>母性看護技術演習は、ユニフォームを着用して母性小児看護学実習室で行います。</p>
科目学習の効果(資格)	母性看護学実習に向けて重要な科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	母性看護学の看護過程に必要な看護診断を学ぶ	目標:ウエルネス看護診断について理解できる。 方法:講義	テキスト・配布資料で事前・事後学習をする。
3	事例による看護過程の展開-情報化の方法を学ぶ	目標:①オリエンテーションを受けて看護過程の展開と母性看護技術の演習方法について理解できる。②紙媒体とDVDから事例の情報を整理できる。 方法:講義と演習	3回目に配布する課題スケジュールにそって、自己学習で課題を完成させる。
4	事例による看護過程の展開-アセスメントの方法を学ぶ	目標:データベースとアセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析および統合ができる。 方法:講義と演習	3回目に配布する課題スケジュールにそって、自己学習で課題を完成させる。
5	母性看護技術演習(1)-新生児の看護を学ぶ	目標:根拠と方法を理解して新生児の観察、アセスメント、沐浴および寝床環境の整備ができる。 方法:第5回と第6回は2クラスに分かれて、2コマ続きで技術演習を行う。(母性小児看護学実習室)	3回目に配布する資料を参考に事前課題に取り組み、事後課題を提出する。
6	母性看護技術演習(2)-新生児の看護を学ぶ	5回目と同内容	3回目に配布する資料を参考に事前課題に取り組み、事後課題を提出する。
7	事例による看護過程の展開-看護問題の明確化の方法を学ぶ	目標:退行性変化・進行性変化・心理社会的適応・子宮外生活適応過程における看護問題を、ウエルネス・リスク・プロブレムの判断を行いながら明確化でき、優先順位を考えられる。 方法:講義と演習	3回目に配布する課題スケジュールにそって、自己学習で課題を完成させる。
8	母性看護技術演習(3)-妊産褥婦の看護を学ぶ	目標:妊婦健診の根拠と方法がわかり安全・安楽を考慮して計測できる。産婦体験から分娩期の安全・安楽、基本的コードについて考えられる。根拠を理解して褥婦の子宮復古の観察ができる。 方法:第8回と第9回は2クラスに分かれて、2コマ続きで技術演習を行う。(母性小児看護学実習室)	3回目に配布する資料を参考に事前課題に取り組み、事後課題を提出する。
9	母性看護技術演習(4)-妊産褥婦の看護を学ぶ	第8回と同内容	3回目に配布する資料を参考に事前課題に取り組み、事後課題を提出する。
10	事例による看護過程の展開-看護計画の立案方法を学ぶ	目標:優先度の高い看護問題を解決するための看護目標を考えられ、看護計画を立案できる。 方法:講義と演習	3回目に配布する課題スケジュールにそって、グループワークで課題を完成させる。
11	事例による看護過程の展開-看護計画を実施する	目標:看護計画をロールプレイングで実施できる。 方法:グループで考えた看護計画を、2クラスに分かれてロールプレイングで実施(発表)する。(母性小児看護学実習室)	3回目に配布する課題スケジュールを参考に、事後課題を提出する。
12	事例による看護過程の展開-看護計画の評価と修正方法を学ぶ	目標:ロールプレイングで発表(実施)した看護の評価ができ、看護計画修正の必要性を判断できる。 方法:講義と演習	3回目に配布する課題スケジュールにそって、グループワークで課題を完成させる。
13	正常を逸脱した事例の看護-帝王切開術後の看護の方法を考える	目標:課題に基づいて看護の方法を考えられる。 方法:講義と演習	12回目に配布する課題をグループワークで完成し、発表資料を提出する。
14	正常を逸脱した事例の看護-帝王切開術後の看護の方法	目標:課題に基づいて看護の方法を説明できる。	発表を振り返り評価する。

	を発表する	方法：2クラスに分かれて13回目の内容を発表する。																	
15	退院支援と継続看護、1か月までの実際を学ぶ	目標：退院指導と産褥1か月までの支援の実際について理解できる。 方法：講義	テキスト・配布資料で事前・事後学習を行う。																
関連科目	既習の専門基礎科目、専門科目は全て関連していますが、特に、人体の構造と機能、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰは非常に関連しています。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td>森恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森恵美他	医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森恵美他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	系統看護学講座 母性看護学各論	森恵美他	医学書院																
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森恵美他	医学書院																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>写真でわかる母性看護技術</td> <td>小沢ひとみ編</td> <td>インターメディカ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病気がみえる10巻 産科</td> <td>医療情報科学研究所</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程</td> <td>太田操編著</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディカ	2	病気がみえる10巻 産科	医療情報科学研究所	メディックメディア	3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディカ																
2	病気がみえる10巻 産科	医療情報科学研究所	メディックメディア																
3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版																
評価方法 (基準)	筆記試験、課題の進行・提出状況、課題の完成度、毎回の学びと感想カード、授業態度を見て総合的に評価します。評価比重は授業時間内に説明します。																		
学生への メッセージ	母性看護学援助論Ⅱは母性看護学実習を想定した実践に近い科目です。課題は多いですが、既習の知識を整理しながら楽しい実習になるように、この科目の学修を頑張りましょう。																		
担当者の 研究室等	母性看護学教員の研究室は7号館3階です。実習で不在の場合は研究室入り口に氏名とメッセージを残してください。 福山智子(研究室13)、泉川孝子(研究室15)、名草みどり(研究室11)																		
備考																			

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川 孝子, 名草 みどり, 福山 智子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>概要</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、母親（父親）役割適応の過程を明らかにすることができる。 2. 周産期の母子とその家族に対して、安全・安楽に健康維持・増進（促進）について看護過程の展開ができる。 3. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚した行動ができる。 4. 各施設における母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす役割と地域連携を考えられる。 5. 生命の尊厳を認識し、対象となる母子とその家族を尊重し、倫理的配慮のある態度と言動がとれる。 																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。 2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標ををもちに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。 3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。 4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。 5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。 6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。 7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する 8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。 9. 最終週の水曜日前後には臨床側（病棟師長、指導者）に参加してもらい反省会を行う。 10. 最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。 <p>留意点</p> <p>妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強い。ため、訪室時間や言動に注意をし、新生児は抵抗力がなため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内 <ul style="list-style-type: none"> 初日に実習のオリエンテーション、最終週木曜日は学内でテーマカンファレンスの資料を作成。金曜日、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを実施する。 2. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1組の褥婦とその新生児を2人の学生で情報を共有しながら受け持ち看護過程の展開をする。 2) 分娩があれば、産婦を受け持ち、産婦および新生児のケアを指導者と共に実施または見学する。 3) 新生児室実習は治療や要観察、新生児だけの入院の新生児で、スタッフの指導の下もとにケアを行う。 3. 外来実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師の妊婦健診を受ける妊婦の妊娠経過を把握し、健康診査に同行し、見学又は一部を実施する。 2) 助産師外来の妊婦健康診査に同行し、指導者の基に健康診査や保健指導を見学する。 3) 不妊外来、思春期外来、更年期外来などの特殊外来、学級活動の見学を行う。 4. カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> 1) 一日の実習の振り返り、疑問点や困っていること意見交換を行い、教員や指導者から助言を受ける。 2) 受け持ち事例に関連したテーマで全員が発表し、学びを共有する。 3) 学内で施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、実習目標に沿って、その評価や今後の課題をのべ、学びを共有する。 5. 事前事後学習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習で計画した実習内容に必要な知識や技術は事前に学習し、技術は習得しておく。また、実習での学びは自分で学習ノートを作り、復習しておく。 2) 実習で必要となる情報は、学生間で共有し、連携も取っておく。 6. 実習態度およびルール <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師・教員の助言は真摯な態度で受け止め、積極的に実習や学習に生かす。 2) 実習内容は事前にスタッフや教員に報告して助言や許可を得てから実施する。勝手に行動することは、禁止する。 3) 実習で知りえた情報や実施内容は、適宜、看護師や教員に必ず報告する。 4) 対象に畏敬の念を持ち、対象の権利を尊重し、プライバシーの保護に努める。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森 恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学概論		医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院				
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	系統看護学講座 母性看護学概論		医学書院														
2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院														
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気が見える vol.10 産科</td> <td></td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>ルービン, R</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ナーシンググラフィカ母性看護学②</td> <td>横尾京子他</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気が見える vol.10 産科		メディックメディア	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	病気が見える vol.10 産科		メディックメディア														
2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院														
3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版														
評価方法 (基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>実習場所</p> <p>星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、JCHO 大阪病院、はるか助産院</p>																

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	泉川 孝子, 名草 みどり, 福山 智子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>概要 妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、母親（父親）役割適応の過程を明らかにすることができる。 2. 周産期の母子とその家族に対して、安全・安楽に健康維持・増進（促進）について看護過程の展開ができる。 3. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚した行動ができる。 4. 各施設における母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす役割と地域連携を考えられる。 5. 生命の尊厳を認識し、対象となる母子とその家族を尊重し、倫理的配慮のある態度と言動がとれる。 																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。 2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標ををもちに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。 3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。 4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。 5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。 6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。 7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する 8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。 9. 最終週の水曜日前後には臨床側（病棟師長、指導者）に参加してもらい反省会を行う。 10. 最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。 <p>留意点 妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強い。訪室時間や言動に注意をし、新生児は抵抗力がなため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内 初日に実習のオリエンテーション、最終週木曜日は学内でテーマカンファレンスの資料を作成。金曜日、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを実施する。 2. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1組の褥婦とその新生児を2人の学生で情報を共有しながら受け持ち看護過程の展開をする。 2) 分娩があれば、産婦を受け持ち、産婦および新生児のケアを指導者と共に実施または見学する。 3) 新生児室実習は治療や要観察、新生児だけの入院の新生児で、スタッフの指導の下もとにケアを行う。 3. 外来実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師の妊婦健診を受ける妊婦の妊娠経過を把握し、健康診査に同行し、見学又は一部を実施する。 2) 助産師外来の妊婦健康診査に同行し、指導者の基に健康診査や保健指導を見学する。 3) 不妊外来、思春期外来、更年期外来などの特殊外来、学級活動の見学を行う。 4. カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> 1) 一日の実習の振り返り、疑問点や困っていること意見交換を行い、教員や指導者から助言を受ける。 2) 受け持ち事例に関連したテーマで全員が発表し、学びを共有する。 3) 学内で施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、実習目標に沿って、その評価や今後の課題をのべ、学びを共有する。 5. 事前事後学習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習で計画した実習内容に必要な知識や技術は事前に学習し、技術は習得しておく。また、実習での学びは自分で学習ノートを作り、復習しておく。 2) 実習で必要となる情報は、学生間で共有し、連携も取っておく。 6. 実習態度およびルール <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師・教員の助言は真摯な態度で受け止め、積極的に実習や学習に生かす。 2) 実習内容は事前にスタッフや教員に報告して助言や許可を得てから実施する。勝手に行動することは、禁止する。 3) 実習で知りえた情報や実施内容は、適宜、看護師や教員に必ず報告する。 4) 対象に畏敬の念を持ち、対象の権利を尊重し、プライバシーの保護に努める。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森 恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学概論		医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院				
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	系統看護学講座 母性看護学概論		医学書院														
2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院														
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気が見える voL10 産科</td> <td></td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>ルービン, R</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ナーシンググラフィカ母性看護学②</td> <td>横尾京子他</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気が見える voL10 産科		メディックメディア	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	病気が見える voL10 産科		メディックメディア														
2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院														
3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版														
評価方法 (基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>実習場所 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、JCHO 大阪病院、はるか助産院</p>																

科目名	精神看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。
到達目標	心の構造と機能について説明できる。 心の健康・不健康について説明できる。 現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響があるか説明できる。 自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。 災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。 精神保健の概念について説明できる。 精神科看護師の役割について説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、視聴覚教材や精神医療に関する映画などを補助的に活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促したい。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	社会構造の変化と社会病理	精神看護の対象となる人・生活の場である現代社会の特徴と社会病理について理解する	事前:教科書①「第6章I」を読んでください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
2	現代社会における精神保健の主な問題	現代社会における精神保健の主な問題(自殺、アルコール・薬物問題、犯罪・非行等)について理解する	事前:教科書①第6章II、教科書②「第8章III」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
3	暮らしの場と心の健康(1)	職場・仕事における生活と精神保健の問題を理解する	事前:教科書①「第4章II」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
4	暮らしの場と心の健康(2)	学校、地域における生活と精神保健の問題を理解する。	事前:教科書①「第4章I、III」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
5	自己理解	エゴグラムを用い、自分から見た自分と他者から見えている自分を知り、自分と他者との認識の違いから生じる不都合とその対処法について考える	事後:授業内容を整理しておいてください。
6	精神保健医療福祉の歴史(1)	精神障害を社会がどうみてきたか、精神保健医療福祉の歴史について理解する	事後:授業内容を整理しておいてください。
7	精神保健医療福祉の歴史(2)	視聴覚教材を用いて精神保健医療福祉の歴史について理解するとともに、精神保健医療福祉のあり方について考える	事後:授業内容を整理しておいてください。
8	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前:教科書①「序章I、IV」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
9	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前:教科書①「第1章I、II」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
10	心の健康とは何か(ストレスと健康、看護師のメンタルヘルス)	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSD、バーンアウトとその対処法、看護職者の感情体験について理解する	事前:教科書①「第5章I~IV」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。<看護師のメンタルヘルス
11	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神的発達論について理解する。	事前:教科書①「第2章I~V」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
12	精神保健医療福祉の歴史の変遷	欧米、日本の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前:教科書①「第7章I、II」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
13	精神看護における法と人権擁護	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)について理解する。	事前:教科書①「第7章III」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
14	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持する上での困難について理解する。	事前:教科書②「第1章I~IV」を読んで来ててください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
15	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向	自立と社会復帰、地域生活支援、認定・専門看護師制度、触法精神医療など、精神障害者の保護・医療・福祉の現状について理解する	事前:教科書②「第7章I~III」「第8章I、II」を読んで来ててください。事後:授業内容を整理しておいてください。

関連科目 精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健	佐藤 壹三	メヂカルフレンド社

	2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	渡邊博幸	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(85%)及びレポート、ワークシート(15%)を総合して判定する。なおレポート課題については授業の時に説明する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)			
備考	学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。			

科目名	精神看護学援助論 I	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子, 小笠原 一能, 山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	精神看護を実践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者―看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者―看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者―看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるロールプレイング、プロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者―看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。 精神科医療における診断と治療の概念、精神疾患に関する病態、診断、回復過程、治療について精神医学の立場から学ぶ。
到達目標	援助的人間関係に関する理論を理解する。 援助的人間関係に関する技術を身につける。 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。 精神科救急で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。 各精神疾患の症状、診断、治療について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、現場で働いている看護師による講義を取り入れ、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促す。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前：「第3章-II-B」「第6章-II-A, E」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
2	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前：「第3章-II-D」「第6章-II-B」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
3	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前：「第3章-II-B, D」「第6章-II-A, B」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
4	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前：「第3章-II-E, F」「第6章-II-B, G」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
5	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前「第3章-II-D」「第6章-II-B, C」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
6	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前第3章-II-N「第6章-II-H」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
7	援助的人間関係 (理論編1)	患者-看護師関係の意義と特徴	事前：「第4章」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
8	援助的人間関係 (理論編2)	対人関係論、プロセスレコード	事前：「第4章」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
9	援助的人間関係 (実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習	事後：授業内容を整理しておいてください。	
10	援助的人間関係 (実践編)	プロセスレコードを記載する	事後：授業内容を整理しておいてください。	
11	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返り	事後：授業内容を整理しておいてください。	
12	援助的人間関係 (実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習 (症状への対応)	事前：「第6章-II-A」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
13	精神科治療と看護 (1)	薬物療法と看護	事前：「第3章-III-A」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
14	精神科治療と看護 (2)	精神療法、SST、心理教育、作業療法と看護	事前：「第3章-III-B, C, D」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
15	退院調整と地域生活支援・精神科救急に関する看護	精神障害者の退院促進と地域で生活していくための支援活動、精神科救急の現場で実践されている看護援助、精神科における看護師の役割・機能など	事後：授業内容を復習しておいてください	
16	総論・外因性精神疾患	精神疾患の分類・診断基準・原因・症状の捉え方に続き、外因性精神疾患 (症状性精神疾患、器質性精神疾患、中毒性精神疾患、認知症など)、急性・心的外傷後ストレス障害、適応障害などの病因、症状、治療について理解する	事前：教科書「第1章III」「第2章V, VI, VII, X」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?	
17	うつ病・躁うつ病・統合失調症	医学が「こころ」をどう捉えているかに続き、うつ病・躁うつ病 (双極性障害)・統合失調症の病因、症状、予後、治療法、精神疾患と遺伝の関連について理解する	事前：教科書「第2章III, IV」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?	
18	神経発達障害・脳神経と精神疾患	神経発達障害 (精神遅滞、学習障害、注意欠如・多動性障害、自閉症スペクトラム障害など) の病因、症状、治療法について理解する	事前：教科書「第1章II」「第2章?、?」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。?	

	19	神経症性障害・心身症・パーソナリティ障害	神経症性障害（不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体症状症）、心身症、パーソナリティ障害の分類、病因、症状、治療法について理解する	事前：教科書「第2章Ⅰ、Ⅱ、13」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。？																
	20	精神科的治療Ⅰ ～基礎的介入・身体療法～	精神科で行われている治療法（支持的精神療法、疾患教育、生活指導、薬物療法、電気けいれん療法、高照度光療法、認知リハビリテーションなど）について理解する。漢方薬も概説する	事前：教科書「第3章Ⅰ、Ⅱ」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。？																
	21	精神科的治療Ⅱ てんかん、睡眠障害、摂食障害	精神科で行われている治療法（催眠療法、精神分析療法、行動療法、認知療法、アート・セラピー、森田療法、来談者中心療法、ユマニチュードなど）について理解する。また、てんかん、睡眠障害、摂食障害の分類、症状、治療法について理解する	事前：教科書「第2章Ⅸ、14」「第3章Ⅲ」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。？																
	22	依存・乱用・嗜癖・脳波	アルコール使用障害、薬物使用障害の概念、症状、治療、依存からの回復過程、アディクション、脳波の基礎について理解する	事前：教科書「第2章Ⅷ」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。？																
	23	性関連障害、ストレス	性同一性障害（性別違和）、性嗜好障害の症状と治療、ストレス過程、ストレスによって起こる身体・精神的反応、労働ストレスについて理解する	事後：授業内容を整理しておいてください。																
	24		-	-																
	25		-	-																
	26		-	-																
	27		-	-																
	28		-	-																
29		-	-																	
30		-	-																	
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護</td> <td>佐藤壹三</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>はじめての精神医学</td> <td>渡辺雅幸</td> <td>中山書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社	2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社																	
2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	合否は、定期試験（85%）及びワークシート、演習、演習時の課題（15%）を総合して判定する。																			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19（眞野）、研究室18（山本智）																			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 16～23回は外部講師による講義になる。日程（日程変更を含む）は追って連絡するので、注意深く掲示板の確認をすること。																			

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 智津子・眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本科目は、精神看護学概論および精神看護学援助論Ⅰで学んだ基本的な知識・技術をふまえたうえで、精神疾患と治療等を理解するとともに、精神疾患を有する対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。 また精神看護学概論および精神看護学援助論Ⅰで学んだ基礎知識を活用しながら、ペーパーペーシェントによる看護過程の展開を行い、対象をアセスメントする技術と、必要な看護援助方法を理解する。 さらに精神科救急における看護や、地域社会でその人らしく暮らすための支援体制について学ぶ。
到達目標	各精神疾患の症状、治療、看護援助方法について理解できる。 ペーパーペーシェントを通して、対象にとって必要な看護援助方法が理解できる。 精神科救急で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解できる。 地域における精神保健福祉活動が理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画にそってスライドを用いながら講義を行う。一方的な講義にならないよう学生が発言する機会を設け、また精神疾患・精神症状や精神障害者への理解を深められるように視聴覚教材を活用する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	疾患による看護の特徴(1)	統合失調症(者)の理解と看護	事前：「第6章Ⅱ-A」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
3	疾患による看護の特徴(2)	気分障害(者)の理解と看護	事前：「第6章Ⅱ-B・C」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
4	疾患による看護の特徴(3)	神経症性障害(者)の理解と看護	事前：「第3章Ⅱ-E・F」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
5	疾患による看護の特徴(4)	人格障害・摂食障害(者)の理解と看護	事前：「第6章Ⅱ-H」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
6	疾患による看護の特徴(5)	アルコール依存および薬物依存(者)の理解と看護	事前：「第3章Ⅱ-L」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
7	疾患による看護の特徴(6)	身体合併症をもつ対象の看護、精神科救急	事前：「第6章Ⅲ」を読んでください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
8	精神障害者(当事者)の理解	精神障害者(当事者)の語り	事前：これまでの授業内容を復習してください。
9	事例演習(1)	情報収集と整理①	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してください。
10	事例演習(2)	情報収集と整理②	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してください。
11	事例演習(3)	アセスメント①	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してください。
12	事例演習(4)	アセスメント②	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してください。
13	事例演習(5)	問題点の整理	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してください。
14	事例演習(6)	看護計画立案①	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してください。
15	事例演習(7)	看護計画立案② 評価・修正	事前：援助論Ⅰと精神医学の授業内容を復習してください。

関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学実習
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神看護学②精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三監修	メヂカルフレンド社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
	2			
	3			

評価方法(基準)	合否は定期試験(85%)およびワークシート、演習および演習時の課題(15%)を総合して評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	積極的に授業に参加してください。
-----------	------------------

担当者の研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)
----------	----------------------------

備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。
----	----------------------------

科目名	精神看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学習をもとに、精神科病棟での精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【目的】 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 ・受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 ・精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 																			
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ5名編成とし、担当教員の指導を受ける。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、受け持ち対象者に適した看護過程の展開を行う。 6. 毎日カンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、互いの学びを共有する。 																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習期間】 2016年9月～12月の2週間</p> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は特定の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、振り返りを行う。 3. 治療効果を考慮して、学生主催のレクリエーションを企画・運営する。 <p>【事前学習課題】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習をしておくこと。特に統合失調症、うつ病、躁うつ病、精神保健福祉法、援助的人間関係に関しては必ず復習しておくこと。</p>																			
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)																			
備考	<p>【実習場所】 ハートランドしぎさん、大阪府立精神医療センター、藍野花園病院</p>																			

科目名	精神看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【概要】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学習をもとに、精神科病棟での精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【目的】 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 ・受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 ・精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 																			
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ5名編成とし、担当教員の指導を受ける。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、受け持ち対象者に適した看護過程の展開を行う。 6. 毎日カンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、互いの学びを共有する。 																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習期間】 2016年9月～12月の2週間</p> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は特定の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、振り返りを行う。 3. 治療効果を考慮して、学生主催のレクリエーションを企画・運営する。 <p>【事前学習課題】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習しておくこと。特に統合失調症、うつ病、躁うつ病、精神保健福祉法、援助的人間関係に関しては必ず復習しておくこと。</p>																			
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19 (眞野)、研究室18 (山本智)																			
備考	<p>【実習場所】 ハートランドしぎさん、大阪府立精神医療センター、藍野花園病院</p>																			

科目名	在宅看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子・田中 結華
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、QOLの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と特徴の理解ができる。 2. 在宅看護を支える制度と在宅看護の変遷について理解ができる。 3. 在宅看護とケアマネジメント方法について理解できる <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の種類を理解する ・社会資源の活用方法と看護職の役割を理解する 4. 在宅療養者の家族を支援する必要性を理解する 5. 在宅看護過程の特性について理解する 6. 在宅療養生活に必要な支援・教育について知る <ul style="list-style-type: none"> ・対象別看護の概要を理解する 7. 継続看護について理解できる
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義を中心に進めていく予定である。教科書を用い、資料も配付する。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネジメント方法などイメージが困難な学習には、DVDの活用、事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、次講義時間を活用する、あるいは教員の研究室の方に来るなど、その時の学びを大切に、主体的に学習に取り組むこと。事前・事後学習については、授業内で別途指示することがある。
科目学習の効果 (資格)	患者の入院から退院・退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけでなく、地域社会における役割と認識を深め、社会のニーズに即した専門職のあり方を持つことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	訪問看護 (在宅看護) の概念と歴史	地域における訪問看護 (在宅看護) の概念、歴史を学ぶ。 講義、および訪問看護の実際について動画視聴を行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。
2	社会背景から考える訪問看護の役割と機能	在宅で療養する人々と社会背景および、訪問看護の役割について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
3	病院などの施設内看護と訪問看護 (在宅看護) との連携: 切れ目のない看護を目指して	施設内看護と在宅看護を比較しながら、在宅看護の特性について、継続看護、在宅における医行為、チーム医療について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
4	在宅看護の法的基盤	介護保険、医療保険等、在宅看護の法的基盤や関連する制度について学ぶ。 講義を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
5	在宅看護と倫理	在宅看護における倫理、特に療養者と家族の意志決定を支える看護について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
6	在宅療養者と家族への看護	療養者、および家族と看護介護家族の状況 (家族の介護負担とその軽減)、家族に関する理論などから学ぶ。 講義を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
7	地域包括ケアにおける在宅看護の役割、看護職の役割	地域包括ケア、および継続看護、チーム医療における看護職の役割を考える。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
8	訪問看護ステーションの看護	訪問看護ステーションの経営、看護管理、地域における役割について、ゲストスピーカーの講義によって学ぶ。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
9	在宅看護を支える社会資源の活用と多職種連携 (1)	在宅看護を支える多様な社会資源と、その活用について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
10	在宅看護を支える社会資源の活用と多職種連携 (2)	多職種との連携・協働の必要性とその方法について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
11	在宅看護を支える社会資源の活用と多職種連携 (3)	在宅ケアにおける保健医療福祉チームについて学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
12	在宅看護におけるリスクマネジメントと感染管理	在宅看護における、リスク管理、災害への対応、感染管理について学ぶ。 講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
13	さまざまな療養者に対する在宅看護 1	在宅看護の実際について、事例を用いて学ぶ。要介護高齢者、認知症高齢者、終末期の療養者などの事例を取り上げる。 講義、視聴覚教材、討議を行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
14	さまざまな療養者に対する在宅看護 2	在宅看護の実際について、事例を用いて学ぶ。神経難病をもつ療養者、精神疾患を持つ療養者、子どもの在宅療養などの事例を取り上げる。 講義、視聴覚教材、討議を行う。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	
15	在宅看護のまとめ	学びをまとめ、今後の在宅看護への展望を整理する。	事前: テキストの該当部分を読む。 事後: 授業内容を整理しておくこと。	

関連科目	家族関係論 地域看護学 専門科目の概論のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト・レポート(10%) 定期試験(90%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。病院看護との違いは、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習(予習・復習)を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。15コマを通して在宅看護の理解に達します。欠席をしないように受講することが求められます。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 第8研究室 後閑容子、第9研究室 田中結華			
備考	不定期に、小テスト、レポートを行う。授業での発言や課題・討議等に取り組む姿勢も評価の対象とする。参考書は大いに参照すること。文献等は授業でも紹介する。			

科目名	在宅看護学援助論 I	科目名 (英文)	Home Care Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 後閑 容子, 坂本 結美子, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。在宅療養者・家族の、健康、生活機能、およびQOLの維持・向上のための支援方法について学ぶ。具体的には、在宅看護に必要な面接技術、さまざまな発達段階や健康障害（神経難病、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケアなど）を持つ人への在宅療養支援について、事例を通じて理解する。 また、在宅療養者に必要な日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術を理解する。
到達目標	1. 在宅看護に必要な面接技術について理解できる。 2. 在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる。 3. 在宅療養者に必要な医療処置技術を理解できる。 4. さまざまな発達段階や健康障害における在宅療養支援について理解できる
授業方法と留意点	講義と演習、グループワークにより授業を行う。テキストおよび配付資料、視聴覚教材を用いて理解を深める。基礎看護技術、および各看護で学ぶ看護技術を基盤として、在宅療養の場でどのように実践するかを深く考えて頂きたい。事例検討では、高度実践を専門的に行っている看護師を招いて学ぶ。授業へは主体的に取り組み、積極的に参加すること。各回にフィードバックカードの提出を求める。
科目学習の効果（資格）	在宅看護学実習に必要な技術、事例を学び、在宅看護学援助論Ⅱでの学習に関連づける。また、入院患者の退院後の生活に向けて支援する際に必要な知識・技能を習得することにつながる。看護師国家試験受験のために、単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 在宅看護の場で必要な面接技術 (1)	在宅看護におけるコミュニケーションの特徴、面接技術、および訪問時のマナー・態度について学ぶ。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。 <事後課題>講義後のノート整理を行うこと?
2	在宅看護の場で必要な面接技術 (2) ?	在宅看護に必要な面接技術についてグループで演習課題に取り組む。	<事前学習>第1回授業の内容を復習すること。 <事後課題>グループワークの課題提出?
3	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (1)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例を用いてグループで取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に必要な看護技術について予習すること。詳細は授業時に指示する。 <事後課題>グループで事例検討に必要な作業を分担し、各自が行う。
4	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (2)	前回に引き続きグループで検討する。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題>グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること。
5	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (3)	グループでの検討をまとめ発表準備をする。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題>グループで事例検討に必要な作業を各自分担し、次回の準備をすること。
6	在宅看護に必要な日常生活援助技術:グループ発表と討議 (1) ??	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	<事前学習>分担部分をグループで検討できるよう各自準備すること。 <事後課題>次回発表できるように準備すること。
7	在宅看護に必要な日常生活援助技術:グループ発表と討議 (2)	各グループで、検討した事例をもとに、在宅看護に必要な日常生活援助技術について発表し、質疑応答を行う。また、教員からもコメントする。	<事前学習>他のグループの取り上げた日常生活援助技術についてテキストで予習しておくこと <事後課題>各援助技術のポイントを整理しておくこと。
8	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (1)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>テキストで各技術を予習しておくこと。 <事後課題>各援助技術のポイントを整理しておくこと。
9	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (2)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>テキストで各技術を予習しておくこと。 <事後課題>各援助技術のポイントを整理しておくこと。
10	神経難病をもつ在宅療養者の看護	神経難病をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅人工呼吸器による呼吸療法についても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーとして、専門看護師大杉花先生 (拓海会訪問看護ステーション) による講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
11	COPD をもつ在宅療養者の看護	COPD をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅酸素療法、呼吸器リハビリテーションについても合わせて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
12	認知症をもつ在宅療養者の看護	認知症をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
13	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	精神疾患をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。 <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。
14	終末期にある在宅療養者の看護	終末期にある在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、疼痛管	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。

			理、看取りについても合わせて学ぶ。 ゲストスピーカーとして、専門看護師船越政江先生（わたぼうし訪問看護ステーション）による講義と討議を行う。	<事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。																
	15	まとめ	まとめ 本授業科目での学びについてまとめる。	<事前学習>ノート、資料を整理しておくこと。 <事後課題> 授業全体を復習し、筆記試験に備えること。																
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学、家族看護学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義・演習への参加態度 40% (フィードバックカード、グループワーク、レポート、発表、ピア評価も含める) 筆記試験 60%																			
学生への メッセージ	在宅看護では、患者のことを「患者」とは言いません。療養者あるいは訪問看護を利用する「利用者さん」と呼称します。在宅援助方法の原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。																			
担当者の 研究室等	後閑容子 7号館 3階 第8研究室 田中結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 坂本結美子 7号館 3階 共同研究室1																			
備考																				

科目名	在宅看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Home Care Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代、後閑 容子、坂本 結美子、田中 結華
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰの既習知識を活用し、様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者への援助方法および家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ。 在宅における看護過程の展開の特徴と訪問看護の役割を述べるができる。 在宅で提供する援助技術が安全、安楽に実施できるための方法論、および系統的チームアプローチの実践について学ぶ。
到達目標	1. 在宅における看護過程の展開を理解できる 1) 事例に基づいて、情報収集の視点の必要性を理解できる 2) 対象を生活者として捉え、アセスメントする必要性を理解できる 3) 療養者、家族介護者に無理のない計画内容で立案できる 4) 計画内容の実践シミュレーションを計画できる(援助計画) 5) シミュレーションに沿った援助の実践と評価ができる 6) 看護計画の実践、評価から、適宜、修正することの必要性を理解できる 2. 既習の学習で修得した日常生活援助技術を、在宅という生活環境の中で、療養者、家族の身体的、精神的状況に応じて創意工夫して考えることができる。 3. 系統的チームアプローチについて理解できる。
授業方法と留意点	この授業は、演習科目です。以下のことを留意して受講してください。 ・事前学習、課題を通して講義内容の理解がきるようにしてください。 ・家族看護学で学んだジェノグラム、エコマップ、家族看護理論については理解しておくこと。 ・共同学習、グループ学習の場が多くあります。個人の意見をもって参加できること、また、他者の意見に耳を傾けることが大切になる授業展開になります。
科目学習の効果(資格)	在宅看護学実習及び他領域実習に必要な「知識・技術・態度」を学ぶことができる。看護師国家試験学習のために知識の獲得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義: 家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れを示す	看護過程の構成要素について復讐をしておくこと 事例については、提示した課題について自己学習して参加する
2	同上	同上 次回から検討する事例とグループと担当教員について発表する。 グループのリーダー、サブリーダーを決める。	事後学習課題について説明する。
3	演習: グループワーク(1) 情報の整理、全体像の把握、問題点の明確化	脳梗塞事例:6グループ×6人 ALS事例:12グループ×6人 教員(3人)別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、グループで情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	個人学習を必ずして参加する。 個人学習は授業終了後提出
4	演習: グループワーク(2) 同上	同上	同上
5	演習: グループワーク(3) 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、グループで看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	個人学習を必ずして参加する。 個人学習は授業終了後提出
6	演習: グループワーク(4) 同上	同上	同上
7	演習: 中間発表 具体的な援助内容の決定と計画の修正	全体像、問題点、看護計画、具体的な援助内容(必要物品、手順、評価方法)について発表し、意見交換する。実演する援助内容についてグループ内で打ち合わせを行い実演へ向けて準備する。	発表運営は、学生が行う。 グループの援助計画を担当教員に提出
8	実演: 援助技術の改善と訪問看護の実際	前半、後半グループに分かれる。在宅、成人の実習室で援助計画に沿って、援助を実演し、グループ間で創意工夫をして、療養者にとって最良の援助について検討する(50分)。 訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを実演する(40分)。 実演をしていないグループは情報処理演習室で発表資料の作成を行う。	援助計画については、頭に入れて参加する。 準備や片付けは全員で行う。 グループで準備する物品は忘れないこと。
9	同上	同上	同上
10	演習: グループワーク(5) グループ発表「実演内容と評価」の準備	実演の評価を行う。 発表運営、発表時の役割について決定する。 情報処理演習室で発表資料をパワーポイントで作成する。	発表資料を担当教員に1部提出

	11	演習: グループ発表「実演内容と評価」	担当教員ごとのグループ内で発表し意見交換する(1グループ10分程度)	発表は学生が運営する。時間厳守で行う。
	12	演習: グループワーク(6) チームアプローチの実際 サービス担当者会議	同事例に関わる社会資源をエコマップに起こし、それぞれの支援内容について討議し、発表する。	ジェノグラム・エコマップについて復習しておくこと。 在宅看護学概論で作成した「在宅ケアマネジメント」を持参すること。
	13	演習: 個人ワーク(1) ロールプレイング(サービス担当者会議)の準備	社会資源の関係職種になり切り、教員が提示した問題について、思いや対応についてとサービス担当者会議に期待することをレポートする。	レポートは授業終了後提出
	14	演習: ロールプレイング サービス担当者会議	在宅・成人の実習室に分かれ、各グループ内で関係職種になり切り、サービス担当者会議に出席する。問題解決につながるようすすめる(30分)。 サービス担当者会議終了後、演じた職種としての感想と訪問看護師の役割についてレポートする(60分)。	レポートは授業終了後提出
	15	在宅看護学演習のまとめ 事例を用いた看護過程の展開と演習から学んだこと-意見交換-	在宅看護援助技術 地域で生活を支えるということ 家族、多職種との関わり方についてのまとめ	ロールプレイングでの感想や自分なりの意見を持って講義に参加する。 演習後のレポート課題について説明する。
関連科目	家族関係学、家族看護学、地域看護学、在宅看護概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学実習、他領域の看護学、専門基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	根拠のわかる在宅援助技術	正野逸子	メジカルフレンド社
	2	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディアカ
	2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen
	3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版
評価方法 (基準)	グループでの学習成果(提出物)や個人課題の提出物、演習への参加姿勢(ピア評価)を含め点数評価;60点 演習を終えての課題レポート;40点			
学生への メッセージ	演習中心(GW)に学習を進めていきます。 グループ学習は、個人の参加意識が学習成果に影響します。グループで取り決めた到達目標、自己役割を果たし在宅で療養する人に必要な看護の展開方法や必要な医療処置やセルフケアに必要な支援方法について学習しましょう。			
担当者の 研究室等	後閑容子 7号館 3階 第8研究室 田中結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 坂本結美子 7号館 3階 共同研究室1			
備考	演習内容によっては、2コマ続きがあります。時間割の確認を怠らないことと全出席ができるように体調管理・生活管理をしてください。			

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 結華, 後閑 容子, 坂本 結美子, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>実習目的 在宅で看護を必要としているあらゆるライフステージにある人々やその家族の生活の実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																		
到達目標	<p>到達目標 1) 訪問看護ステーションの組織・機構の概要について述べられる。 2) 地域看護における訪問看護の特性について述べられる 3) 対象の健康上の問題について述べられる 4) 対象に対する医療・福祉活動の実際について述べられる 5) 対象およびその家族の生活の実際について記述できる 6) 対象およびその家族に対する看護活動の実際について記述できる 7) 対象およびその家族の尊厳と権利を尊重した態度、行動をとることができる</p>																		
授業方法と留意点	<p>1. 看護学臨床実習要項をよく読み理解した上で、在宅実習要項で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2. 実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3. 実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4. 実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実際を見学/体験をする。 5. 実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 訪問看護ステーションで2週間(学内演習3日間、臨地実習7日間)の実習。 2. 実習1日目は、直接実習施設に行くので事前に交通アクセスの把握が必要。 3. 初日より、訪問看護師に同行し在宅療養者のご自宅へ行き看護の実際を学ぶ。 4. 訪問は1日2ケース(2ケース×7日のうち1ケースを継続訪問する)。 5. 2日目からの同行は基礎看護技術を用いて療養者にかかわれるように取り組む。 6. 継続訪問の利用者に対しては、ケース把握(全体像)、問題点の明確化、看護計画の立案という流れを用いて在宅療養者や家族に対する必要な援助を考える。 7. 他機関、他職種との協働の場面もあるので事前学習は確実にしておく。 8. 実習施設の最終日には、指導者を交えたカンファレンスの実施。 9. 学内最終日は、各施設ごとのプレゼンテーションを行い情報の共有と意見交換を行い在宅看護の理解を深める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2, 3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2, 3年次に用いた教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2, 3年次に用いた教科書																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>1. 実習目標の達成度や実習態度を含めて評価 (実習への出席率によって目標の達成が困難な場合は確認・指導します)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。 在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>後閑 容子 7号館 3階 第8研究室 田中 結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 坂本結美子 7号館 3階 共同研究室1</p>																		
備考	<p>体調管理に気をつける。</p>																		

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 結華, 後閑 容子, 坂本 結美子, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>実習目的 在宅で看護を必要としているあらゆるライフステージにある人々やその家族の生活の実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																		
到達目標	<p>到達目標 1) 訪問看護ステーションの組織・機構の概要について述べられる。 2) 地域看護における訪問看護の特性について述べられる 3) 対象の健康上の問題について述べられる 4) 対象に対する医療・福祉活動の実際について述べられる 5) 対象およびその家族の生活の実際について記述できる 6) 対象およびその家族に対する看護活動の実際について記述できる 7) 対象およびその家族の尊厳と権利を尊重した態度、行動をとることができる</p>																		
授業方法と留意点	<p>1. 看護学臨床実習要項をよく読み理解した上で、在宅実習要項で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2. 実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3. 実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4. 実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実践を見学/体験をする。 5. 実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 訪問看護ステーションで2週間(学内演習3日間、臨地実習7日間)の実習。 2. 実習1日目は、直接実習施設に行くので事前に交通アクセスの把握が必要。 3. 初日より、訪問看護師に同行し在宅療養者のご自宅へ行き看護の実際を学ぶ。 4. 訪問は1日2ケース(2ケース×7日のうち1ケースを継続訪問する)。 5. 2日目からの同行は基礎看護技術を用いて療養者にかかわれるように取り組む。 6. 継続訪問の利用者に対しては、ケース把握(全体像)、問題点の明確化、看護計画の立案という流れを用いて在宅療養者や家族に対する必要な援助を考える。 7. 他機関、他職種との協働の場面もあるので事前学習は確実にしておく。 8. 実習施設の最終日には、指導者を交えたカンファレンスの実施。 9. 学内最終日は、各施設ごとのプレゼンテーションを行い情報の共有と意見交換を行い在宅看護の理解を深める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2, 3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2, 3年次に用いた教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2, 3年次に用いた教科書																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>1. 実習目標の達成度や実習態度を含めて評価 (実習への出席率によって目標の達成が困難な場合は確認・指導します)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。 在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>後閑 容子 7号館 3階 第8研究室 田中 結華 7号館 3階 第9研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 坂本結美子 7号館 3階 共同研究室1</p>																		
備考	<p>体調管理に気をつける。</p>																		

科目名	家族看護学	科目名(英文)	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 裕子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	看護職は患者とともに家族を看護の対象として、またチーム医療の構成員として協働する者と捉えて、看護を行う。本科目は、家族看護学の歴史や概念を理解し、家族を理解するための理論を学ぶ。さらに、実践の場において活用できるように、実際例を通して、家族への看護のアセスメント、計画、をとおして看護職の役割りを学ぶ。具体的には、家族看護過程に沿った展開を学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護学の概念を理解する。 2. 家族を理解するための理論を学ぶ。 3. 家族アセスメントモデルを理解する。 4. 家族看護過程を学ぶ。 5. 家族看護における看護者の役割を学ぶ。
授業方法及び留意点	講義及び演習を取り入れて、具体的に学習できるようにする。講義においては、既学習における学びをもとに、家族看護学における理論の学びを深め、さらに、実際例をとおして看護過程の展開を学ぶ。そのために、看護学の専門領域で学んだことを復習することを期待する。
科目学習の効果(資格)	看護学部3年生を対象とした授業科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	家族看護学とは何か	家族看護学の定義、目的 家族看護学に求められているもの 家族のセルフケア機能	テキスト第1章を読んでくる
2	看護学における家族の理解	わが国の家族 家族と健康	国民衛生の動向から、人口、世帯数、世帯構造の推移を学習
3	家族を理解するための理論1	家族発達理論	テキストの予習
4	家族を理解するための理論2	家族システム理論	テキストの予習
5	家族w理解するための理論3	家族ストレス対処理論	テキストの予習
6	家族看護過程 1	家族看護アセスメント 看護計画の立案	テキストの予習
7	家族看護アセスメントモデル1	カルガリーアセスメントモデル等	事前配布資料の学習
8	家族看護アセスメントモデル	ジェノグラム、エコマップの学習	事前配布資料の学習
9	家族看護アセスメントモデル	フリードマン家族アセスメントモデル	テキスト予習
10	家族看護アセスメントモデル	家族生活力量モデル、家族エンパワメントモデル	テキスト予習
11	家族看護の実際例を学ぶ 家族看護計画の実践	在宅療養者と家族の事例展開 グループによる学習	配布資料の予習
12	家族看護の実際例を学ぶ 2 家族看護計画の実践	在宅療養者と家族の事例展開 グループによる学習	グループ検討の資料
13	家族看護の実際例を学ぶ 3 家族看護計画の実践	在宅療養者と家族の事例展開 グループによる学習	事前配布資料の予習
14	家族看護の実際例を学ぶ 4 家族看護計画の実践	在宅療養者と家族の事例展開 グループによる学習;発表と学習の共有化	グループ検討資料の確認
15	家族看護学のまとめ	授業の振り返り 看護者の役割と援助姿勢	今までの振り返り

関連科目	授業中に紹介する
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族看護学 理論と実践	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族看護学 理論・実践・研究	村田恵子ほか訳	医学書院
2	家族のケア 家族へのケア	上野千鶴子ほか	岩波書店	
3	長期療養を支える家族ケア	渡辺裕子	医学書院	

評価方法(基準)	期末試験、グループ学習への参加の程度などを総合的に評価する。授業への欠席の多い場合、期末試験を受けることはできない。期末試験80%、グループ学習への貢献度20%を予定している。
学生へのメッセージ	看護学実習に入る前に、家族は看護の対象であり、時には、患者への看護の協働者でもあることを理解し、実際の看護に活用できる学びを期待する。予習復習をすること、グループ学習への積極的な参加を期待する。
担当者の研究室等備考	教員研究室は7号館3階。

科目名	看護倫理	科目名 (英文)	Nursing Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	鎌田 佳奈美, 赤井 由紀子, 泉川 孝子, 神戸 美輪子, 白田 久美子, 竹中 泉, 田中 結華, 松田 千登勢, 眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	あらゆる対象や看護場面で遭遇する倫理的諸問題に対する感受性を高め、倫理原則や理論を用いて、倫理問題の解決に向けた姿勢を育む。
到達目標	1. 倫理理論、倫理原則、諸概念について理解する。 2. 倫理問題に関わる人々の立場や背景を理解し、考慮できる。 3. あらゆる側面から倫理的に判断する素地を身に付ける
授業方法と留意点	統合実習で各学生が体験した倫理場面を取り上げ、課題を見出す。1事例を選択し、各グループで課題の整理および倫理課題のアプローチ方法に基づき、倫理的課題の整理および検討を行う。各グループで検討した内容のプレゼンテーションを行い、学びを共有する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	倫理的課題の抽出	統合実習で各学生が体験した倫理場面についてグループで話し合い、課題を見出す	グループ検討
3	看護倫理とは倫理課題へのアプローチ	看護における倫理倫理原則に基づくアプローチ法について	看護倫理における概念を調べておく 講義内容をまとめる
4	倫理課題へのアプローチの実際	各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する	課題についてグループワーク
5	倫理課題へのアプローチの実際	・各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する ・プロダクトを作成し発表の準備を行う	課題についてグループワーク
6	患者の権利尊重と倫理問題 (基礎)	患者の権利擁護にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
7	老年患者の権利尊重と倫理問題 (老年)	高齢者、認知症患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
8	慢性期成人患者の権利尊重と倫理問題 (成人慢性)	慢性期にある成人患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
9	精神患者の権利尊重と倫理問題 (精神)	精神疾患患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
10	生命の尊重と倫理問題 (母性)	母体保護、出産をめぐる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
11	子どもと家族の権利尊重と倫理問題 (小児)	子どもと家族にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
12	急性期成人患者の権利尊重と倫理問題 (成人急性)	急性期にある成人患者にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
13	分娩・出産にまつわる倫理問題 (助産)	遺伝子、生殖補助医療の現状と生命倫理の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
14	在宅療養者の権利尊重と倫理問題 (在宅)	在宅療養者と家族にかかる倫理問題の検討	検討事例について事前学習 全体意見を受けてプロダクト作成
15	まとめ	看護者としての倫理的態度、看護観を明確にする	授業内に指示する

関連科目	生命倫理、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、助産学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、在宅看護学概論、全看護学実習
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	各領域から指示する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	9領域のからの課題が各10%、小テスト10%
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	統合実習では、看護倫理の授業を意識し、倫理的な感受性を高めて下さい。 また、皆さんが体験した倫理場面に応じて検討、プレゼンテーションがなされるため、シラバス内容および順番が変更する可能性があります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 鎌田研究室17、各実習担当教員他
----------	------------------------

備考	・グループワーク課題内容については、統合実習担当教員からフィードバックする ・事前事後学習の総時間15時間程度
----	--

科目名	看護教育学	科目名(英文)	Nursing Education
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期後半	授業担当者	竹中 泉
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	看護教育制度の歴史の変遷や現状を知り、継続教育の必要性を理解し、教育方法や教育評価について学ぶ。具体的には、看護教育制度、看護教育課程、看護継続教育、看護教育学における倫理的基盤、看護教育方法、教育目標・計画等の立案および看護教育評価等に関する基礎的知識を学ぶ。																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護教育の歴史の変遷と看護教育制度について理解する。 2. 教育課程編成の考え方と基本的内容を理解する。 3. 成人教育における学習理論について理解し、主体的・自発的学習について自らの取組みを明らかにする。 4. 看護教育の場における倫理の重要性と倫理的問題について考え、自己の倫理観を再考する。 5. 看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価の変遷について理解する。 																																																																		
授業方法と留意点	看護教育の歴史の変遷や現状に興味をもてるよう、社会背景の変化と比較しながら講義する。 看護教育課程は、社会のニーズを踏まえて構築されると同時に、国家資格を得るために必要不可欠な法的基盤との関係性について説明する。 看護職の自律について考え、自己の課題と将来展望について討議し、専門職として自己のキャリア形成に結び付けられるようにする。 教授学習過程は到達をめざす目標に向かって、何を教授する必要があるのか吟味し、内容に応じた方法論が必要であり、評価が次のステップの重要な指標となることをグループや全体で討議しながら理解できるよう展開する。また、これまでの学習経験を振り返ることにより、自己評価能力を高める必要性を自覚できるようにする。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護教育制度</td> <td>看護教育の歴史の変遷と看護教育制度</td> <td>事前学習：自分自身が看護を学ぶ場として大学を選んだ理由を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育・看護学教育・看護教育学の定義を整理する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護教育課程</td> <td>指定規則と看護学基礎教育課程の関係、カリキュラムデザイン</td> <td>事前学習：保健師助産師看護師法における保健師助産師看護師学校養成所指定規則について読んで受講する。 事後学習：自身が学んできたカリキュラムを通して科目間の関連や履修の時間がどのように学習経験に影響しているか検討する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>生涯教育と看護継続教育</td> <td>看護職としてのキャリア形成</td> <td>事前学習：キャリアの定義を説明できるように準備する。 事後学習：自己のキャリア目標・ビジョンを表現する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>成人教育における学習理論</td> <td>主体的・自発的学習</td> <td>事前学習：学生生活の中でどのような場合に学習意欲が高まったか説明できるように準備する。 事後学習：自己の看護を学ぶことへの動機づけは何か考察する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>看護教育学における倫理的基盤</td> <td>看護教育の場における倫理の重要性と倫理的問題</td> <td>事前学習：看護を学ぶ過程で倫理の重要性を感じた状況を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育の場における倫理的問題についての対策を整理する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(1)</td> <td>教授学習過程、看護学教育における授業形態と授業方法</td> <td>事前学習：講義・演習・実習それぞれの授業方法の特徴を説明できるように準備する。 事後学習：学習内容と授業形態の選択について整理する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(2)</td> <td>看護学教育評価</td> <td>事前学習：評価に関する自己の考えを説明できるように準備する。 事後学習：教育評価の意義について整理する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>看護教育学の課題と展望</td> <td>看護教育学の学習内容の整理、看護教育学の課題と展望</td> <td>事前学習：看護教育学の課題は何か説明できるように準備する。 事後学習：看護教育学の課題を整理し、展望についてまとめる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	看護教育制度	看護教育の歴史の変遷と看護教育制度	事前学習：自分自身が看護を学ぶ場として大学を選んだ理由を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育・看護学教育・看護教育学の定義を整理する。	2	看護教育課程	指定規則と看護学基礎教育課程の関係、カリキュラムデザイン	事前学習：保健師助産師看護師法における保健師助産師看護師学校養成所指定規則について読んで受講する。 事後学習：自身が学んできたカリキュラムを通して科目間の関連や履修の時間がどのように学習経験に影響しているか検討する。	3	生涯教育と看護継続教育	看護職としてのキャリア形成	事前学習：キャリアの定義を説明できるように準備する。 事後学習：自己のキャリア目標・ビジョンを表現する。	4	成人教育における学習理論	主体的・自発的学習	事前学習：学生生活の中でどのような場合に学習意欲が高まったか説明できるように準備する。 事後学習：自己の看護を学ぶことへの動機づけは何か考察する。	5	看護教育学における倫理的基盤	看護教育の場における倫理の重要性と倫理的問題	事前学習：看護を学ぶ過程で倫理の重要性を感じた状況を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育の場における倫理的問題についての対策を整理する。	6	看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(1)	教授学習過程、看護学教育における授業形態と授業方法	事前学習：講義・演習・実習それぞれの授業方法の特徴を説明できるように準備する。 事後学習：学習内容と授業形態の選択について整理する。	7	看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(2)	看護学教育評価	事前学習：評価に関する自己の考えを説明できるように準備する。 事後学習：教育評価の意義について整理する。	8	看護教育学の課題と展望	看護教育学の学習内容の整理、看護教育学の課題と展望	事前学習：看護教育学の課題は何か説明できるように準備する。 事後学習：看護教育学の課題を整理し、展望についてまとめる。	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	看護教育制度	看護教育の歴史の変遷と看護教育制度	事前学習：自分自身が看護を学ぶ場として大学を選んだ理由を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育・看護学教育・看護教育学の定義を整理する。																																																																
2	看護教育課程	指定規則と看護学基礎教育課程の関係、カリキュラムデザイン	事前学習：保健師助産師看護師法における保健師助産師看護師学校養成所指定規則について読んで受講する。 事後学習：自身が学んできたカリキュラムを通して科目間の関連や履修の時間がどのように学習経験に影響しているか検討する。																																																																
3	生涯教育と看護継続教育	看護職としてのキャリア形成	事前学習：キャリアの定義を説明できるように準備する。 事後学習：自己のキャリア目標・ビジョンを表現する。																																																																
4	成人教育における学習理論	主体的・自発的学習	事前学習：学生生活の中でどのような場合に学習意欲が高まったか説明できるように準備する。 事後学習：自己の看護を学ぶことへの動機づけは何か考察する。																																																																
5	看護教育学における倫理的基盤	看護教育の場における倫理の重要性と倫理的問題	事前学習：看護を学ぶ過程で倫理の重要性を感じた状況を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育の場における倫理的問題についての対策を整理する。																																																																
6	看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(1)	教授学習過程、看護学教育における授業形態と授業方法	事前学習：講義・演習・実習それぞれの授業方法の特徴を説明できるように準備する。 事後学習：学習内容と授業形態の選択について整理する。																																																																
7	看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(2)	看護学教育評価	事前学習：評価に関する自己の考えを説明できるように準備する。 事後学習：教育評価の意義について整理する。																																																																
8	看護教育学の課題と展望	看護教育学の学習内容の整理、看護教育学の課題と展望	事前学習：看護教育学の課題は何か説明できるように準備する。 事後学習：看護教育学の課題を整理し、展望についてまとめる。																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	看護学概論、看護関係法規その他これまでに学んだ全ての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護教育学 第5版増補版</td> <td>杉森みどり/舟島なをみ</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護教育学 第5版増補版	杉森みどり/舟島なをみ	医学書院	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	看護教育学 第5版増補版	杉森みどり/舟島なをみ	医学書院																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う</td> <td>クレグ美鈴/池西悦子</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う	クレグ美鈴/池西悦子	南江堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う	クレグ美鈴/池西悦子	南江堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 60%、課題・グループワーク 40%																																																																		

学生への メッセージ	看護職として成長することは、人として成長することである。今の自分に向き合い、自分自身について考え、自己の課題を明確にして取り組んでほしい。
担当者の 研究室等	7号館・3階 研究室3 (竹中)
備考	

科目名	国際看護学	科目名(英文)	International Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	国際看護学は、地球上に生活するすべての人々の生活と健康、社会やその環境から生じる健康問題をミクロ・マクロの視点からとらえ、看護者として持つべき基礎的知識・態度・行動を育成することを目的とする。また異文化(多文化共生) 地域における保健・医療・看護の現状および在日外国人や海外在留邦人の健康・健康問題についても理解を深める。																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の概念・意義について理解できる 2. 国際保健・看護活動にかかわる国際機関および活動について理解できる 3. 世界の人々の健康状況とプライマリヘルスケアの活動について理解できる 4. 異文化を考慮した看護活動について考察できる 5. 国際間の看護者間協力の必要性について理解できる 6. 世界の保健・医療・看護について概観する 																																																																		
授業方法と留意点	授業は講義の他、学習課題に基づいたグループワークなどを取り入れる。 テキスト使用およびプリント配布																																																																		
科目学習の効果(資格)	「海外医療セミナー」を履修するための必須科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 国際看護学の概念</td> <td>授業の進め方の確認 ・国際看護の概念 ・国際看護学の必要性</td> <td>「国際看護学」に期待すること、関心あることを各自まとめる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際社会の現状と看護の課題</td> <td>・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション ・国連ミレニアム開発目標 ・人間の安全保障</td> <td>事前：テキスト第1章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国際看護活動の範囲</td> <td>・活動範囲 ・海外における看護活動</td> <td>事前：テキスト第2章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>国際看護活動の推進</td> <td>・国際援助・国際協力組織 WHO ・日本の国際協力活動 ODA、GO・NGO</td> <td>事前：テキスト第3章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>国際看護活動の展開プロセス</td> <td>・地域把握 ・プロジェクト ・実施のための評価</td> <td>事前：テキスト第4章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>異文化理解と国際看護活動</td> <td>・異文化理解 ・国際看護活動に必要な能力</td> <td>事前：テキスト第5章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国際看護活動の実際</td> <td>・国際看護活動の側面 ・協力活動の実際 ・看護活動の実際</td> <td>事前：テキスト第6章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国際看護への興味関心</td> <td>・海外で学ぶチャンス ・海外で看護職として働くチャンス</td> <td>各自の関心のある内容についてまとめ、ディスカッションする</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 国際看護学の概念	授業の進め方の確認 ・国際看護の概念 ・国際看護学の必要性	「国際看護学」に期待すること、関心あることを各自まとめる	2	国際社会の現状と看護の課題	・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション ・国連ミレニアム開発目標 ・人間の安全保障	事前：テキスト第1章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる	3	国際看護活動の範囲	・活動範囲 ・海外における看護活動	事前：テキスト第2章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる	4	国際看護活動の推進	・国際援助・国際協力組織 WHO ・日本の国際協力活動 ODA、GO・NGO	事前：テキスト第3章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる	5	国際看護活動の展開プロセス	・地域把握 ・プロジェクト ・実施のための評価	事前：テキスト第4章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる	6	異文化理解と国際看護活動	・異文化理解 ・国際看護活動に必要な能力	事前：テキスト第5章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる	7	国際看護活動の実際	・国際看護活動の側面 ・協力活動の実際 ・看護活動の実際	事前：テキスト第6章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる	8	国際看護への興味関心	・海外で学ぶチャンス ・海外で看護職として働くチャンス	各自の関心のある内容についてまとめ、ディスカッションする	9	—	—	—	10	—	—	—	11	—	—	—	12	—	—	—	13	—	—	—	14	—	—	—	15	—	—	—
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 国際看護学の概念	授業の進め方の確認 ・国際看護の概念 ・国際看護学の必要性	「国際看護学」に期待すること、関心あることを各自まとめる																																																																
2	国際社会の現状と看護の課題	・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション ・国連ミレニアム開発目標 ・人間の安全保障	事前：テキスト第1章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる																																																																
3	国際看護活動の範囲	・活動範囲 ・海外における看護活動	事前：テキスト第2章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる																																																																
4	国際看護活動の推進	・国際援助・国際協力組織 WHO ・日本の国際協力活動 ODA、GO・NGO	事前：テキスト第3章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる																																																																
5	国際看護活動の展開プロセス	・地域把握 ・プロジェクト ・実施のための評価	事前：テキスト第4章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる																																																																
6	異文化理解と国際看護活動	・異文化理解 ・国際看護活動に必要な能力	事前：テキスト第5章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる																																																																
7	国際看護活動の実際	・国際看護活動の側面 ・協力活動の実際 ・看護活動の実際	事前：テキスト第6章を読んで授業を受ける 事後：関連するニュースを調べる																																																																
8	国際看護への興味関心	・海外で学ぶチャンス ・海外で看護職として働くチャンス	各自の関心のある内容についてまとめ、ディスカッションする																																																																
9	—	—	—																																																																
10	—	—	—																																																																
11	—	—	—																																																																
12	—	—	—																																																																
13	—	—	—																																																																
14	—	—	—																																																																
15	—	—	—																																																																
関連科目	公衆衛生学、地域看護学、文化人類学など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護の統合と実践③国際看護学</td> <td>田村やよい編</td> <td>メディカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護の統合と実践③国際看護学	田村やよい編	メディカルフレンド社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	看護の統合と実践③国際看護学	田村やよい編	メディカルフレンド社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際保健医療学 第3版</td> <td>日本国際保健医療学会編</td> <td>杏林書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際看護・国際保健</td> <td>丸井英二・森口育子・李節子 編</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国際看護学</td> <td>南裕子</td> <td>中山書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際保健医療学 第3版	日本国際保健医療学会編	杏林書院	2	国際看護・国際保健	丸井英二・森口育子・李節子 編	弘文堂	3	国際看護学	南裕子	中山書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	国際保健医療学 第3版	日本国際保健医療学会編	杏林書院																																																																
2	国際看護・国際保健	丸井英二・森口育子・李節子 編	弘文堂																																																																
3	国際看護学	南裕子	中山書店																																																																
評価方法(基準)	定期試験 60%、講義時間内小テスト、課題 (10%)、グループワークなど (30%) の内容を総合して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は選択科目であり、学生が主体的に授業に参加されることを希望します。 選択した学生数および学生のニーズにより授業内容・方法を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 研究室 28 松本																																																																		
備考																																																																			

科目名	臨床看護学演習 I	科目名 (英文)	Clinical Nursing Practice I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子, 金原 京子, 志戸岡 恵子, 辻 琢己, 名草 みどり, 山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【授業概要】 模擬カルテから対象の情報を読み取り、薬学部学生との共同演習を通して、それぞれの医療専門職の視点から明らかになった情報や問題点及び対策を共有し、チーム医療に貢献できる看護師に必要な基本的知識と技術を学習する。</p>
到達目標	<p>【一般目標】 1. 提示された事例に関する様々な情報を模擬カルテから収集して、疾患と治療経過および心理社会的背景といった対象の全体像を説明できる。 2. 対象の情報をアセスメントし、看護上の問題と解決策を明らかにして、他職種にも分かりやすく説明できる。 3. 自分の意見をわかりやすくチームメンバーに伝え、メンバーの意見を尊重し、積極的に効果的なグループ討議に主体的に参加できる。 4. 看護師・薬剤師の医療専門職の役割を理解し、相手の立場を尊重したコミュニケーションを行うことができる。 5. 演習を通して、対象を中心とする治療・看護計画について他職種と共通の理解をもつことの重要性や医療チームの協働・連携の必要性と方法を説明できる。</p>
授業方法及び留意点	<p>看護学部学生のみでのグループで模擬カルテからの情報収集、アセスメント、看護計画の立案、他職種との協働と連携について討議し、課題を作成する。薬学部学生と合同で互いの視点でまとめた事例発表を行い、その後、薬学部学生と合同でグループワークを行い、同じ模擬事例患者における多職種との協働と連携についての課題を作成する。合同グループワークの成果物を合同発表会で共有する。グループワークに積極的に参加すること。個人情報の取り扱いについて留意すること。本演習は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡(ポータル・掲示)は必ず確認すること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>臨地実習でのカルテ読解が円滑になり、実習の学習効果の促進に貢献する。</p>

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	演習の進め方・注意事項について説明する	看護の役割・機能や看護過程を中心とした看護の展開やその思考について、他の科目の学習を振り返っておく。 担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
2	カルテ読解演習 (1)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
3	カルテ読解演習 (2)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
4	カルテ読解演習 (3)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する	
5	カルテ読解演習 (4)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、全体像を把握する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
6	カルテ読解演習 (5)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療の目標および目標達成のための課題を明確にする	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
7	カルテ読解演習 (6)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療の目標および目標達成のための課題を明確にする	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
8	カルテ読解演習 (7)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
9	カルテ読解演習 (8)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
10	カルテ読解演習 (9)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
11	カルテ読解演習 (10)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
12	カルテ読解演習 (11)	一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、課題解決のための具体目標を設定し、介入計画を立案する	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する 異なる職種の視点や考え方について理解する。	
13	カルテ読解演習 (12)	薬学部学生とのグループ討議によって、他職種チームによる医療における協働と連携の在り方について考える	課題レポートの作成	
14	事例発表会 (1)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成	
15	事例発表会 (2)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成	

関連科目 成人看護学概論 I・II、成人看護学援助論 I・II、成人病態看護論、成人看護学援助方法、病理学総論、疾病治療論 I・II、薬物治療学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	関連科目で使用した教科書・参考書、資料など		
2	病気がみえる Vol.2 循環器、Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌、Vol.8 腎・泌尿器科			メディックメディア
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート・課題成果物・参加態度から総合的に評価する。			
学生への メッセージ	臨地実習やその後の実践において必ず必要になる知識・技術を修得する機会です。積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室28 (松本)			
備考				

科目名	臨床看護学演習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Nursing Practice II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子・池田 友美・稲垣 範子・菊田 真穂・小森 浩二・坂本 結美子・塙 由美子・穂迫 享子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>《概要》 看護学生と薬学生との共同演習を通して、医療職の専門性を尊重しつつ、役割分担と連携の必要性を理解し、医療の対象となる人々に対して計画的かつ安定した医療に参画できるようになるために、検査・治療計画の標準化の必要性とクリニカルパス作成に対する看護師と薬剤師の関与を理解し、クリニカルパス作成に必要な基本的知識と技術を学習する。</p> <p>《学習目的》 薬学部学生との共同演習を通して、計画的かつ安定した医療の提供のための検査・治療の標準化の必要性およびそのツールとしてのクリニカルパスについて理解する。クリニカルパス作成における各医療職種への役割と連携のあり方について理解し、チーム医療に貢献できる看護師に必要な基本的能力を修得できる。</p>
到達目標	<p>《一般目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計画的かつ安定した医療に参画できるようになるために、検査・治療計画の標準化の必要性について理解し、説明できる。 2. クリニカルパス作成およびパスに沿った医療の提供における各医療専門職の役割について理解し、説明できる。 3. クリニカルパス作成を通して、看護の視点に立った患者に有効な指導内容及び方法を他職種に提案できる。 4. 自分の意見をわかりやすくチームメンバーに伝え、メンバーの意見を尊重し、積極的に効果的なグループ討議に主体的に参加できる。 5. 看護師・薬剤師の医療専門職の特性を理解し、相手の立場を尊重したコミュニケーションを行うことができる。 6. 演習を通して、患者を中心とする治療・看護計画について他職種と共通の理解をもつことの重要性や医療チームおよび地域の関連機関との協働・連携の必要性と方法について説明できる。
授業方法と留意点	<p>薬学部学生と小グループを編成してグループワークを行い、課題を作成する。成果物は全体発表会にて共有する。グループワークには積極的に参加すること。</p> <p>本授業は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡(ポータル・掲示)は必ず確認すること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>臨床実習においてクリニカルパスが適応されている患者を担当することがある。そのため、実習の学習成果の促進に貢献する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	クリニカルパスの概要・作成・評価(バリエーション)について(1)	授業テーマに関する講義	講義内容の復習
2	クリニカルパスの概要・作成・評価(バリエーション)について(2)	授業テーマに関する講義	講義内容の復習
3	クリニカルパスの概要・作成・評価(バリエーション)について(3)	演習に関するオリエンテーション	講義内容の復習 担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。
4	患者用クリニカルパス作成(1)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。 個人課題を作成する。
5	患者用クリニカルパス作成(2)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
6	患者用クリニカルパス作成(3)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
7	患者用クリニカルパス作成(4)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
8	患者用クリニカルパス作成(5)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
9	患者用クリニカルパス作成(6)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
10	患者用クリニカルパス作成(7)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
11	患者用クリニカルパス作成(8)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。 対象とする疾患に対する各職種のケアの在り方について討議する。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
12	患者用クリニカルパス作成	薬学部生との小グループ討議によって、	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集

	(9)	一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。発表用資料を作成する。対象とする疾患に対する各職種のケアの在り方について討議する。	し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。																
	13	発表 (1)	課題レポートの作成																
	14	発表 (2)	課題レポートの作成																
	15	発表 (3)	課題レポートの作成																
関連科目	成人看護学概論 I II、成人看護学援助論 I II、病態看護論、成人看護学援助方法、病理学総論、疾病治療論 I II、薬物治療学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関連科目の教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	関連科目の教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	関連科目の教科書																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	レポート・課題成果物・参加態度から総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	臨地実習やその後の臨床実践において必要な知識・技術を修得する機会です。積極的に参加してください。																		
担当者の 研究室等	7号館3階 松本研究室 (28)																		
備考																			

科目名	災害看護論	科目名(英文)	Nursing in Disaster
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中山 由美, 京極 多歌子, 松田 千登勢, 森嶋 道子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	災害を体験した対象者の心身の健康問題について理解するとともに、災害時の看護職(看護師、保健師等)の役割、トリアージ方法、救命救急時の看護について学ぶ。具体的には、災害に対応できる看護の知識を養うために、災害の概念、災害看護の定義および被災者のメンタルヘルス、各期における様々な活動の場での支援などについて学習する。また救命救急時の実際として、一次救命処置、二次救命処置、災害時のトリアージ方法について講義、演習を通して学ぶ。?
到達目標	1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。 2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。 3. 災害サイクルに応じた看護支援活動と看護の果たす役割を理解する。 4. 心のケア、トリアージおよび救急救命等を理解する。 5. 個人の備えと地域防災を理解し、具体的な備えを検討できる。 6. 国際的視野での看護活動を理解する。
授業方法と留意点	講義や演習において、配布資料、教科書、ビデオなどを用いる。本講義は、具体的に災害看護を実践できる基礎知識を養うために演習や課題別グループワークなどをおこないますので、積極的に参加してください。
科目学習の効果(資格)	講義、演習およびグループワークを通して災害看護の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	災害看護論の授業概要、災害看護に関する基礎知識	災害看護学を学ぶ意味、災害看護のあゆみ、災害看護について学ぶ。	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
2	災害および災害看護に関する基礎知識 災害時に看護が果たす役割と災害各期の看護活動	健康危機管理、災害の種類と各期などについて学ぶ。	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
3	様々な活動の場の看護活動	病院、避難所、仮設住宅における看護師、保健師、訪問看護師などの活動について学ぶ	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。?
4	災害時に必要な技術(トリアージの概念・方法・課題)	トリアージについて学ぶ。事例での振り分けを行い学びを深める。	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
5	災被災者の心理のプロセスとこころのケア等	被災者の精神的援助について学ぶ。	配布資料およびテキストの該当頁を読んで復習しておくこと。
6	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。演習(グループワーク)	課題別学習したことをまとめておくこと。
7	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。演習(グループワーク)	課題別学習したことをまとめておくこと。
8	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。演習(グループワーク)	課題別学習したことをまとめ、発表の準備をすること。
9	災害の取り組みについて	演習の結果を発表する。	課題別学習した内容を発表し学びを共有する。
10	災害の取り組みについて	演習の結果を発表する。	課題別学習した内容を発表し学びを共有する。
11	国際災害看護活動	海外での災害看護活動の実際と課題について概説する。	授業内容について復習すること。
12	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の支援活動などについて学ぶ。	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。
13	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の支援活動などについて学ぶ。	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。
14	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の支援活動などについて学ぶ。	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。
15	災害時の援助について	演習：一次、二次救急救命措置、災害時の支援活動などについて学ぶ。	演習内容についてテキストなどで事前学習すること。

関連科目	救急看護、臨床心理学、公衆衛生学および公衆衛生看護学
------	----------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	災害看護学・国際看護学	日本赤十字社 事業局看護部 浦川喜久子他	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	災害看護一心得ておきたい基本的な知識	小原真理子監修/酒井明子監修	南山堂
2	災害救護	勝見 敦・小原真理子編集	廣川書店
3			

評価方法(基準)	学期末試験 60%、授業参加状況 30%、演習時のレポート 10%で評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	災害が頻繁に起こっており、看護職者として支援の役割があると考えますので、災害への関心を持ってもらい、積極的に課題に取り組んで欲しいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館研究室2(中山由美)、研究室6(松田千登勢)
----------	---------------------------

備考	京極多歌子非常勤講師が2コマ担当する。 12~15回の演習については、授業担当者に加え、森嶋道子教員が担当する。
----	---

科目名	研究入門	科目名(英文)	Introduction to Research
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	研究とはまだ明らかになっていないことを明らかにするため、科学的手法を用いてデータを収集し、科学的推論によって仮説を検証する一連のプロセスである。本科目では、卒業研究を行う前に理解しておくべき研究についての基本的な事柄について学習し、受講者が研究とは何か、データをどのように収集するのか、集めたデータをどのように要約するのか、要約したデータをどのように解釈するのかなどのプロセスを踏まえて研究を行える能力を養う。また、研究倫理について学ぶ。
到達目標	研究の意義、目的、方法、プロセスなどを理解し、研究の基礎を習得する。研究倫理の意味と重要性を理解し、研究不正の重大性を理解する。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果(資格)	研究を進めるうえでの具体的プロセスがわかるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	研究とは何か	研究の役割、種類、プロセス	・第1回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
2	研究テーマ(1)	研究テーマを見つける	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
3	研究テーマ(2)	リサーチ・クエスチョンと概念モデル	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
4	研究の倫理	研究実施に必要な倫理的配慮と科学的姿勢の重要性	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
5	文献の検索方法	文献検索の必要性和方法	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
6	量的研究の概要	研究の種類、研究デザイン、対象者の抽出	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
7	量的研究のデータ収集(1)	質問票の目的、構成、作成方法	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
8	量的研究のデータ収集(2)	質問票の作成	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
9	量的研究のデータ分析	データの入力と分析	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
10	質的研究の概要	研究の種類、データの収集・分析法	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
11	質的研究のデータ収集・分析	インタビューガイドとデータ分析	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分)

				と (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)																
	12	文献の読み方	文献の構造と内容	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)																
	13	研究計画書の書き方	研究計画書の構成と内容	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)																
	14	論文の書き方	論文の構成とまとめ方、引用文献、図表作成	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)																
	15	疫学研究と倫理	医学研究と倫理の歴史、日本の薬害の歴史、研究倫理に関する日本法令・指針	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・わからない点を解決すること (適宜)																
関連科目	疫学・保健統計																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>楽しくなる看護研究</td> <td>上野栄一 出口洋二 一ノ山隆司</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	楽しくなる看護研究	上野栄一 出口洋二 一ノ山隆司	メヂカルフレンド社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	楽しくなる看護研究	上野栄一 出口洋二 一ノ山隆司	メヂカルフレンド社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、研究入門を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁 ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い 																			
担当者の研究室等	7号館3階24																			
備考	なし																			

科目名	看護研究Ⅰ	科目名(英文)	Nursing Research I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「研究入門」の学びをもとに、看護実践上の問題解決にむけ、看護研究の意義を理解し看護研究の実施(遂行)に必要な基礎的知識を習得するとともに、研究成果を活用して科学的に探究する基礎的能力を養う。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践上の問題解決のために、研究成果を活用する意義を理解できる。 2. 研究方法の種類と基本的手法を理解できる。 3. 研究論文の検索、クリティークの方法を理解できる。 																		
授業方法と留意点	看護研究の目的や研究方法、研究プロセス、研究手法、看護研究論文のクリティーク等について、担当教員のもとで学習する。これらの学びを4年次開講の「看護研究Ⅱ」に発展させる。 具体的な学習方法や課題、スケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項(ポータル・掲示等)を見落とさないように留意すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回目 担当教員から看護研究をすすめる上で、研究倫理および研究不正防止について、詳細に説明を受ける。</p> <p>第2回目以降 担当教員の指示を受け研究をすすめる。</p>																		
関連科目	研究入門、看護研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の達成状況および参加態度等に基づいて総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	研究入門を基盤にし、興味のある分野で看護研究の方法を学びます。しっかり復習をしておいて下さい																		
担当者の研究室等	各担当教員の研究室																		
備考	看護研究ⅠとⅡは同じ講師以上の教員が担当する。																		

科目名	看護研究Ⅱ	科目名(英文)	Nursing Research II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	後閑 容子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「研究入門」「看護研究Ⅰ」の学びをもとに、人や看護に対して関心や疑問をもち、それらを探究できるような研究的・倫理的態度と方法論を習得する。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、担当教員のもとで、研究計画書の作成、研究への取り組み、論文作成、発表を行う。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人や看護に関する疑問を研究テーマにすることができる。 2. 研究計画書を作成できる。 3. 研究対象者に対し倫理的配慮ができる。 4. テーマに沿った研究への取り組みができる。 5. 研究成果を論文にすることができる。 6. 研究成果を発表できる。 																		
授業方法と留意点	担当教員のもとで研究をすすめること。具体的な方法やスケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項（ポータル、掲示）を見落とさないように留意すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の指示を受け研究をすすめる。 ・研究における倫理的配慮について、担当教員から指導を受ける。 ・研究計画書を作成する。 ・研究計画書に沿って研究を実施する。 ・人を対象とする研究の場合は必ず研究倫理審査を受ける。 ・倫理審査を受けるため、指導教員から指導を受けて申請書類作成する。 ・論文作成時の不正について担当教員より説明を受ける。 ・研究結果に基づいて忠実に論文を作成し、発表する。 																		
関連科目	「研究入門」「看護研究Ⅰ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	成果物およびプレゼンテーションなどルーブリック指標を用いて評価を行う																		
学生へのメッセージ	自ら積極的・計画的に研究をすすめて下さい。																		
担当者の研究室等	各担当教員研究室																		
備考	看護研究Ⅰ・Ⅱは、原則として同じ講師以上の教員が担当する。																		

科目名	総合看護学演習	科目名(英文)	Seminar in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	後閑 容子, 池田 友美, 泉川 孝子, 荻田 喜代一, 神戸美輪子, 小崎 篤志, 小堀 栄子, 白田 久美子, 竹中 泉, 田中 結華, 松田 千登勢, 山本 智津子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	4年間の学習内容を総合的に振り返り、専門基礎科目、専門科目を統合して、横断的に学習する。また、学生自ら本学で学習した必要な知識を系統的に整理し、理解することで、看護を行う上での基盤を形成し、加えて、将来にわたり主体的に学習が継続できる力を養う。																																																																		
到達目標	1. これまでに学習した学習内容の知識を系統的に整理し、理解する。 2. 自ら主体的に学習を継続することができる。																																																																		
授業方法と留意点	各専門科目をオムニバス形式で、講義および演習形式で実施する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	看護師国家資格																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>人体の構造と機能</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>2</td><td>薬理学総論・薬物治療学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>3</td><td>病理学総論</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>4</td><td>疾病・治療論</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>5</td><td>公衆衛生</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>6</td><td>統合看護・関係法規</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>7</td><td>基礎看護学Ⅰ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>8</td><td>基礎看護学Ⅱ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>9</td><td>成人看護学Ⅰ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>10</td><td>成人看護学Ⅱ</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>11</td><td>老年看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>12</td><td>在宅看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>13</td><td>母性看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>14</td><td>小児看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>15</td><td>精神看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	人体の構造と機能	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	2	薬理学総論・薬物治療学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	3	病理学総論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	4	疾病・治療論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	5	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	6	統合看護・関係法規	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	7	基礎看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	8	基礎看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	9	成人看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	10	成人看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	11	老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	12	在宅看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	人体の構造と機能	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
2	薬理学総論・薬物治療学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
3	病理学総論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
4	疾病・治療論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
5	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
6	統合看護・関係法規	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
7	基礎看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
8	基礎看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
9	成人看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
10	成人看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
11	老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
12	在宅看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
関連科目	全専門基礎科目、全専門科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>授業中に資料を配布する</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に資料を配布する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業中に資料を配布する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問</td><td>東京アカデミー</td><td>東京アカデミー</td></tr> <tr><td>2</td><td>看護学生スタディガイド</td><td>池西静江、石東佳子</td><td>照林社</td></tr> <tr><td>3</td><td>レビューブック</td><td>岡庭 豊</td><td>MADIC MADIKA</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー	2	看護学生スタディガイド	池西静江、石東佳子	照林社	3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー																																																																
2	看護学生スタディガイド	池西静江、石東佳子	照林社																																																																
3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																																
評価方法(基準)	定期試験2回分の合計得点で評価する。 (但し、全ての臨時試験を受験しておくことを定期試験の受験要件とする)																																																																		
学生へのメッセージ	全看護学の総合的な科目です。自己の学習を進めながらしっかり復習をしていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等備考	各担当教員の研究室																																																																		

科目名	統合看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	後閑 容子, 青野 美里, 赤井 由紀子, 池田 友美, 泉川 孝子, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 小川 宣子, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子, 神戸 美輪子, 北村 敦子, 金原 京子, 坂本 結美子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 白田 久美子, 竹下 裕子, 竹中 泉, 但馬 まり子, 田中 真佐恵, 田中 結華, 中山 祐一, 中山 由美, 名草 みどり, 福山 智子, 穂迫 享子, 松田 千登勢, 松本 葉子, 眞野 祥子, 宮本 雅子, 森嶋 道子, 森谷 利香, 山本 智津子, 山本 十三代, 吉井 輝子, 吉川 有葵
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>【授業の概要】 自らが関心のある看護専門領域(対象領域;基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、小児看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域)を選択し、指定の実習施設において実習を行う。</p> <p>【実習目的】 自らが関心のある看護領域において自己の課題解決を目指し、これまでに学習した看護を統合して、対象者の健康課題を明らかにするとともに、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働・連携し、必要な看護を考え提供するための能力を養う。また、その看護実践の基盤となる看護観と倫理観を育み、自己の課題の達成状況を評価し、さらなる看護実践能力と問題解決能力を高めるため、専門職業人として自己研鑽し続ける能力を身につける。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践上の自己の課題を明確にし、その解決をめざして主体的に実習に取り組むことができる。 2. 既習の知識・技術・態度を統合して看護の対象者を全人的に捉え、健康課題を明らかにし、看護を実践できる。 3. 看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他の医療専門職者との協働・連携の必要性を説明できる。 4. 実習を通して、自らの看護に対する考えを深め、看護観を説明できる。 5. 倫理的視点で看護実践を捉え、人間の尊厳と権利を尊重した行動ができ、自らの倫理観を説明できる。 6. 生涯にわたり看護専門職者として成長し続けるために、自己の課題の達成状況および看護実践過程や方法を振り返ることを通して、主体的に自己研鑽に取り組む必要性を説明できる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習1日目は、学内において領域別にオリエンテーションを受ける。午後より、看護管理について受講する。 2. 実習2日目より、領域別臨地実習をおこなう(詳細については、各領域の実習要綱参照)。 3. 実習最終日は、学内において領域別に実習目標の達成の成果、学びを深める。 <p>【留意事項】 統合実習要綱を熟知し、実習に臨む。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当教員の指示をうけること。																
関連科目	専門基礎科目・専門科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各領域で指定する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各領域で指定する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	各領域で指定する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容・態度・記録を指標を用いて評価する。																
学生へのメッセージ	これまでの学習内容を統合したまとめの実習です。自らの課題を克服できるよう目標を定め実習に臨んで下さい。																
担当者の研究室等	全ての担当教員																
備考																	

科目名	周産期医学	科目名(英文)	Perinatal Medicine
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	赤井 由紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	最新の周産期医療現場で必須の知識を修得し、異常に対する診断および治療法を理解する。 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。演習では新生児蘇生を学ぶ
到達目標	1. 周産期医療で必須の知識を修得する。 2. 異常に対する診断および治療法を理解する。 3. 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。 4. 演習では縫合術と新生児蘇生(NCPR)を習得する。
授業方法及び留意点	産科：集中講義の形での授業になるため、知識や技能の修得や定着のために時間を割くことが難しい。事前の学習が必須であるため、かならず事前課題の確認を行うこと。 新生児科：テキストおよび配布するプリント等により授業を行います。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験に合格するとともに、実際の現場で異常を察知し対応できるために、知識ならびに手技・手法を身に付ける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	周産期医学とは	産婦人科から見た周産期についての概略と歴史、母子手帳の変遷と妊婦の健診について	別紙
2	新生児の異常兆候	新生児の異常兆候	事前：なし 事後：講義の復習
3	妊娠による母体の変化と異常-1	妊娠による母体の変化と異常(初期：悪阻、切迫流産、流産、異所性妊娠、胎状奇胎) 実技：縫合練習	別紙
4	新生児蘇生	新生児蘇生について、演習含む	事前：なし 事後：講義の復習
5	新生児の疾患-1	呼吸器疾患、分娩外傷、感染症など	事前：なし 事後：講義の復習
6	妊娠による母体の変化と異常-2	妊娠による母体の変化と異常(中期：切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群、後期：子宮内胎児発育制限、血液型不適合、感染症) 実技：縫合練習	別紙
7	分娩の生理と異常-1	分娩の生理と異常(分娩の三要素とそれらの異常、対処方法…胎位異常、微弱陣痛、遷延分娩、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、肩甲難産)	別紙
8	分娩の生理と異常-2	分娩の生理と異常(産科救急：分娩時出血、妊娠合併症、アナフィラキシー、意識消失)	別紙
9	新生児疾患-2	循環器疾患、消化器疾患、血液疾患など	事前：なし 事後：講義の復習
10	周産期を取り巻く状況について	産科合併症や社会的な問題に助産師が対処してゆくために必要な知識と問題点について。	別紙
11	ハイリスク新生児とその対応	ハイリスク新生児とその対応(低出生体重児・早産児を含む)	事前：なし 事後：講義の復習
12	産褥期の異常-1	産褥期の異常-1(子宮内反症、子宮破裂、羊水塞栓、産科的異常出血) 実技：縫合実習	別紙
13	妊娠合併症	妊娠合併症(妊娠糖尿病、甲状腺機能異常、浮腫、マイナートラブル)	別紙
14	合併症妊娠	合併症妊娠(感染症：HIV、HTLV、GBS、クラミジア、麻疹、ムンプス、リンゴ病。心疾患、腎疾患、免疫疾患)	別紙
15	周産期の話題	周産期の話題とこれからの助産師のありかた	別紙

関連科目	助産学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ
------	-----------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	目でみる妊娠と出産 (Visual series)	馬場 一憲	文光堂
2	日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト2015改訂版	細野 茂春	メジカルビュー社
3	新生児学入門第4版	仁志田 博司	医学書院

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	産科：事前課題の提出、授業への参加、および試験 新生児科：講義内で行う小テスト等、および演習への参加意欲などにより評価します。
学生へのメッセージ	産科：集中講義と演習になりますので、密度の高いものにするために事前の準備や知識の整理が必要です。事前課題に取り組む中、あるいは、今までの実習などを通して抱いた疑問をしっかりとって講義に参加してください。

	新生児科：正しい知識に基づいた、自ら考える医療を実践していくために、新生児時期の特徴的な疾患と病態を理解し学習しましょう。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	助産学概論	科目名(英文)	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	赤井 由紀子・宮本 雅子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、助産学の理論と助産学の発展のために必要な、助産ケアの実践能力の基礎への理解を深めます。そして、専門職として社会から期待される助産師の役割について考えていきます。
到達目標	助産学の理論を理解し、学んだ理論を助産ケアと関連づけて考えることができる。さらに、助産師の役割を認識することができる。
授業方法と留意点	講義とグループワークを中心に進めていきます。毎回の講義の振り返りをしてください。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産とは	助産とは何かを軸に、助産の起源、概念の変遷と社会的背景の関連について述べる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
2	助産の概念	助産に関係する概念(リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーなど)と、助産診断について概説する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
3	助産師の歴史と文化	助産の歴史、産育習俗について説明の後、課題の提示をする。	事前学習：なし 事後課題：講義の復習と課題を調べる
4	助産と法律	①助産師教育の変遷からの学びを深め、これからの助産師のあり方を考える。②助産師をとりまく法律について理解し、助産業務に関する法律について考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
5	助産学の理論	助産学を構成する理論について学習する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
6	日本と諸外国の母子保健ー1	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
7	日本と諸外国の母子保健ー2	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前学習：なし該当部分を読んでくる 事後課題：講義の復習と課題を調べる
8	助産師と倫理	今日の倫理的課題と助産師の役割・職業倫理	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
9	グループワーク 1	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス(DV含む)についてグループワークをする	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
10	グループワーク 2	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス(DV含む)についてグループワークをする	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
11	専門職としての助産師	専門職のあり方と助産業務について考える。 講師：日本助産師会会長 岡本喜代子	事前学習：発表できる準備 事後課題：講義の復習
12	専門職としての助産師	専門職のあり方と助産業務について考える。 講師：日本助産師会会長 岡本喜代子	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
13	グループワークの発表	グループ発表の内容から、我が国の助産師に期待されること、専門職としての課題について考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
14	助産と研究ー1	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
15	助産と研究ー2	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、周産期医学
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎助産学Ⅰ 助産学概論	我部山キヨ子 他	医学書院
2	基礎助産学〔2〕 母子の基礎科学〔第5版〕	我部山 キヨ子/武谷 雄二 編集	医学書院	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	試験 60%、グループワーク・課題発表 40%
学生への メッセージ	助産師を目指す皆さんが「助産とはなにか」、「看護とどう違うのか」など、助産のあり方について考えていく科目です。助産師としての課題を明確にしていきます。
担当者の 研究室等	7号館3階 赤井(研究室14)、宮本(研究室12)
備考	

科目名	助産診断・技術学 I	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	赤井 由紀子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	妊娠期の診断診断指標の作成と助産過程の展開を通して、助産診断に必要な知識と技術の基本を学ぶ。
到達目標	妊娠期の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理について考察する。また、健康問題を解決するために必要な相談、教育、援助技術の基本を理解する。
授業方法と留意点	学習方法は、グループワークを多く取り入れた内容です。積極的に意見交換をしてください。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産診断学とは	助産診断学とは何か、助産診断の定義と範囲、助産診断類型について学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
2	助産技術学の概要	助産技術の意義と助産診断学・助産技術学の理論構築について学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
3	妊娠の生理・妊娠期の異常・ハイリスク妊娠について	妊娠の生理と妊娠期の心理・社会的変化とアセスメントについて解説する。妊娠期の異常・ハイリスク妊婦への支援について学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
4	妊娠期における検査・薬剤・手術について	超音波断層法・分娩監視装置など妊娠時・分娩時に必要となる検査について学び、妊娠期に用いることができる薬剤について学ぶ。また、妊娠期の産科手術と看護について解説する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
5	妊娠期の助産診断指標について①	妊娠の健康生活診断・経過診断の指標にそって、診断指標を検討する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
6	妊娠期の助産診断指標について②	妊娠の健康生活診断・経過診断の指標にそって、診断指標を検討する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
7	妊娠期の助産診断指標について③	妊娠の健康生活診断・経過診断の指標にそって、診断指標を検討する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
8	妊娠期の助産過程の展開①	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
9	妊娠期の助産過程の展開②	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
10	妊娠期の助産過程の展開③	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。。
11	妊娠期の助産過程の展開④	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
12	妊娠期の助産過程の展開⑤	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
13	妊娠期の助産診断指標の発表	作成した妊娠期の助産診断指標を発表する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
14	妊娠期の助産過程の展開⑥	グループワークの発表	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
15	妊娠期の助産過程の展開⑦	グループワークの発表	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。

関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期	我部山キヨ子 他	医学書院
2	基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 [第4版]	村瀬 聡美/我部山 キヨ子 編集	医学書院
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	試験70%、グループワーク・課題発表30%
-----------	-----------------------

学生へのメッセージ	妊娠期の助産診断の特徴を理解し、診断指標の作成・事例の展開から助産診断について考えていきます。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館3階 赤井 (研究室14)
------------	------------------

科目名	助産診断・技術学Ⅱ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子・赤井 由紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(概要) 産婦の安全・安楽な分娩のために必要な助産診断とケアを実践するための基本を学び、分娩開始・分娩経過の診断、リスクの査定、産婦の心理・社会的側面の診断ができ、状況に応じたケアが実践できる知識と技術の基本について学ぶ。また、分娩進行に伴う異常の発生予測と予防的行動、異常発生時の観察と対処について学習し、産婦のケアと助産師の役割について考える。 (目的) 分娩期の助産診断の特徴と、正常分娩の経過に伴う助産診断、および異常分娩の経過と助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる。
到達目標	1. 分娩期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる 2. 産婦・胎児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる 3. 分娩期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる 4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる 5. 助産診断に基づいて援助計画が立案できる 6. ハイリスク産婦の分娩経過に伴うリスク査定、助産診断と援助について理解できる
授業方法と留意点	講義、および討論・グループワークを中心とする。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	分娩期における助産診断の特徴	事前課題なし 事後課題は、助産診断指標の作成を開始する
2	正常分娩の経過と助産診断(1)	正常分娩の機転、および経過	事前課題は、正常分娩の観察点を予習する 事後課題は、助産診断指標の作成
3	正常分娩の経過と助産診断(2)	正常分娩における各分娩期の特徴と観察点、診断、援助	事前課題は、分娩期の助産ケアについて予習する 事後課題は、助産診断指標の作成
4	正常分娩の経過と助産診断(3)	分娩経過に伴う胎児の健康状態の診断と対処	事前課題は、CTG波形の基本について予習する 事後課題は、助産診断指標の作成
5	正常分娩の経過と助産診断(4)	分娩経過に伴う産婦や家族の心理・社会的背景に関連する助産診断と援助	事前課題なし 事後課題は、助産診断指標の作成
6	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。	事前課題は、助産診断指標の提出 事後課題は、助産過程の展開を行う
7	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、助産過程の展開を行う
8	分娩経過の異常と助産診断	分娩の3要素の異常と診断	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
9	分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症のアセスメントと支援	軟産道裂傷と弛緩出血、産科ショックの原因と対応	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
10	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例の分娩経過に応じた助産過程を展開する。分娩各期の助産診断、診断の根拠、分娩予測、援助計画の発表準備を行う。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、助産過程の展開を行う
11	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例の分娩経過に応じた助産過程を展開する。分娩各期の助産診断、診断の根拠、分娩予測、援助計画の発表準備を行う。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、助産過程の展開を行う
12	助産過程の発表とまとめ(1)	助産診断・助産計画・援助の発表およびグループ討議を行う。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返り助産過程の修正・追加を行う
13	助産過程の発表とまとめ(2)	助産診断・助産計画・援助の発表およびグループ討議を行う。	事前課題は、助産過程の展開を行う 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返り助産過程の修正・追加を行う
14	ハイリスク・異常産婦のアセスメントと支援	身体的・心理的・社会的ハイリスク因子のアセスメントと診断、支援	事前課題は、事例の助産過程の展開資料を提出する 事後課題は、授業の内容を振り返る
15	産科手術を受ける産婦のアセスメントと支援	帝王切開術を受ける産婦の術前術後のアセスメントと支援	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る

関連科目 母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断技術学演習、助産学実習、助産管理論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院
2	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2014	日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編	日本産科婦人科学会
3	胎児心拍数モニタリング口座 改訂2版	藤森敬也	メディカ出版

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新産科学 正常編 改訂22版	荒木勤	東京文光堂本郷
2	最新産科学 異常編 改訂22版	荒木勤	東京文光堂本郷
3	CDブック参加型両親学級ツール集	平山三千代編著	日総研

評価方法 (基準)	定期試験 80% 助産診断指標・助産過程の展開・助産診断と助産計画の発表 20%
学生への メッセージ	助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や自己学習ノートを作成し、要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は授業開始から自主的に開始してください。
担当者の 研究室等	7号館3階 赤井(研究室14)、宮本(研究室12)
備考	助産診断指標や助産過程の展開資料は助産学実習で活用します。

科目名	助産診断・技術学Ⅲ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮本 雅子・但馬 まり子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(概要) 褥婦・新生児経過の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理を学習する。分娩想起や褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦の復古促進や母子の愛着形成促進のためのケアが実践できるよう学習する。そして、母子とその家族を包括したケアの展開をめざし、新しい役割や家族システムの変化への支援を行うための知識・技術の基礎を学習する。また、新生児は正常な適応過程が診断でき、状況に応じたケアを学習する。 (目的) 産褥・新生児期の助産診断の特徴と、経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる
到達目標	1. 産褥・新生児期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる 2. 褥婦・新生児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる 3. 産褥・新生児期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる 4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる 5. 助産診断に基づいて個別指導案を立案できる
授業方法と留意点	講義、およびレポート作成と発表・討論を行う。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	産褥・新生児期における助産診断の特徴	事前課題なし 事後課題は、助産診断指標の内容について復習する
2	産褥・新生児期の助産過程の展開	産褥・新生児期に必要な助産過程の展開の理論・内容・方法	事前課題なし 事後課題は、助産過程の展開を開始する
3	正常産褥期の助産診断	正常な産褥経過の身体的・心理的・社会的側面に関する助産診断	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
4	正常新生児の助産診断	新生児の子宮外適応過程と、生後1か月までの生理的变化	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
5	母乳栄養確立への助産診断と援助	産褥期の進行性変化の助産診断、および母乳育児を促進する援助	事前課題は、助産診断指標の提出 事後課題は、授業の内容を振り返る
6	母子関係・家族形成過程と援助	母子関係形成・育児行動取得・家族形成・産後の家族計画支援に必要な援助	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
7	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と援助	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と必要な援助として、NICU・GCUと母子関係形成への援助、およびディベロップメンタルケア	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
8	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた母子の健康状態、生活および家族計画支援に関する助産計画・個別保健指導を立案する。	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
9	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた母子の健康状態、生活および家族計画支援に関する助産計画・個別保健指導を立案する。	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
10	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた母子の健康状態、生活および家族計画支援に関する助産計画・個別保健指導を立案する。	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産過程と個別指導の発表の準備を行う
11	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた母子の健康状態、生活および家族計画支援に関する助産計画・個別保健指導を立案する。	事前・事後課題 助産過程の展開と個別指導案、教材、発表の準備
12	発表とまとめ(1)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返る
13	発表とまとめ(2)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返る
14	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ(1)	各自の課題に基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題は、助産過程で作成した資料を全て提出する
15	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ(2)	各自の課題に基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題は、助産過程で作成した資料を全て提出する

関連科目
母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習,
小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ,
周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期	横尾 京子 編集	医学書院
2	助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山 キヨ子 編集	医学書院	
3	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健	我部山 キヨ子/毛利 多恵子 編集	医学書院	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 70% 助産過程の展開・個別保健指導計画立案・教材作成・発表、および課題提出 30%			
学生への メッセージ	助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や自己学習ノートを作成し、要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は授業開始から自主的に開始してください			
担当者の 研究室等	7号館3階 宮本(研究室12)			
備考	保健指導案、および教材は助産学実習で活用します			

科目名	助産技術学演習	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮本 雅子, 赤井 由紀子, 但馬 まり子, 穂迫 享子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>(概要)</p> <p>助産師としてケアを提供するために必要な知識、技術、態度について助産診断・技術学の履修内容をもとに、演習を通して統合できる能力を養う。妊婦の診察技術、分娩介助技術、出生時の新生児処置技術、産褥期のケアである乳房マッサージ、褥婦及び新生児の診察について演習を通して学ぶ。助産師の行う業務として分娩介助とともに保健指導は重要な内容である。集団指導、家族指導（家庭訪問、1ヶ月健診時）の方法を演習を通して学ぶ</p> <p>(目的)</p> <p>周産期に必要な母児の診察と処置技術、分娩介助技術、保健指導技術について助産の技法を学修する</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の知識と助産診断をもとに対象者への援助を実施できる 2. 妊産褥婦・新生児の診察と処置の助産技術を習得できる 3. 周産期の保健指導技術を習得できる 4. 分娩介助技術を習得できる 5. 対象者へのケアの提供に対する責任と敬意をもった態度で援助ができる
授業方法と留意点	演習を主に行う。妊産褥婦・新生児への助産技術、および集団指導、分娩介助技術演習を行います
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験、および助産学実習に関わる科目です

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後課題
1	教育・指導・相談活動の基礎理論	<ul style="list-style-type: none"> ・集団指導と個別指導 ・健康教育の概念 ・健康教育の準備・計画 ・健康教育の展開と評価 	事前課題：なし	事後課題：復習
2	指導案作成に必要な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の内容と展開方法 	事前課題：なし	事後課題：復習
3	妊娠期の健康診査	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦のフィジカルアセスメント ・妊婦健診項目と診察技術 	事前課題：妊娠の経過について	事後課題：復習
4	出産準備教育の内容 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教室で妊娠前期・中期・末期におさえておくべき内容 	事前課題：妊娠期の保健指導の項目	事後課題：妊娠期の保健指導の内容について復習
5	出産準備教育の内容 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教室運営の指導案作成 	事前課題：指導案作成と媒体作成	事後課題：指導案作成と媒体作成
6	出産準備教育の実際 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
7	出産準備教育の実際 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
8	産褥期・新生児期のケア (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・褥婦・新生児の診察技術 ・褥婦の退行性変化を促進するケア内容 ・母乳育児支援への援助内容 	事前課題：産褥の経過について	事後課題：復習
9	産褥期・新生児期のケア (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・出生直後の新生児の呼吸確立への援助 ・新生児のフィジカルアセスメント ・インファントウォーマー・保育器の機能と使用 ・母子のアタッチメントの技術 ・新生児の蘇生 	事前課題：胎児循環、新生児の特徴について	事後課題：復習
10	産褥・新生児期のケア (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・沐浴指導の指導案の作成 	事前課題：沐浴に関する学習	事後課題：指導案作成
11	産褥・新生児期のケア (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・沐浴指導の指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表の準備	事後課題：実施後の評価
12	産褥・新生児期のケア (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳育児支援の指導案作成 	事前課題：事例に対する資料収集	事後課題：指導案作成
13	産褥・新生児期のケア (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳育児支援指導案発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
14	産褥・新生児期のケア (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・退院指導の指導案の作成 	事前課題：退院後の退院指導について	事後課題：指導案の作成
15	産褥・新生児期のケア (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・退院指導の指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
16	産後の家庭訪問の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・産後の家庭訪問における指導技術と内容 	事前課題：1か月後の母児の経過について	事後課題：復習
17	家族計画指導に必要な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画指導における基礎知識 ・各種受胎調節法 	事前課題：各種受胎調節法について	事後課題：指導案作成
18	家族計画指導の実際 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画指導の指導案の作成 	事前課題：指導案作成	事後課題：指導案作成
19	家族計画指導の実際 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画指導の指導案の発表と討議、ロールプレイ 	事前課題：指導案発表準備	事後課題：実施後の評価
20	性教育に必要な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期教育の必要性和教育の内容 ・人工妊娠中絶の現状と母体に及ぼす影響 ・思春期教室の実際 	事前課題：思春期の性の問題について	事後課題：復習
21	分娩介助技術演習 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助の意義と原理 ・分娩体位と介助法 ・分娩介助手順と根拠 	事前課題：分娩の経過についての基礎知識	事後課題：復習
22	分娩介助技術演習 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助デモンストレーション 	事前課題：資料を読む	事後課題：復習、実施要項の留意事項の作成

	23	分娩介助技術演習（3）	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成 ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰切開時の対処 ・児娩出までの分娩介助法 	事前課題：導尿の方法、清潔物品の取り扱いについて 事後課題：復習、技術の練習																
	24	分娩介助技術演習（4）	<ul style="list-style-type: none"> ・臍帯巻絡の介助法 ・前在・後在肩甲の介助法 ・胎盤の娩出法 	事前課題：臍帯巻絡について、回旋について、胎盤の娩出様式について 事後課題：復習、技術の練習																
	25	異常分娩時の対処（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・肩甲難産時の体位と介助 ・児心音低下時の対応 ・吸引分娩時の介助 	事前課題：肩甲難産について、児心音低下について 事後課題：復習と技術練習																
	26	異常分娩時の対処（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・異常出血時の対処 ・子癇発作時の対処 	事前課題：異常出血の原因、子癇発作の原因について 事後課題：復習																
	27	異常分娩時の対処（3）	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急帝王切開時の対応 	事前課題：帝王切開術について 事後課題：復習																
	28	分娩介助技術演習（5）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いて一連の分娩介助技術の実施と討議（1）事例に対する助産診断 	事前課題：事例の情報整理 事後課題：助産診断の完成																
	29	分娩介助技術演習（6）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いて一連の分娩介助技術の実施と討議（2）事例に対する分娩介助の実施 	事前課題：分娩介助技術の練習 事後課題：授業の内容を振り																
	30	分娩介助技術演習（7）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いて一連の分娩介助技術の実施と討議（3）事例の母児に対する分娩後のケアの実施 	事前課題：分娩直後の母児のケアについて 事後課題：一連の実施の評価																
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習， 小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ， 周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ</td> <td>堀内 成子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食品80キロカロリーガイドブックー大きさ・量がひと目でわかる</td> <td>香川芳子</td> <td>女子栄養大学 出版部</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 「母乳育児成功のための10カ条」の実践</td> <td>BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内 成子	医学書院	2	食品80キロカロリーガイドブックー大きさ・量がひと目でわかる	香川芳子	女子栄養大学 出版部	3	UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 「母乳育児成功のための10カ条」の実践	BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内 成子	医学書院																	
2	食品80キロカロリーガイドブックー大きさ・量がひと目でわかる	香川芳子	女子栄養大学 出版部																	
3	UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 「母乳育児成功のための10カ条」の実践	BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日の助産 改訂第3版</td> <td>北川真理子・内山和美 編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>CDブック 参加型両親学級ツール集</td> <td>大阪大学助産師同窓会</td> <td>日総研</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>最新産科学 異常編 改訂第22版</td> <td>荒木勤</td> <td>東京文光堂本郷</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂	2	CDブック 参加型両親学級ツール集	大阪大学助産師同窓会	日総研	3	最新産科学 異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂																	
2	CDブック 参加型両親学級ツール集	大阪大学助産師同窓会	日総研																	
3	最新産科学 異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷																	
評価方法 (基準)	定期試験 30% 保健指導案・保健指導発表 30% 分娩介助技術試験 40%																			
学生への メッセージ	保健指導技術や分娩介助技術は助産学実習の実施項目です。指導案の作成は講義時間以外の時間も活用し自主的、積極的に学習してください。学内で指導案の作成ができていると実習時に役立ちます。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 但馬（研究室20）																			
備考	分娩介助技術，および保健指導案は助産学実習で活用します。																			

科目名	助産管理論	科目名(英文)	Midwifery Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	赤井 由紀子・宮本 雅子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	助産管理の概要及び運用に必要な基本概念(法的根拠やその内容、管理の原則)を理解し、管理者が果たす役割、助産における危機管理について学ぶ。
到達目標	助産管理の概要を理解し、助産における危機管理について理解する。 また、助産業務の行われる場の管理、業務の管理に必要な基礎的知識、さらに、産科医療の特徴と医療事故防止について理解を深める。
授業方法と留意点	実際の事例を通して、産科医療の特徴を学び、助産の場面での管理の在り方を考えていきます。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関連する必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	助産管理の基本概念とプロセスについて	マネジメントの定義とマネジメントサイクル、管理理論について学ぶ。	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
2	助産管理の概念	助産師の業務範囲、助産管理の特性と組織化について学ぶ	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
3	助産と医療経済	医療保障制度と助産業務について、助産業務の診療報酬	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
4	関係法規と助産師の義務・責任について	助産業務に関連する法律について学ぶ	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
5	周産期の医療事故とリスクマネジメントー1	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて学ぶ	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
6	周産期の医療事故とリスクマネジメントー2	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
7	周産期の医療事故とリスクマネジメントー3	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
8	助産所における助産業務管理	助産所の管理・運営について 柏助産院院長：柏悦子先生	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、助産学概論、周産期医学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学演習、助産学実習、統合実習
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	助産業務ガイドライン		日本助産師会
3	母子保健の主なる統計 平成 27 年度	公益財団法人母子衛生研究会 編集	公益財団法人母子衛生研究会

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	試験：80点、グループワーク・課題発表：20点
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	助産師課程のまとめの講義です。目標とする助産師を目指すには、今、何を課題とすべきか考えていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	研究室14(赤井)、研究室12(宮本)
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	助産学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Midwifery and Maternity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	11	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	赤井 由紀子, 但馬 まり子, 穂迫 享子, 宮本 雅子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>(概要) 妊婦、産婦、褥婦及び新生児とその家族への助産課程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。また、実践を通して個別的な援助方法について学び、医療・保健チームの中での助産師の役割や機能を考察する。そして、受け持ち事例を通して、地域におけるケア継続の必要性について理解を深め、地域における助産師の役割を考え、助産師としての職業アイデンティティの形成を図れる素地を養う。</p> <p>(目的) 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、助産診断・技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業的アイデンティティの形成を図る。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦と新生児及びその家族に対して、助産過程を展開し、母子のニーズに応じた援助ができる。 2. 対象の人間性を尊重し、倫理的な態度や能力を習得することができる。 3. 助産活動を通じて、助産師としての役割と責任について理解できる。 4. 助産実践の向上、助産学の発展のため、常に主体的に学習する態度を養う。 																		
授業方法と留意点	病院および助産所にて助産に関わる実習を行う																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	助産学実習要綱参照 (継続実習、分娩介助実習、助産所実習)																		
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ 周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習、助産管理論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	分娩介助技術、受け持ち事例の展開等の実習内容、実習態度、実習記録、出席状況を基にした実習目標の達成度を総合的に評価する。詳細は、助産学実習要綱参照のこと。																		
学生へのメッセージ	教材は、関連科目の教科書、参考書を用いて学習する。実習時は必要時紹介します。少人数制で長期の実習となります。健康管理を十分行ってください。チームワークをもちながらも、個々に主体的・積極的な態度で臨んでください。																		
担当者の研究室等	7号館3階 赤井 (研究室14)、宮本 (研究室12) 但馬 (研究室20) 穂迫 (共同研究室5)																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> ・病院：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、大阪府済生会野江病院、大阪市立総合医療センター、西川医院、大和高田市立病院 ・助産所：柏助産院、ひまわり助産院、ゆう助産院、橋本助産院、 2. 分娩介助実習では、分娩介助例数が10例に達するまで継続的に実習を行う 																		

基礎科目

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ドーマン多田 さおり
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (授業の進め方、評価について)	シラバスの説明と次週の小テスト・課題に関する準備	授業で提示
2	Unit 1: First Visit to a Hospital	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
3	Unit 3: Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
4	Unit 4: Mr. Brown's Symptoms	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
5	Unit 5: Medical Check Up 1	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
6	Unit 6: Medical Check up 2	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
7	前半の復習	復習テスト 1	授業で提示します。
8	Unit 7: Mr. Brown's Diagnosis	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
9	Unit 8: Mr. Anderson's Symptoms	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
10	Unit 9: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
11	Unit 10: Explaining Blood Test Results	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
12	Unit 11: How to Take Medicine	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
13	Unit 12: Mrs. Johnson Feels Dizzy	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
14	Unit 13: An MRI Test	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
15	全体のまとめ		授業で提示します。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Aid! English for Nursing	Akihiko Higuchi, John Tremarco	KINSEIDO (金星堂)
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、復習テスト等含む) 40% 定期試験 30%
学生への	基本的に授業での小テストや発表などが遅刻や欠席などにより行えなかった場合は平常点から減点される。

メッセージ	定期試験は試験期間中に実施。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	DVD を利用したリスニング、ディクテーションを中心とする。 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	患者と挨拶を交わす 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
2	患者と挨拶を交わす 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
3	入院患者への説明 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
4	入院患者への説明 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
5	エックス線検査 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
6	エックス線検査 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
7	患者の話を聞く 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
8	患者の話を聞く 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
9	患者から許可を得る 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
10	患者から許可を得る 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
11	注射 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
12	注射 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
13	バイタルサイン 1	DVD を利用したリスニング、ディクテーション	テキスト付属の DVD を使って該当箇所のリスニング、ディクテーション練習問題
14	バイタルサイン 2	語彙と文法確認	テキスト該当箇所の語彙問題に関する練習問題、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
15	ダイアログ発表	テキスト中の任意のダイアログをペアで演じる	テキスト中の任意のダイアログを暗記し、発表する練習を行う

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Everyday English for Nursing on DVD	Yasuko Onjoji	SEIBIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji NISHIYA	SEIBIDO
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 定期試験 50% 受講態度 20%
-----------	--

学生へのメッセージ
語学学習には、映画や音楽、テレビドラマやスポーツ中継など、興味のあるものを原語で楽しむことが効果的です。

担当者の研究室等
非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリック III ロイ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	自己紹介	
2	病院内の様々な診療科	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
3	病院内の様々な診療科	冠詞の使い方、位置の説明、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
4	問診票の記入	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
5	問診票の記入	疑問詞、疑問文の作り方、用紙に記入する方法、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
6	身体パーツ	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
7	身体パーツ	時制 (現在進行形、現在形)、健康上の問題について説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
8	病気の種類	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
9	病気の種類	過去時制、病気と症状を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
10	病院の日課	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
11	病院の日課	前置詞、休暇中にしたことを説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
12	医療用品	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
13	医療用品	未来形、夏休みの予定を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
14	まとめと復習	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
15	まとめと復習	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ホスピタルイングリッシュ 2 Vital Signs 2 Reading and Writing	Vivian Morooka	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生へのメッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 II	科目名 (英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ドーマン多田 さおり
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション (授業の進め方、評価について)	シラバスの説明と次週の小テスト・課題に関する準備	授業で提示
	2	Unit 1: First Visit to a Hospital	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	3	Unit 3: Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	4	Unit 4: Mr. Brown's Symptoms	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	5	Unit 5: Medical Check Up 1	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	6	Unit 6: Medical Check up 2	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	7	前半の復習	復習テスト 1	授業で提示します。
	8	Unit 7: Mr. Brown's Diagnosis	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	9	Unit 8: Mr. Anderson's Symptoms	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	10	Unit 9: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	11	Unit 10: Explaining Blood Test Results	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	12	Unit 11: How to Take Medicine	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	13	Unit 12: Mrs. Johnson Feels Dizzy	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	14	Unit 13: An MRI Test	単語/フレーズ・小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	15	全体のまとめ		授業で提示します。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Aid! English for Nursing	Akihiko Higuchi, John Tremarco	KINSEIDO (金星堂)
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、復習テスト等含む)	40%
	定期テスト 30%	

学生への 基本的に授業での小テストや発表などが遅刻や欠席などにより行えなかった場合は平常点から減点される。

メッセージ	定期テストは試験期間中に実施。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	DVDを利用したリスニング、ディクテーションを中心とする。 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	リハビリテーション 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
2	リハビリテーション 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
3	手術 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
4	手術 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
5	体位変換 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
6	体位変換 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
7	医薬品 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
8	医薬品 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
9	退院 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
10	退院 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
11	事務管理 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
12	事務管理 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
13	患者にアドバイスする 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	テキストに添付されているDVDを使って該当箇所のリスニング、ディクテーション問題を解く
14	患者にアドバイスする 2	語彙と文法確認	該当箇所の語彙問題を解き、役に立つ表現を声に出して読み、意味を確認する
15	ダイアログ発表	テキスト中の任意のダイアログをペアで演じる	テキスト中の任意のダイアログを暗記し、発表する準備をする

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Everyday English for Nursing on DVD	Yasuko Onjoji	SEIBIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji NISHIYA	SEIBIDO
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	50%
	受講態度	20%

学生へのメッセージ
語学学習には、映画、音楽、テレビドラマやスポーツ中継など、興味のあるものを原語で楽しむことが効果的です。

担当者の研究室等
非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	医療品の収納場所	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	
	2	医療品の収納場所	未来をあらわす進行形、将来の自分を想像し、説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	3	病院内を案内する	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	4	病院内を案内する	命令形、学校内にある特定の場所への行き方を説明する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	5	病院の外を案内する	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	6	病院の外を案内する	能動態と受動態、学校の近くにある自分のお気に入りの場所への道順を教える、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	7	患者とおしゃべり	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	8	患者とおしゃべり	完了形、頻度を表す単語、趣味について質問する、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	9	既往歴を聴取する	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	10	既往歴を聴取する	過去形と現在完了形の違い、自分の既往歴を書き表す、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	11	病院での検査	音読、英文内容把握、英語による質疑応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	12	病院での検査	付加疑問文、付加疑問形を使って質問応答、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	13	まとめと復習	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	14	まとめと復習	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認
	15	まとめと復習	英文内容把握、英語による質疑応答、まとめと復習、小テスト	指定された箇所を音読、語句、熟語等の意味を確認

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ホスピタルイングリッシュ 2 Vital Signs 2 Reading and Writing	Vivian Morooka	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ
This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.

担当者の研究室等
非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ドーマン多田 さおり
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	本科目では、医学・医療英語を総合的に扱うテキストを用いて、高度なリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの4技能を修得し、看護職に必要とされる英語力を身につける。
到達目標	①医療に関する基本的な語彙・表現を身につける。 ②専門用語さえわかれば英文を読むこと自体はそれほど難しくないと理解する。 ③教科書を読んでいない人にも英文内容をわかりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	TOEICのスコアを成績評価の20%に組み込む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Basic for Health Care Professionals	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
3	Unit 2: The Digestive System: How It Works	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
4	Unit 3: The Cardiovascular System: The Heart, Pump for Life-giving Blood	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
5	Unit 4: The Neurological System: Neuroscience	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
6	Unit 5: The Urinary System: Kidney Transplantation	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回のまとめテストに向けて復習すること。
7	Unit 6: The Reproductive System: Infertility Treatments	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
8	Unit 7: The Skeletal System: Bone Health	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
9	Unit 8: The Immune System: Allergies	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
10	Unit 9: The Endocrine System: Diabetes	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
11	Unit 10: Preventing the Spread of Infectious Disease	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
12	TOEIC 模擬テスト		
13	Unit 11: Cancer Detection	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
14	Unit 14: Clinical Research	医療・介護英単語を増やし、さらに医療についての理解を深める。	次回のまとめテストに向けて復習すること。
15	全体のまとめ		

関連科目	他の英語関係科目及び専門医療用語
------	------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業参加度・小テスト・課題等)(50%)、定期テスト(20%)、TOEIC 模擬テスト1回 (10%)、TOEICスコア(20%)により総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。
学生へのメッセージ	指示に従って予習を行い、授業に真面目にかつ積極的に参加してください。定期テストは試験期間中に実施。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	基本的に欠席・遅刻のため小テストを受けられない時や、発表担当などを担えない場合は平常点から減点されます。「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	本授業は、「英語Ⅱ」での学習をもとに、より高度なリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を習得し、看護という場にも応用できるように計画されています。授業を通して、さまざまな英語に触れ、かつコミュニケーションを試みる態度を養っていただきます。			
到達目標	TOEICで取り上げられるような日常の場面をはじめとして、病院での患者さんとの英語での会話がある程度可能にすることが求められます。			
授業方法と留意点	多くリスニング・スピーキング・そして医療関係のリーディングを利用します。 予習・復習を中心にリスニングと、それに答えるためのスピーキング練習を普段から練習していただきたいと思えます。			
科目学習の効果(資格)	TOEIC等			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	テキストの使用方法的説明。 リスニングとスピーキングの活動方法的説明。	事前：なし 事後：PCの使用方法的確認し、実際にリスニングを行うこと。
	2	症状の表現 (テキスト Unit 1)	テキストからのリスニング 症状を聞き、理解する。	事前：Unit 1のリスニング予習 事後：症状の英語を復習
	3	症状の表現 (テキスト Unit 2)	テキストからのリスニング 症状を聞き、必要な応答ができるようにする。	事前：Unit 2のリスニング予習 事後：どのような対応があるのかを復習
	4	検査の表現 (テキスト Unit 3)	テキストからのリスニング どのような検査があり、どのような英語の表現になるのかを知る。	事前：Unit 3のリスニング予習 事後：検査について理解を深めておく。
	5	検査の表現 (テキスト Unit 4)	テキストからのリスニング 検査について、必要な事柄を英語で表現する。	事前：Unit 4のリスニング予習 事後：
	6	入院についての表現 (テキスト Unit 5)	テキストからのリスニング 日本の病院での入院手続きを知り、英語で表現する。	事前：Unit 5のリスニング予習 事後：入院についての知識を深める。
	7	TOEIC 集中練習	TOEIC 準備のためのリスニング・リーディング	事前：TOEIC 内容の確認 事後：まちがった部分の復習
	8	入院手術についての表現 (テキスト Unit 6)	テキストからのリスニング 手術の際に必要なことになる手続きについて知る。さらにそれを英語で理解する。	事前：Unit 6のリスニング予習 事後：手術についての一般的な事柄を知る。
	9	日常の看護についての表現 (テキスト Unit 7)	テキストからのリスニング 日常の看護内容について知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 7のリスニング予習 事後：学んだ英語表現ができるようにする。
	10	日常の看護についての表現 (テキスト Unit 8)	テキストからのリスニング 前回到続いて、日常の看護内容について知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 8のリスニング予習 事後：学んだ英語表現ができるようにする。
	11	海外の看護師の様子を知る (テキスト Unit 9)	テキストからのリスニング 海外の nurse の仕事を見ながら、看護についての感覚を知る。	事前：Unit 9のリスニング予習 事後：看護についての理解を深める。
	12	海外の看護師の様子を知る (テキスト Unit 10)	テキストからのリスニング 前回到続いて、日常の看護内容について知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 10のリスニング予習 事後：看護についての理解を深める
	13	薬について知る (テキスト Unit 11)	テキストからのリスニング 日常よく使われる薬の名称を知る。	事前：Unit 11のリスニング予習 事後：薬についての理解を深める。
	14	薬について知る	テキストからのリスニング 前回到続いて薬の服用の際の表現を知る。	事前：Unit 12のリスニング予習 事後：薬の利用についての理解を深める。
	15	授業内容から医療関係 Reading のまとめ	ポイントを押さえながら、理解していることの確認	事前：授業で取り上げられた医療内容の復習 事後：期末テストの準備
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	5分間 新TOEICテスト・リスニング550	Thian Wong 他著	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法(基準)	期末テスト(50%) レポートを含む提出物(30%) TOEIC(20%)			
学生へのメッセージ	医療にさらに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢をいつも養ってください。 さらに、英語でのコミュニケーションについては看護師として必要な事柄を学ぶという姿勢をいつも持っていてください。			
担当者の	1号館2階 非常勤講師室			

研究室等	
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	本科目では、医学・医療英語を総合的に扱うテキストを用いて、高度なリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの4技能を修得し、看護職に必要とされる英語力を身につける。																																																																		
到達目標	①英語を読むのに必要となる基本的な語彙・表現を身につける。 ②英文を読むことはそれほど難しいことを理解する。 ③教科書を読んでいない人にも英文内容をわかりやすく説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	TOEICのスコアを成績評価の20%に組み込む。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC 等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Orientation</td> <td>授業の進め方、テストの受け方、評価などの説明</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1: Dreams</td> <td>Interpreting Exam Dreams</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2: Coincidences</td> <td>A Whale of a Time</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Review 1</td> <td>The Importance of Sleep</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 3: Ambition</td> <td>The Pursuit of Happiness</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 4: How We Think</td> <td>The Perfect Man</td> <td>次回のまとめテストに向けて復習すること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 5: Our Emotions</td> <td>The Family Cookbook</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Review 2</td> <td>Is That Really Beautiful?</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 6: Misunderstandings</td> <td>An Unwitting Bank Robber</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 7: Tough Challenge</td> <td>The Marathon Monk</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 8: Mind Control</td> <td>Saving My Sister</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Review 3</td> <td>The Four Principles of Flight</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 9: Understanding Fear</td> <td>Beat Your Fears and Phobias</td> <td>次回の授業と小テストに向けて予習すること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 10: Making Mistakes</td> <td>Harry Potter's Mother</td> <td>次回のまとめテストに向けて復習すること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Unit 11: Getting Help</td> <td>Summer Plan</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Orientation	授業の進め方、テストの受け方、評価などの説明	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	2	Unit 1: Dreams	Interpreting Exam Dreams	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	3	Unit 2: Coincidences	A Whale of a Time	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	4	Review 1	The Importance of Sleep	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	5	Unit 3: Ambition	The Pursuit of Happiness	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	6	Unit 4: How We Think	The Perfect Man	次回のまとめテストに向けて復習すること。	7	Unit 5: Our Emotions	The Family Cookbook	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	8	Review 2	Is That Really Beautiful?	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	9	Unit 6: Misunderstandings	An Unwitting Bank Robber	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	10	Unit 7: Tough Challenge	The Marathon Monk	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	11	Unit 8: Mind Control	Saving My Sister	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	12	Review 3	The Four Principles of Flight		13	Unit 9: Understanding Fear	Beat Your Fears and Phobias	次回の授業と小テストに向けて予習すること。	14	Unit 10: Making Mistakes	Harry Potter's Mother	次回のまとめテストに向けて復習すること。	15	Unit 11: Getting Help	Summer Plan	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Orientation	授業の進め方、テストの受け方、評価などの説明	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
2	Unit 1: Dreams	Interpreting Exam Dreams	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
3	Unit 2: Coincidences	A Whale of a Time	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
4	Review 1	The Importance of Sleep	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
5	Unit 3: Ambition	The Pursuit of Happiness	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
6	Unit 4: How We Think	The Perfect Man	次回のまとめテストに向けて復習すること。																																																																
7	Unit 5: Our Emotions	The Family Cookbook	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
8	Review 2	Is That Really Beautiful?	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
9	Unit 6: Misunderstandings	An Unwitting Bank Robber	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
10	Unit 7: Tough Challenge	The Marathon Monk	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
11	Unit 8: Mind Control	Saving My Sister	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
12	Review 3	The Four Principles of Flight																																																																	
13	Unit 9: Understanding Fear	Beat Your Fears and Phobias	次回の授業と小テストに向けて予習すること。																																																																
14	Unit 10: Making Mistakes	Harry Potter's Mother	次回のまとめテストに向けて復習すること。																																																																
15	Unit 11: Getting Help	Summer Plan																																																																	
関連科目	他の英語関係科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>A Good Read 2: Intermediate(Japan Edition)</td> <td>Carlos Islam/Carrie Steenburgh</td> <td>松柏社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	A Good Read 2: Intermediate(Japan Edition)	Carlos Islam/Carrie Steenburgh	松柏社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	A Good Read 2: Intermediate(Japan Edition)	Carlos Islam/Carrie Steenburgh	松柏社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業参加度・小テスト・課題等)・・・50% 学期末試験・・・30% TOEIC・・・20%																																																																		
学生へのメッセージ	指示に従って予習を行い、授業に真面目にかつ積極的に参加してください。 辞書必携																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室																																																																		
備考	辞書必携																																																																		

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果 (資格)	1 年終了時には中国語検定試験準 4 級の受験が可能。2 年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、中国語という言葉について	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
2	四声、単母音、子音(1)、複母音(1)、複母音(2)、鼻母音(1)	発音編 1, 2	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
3	複母音(3)、鼻母音(4)、子音(3)、子音(4)、子音(5)	発音編 3, 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
4	形容詞述語文、副詞 1、変調、文末助詞、主述述語文、自己紹介、疑問詞疑問文	第 1 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
5	会話 1	第 1 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
6	是構文、副詞 2、構造助詞 1、指示代名詞、反復疑問文、構造助詞 2、副詞語順、全否定、部分否定、疑問視疑問文	第 2 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
7	会話 2	第 2 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
8	動目標語、動詞重畳、文末助詞 2、副詞 3、二重目的語、副詞 4	第 3 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
9	会話 3	第 3 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
10	数詞、量詞 1、数詞 2、副詞 5、所有、存在、疑問代名詞 2	第 4 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
11	会話 4	第 4 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
12	数詞 3、曜日、時間詞、名詞述語文、疑問代名詞 3、介詞 1	第 5 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
13	会話 5	第 5 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
14	方位詞、不定代名詞、量詞 2、動詞「在」、副詞 6、指示代名詞 2	第 6 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
15	会話 6	第 6 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること

関連科目	中国語
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (70%)、出席・授業態度 (30%) により総合評価する。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する
----	----------------------

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果 (資格)	1 年終了時には中国語検定試験準 4 級の受験が可能。2 年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、中国語という言葉について	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	2	四声、単母音、子音(1)、複母音(1)、複母音(2)、鼻母音(1)	発音編 1, 2	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	3	複母音(3)、鼻母音(4)、子音(3)、子音(4)、子音(5)	発音編 3, 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	4	形容詞述語文、副詞 1、変調、文末助詞、主述述語文、自己紹介、疑問詞疑問文	第 1 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	5	会話 1	第 1 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	6	是構文、副詞 2、構造助詞 1、指示代名詞、反復疑問文、構造助詞 2、副詞語順、全否定、部分否定、疑問視疑問文	第 2 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	7	会話 2	第 2 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	8	動目標構造、動詞重畳、文末助詞 2、副詞 3、二重目的語、副詞 4	第 3 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	9	会話 3	第 3 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	10	数詞、量詞 1、数詞 2、副詞 5、所有、存在、疑問代名詞 2	第 4 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	11	会話 4	第 4 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	12	数詞 3、曜日、時間詞、名詞述語文、疑問代名詞 3、介詞 1	第 5 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	13	会話 5	第 5 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	14	方位詞、不定代名詞、量詞 2、動詞「在」、副詞 6、指示代名詞 2	第 6 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	15	会話 6	第 6 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (70%)、出席・授業態度 (30%) により総合評価する。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する
----	----------------------

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果(資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	前期の復習	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	2	介詞3, 量詞3, 連動文, 選択疑問文, 副詞7	第7課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	3	会話7	第7課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	4	介詞4, 動量詞, 了1, 了2, 了1了2, 副詞8	第8課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	5	会話8	第8課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	6	状態補語, 介詞5, 結果補語, 介詞6, 副詞9, 把字句	第9課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	7	会話9	第9課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	8	第7課～第9課会話文から出題	復習3	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	9	動態助詞「過」副詞10, 動量詞2, 副詞11, 能願動詞1	第10課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	10	会話10	第10課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	11	能願動詞2, 動量詞3, 疑問代名詞4, 能願動詞3, 比較文, 能願動詞4	第11課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	12	会話11	第11課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	13	方向補語, 進行文, 接続詞1, 疑問代名詞5, 副詞12	第12課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	14	会話12	第12課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	15	第10課～第12課会話文から出題	復習4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)、出席・授業態度(30%)により総合評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する
----	----------------------

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果(資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	前期の復習	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	2	介詞3, 量詞3, 連動文, 選択疑問文, 副詞7	第7課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	3	会話7	第7課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	4	介詞4, 動量詞, 了1, 了2, 了1了2, 副詞8	第8課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	5	会話8	第8課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	6	状態補語, 介詞5, 結果補語, 介詞6, 副詞9, 把字句	第9課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	7	会話9	第9課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	8	第7課～第9課会話文から出題	復習3	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	9	動態助詞「過」副詞10, 動量詞2, 副詞11, 能願動詞1	第10課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	10	会話10	第10課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	11	能願動詞2, 動量詞3, 疑問代名詞4, 能願動詞3, 比較文, 能願動詞4	第11課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	12	会話11	第11課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	13	方向補語, 進行文, 接続詞1, 疑問代名詞5, 副詞12	第12課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	14	会話12	第12課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	15	第10課～第12課会話文から出題	復習4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)、出席・授業態度(30%)により総合評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する
----	----------------------

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的
本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

到達目標
まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。

授業方法と留意点
教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。

科目学習の効果 (資格)
韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎 課題
1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書	基礎 1 課
2	母音 1	基本母音	教科書	基礎 2 課
3	子音 1	基本子音	教科書	基礎 3 課
4	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書	基礎 3 課
5	母音 2	複合母音	教科書	基礎 4 課
6	文字の確認	文字の確認		
7	パッチム	終声について	教科書	基礎 5 課
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 0 - 3 1
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 2 - 3 4
10	体言の平叙文	体言文 (平叙)	教科書	1 課
11	体言の疑問文	体言文 (疑問)	教科書	2 課
12	体言の否定文	体言文 (否定)	教科書	3 課
13	復習	復習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る		

関連科目
韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
授業時に行われる複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
1 号館 2 階 非常勤講師室

備考
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。																																																																		
到達目標	まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。																																																																		
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>韓国語とは</td> <td>文字の仕組み</td> <td>教科書 基礎 1 課</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母音 1</td> <td>基本母音</td> <td>教科書 基礎 2 課</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>子音 1</td> <td>基本子音</td> <td>教科書 基礎 3 課</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>子音 2</td> <td>子音 (濃音・激音)</td> <td>教科書 基礎 3 課</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>母音 2</td> <td>複合母音</td> <td>教科書 基礎 4 課</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文字の確認</td> <td>文字の確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>パッチム</td> <td>終声について</td> <td>教科書 基礎 5 課</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発音の変化 1</td> <td>発音の変化</td> <td>教科書 基礎 6 課 p 3 0 - 3 1</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>発音の変化 2</td> <td>発音の変化</td> <td>教科書 基礎 6 課 p 3 2 - 3 4</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>体言の平叙文</td> <td>体言文 (平叙)</td> <td>教科書 1 課</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>体言の疑問文</td> <td>体言文 (疑問)</td> <td>教科書 2 課</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>体言の否定文</td> <td>体言文 (否定)</td> <td>教科書 3 課</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>復習</td> <td>復習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総確認</td> <td>総確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>韓国語の実際</td> <td>韓国のドラマを見る</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書 基礎 1 課	2	母音 1	基本母音	教科書 基礎 2 課	3	子音 1	基本子音	教科書 基礎 3 課	4	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 基礎 3 課	5	母音 2	複合母音	教科書 基礎 4 課	6	文字の確認	文字の確認		7	パッチム	終声について	教科書 基礎 5 課	8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 基礎 6 課 p 3 0 - 3 1	9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 基礎 6 課 p 3 2 - 3 4	10	体言の平叙文	体言文 (平叙)	教科書 1 課	11	体言の疑問文	体言文 (疑問)	教科書 2 課	12	体言の否定文	体言文 (否定)	教科書 3 課	13	復習	復習		14	総確認	総確認		15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書 基礎 1 課																																																																
2	母音 1	基本母音	教科書 基礎 2 課																																																																
3	子音 1	基本子音	教科書 基礎 3 課																																																																
4	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 基礎 3 課																																																																
5	母音 2	複合母音	教科書 基礎 4 課																																																																
6	文字の確認	文字の確認																																																																	
7	パッチム	終声について	教科書 基礎 5 課																																																																
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 基礎 6 課 p 3 0 - 3 1																																																																
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 基礎 6 課 p 3 2 - 3 4																																																																
10	体言の平叙文	体言文 (平叙)	教科書 1 課																																																																
11	体言の疑問文	体言文 (疑問)	教科書 2 課																																																																
12	体言の否定文	体言文 (否定)	教科書 3 課																																																																
13	復習	復習																																																																	
14	総確認	総確認																																																																	
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る																																																																	
関連科目	韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版</td> <td>木内明</td> <td>国書刊行会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業時に行われる複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用（特に読む、書く）能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎
1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書	基礎2課-4課
2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書	基礎5課
3	発音の復習	発音の復習	教科書	基礎6課
4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書	9課・10課
5	用言文1	公的で固い表現の「です・ます」形1	教科書	4課
6	用言文2	公的で固い表現の「です・ます」形2	教科書	5課
7	用言文3	公的で固い表現の「です・ます」形3	教科書	7課
8	文法事項の確認	文法事項の確認		
9	用言文4	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形1	教科書	6課
10	用言文5	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形2	教科書	8課 p 82-86
11	用言文6	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形3	教科書	8課 p 87
12	助詞	助詞	教科書	172・173
13	文の作成練習	文の作成練習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。		

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業時に行う複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用（特に読む、書く）能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書 基礎2課-4課
	2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書 基礎5課
	3	発音の復習	発音の復習	教科書 基礎6課
	4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書 9課・10課
	5	用言文1	公的で固い表現の「です・ます」形1	教科書 4課
	6	用言文2	公的で固い表現の「です・ます」形2	教科書 5課
	7	用言文3	公的で固い表現の「です・ます」形3	教科書 7課
	8	文法事項の確認	文法事項の確認	
	9	用言文4	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形1	教科書 6課
	10	用言文5	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形2	教科書 8課 p 82-86
	11	用言文6	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形3	教科書 8課 p 87
	12	助詞	助詞	教科書 172・173
	13	文の作成練習	文の作成練習	
	14	総確認	総確認	
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。		

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業時に行う複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	日本語表現法	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 論理的な文章を書くスキルは、大学生活、また今後の社会生活に必要である。 この講義では、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	作文・感想文とレポート・論文との違いを認識し、論理的な文章を書く力を身につける。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果(資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	教科書を復習する
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	教科書を復習する
4	「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ	講義	教科書を復習する
5	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
6	「要約1」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
7	「課題1フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	フィードバックと実践(要約文の作成)	教科書を復習する 返却した課題を見直す
8	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	教科書を復習する
9	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
11	【課題2】資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
12	「手紙1」 手紙の書き方の基本を学ぶ	講義	教科書を復習する
13	「手紙2」電子メールの書き方を学ぶ	講義	配布プリントを復習する
14	講義のまとめ 小テストの復習テスト	講義 復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む
15	「課題2フィードバック」 課題2を見直す 「手紙3」 手紙を書く	フィードバックと実践(手紙の作成)	返却した課題を見直す

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組み(提出物等により評価する)と小テストの復習テスト(30%) 100点満点中60点以上で合格 二回の課題の提出は必須
----------	---

学生への	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。
------	--

メッセージ	論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。
担当者の研究室等	1号館2階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現法	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 論理的な文章を書くスキルは、大学生活、また今後の社会生活に必要である。 この講義では、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	作文・感想文とレポート・論文との違いを認識し、論理的な文章を書く力を身につける。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 指示した課題を必ず提出すること。
科目学習の効果(資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	教科書を復習する
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	教科書を復習する
4	「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ	講義	教科書を復習する
5	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
6	「要約1」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
7	「課題1フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	フィードバックと実践(要約文の作成)	教科書を復習する 返却した課題を見直す
8	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	教科書を復習する
9	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	教科書を復習する
11	【課題2】資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する 返却した小テストを復習する
12	「手紙1」 手紙の書き方の基本を学ぶ	講義	教科書を復習する
13	「手紙2」電子メールの書き方を学ぶ	講義	配布プリントを復習する
14	講義のまとめ 小テストの復習テスト	講義 復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む
15	「課題2フィードバック」 課題2を見直す 「手紙3」 手紙を書く	フィードバックと実践(手紙の作成)	返却した課題を見直す

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組み(提出物等により評価する)と小テストの復習テスト(30%) 100点満点中60点以上で合格 二回の課題の提出は必須
----------	---

学生への	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。
------	--

メッセージ	論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。
担当者の研究室等	1号館2階（非常勤講師室）
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	情報リテラシー	科目名(英文)	Information Literacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	今日、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを操るスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に行い、グループを作って互いにサポートし合いながら進める。情報セキュリティやモラルについて事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	PC、インターネットの基礎(1)	しくみ、機能、著作権、基本操作(1) 情報のセキュリティとモラル1(1)	PCを使い慣れること
2	PC、インターネットの基礎(2)	インターネット、電子メール、基本操作(2) 情報のセキュリティとモラル(2)	PCを使い慣れること
3	ワードの使い方(1)	Windowsの基礎、文書の作成(1) 情報のセキュリティとモラル(3)	PCを使い慣れること
4	ワードの使い方(2)	文書の作成(2) 情報のセキュリティとモラル(4)	PCを使い慣れること
5	ワードの使い方(3)	図表・グラフの作成、文書の作成(3) 情報のセキュリティとモラル(5)	PCを使い慣れること
6	パワーポイントの使い方(1)	プレゼンテーション資料の作成(文章) 情報のセキュリティとモラル(6)	PCを使い慣れること
7	パワーポイントの使い方(2)	プレゼンテーション資料の作成(図表) 情報のセキュリティとモラル(7)	PCを使い慣れること
8	パワーポイントの使い方(3)	プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル(8)	PCを使い慣れること
9	エクセルの使い方(1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル(9)	PCを使い慣れること
10	エクセルの使い方(2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル(10)	PCを使い慣れること
11	エクセルの使い方(3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル(11)	PCを使い慣れること
12	エクセルの使い方(4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル(12)	PCを使い慣れること
13	エクセルの使い方(5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル(13)	PCを使い慣れること
14	エクセルの使い方(6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル(14)	PCを使い慣れること
15	まとめ	まとめの演習	PCを使い慣れること

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業全15回出席が前提である。毎回提出する課題の内容で評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかりと学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
担当者の研究室等	7号館3階24
備考	

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

授業概要・目的	今日、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを操るスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に行い、グループを作って互いにサポートし合いながら進める。情報セキュリティやモラルについて事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	PC、インターネットの基礎 (2)	インターネット、電子メール、基本操作 (2) 情報のセキュリティとモラル (2)	PCを使い慣れること
3	ワードの使い方 (1)	Windows の基礎、文書の作成 (1) 情報のセキュリティとモラル (3)	PCを使い慣れること
4	ワードの使い方 (2)	文書の作成 (2) 情報のセキュリティとモラル (4)	PCを使い慣れること
5	ワードの使い方 (3)	図表・グラフの作成、文書の作成 (3) 情報のセキュリティとモラル (5)	PCを使い慣れること
6	パワーポイントの使い方 (1)	プレゼンテーション資料の作成 (文章) 情報のセキュリティとモラル (6)	PCを使い慣れること
7	パワーポイントの使い方 (2)	プレゼンテーション資料の作成 (図表) 情報のセキュリティとモラル (7)	PCを使い慣れること
8	パワーポイントの使い方 (3)	プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル (8)	PCを使い慣れること
9	エクセルの使い方 (1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル (9)	PCを使い慣れること
10	エクセルの使い方 (2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル (10)	PCを使い慣れること
11	エクセルの使い方 (3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル (11)	PCを使い慣れること
12	エクセルの使い方 (4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル (12)	PCを使い慣れること
13	エクセルの使い方 (5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル (13)	PCを使い慣れること
14	エクセルの使い方 (6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル (14)	PCを使い慣れること
15	まとめ	まとめの演習	PCを使い慣れること

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業全 15 回出席が前提である。毎回提出する課題の内容で評価し、60%以上を合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階24
------------	---------

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3◎		

授業概要・目的	看護の分野では、疾病とそのリスク要因の因果関係を明らかにするにあたり、統計学を用いる。授業では、統計の基本を理解し、基本的な統計解析を正しく行うことができるようにする。実際にエクセルや統計ソフトを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	統計の基本を理解し、統計ソフトを使って統計解析を正しく行えるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>統計とは</td><td>統計の役割と種類、尺度</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>2</td><td>統計の基本 (1)</td><td>度数分布、ヒストグラム</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>3</td><td>統計の基本 (2)</td><td>代表値 (平均値、中央値、最頻値など)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>4</td><td>統計の基本 (3)</td><td>代表値と散布度 (分散、標準偏差など)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>5</td><td>相関と回帰</td><td>相関係数と回帰直線</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>6</td><td>確率分布 (1)</td><td>正規分布、標準正規分布、確率、累積確率</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>7</td><td>確率分布 (2)</td><td>二項分布、χ^2 乗分布</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>8</td><td>確率分布 (3)</td><td>F分布、t分布</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>9</td><td>母集団と標本 (1)</td><td>標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>10</td><td>母集団と標本 (2)</td><td>中心極限定理</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>11</td><td>母集団と標本 (3)</td><td>母分散と標本分散</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>12</td><td>推定 (1)</td><td>母集団の平均値の推定、95%信頼区間</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>13</td><td>推定 (2)</td><td>母集団の分散・比率の推定</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>14</td><td>検定 (1)</td><td>Z検定、F検定</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>15</td><td>検定 (2)</td><td>χ^2 乗検定、t検定</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	PCでのデータの扱いに慣れること	2	統計の基本 (1)	度数分布、ヒストグラム	PCでのデータの扱いに慣れること	3	統計の基本 (2)	代表値 (平均値、中央値、最頻値など)	PCでのデータの扱いに慣れること	4	統計の基本 (3)	代表値と散布度 (分散、標準偏差など)	PCでのデータの扱いに慣れること	5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	PCでのデータの扱いに慣れること	6	確率分布 (1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	PCでのデータの扱いに慣れること	7	確率分布 (2)	二項分布、 χ^2 乗分布	PCでのデータの扱いに慣れること	8	確率分布 (3)	F分布、t分布	PCでのデータの扱いに慣れること	9	母集団と標本 (1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること	10	母集団と標本 (2)	中心極限定理	PCでのデータの扱いに慣れること	11	母集団と標本 (3)	母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること	12	推定 (1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	PCでのデータの扱いに慣れること	13	推定 (2)	母集団の分散・比率の推定	PCでのデータの扱いに慣れること	14	検定 (1)	Z検定、F検定	PCでのデータの扱いに慣れること	15	検定 (2)	χ^2 乗検定、t検定	PCでのデータの扱いに慣れること
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
2	統計の基本 (1)	度数分布、ヒストグラム	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
3	統計の基本 (2)	代表値 (平均値、中央値、最頻値など)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
4	統計の基本 (3)	代表値と散布度 (分散、標準偏差など)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
6	確率分布 (1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
7	確率分布 (2)	二項分布、 χ^2 乗分布	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
8	確率分布 (3)	F分布、t分布	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
9	母集団と標本 (1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
10	母集団と標本 (2)	中心極限定理	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
11	母集団と標本 (3)	母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
12	推定 (1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
13	推定 (2)	母集団の分散・比率の推定	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
14	検定 (1)	Z検定、F検定	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
15	検定 (2)	χ^2 乗検定、t検定	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>やさしい統計学</td><td>片平潤彦</td><td>桐書房</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	PCに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。授業時間以外にも積極的にPCを使うこと。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3◎		

授業概要・目的	看護の分野では、疾病とそのリスク要因の因果関係を明らかにするにあたり、統計学を用いる。授業では、統計の基本を理解し、基本的な統計解析を正しく行うことができるようにする。実際にエクセルや統計ソフトを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	統計の基本を理解し、統計ソフトを使って統計解析を正しく行えるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>統計とは</td><td>統計の役割と種類、尺度</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>2</td><td>統計の基本 (1)</td><td>度数分布、ヒストグラム</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>3</td><td>統計の基本 (2)</td><td>代表値 (平均値、中央値、最頻値など)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>4</td><td>統計の基本 (3)</td><td>代表値と散布度 (分散、標準偏差など)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>5</td><td>相関と回帰</td><td>相関係数と回帰直線</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>6</td><td>確率分布 (1)</td><td>正規分布、標準正規分布、確率、累積確率</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>7</td><td>確率分布 (2)</td><td>二項分布、χ^2 乗分布</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>8</td><td>確率分布 (3)</td><td>F分布、t分布</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>9</td><td>母集団と標本 (1)</td><td>標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>10</td><td>母集団と標本 (2)</td><td>中心極限定理</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>11</td><td>母集団と標本 (3)</td><td>母分散と標本分散</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>12</td><td>推定 (1)</td><td>母集団の平均値の推定、95%信頼区間</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>13</td><td>推定 (2)</td><td>母集団の分散・比率の推定</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>14</td><td>検定 (1)</td><td>Z検定、F検定</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>15</td><td>検定 (2)</td><td>χ^2 乗検定、t検定</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	PCでのデータの扱いに慣れること	2	統計の基本 (1)	度数分布、ヒストグラム	PCでのデータの扱いに慣れること	3	統計の基本 (2)	代表値 (平均値、中央値、最頻値など)	PCでのデータの扱いに慣れること	4	統計の基本 (3)	代表値と散布度 (分散、標準偏差など)	PCでのデータの扱いに慣れること	5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	PCでのデータの扱いに慣れること	6	確率分布 (1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	PCでのデータの扱いに慣れること	7	確率分布 (2)	二項分布、 χ^2 乗分布	PCでのデータの扱いに慣れること	8	確率分布 (3)	F分布、t分布	PCでのデータの扱いに慣れること	9	母集団と標本 (1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること	10	母集団と標本 (2)	中心極限定理	PCでのデータの扱いに慣れること	11	母集団と標本 (3)	母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること	12	推定 (1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	PCでのデータの扱いに慣れること	13	推定 (2)	母集団の分散・比率の推定	PCでのデータの扱いに慣れること	14	検定 (1)	Z検定、F検定	PCでのデータの扱いに慣れること	15	検定 (2)	χ^2 乗検定、t検定	PCでのデータの扱いに慣れること
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
2	統計の基本 (1)	度数分布、ヒストグラム	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
3	統計の基本 (2)	代表値 (平均値、中央値、最頻値など)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
4	統計の基本 (3)	代表値と散布度 (分散、標準偏差など)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
6	確率分布 (1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
7	確率分布 (2)	二項分布、 χ^2 乗分布	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
8	確率分布 (3)	F分布、t分布	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
9	母集団と標本 (1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
10	母集団と標本 (2)	中心極限定理	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
11	母集団と標本 (3)	母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
12	推定 (1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
13	推定 (2)	母集団の分散・比率の推定	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
14	検定 (1)	Z検定、F検定	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
15	検定 (2)	χ^2 乗検定、t検定	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>やさしい統計学</td><td>片平潤彦</td><td>桐書房</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	PCに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。授業時間以外にも積極的にPCを使うこと。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	スポーツ科学	科目名(英文)	Sports Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美、江川 達郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、講義形式で行う場合がある)。 授業での開講種目は、以下のとおり。 アルティメット・バレーボールなど。 受講学生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	履修上の注意など(講義室)	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
	2	体力測定①	体力測定 屋外種目(グラウンド)	測定記録評価
	3	体力測定②	体力測定 体育館種目(大阪工業大情報科学部 体育館)	測定記録評価
	4	体力測定集計・評価	体力測定の集計・評価(講義室)	各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。
	5	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	ルールの説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	基礎技術練習、攻防練習	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	10	運動・スポーツが心身に与える影響とそのメカニズム	講義(講義室)	運動・スポーツによる心身の変化について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。
	11	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	ルールの説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	基礎技術練習、攻防練習	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス教員室へ来てください。授業曜日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。
-----------	--

担当者の 研究室等	枚方キャンパスグリーンハウス体育準備室（ただし授業開講曜日のみ） 他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと

科目名	スポーツ科学	科目名(英文)	Sports Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美、江川 達郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、講義形式で行う場合がある)。 授業での開講種目は、以下のとおり。 アルティメット・バレーボールなど。 受講学生を半数に区分し、オムニバス形式で行う。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	履修上の注意など(講義室)	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
	2	体力測定①	体力測定 屋外種目(グラウンド)	測定記録評価
	3	体力測定②	体力測定 体育館種目(大阪工業大情報科学部 体育館)	測定記録評価
	4	体力測定集計・評価	体力測定の集計・評価(講義室)	各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。
	5	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	ルールの説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	基礎技術練習、攻防練習	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技 Aコース:アルティメット Bコース:バレーボール	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	10	運動・スポーツが心身に与える影響とそのメカニズム	講義(講義室)	運動・スポーツによる心身の変化について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。
	11	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	ルールの説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	基礎技術練習、攻防練習	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技 Aコース:バレーボール Bコース:アルティメット	技術練習とゲーム	授業内容のまとめ

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス教員室へ来てください。授業曜日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。
-----------	--

担当者の 研究室等	枚方キャンパスグリーンハウス体育準備室（ただし授業開講曜日のみ） 他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP7 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 ΔN : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
	2	映画 1 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	3	映画 1 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	4	映画 1 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	5	映画 2 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	6	映画 2 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	7	映画 2 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
	9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	12	映画 4 : 「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	13	映画 4 : 「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	14	映画 4 : 「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	15	テーマ 3・4 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は 1.5 時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 (門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について時事問題を知りその考察をするとともに、年中行事や体験を通して、日本人の考えや価値観について学ぶ。
到達目標	1) 日本の文化・社会について理解を深める。 2) 時事 (日常の社会の出来事) について、自発的に日本の新聞、雑誌、テレビ、ラジオやネットの記事やニュースなどを視聴する習慣を身につける。 3) 日本と自国、またはその他の国と地域の文化・社会について理解・考察・比較したことを日本語で分かりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	1) 自分が関心をもった日本のニュースや記事について5分ほどで口頭で発表する。そのため、授業の前までにテレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネットの記事やニュースを視聴し、要約しておかなければならない。 2) 発表後はクラス全体で質問や意見交換をする (15~20分)。 3) 講義の聴講や映像の視聴から、考察を行う。 4) 考察したことをお互い他者に伝えながら、理解を深めていく。 5) 最後に、授業で学んだこと全般について理解したことを整理する (小テスト、または小レポート)。
科目学習の効果 (資格)	1) 日本語での口頭表現力の向上 2) 語彙の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス Nippon Guide 1 -日本の地理-	自己紹介、授業の概要の説明、アンケート、インタビュー、自己目標の設定 日本の国土・人口 小テスト	口頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
2	日本の年中行事 (1) -墓参り-	口頭発表 盆と彼岸-日本人の先祖供養- 小テスト	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
3	Nippon Guide 2 -日本の歴史-	口頭発表、意見交換 時代区分と時代の特徴 小テスト	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『かぐや姫』(にほんごよむよむ文庫)を読む。または『かぐや姫の物語』(ジブリ)の視聴
4	日本の年中行事 (2) -十五夜- Nippon Guide 3 -マンガ・アニメのことば-	口頭発表 中秋の名月の鑑賞と初穂祭 月見団子を作ろう 小テスト	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) 10月4日中秋の名月を楽しもう!
5	日本の年中行事 (3) -日本の祭り-	口頭発表 葵祭と時代祭り	原稿、スライドの提出 10月22日の時代祭りを見に行こう
6	高校訪問に向けて (1)	(発表準備) 原稿とスライドの作成 (交流準備) クイズの作成 質問文の作成	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
7	高校訪問に向けて (2) Nippon Guide 4 -若者ことば・関西弁-	発表の練習	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
8	高校訪問の振り返り 日本の年中行事 (4) -紅葉狩り-	口頭発表 発表の振り返り 交流の振り返り 紅葉狩りの名所	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『日本の映画史10』第1章、または『映画で日本文化を学ぶ人のために』の「家族の絆」を10回目の授業までに読む。
9	日本の年中行事 (5) -七五三- Nippon Guide 5 -神社-	口頭発表 七五三 神社とその参拝方法	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『日本の映画史10』第1章を次回の授業までに読む。
10	日本の家族 (1)	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
11	日本の家族 (2)	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
12	日本の年末 (1)	お歳暮、忘年会、宝くじ -ギャンブル大国、日本-	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
13	日本の年末 (2)	口頭発表 年末の大掃除 しめ縄、門松、鏡餅 大晦日 年賀状を書こう	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
14	日本の年始	口頭発表 お屠蘇、お節、雑煮	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)

			お年玉、初詣、正月の遊び 七草粥、鏡開き どんど焼	初詣に行こう！凧揚げをしよう！
	15	2月、3月の行事 授業の振り返り	口頭発表 節分、桃の節句	成田山不動尊の節分祭に行こう！
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の映画史 10のテーマ	平野共余子	くろしお出版
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘	世界思想社
	3	Hiragana Times		ヤック企画
評価方法 (基準)	到達目標：40%（うち自己到達目標10%）、事前・事後学習：30%（発表準備、発表）、授業への参加：30%（意見交換などでの発言15%、小テスト、小レポート：15%）			
学生への メッセージ	日本文化や社会について理解を深めるまえに、関心や興味を持つことが目的なので、関心のない人も受講してみてください。			
担当者の 研究室等	国際交流センター講師控室（3号館4F）			
備考				

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・ 語彙力をつける。 ・ 一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・ 語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語読解FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FⅠ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : F O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 O, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP8 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、課題 (30%)、小テスト (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、課題 (30%)、小テスト (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文F II
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>復習 資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習	8	序論②	序論を書く	復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習	11	本論③	本論を書く	復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習	13	結論②	結論を書く	復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習																																																																
8	序論②	序論を書く	復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習																																																																
11	本論③	本論を書く	復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習																																																																
13	結論②	結論を書く	復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%)																																																																		
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : F O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 O, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP7 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に間違いに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1 を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3 の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3 の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3 の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3 の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3 の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3 の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3 の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100% 50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅴ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の変え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : F O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 O, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 ビジネスマナーや、ビジネス場面で使用する日本語も学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。 ・ビジネスマナーに則った行動ができる。 ・ビジネス場面での電話応対ができる。
授業方法と留意点	授業では、ビジネスマナー、電話のかけ方／受け方、履歴書の書き方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネスマナー 1	授業の説明 ビジネス場面での行動、言葉遣い 1	復習
	2	ビジネスマナー 2	ビジネス場面での行動、言葉遣い 2	復習
	3	ビジネスマナー 3	名刺交換、席次	復習
	4	電話のかけ方／受け方 1	電話の基本	復習
	5	電話のかけ方／受け方 2	取り次ぎ	復習
	6	電話のかけ方／受け方 3	コールバック 1	復習
	7	電話のかけ方／受け方 4	コールバック 2	復習
	8	履歴書 1	履歴書の書き方	復習
	9	履歴書 2	履歴書の作成	復習
	10	電話のかけ方／受け方 5	伝言 1	復習
	11	電話のかけ方／受け方 6	伝言 2	復習
	12	電話のかけ方／受け方 7	メモ・復唱	復習
	13	ドラマ 1	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめ。また、内容について話し合う。	復習
	14	ドラマ 2	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめ。また、内容について話し合う。	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	ビジネス場面で役立つ話し方／書き方を身につけ、将来に備えた練習をしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本や世界的に有名な企業のビジネスケースについて知り、自国の状況やビジネスモデルについて議論する。また、授業の始めに発音練習も取り入れていく。
到達目標	さまざまなビジネスケースについて、論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。 相手に伝わる発音で話すことができる。
授業方法と留意点	グローバルに展開している企業のビジネスケースについて議論を行い、議論に必要な語彙や表現を学ぶとともに、提示されているビジネスモデルの強みや弱みなど自身の考えを深めていく。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	発音練習② ビジネストピック 1-1	発音「山と丘」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
3	発音③ ビジネストピック 1-2	発音「複合名詞」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
4	発音④ ビジネストピック 1-3	発音「動詞のアクセント」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
5	発音⑤ ビジネストピック 1-4	発音「動詞の一語文」 ビジネスモデルについて議論する。	復習
6	発音⑥ ビジネストピック 2-1	発音「形容詞のアクセント」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
7	発音⑦ ビジネストピック 2-2	発音「外来語のアクセント」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
8	発音⑧ ビジネストピック 2-3	発音「協調」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
9	発音⑨ ビジネストピック 2-4	発音「同音異義語」 ビジネスモデルについて議論する。	復習
10	発音⑩ ビジネストピック 3-1	発音「特殊拍 1」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
11	発音⑪ ビジネスケース 3-2	発音「特殊拍 2」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
12	発音⑫ ビジネスケース 3-3	発音「特殊拍 3」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
13	ビジネスケース 3-4	ビジネスモデルについて議論する。	復習 スピーチ原稿作成
14	スピーチ準備	トピックに関するスピーチ原稿の推敲 スピーチのための発音練習	スピーチ練習
15	まとめ	スピーチ発表 授業の振り返り	復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法(基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、スピーチ発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館 4階)
備考	

科目名	日本語会話FⅡ	科目名(英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	日本社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。 パワーポイントを用いた口頭発表のやり方を学ぶ。
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。 パワーポイントを用いた視覚資料を使って効果的に発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関する資料などを読み、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	トピック⑦	議論	復習
	8	トピック⑧	議論	復習
	9	トピック⑨	議論	復習
	10	トピック⑩	議論	復習
	11	学生持ち寄りのトピック①	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
	12	学生持ち寄りのトピック②	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
	13	口頭発表のやり方1	パワーポイントを使った視覚資料の作成時の注意点	視覚資料作成
	14	口頭発表のやり方2	視覚資料の推敲、発音練習	発表練習
	15	まとめ	口頭発表 授業の振り返り	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。

学生へのメッセージ 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

担当者の研究室等 国際交流センター(3号館4階)

備考

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture & Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画 1 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画 1 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画 1 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画 2 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画 2 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画 2 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画 4 : 「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画 4 : 「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画 4 : 「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ 3・4 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は 1.5 時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 (門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture & Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	
学期	後期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	日本文化・社会について時事問題を知りその考察をするとともに、年中行事や体験を通して、日本人の考えや価値観について学ぶ。
到達目標	1) 日本の文化・社会について理解を深める。 2) 時事 (日常の社会の出来事) について、自発的に日本の新聞、雑誌、テレビ、ラジオやネットの記事やニュースなどを視聴する習慣を身につける。 3) 日本と自国、またはその他の国と地域の文化・社会について理解・考察・比較したことを日本語で分かりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	1) 自分が関心をもった日本のニュースや記事について 5 分ほどで口頭で発表する。そのため、授業の前までにテレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネットの記事やニュースを視聴し、要約しておかなければならない。 2) 発表後はクラス全体で質問や意見交換をする (15~20 分)。 3) 講義の聴講や映像の視聴から、考察を行う。 4) 考察したことをお互い他者に伝えながら、理解を深めていく。 5) 最後に、授業で学んだこと全般について理解したことを整理する (小テスト、または小レポート)。
科目学習の効果 (資格)	1) 日本語での口頭表現力の向上 2) 語彙の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス Nippon Guide 1 -日本の地理-	自己紹介、授業の概要の説明、アンケート、インタビュー、自己目標の設定 日本の国土・人口 小テスト	口頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
2	日本の年中行事 (1) -墓参り-	口頭発表 盆と彼岸-日本人の先祖供養- 小テスト	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
3	Nippon Guide 2 -日本の歴史-	口頭発表、意見交換 時代区分と時代の特徴 小テスト	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『かぐや姫』(にほんごよむよむ文庫)を読む。 または『かぐや姫の物語』(ジブリ)の視聴
4	日本の年中行事 (2) -十五夜- Nippon Guide 3 -マンガ・アニメのこぼり-	口頭発表 中秋の名月の鑑賞と初穂祭 月見団子を作ろう 小テスト	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) 10月4日中秋の名月を楽しもう!
5	日本の年中行事 (3) -日本の祭り-	口頭発表 葵祭と時代祭り	原稿、スライドの提出 10月22日の時代祭りを見に行こう
6	高校訪問に向けて (1)	(発表準備) 原稿とスライドの作成 (交流準備) クイズの作成 質問文の作成	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
7	高校訪問に向けて (2) Nippon Guide 4 -若者ことば・関西弁-	発表の練習	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
8	高校訪問の振り返り 日本の年中行事 (4) -紅葉狩り-	口頭発表 発表の振り返り 交流の振り返り 紅葉狩りの名所	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『日本の映画史 10』第1章、または『映画で日本文化を学ぶ人のために』の「家族の絆」を10回目の授業までに読む。
9	日本の年中行事 (5) -七五三- Nippon Guide 5 -神社-	口頭発表 七五三 神社とその参拝方法	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『日本の映画史 10』第1章を次回の授業までに読む。
10	日本の家族 (1)	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
11	日本の家族 (2)	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
12	日本の年末 (1)	お歳暮、忘年会、宝くじ -ギャンブル大国、日本-	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
13	日本の年末 (2)	口頭発表 年末の大掃除 しめ縄、門松、鏡餅 大晦日 年賀状を書こう	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
14	日本の年始	口頭発表 お屠蘇、お節、雑煮	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)

			お年玉、初詣、正月の遊び 七草粥、鏡開き どんど焼	初詣に行こう！凧揚げをしよう！
15	2月、3月の行事 授業の振り返り		口頭発表 節分、桃の節句	成田山不動尊の節分祭に行こう！
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の映画史 10のテーマ	平野共余子	くろしお出版
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘	世界思想社
	3	Hiragana Times		ヤック企画
評価方法 (基準)	到達目標：40%（うち自己到達目標10%）、事前・事後学習：30%（発表準備、発表）、授業への参加：30%（意見交換などでの発言15%、小テスト、小レポート：15%）			
学生への メッセージ	日本文化や社会について理解を深めるまえに、関心や興味を持つことが目的なので、関心のない人も受講してみてください。			
担当者の 研究室等	国際交流センター講師控室（3号館4F）			
備考				

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・ 語彙力をつける。 ・ 一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・ 語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p>
----	--

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、課題(30%)、小テスト(30%)
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レポート・論文の文体で書ける。 読んだ内容を要約できる。 段落分けして書ける。 経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>指示語に注意する</td><td>練習問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>3</td><td>キーワードに注意する</td><td>穴埋め問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>4</td><td>文章の内容を予測する</td><td>並べ替えの問題</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>5</td><td>キーセンテンスを探す(1)</td><td>練習問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>6</td><td>キーセンテンスを探す(2)</td><td>練習問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>7</td><td>要約をする</td><td>全体を問う問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>8</td><td>説明文を読む(1)</td><td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>9</td><td>説明文を読む(2)</td><td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>10</td><td>論説文を読む(1)</td><td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>11</td><td>論説文を読む(2)</td><td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>12</td><td>随筆を読む</td><td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>13</td><td>小説を読む(1)</td><td>2~3の小説を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>14</td><td>小説を読む(2)</td><td>2~3の小説を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>15</td><td>期末テスト</td><td>授業中に指示する</td><td>授業内容を復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の換え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。 パワーポイントを用いた口頭発表のやり方を学ぶ。
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。 パワーポイントを用いた視覚資料を使って効果的に発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関する資料などを読み、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。

科目学習の 効果(資格)	
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	トピック⑧	議論	復習
9	トピック⑨	議論	復習
10	トピック⑩	議論	復習
11	学生持ち寄りのトピック①	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
12	学生持ち寄りのトピック②	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
13	口頭発表のやり方1	パワーポイントを使った視覚資料の作成時の注意点	視覚資料作成
14	口頭発表のやり方2	視覚資料の推敲、発音練習	発表練習
15	まとめ	口頭発表 授業の振り返り	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
--------------	---

学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
---------------	--------------------------------

担当者の 研究室等	国際交流センター(3号館4階)
--------------	-----------------

備考	
----	--

教 養 科 目

科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP4△, DP8○		

授業概要・目的	生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。本科目では、日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。コミュニケーションの諸場面に生じる問題を通して、円滑な意志疎通のあり方を探る。
到達目標	日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。それを通じてコミュニケーションの諸場面に生じる問題を乗り越え、円滑な意志疎通が可能なる力を身につける。
授業方法と留意点	講義による授業方法。適宜演習も取り入れる。
科目学習の効果(資格)	特になし

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義と演習	授業時に指示する
2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
4	言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
5	言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
6	言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
7	非言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
8	非言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
9	非言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
10	非言語コミュニケーション④	講義と演習	授業時に指示する
11	コミュニケーションと文化①	講義と演習	授業時に指示する
12	コミュニケーションと文化②	講義と演習	授業時に指示する
13	コミュニケーション・スキルとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
14	コミュニケーション・スキルとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
15	コミュニケーション・スキルとは何か③	講義と演習	授業時に指示する

関連科目 国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション学など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験 70%、平常点 30%で評価します。講義に出席するのは当然のことです。よって出席したことが点数にはつながりません。ただし講義時に①授業での質問に対する積極的な応答、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢などで注意を受けた場合や意欲が極めて低いと判断した場合は減点法で評価します。

学生へのメッセージ 積極的な参加を求めます。

担当者の研究等 1号館2階 非常勤講師室

備考 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 隆弘
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	看護においては、患者がどのように感じているのか、どのように考えているのかなどを汲み取り治療に活かしていく必要がある。また、看護師と患者との良好な関係は、患者の治療成果だけではなく、満足度やQOLにも直結する。 本授業では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論や生涯発達を学ぶことを通して、私たち人間がどのように物事をとらえているのか、それに対してどのように感じているのかなどを理解すること、患者を理解する上で役立つコミュニケーション法や考え方を学ぶことを通して、患者との関わりに活かすことを目的とする。
到達目標	自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、患者を含む他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事の捉え方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めることを目指す。
授業方法と留意点	講義を主とするが、個人のワークやグループでのワークを行う時間も設定する。各授業でプリントを配布し、毎回の授業終了前に小テストを行い、その日の授業の定着度を高める。
科目学習の効果 (資格)	患者との関わり、職場での人間関係、自己理解に活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	心理学とは？	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	教科書で、興味を持った分野を見つけて、その分野だけでも一読しておくことが望ましい。
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活の中でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	教科書の第1章を一読しておくことが望ましい。
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書の第2章Bを一読しておくことが望ましい。
4	学習理論について	本講義では、人や動物がどのように学習し、行動を形成しているのかについて学ぶ。	教科書の第2章Aを一読しておくことが望ましい。
5	感情と欲求について	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求について学ぶ。	教科書の第3章を一読しておくことが望ましい。
6	性格とパーソナリティ (人格) 障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ (人格) 障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書の第4章A,Bを一読しておくことが望ましい。
7	知能と知能検査、性格検査について	本講義では、知能とは何か、知能と性格をはかる検査にどのようなものがあるのかを学ぶ。	教科書の第4章Cを一読しておくことが望ましい。
8	乳幼児期、児童期の発達と愛着について	本講義では、主に乳幼児期と児童期の発達の過程や愛着の機能について学ぶ。	教科書の第5章Aを一読しておくことが望ましい。
9	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第5章Bを一読しておくことが望ましい。
10	成人、高齢者の発達とそれらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程とそれらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第5章C,Dを一読しておくことが望ましい。
11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知と集団における心理や行動について学ぶ。	教科書の第6章を一読しておくことが望ましい。
12	ストレスマネジメントについて①	本講義では、ストレスの種類や性質について学ぶ。	教科書の第7章を一読しておくことが望ましい。
13	ストレスマネジメントについて②	本講義では、ストレスを軽減するためのリラクゼーションやリフレーミングについて学ぶ。	自分にとってのリラックスできるもの、場所、時間について振り返っておくことが望まれる。
14	患者を理解する上で役立つ考え方について	本講義では、患者を理解する上で役立つ考え方について学ぶ。	教科書の第8,9章を一読しておくことが望ましい。
15	患者と関わる上で役立つコミュニケーション法や考え方について	本講義では、患者と関わる上で役立つ話の聞き方や共感の仕方について学ぶ。	教科書の第9,10章を一読しておくことが望ましい。

関連科目 臨床心理学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学生のための心理学	長田久雄	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護のための精神医学 第2版	中井久夫	医学書院
2				
3				

評価方法 (基準)	①定期試験を行い、その成績を評価の一つに用いる (60%)。 ②毎回の授業終了前に、その日に授業内容の小テストを行い、その成績を評価の一つに用いる (30%)。 ③心理学に関するレポートを1度提出してもらい、それを評価の一つに用いる (10%)。 ・100点満点中、60点以上で合格とする。
学生への	心理学は看護に役立つだけでなく、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものである。本授業を通

メッセージ	して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。
担当者の 研究室等	1号館2階、非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外における質問時間は、授業（木曜5時限）後とする。 ・授業中の小テストの結果は、全体の概要を授業中に説明する。 ・レポートについては、授業中や授業前後に学生個々に返却する。

科目名	哲学	科目名(英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	<p>学問の教科書、たとえば心理学や看護学の教科書には、たいていその学問が何であるのかといった定義がはじめに書かれています。ところが哲学の教科書で「哲学とは何か」の説明から始まるものはまずありません。そのような説明から始まるとしても『哲学とは何か』という問いがすでに哲学をするいとなみである」といったようなことが書いてあるぐらいです。それでは哲学の授業では何を学ぶのでしょうか。</p> <p>たしかに、哲学をひとことで言い表すことはできないかもしれませんが。しかしながら、物事を根本から考えると、批判的に考えると、あるいはものごとを複数の視点から観察するとかいったようなこと、すなわち哲学のいとなみを成り立たせていると考えられているものを手がかりに「哲学とは何か」という問いについて考えていくことはできるでしょう。</p> <p>この授業では、新聞や雑誌の記事、映画、小説、マンガといった身近な素材を活用して、哲学的なものの見方、考え方を養います。</p>		
到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) 現実の問題を哲学と結びつけて考えることができる (2) 世の中で常識とされていることを疑って批判的に考えることができる (3) ものごとを複数の視点から眺め考察することができる</p>		
授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回アクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。</p>		
科目学習の効果(資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。 シラバスをしっかりと読んでおいてください。また、シラバスを印刷するか情報端末で見られる状態にして授業に参加してください。
	2	さまざまなものの見方	ものごとは視点を変わるとまったく違うように見えることがあります。まずは実例にもとづいてそのことを体験します。その上で、もし世界が見る側(あなた)の見方によって見え方が異なるのであるとするならば、ありのままの世界とはどのようなものなのか、そして私たちはそれを知ることができるのか、という問題について考えます。これは哲学の専門用語では「認識論」と呼ばれる問題です。 授業中に指示します。
	3	常識にとらわれない	私たちは一人ひとり違う人間で価値観や考え方も違うはずなのに、びっくりするほど同じようなものの見方をしています。この回では、いくつかのワークを通して私たちが常識にとらわれていることを確認します。その上で、そのそも常識とは何なのか、常識にとらわれないものの見方をするにはどうすればよいのかを考えます。 授業中に指示します。
	4	古典に触れる	世に古典と言われるものは、長い歴史を経て現在まで受け継がれ散逸せずに残っているという意味で一定の価値があると云えるでしょう。今回の授業では、パスカルの『パンセ』をはじめとして、古典とされる作品の一節一節を手がかりにその深みに触れます。このことを通じて、人文知のあり方をいま改めて考え直します。 授業中に指示します。
	5	論理的思考を身につける	今回の授業では、論理的思考(ロジカルシンキング)とはどのようなものなのかを確認した上で、非論理的な会話ややりとりの事例をもとに論理的思考を身につけるための訓練をします。また、論理学の基礎を学修します。 授業中に指示します。
	6	コミュニケーション	コミュニケーションとは何なのか。コミュニケーション障害ということばもよく耳にするようになりました。視覚資料をもとに、コミュニケーションについて考えます。 授業中に指示します。
	7	生と死について考える(1)	視覚資料をもとに、生と死について考えます。 授業中に指示します。
	8	生と死について考える(2)	視覚資料をもとに、生と死について考えます。 授業中に指示します。
	9	生と死について考える(3)	昔話の『うばすて山』、赤瀬川原平の『老人力』を手がかりに、歳をとることの意味について考えます。 授業中に指示します。
	10	記号化された世界について考える(1)	都市化が進むなかで、私たちが従来の自然に接する機会は少なくなってきました。また経済的合理性を追求することで自動化と分業化が進み、私たちがふだん口にする食べ物がどのように作られた 授業中に指示します。

			り育てられたりしているのかが見えにくくなってきました。この回では、記号化を手がかりに、世界について考えます。																	
	11	記号化された世界について考える (2)	前回は引き続き、視聴覚資料をもとに、記号化された世界について考えます。	授業中に指示します。																
	12	記号化された世界について考える (3)	アウシュビッツ強制収容所の写真を見ながら、記号化された世界について考えます。	授業中に指示します。																
	13	自由について考える	自由も哲学の大きなテーマの一つです。自由の問題について考えます。	授業中に指示します。																
	14	わたしとあなた	〈わたし〉と〈あなた〉の関係は、ある意味で特別な関係です。これはほかの誰か(三人称)ではなく、まさにあなた(二人称)とわたし(一人称)の関係なのであって、その意味で、あなたはわたしにとって特別な相手なのです。もしかすると看護師と患者の関係は、この〈わたし〉と〈あなた〉、一人称と二人称の関係と言えるかもしれません。これは哲学のなかでも大きなテーマの一つです。この回では、ある看護の実践に関するドキュメンタリーを観た上で、わたしとあなたの関係について考えます。	授業中に指示します。																
	15	まとめ、全体のふり回り	これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり回りながら期末試験に向けて準備をしましょう。																
関連科目	ボランティア活動論、倫理学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?</td> <td>森達也</td> <td>ちくまプリマー新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題 (リアクションペーパー) 15%、受講態度 (積極的な発言など) 5%、小テスト 10%、期末試験 70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。																			
学生へのメッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。																			
担当者の研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 1号館2階 非常勤講師室 メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)																			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																			

科目名	文学	科目名(英文)	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大橋 直義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	みなさんの多くがおそらくは共通して抱えているであろう、「現代社会において古典文学を学ぶ意味はどこにあるのか」との問いの根底には、「古典文学は役に立たない」という観念が横たわっています。このような問いを突きつけられたとき、たとえば「自国の文化・文芸についての教養を身に付けていることが国際社会では常識だから」といった回答で人はその身をかわしますが、結局のところ、「役に立たないかもしれないけれど」と留保しつつ、「読んでおいたほうがよい」という自己目的的な知識増大の礼賛——教養主義に陥っているにすぎず、その意味でこれまでの古典文学研究あるいは教育は、この種の問題から目をそらしつづけてきたと言わざるをえません。たしかに古典文学は、現代の社会システム——たとえば企業経済活動に代表される効率化を是とする社会においては、ほとんど「役に立たない」のです。この授業が問題の出発点としたいのは、なぜ我々は古典文学が「役に立たない」と感じてしまうのか、ということです。そのような判断を下しているのは、1945年8月15日正午以後（あるいは明治維新以後）、日本社会の様々な局面に累々と積み上げられてきた価値規範に他なりません。つまり、古典文学が描く世界は、この価値規範によって排除され、どこか遠い世界の物語として断絶させられてしまっているのです。現代の日本がこれまでの価値規範の見直し・再構築を迫られている現状にあることは我々が肌で感じている通りですが、このような状況は、現代に限ったことではありませんでした。戦乱・地震・大火・台風などの未曾有の災厄を経た、たとえば鎌倉時代最初期も同様であったとすることができます。そのような時代、新たな価値規範を再構築するにあたって、常に「古典」が共同体の物語として再認識されてきたのです。このことは、この時期、藤原俊成によってなされた「源氏見ざる歌詠みは遺恨のことなり」との警鐘にも読み取ることができますし、西洋世界における古典（人文）復興——ルネサンスとも通底するでしょう。この授業が目指すのは、今後、価値規範が再構築されるであろう現代日本において、顧みられることになる「古典文学」とそこに内在する、時に「呪縛」ともなってしまう共同体の物語の力、ことばの力のありかたを明らかにすることです。																																																																
到達目標	現代において「古典文学」を学ぶ意味を考えることをこの授業の目標とする。																																																																
授業方法と留意点	講義形式で授業を行なう。授業の進め方、採点基準などについては初回授業時に説明するので、必ず出席されたい。																																																																
科目学習の効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 30%;">授業テーマ</th> <th style="width: 30%;">内容・方法 等</th> <th style="width: 30%;">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス・現代に息づく「古典文学」「地域社会と文学」</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「古典」とは何か、「文学」とは何か</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>書物と図書館</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「説話」と「物語」と「歴史叙述」と</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>『太平記』を読む(1)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>『太平記』を読む(2)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>『太平記』を読む(3)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>『太平記』を読む(4)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>『太平記』を読む(5)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>『太平記』を読む(6)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>『太平記』を読む(7)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>『太平記』を読む(8)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>『太平記』を読む(9)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>『太平記』を読む(10)</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>『太平記』を読む(11)まとめ</td> <td>講義 配布プリントを読む</td> <td>リアクションペーパー</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス・現代に息づく「古典文学」「地域社会と文学」	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	2	「古典」とは何か、「文学」とは何か	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	3	書物と図書館	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	4	「説話」と「物語」と「歴史叙述」と	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	5	『太平記』を読む(1)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	6	『太平記』を読む(2)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	7	『太平記』を読む(3)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	8	『太平記』を読む(4)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	9	『太平記』を読む(5)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	10	『太平記』を読む(6)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	11	『太平記』を読む(7)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	12	『太平記』を読む(8)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	13	『太平記』を読む(9)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	14	『太平記』を読む(10)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー	15	『太平記』を読む(11)まとめ	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス・現代に息づく「古典文学」「地域社会と文学」	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
2	「古典」とは何か、「文学」とは何か	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
3	書物と図書館	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
4	「説話」と「物語」と「歴史叙述」と	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
5	『太平記』を読む(1)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
6	『太平記』を読む(2)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
7	『太平記』を読む(3)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
8	『太平記』を読む(4)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
9	『太平記』を読む(5)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
10	『太平記』を読む(6)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
11	『太平記』を読む(7)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
12	『太平記』を読む(8)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
13	『太平記』を読む(9)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
14	『太平記』を読む(10)	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
15	『太平記』を読む(11)まとめ	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー																																																														
関連科目																																																																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1																																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>太平記一(～六)</td> <td>兵藤裕己校注</td> <td>岩波書店</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	太平記一(～六)	兵藤裕己校注	岩波書店																																																								
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	太平記一(～六)	兵藤裕己校注	岩波書店																																																														
評価方法(基準)	授業への取り組み・リアクションペーパー(20%)、定期試験(80%)により、総合的に評価する。 100点満点中60点以上で合格。																																																																
学生へのメッセージ	高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。																																																																
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																																
備考	履修上の注意点、レポートのテーマなどは初回授業時に指示します。授業前後の自主学習は、授業内で配布する資料を熟読しておくこと、また授業内で得た知見を自身が進めざる研究・学習や日常に活かすよう、意識することです。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																

科目名	文化人類学	科目名(英文)	Cultural Anthropology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中のさまざまな人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探究してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果(資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念、方法論について概説する。	特になし
2	人類学の誕生(1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化論人類学へという変化をとおしていわゆる人類学の誕生をあとづける。	特になし
3	人類学の誕生(2): 進化論人類学	タイラー、モーガン、フレイザーの研究を例に進化論人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	特になし
4	機能主義人類学(1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、マリノフスキーとラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	特になし
5	機能主義人類学(2): 有機的全体としての社会	前回の続き	特になし
6	アメリカ文化人類学の誕生(1):	フランツ・ボアズの研究を概説する。	特になし
7	アメリカ文化人類学の誕生(2)	前回の続き	特になし
8	アメリカ文化人類学の展開(1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	特になし
9	アメリカ文化人類学の展開(2)	前回の続き	特になし
10	構造主義(1)	モースとレヴィ=ストロースの研究を中心に構造主義について概説する。	特になし
11	構造主義(2)	前回の続き	特になし
12	解釈人類学(1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	特になし
13	解釈人類学(2)	前回の続き	特になし
14	文化を書く	80年代以降のポストモダン人類学について概説する。	特になし
15	ポスト・ポストモダン人類学と文化の行方	これまでの議論のまとめと総括を行う。	特になし

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	100%試験によって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。
学生へのメッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。
担当者の研究室等	
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	教育学	科目名(英文)	Pedagogy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直して、みることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができますようにします。																																																																		
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史、社会とのかかわりなどについて基礎的な知識を身につけます。 自分の直接的な体験から跳躍して、「教育」について問い、考える方法を身につけます。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行います。受講者のみなさんには折々の授業テーマに関してコメントペーパーを提出してもらい、それをクラス全体で共有して、さらに多角的に深く考えるきっかけにします。また発展として、授業テーマに関連した簡易なテキストを読み解き、グループで議論する時間を設けます。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス:教育を原理的に考察すること</td> <td>教育を原理的に考察することの意味を考える。</td> <td>「自分にとって教育とは何か」を考えておく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>動物と人間の違い①</td> <td>「野生児」の例から教育について考える。</td> <td>授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>動物と人間の違い②</td> <td>「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。</td> <td>二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」</td> <td>①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。</td> <td>「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」</td> <td>いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。</td> <td>「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」</td> <td>①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。</td> <td>「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>教育の思想の歴史①</td> <td>ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。</td> <td>授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>教育の思想の歴史②</td> <td>ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。</td> <td>授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>教育の思想の歴史③</td> <td>ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。</td> <td>授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>日本の教育の歴史①</td> <td>明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。</td> <td>授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>日本の教育の歴史②</td> <td>大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。</td> <td>授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>教育と権力①</td> <td>ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。</td> <td>教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>教育と権力②</td> <td>①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。</td> <td>「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>媒介者としての教師</td> <td>様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。</td> <td>「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめと補足</td> <td>授業に関してまとめの考察を行う。</td> <td>授業時に指示する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。	2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。	3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。	4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。	5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。	6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。	7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。	8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。	9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。	10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。	11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。	12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。	13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。	14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。	15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。																																																																
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。																																																																
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。																																																																
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。																																																																
5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。																																																																
6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。																																																																
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。																																																																
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。																																																																
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。																																																																
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。																																																																
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。																																																																
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。																																																																
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。																																																																
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。																																																																
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。																																																																
関連科目	他の教養科目等で学習した内容と関連づけて考えてみましょう。																																																																		
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																															
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																															
評価方法(基準)	授業の折に提出してもらったコメントペーパー30%、定期試験の得点70%で、総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合には成績は判定しません。																																																																		
学生へのメッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(朝日研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	ボランティア活動論	科目名(英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	東日本大震災という未曾有の災害を経験し、ボランティア活動が日本で再び注目されるようになってきました。1995年が日本のボランティア元年と呼ばれるようになったきっかけは阪神・淡路大震災でした。ただ、一言でボランティア活動と言っても、地域の清掃を行うといったような身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修し理解することを目標にしています。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回アクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	授業中に指示します。
3	なぜボランティアが必要なのか?	ボランティアの必要性について学修します。	授業中に指示します。
4	日本のボランティア活動	日本でボランティア活動が盛んになった経緯について学修します。	授業中に指示します。
5	市民社会論	ボランティア活動の基礎にある市民について、市民とは何か、市民社会とはどのようなものか学修します。	授業中に指示します。
6	NPO、NGO	NPO、NGOとは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものか学修します。	授業中に指示します。
7	社会制度とボランティア活動	社会制度がNPO、NGOの活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	授業中に指示します。
8	中間のふり回り	前回までの内容をひと通り理解し、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。	授業中に指示します。
9	災害とボランティア(1)	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。	授業中に指示します。
10	災害とボランティア(2)	災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	授業中に指示します。
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業中に指示します。
12	文化ボランティア	文化ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業中に指示します。
13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業中に指示します。
14	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	授業中に指示します。
15	まとめ、全体のふり回り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。

関連科目	
教科書	番号 書籍名 著者名 出版社名
参考書	番号 書籍名 著者名 出版社名
評価方法(基準)	この授業は授業内課題(アクションペーパー)15%、受講態度(積極的な発言など)5%、小テスト10%、期末試験70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。
学生へのメッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
担当者の研究室等	メールアドレス: xmorimse[*]@edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え) この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的にを行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語るができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思ひます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思ひます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴し次回に備える。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴する
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習・事例を探しレポート
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習
14	教育とジェンダー	日本の教育に関するジェンダーの問題について考える。	配布プリントの復習
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

評価方法 (基準) 授業内レポートおよび課題レポート (30%)、定期試験 (70%) により総合評価する。

学生への 難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではなく様々な視点で考えることができるようになることが本授

メッセージ	業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的にを行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語るができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思ひます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思ひます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴し次回に備える。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴する
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習・事例を探しレポート
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習
14	教育とジェンダー	日本の教育に関するジェンダーの問題について考える。	配布プリントの復習
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			

	3		
評価方法 (基準)	授業内レポートおよび課題レポート (30%)、定期試験 (70%) により総合評価する。		
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	法学入門	科目名(英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	本授業は、法が社会のなかでどのような機能を果たしているかについて楽しく学ぶことを目的とする。		
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。		
授業方法及び留意点	教科書および参考書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、予習・復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認し持参すること。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ事件の概要となぜその記事を選らんだか説明する。		
科目学習の効果(資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、今後の社会生活に必ず役立つ。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	法ってなんだろう?	講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法
	2	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	3	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下での平等 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	7	家族と法-結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、親権、監護権 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	8	家族と法-親子関係	扶養、相続、遺言 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	9	日常生活のアクシデント-交通事故	交通事故、自動車、自転車 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	10	日常生活のアクシデント-医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	11	日常生活のアクシデント-製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	12	罪と罰-犯罪	犯罪の形式と性質、刑務所 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	13	罪と罰-国際犯罪	国際赤十字連盟、医療NGO、国際人道法 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	14	労働・社会保障と法-子育て・介護	労働契約、解雇・失業、子育て、介護 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	15	会社と法	法人格、寄付控除 前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
関連科目	日本国憲法		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	ワンステップ法学	國友順市、畑雅弘(編著) 嵯峨野書院
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	赤十字の誕生-ソルフェリーノの思い出	アンリー・デュナン 白水社
	2		
	3		
評価方法(基準)	1. テスト 50% 2. 新聞を持参し討議に積極的に参加しているか。 20% 3. コメント用紙に積極的に記入し提出するか。 30%		
学生へのメッセージ	法は、わたしたちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。		
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室 Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp		
備考			

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	Constitutional Law
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得する。 わたしたちの日常生活と憲法との関係を理解し、社会における諸問題について自分の意見を述べるができる。
授業方法と留意点	基本的には講義方式ですが、出席者の発言を期待しています。授業では、必要に応じてレジュメや資料を配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。各授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ・レポート作成の機会を設けます。
科目学習の効果(資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	憲法の意義 「憲法」の歴史	講義 西洋における近代憲法の歴史について	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
3	日本における憲法の歴史	講義 明治憲法及び日本国憲法の歴史	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
4	日本国憲法の基本原理	講義 国民主権・平和主義を中心に考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
5	統治のしくみ(1) 国会	講義 国会・内閣の基本的機能について考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
6	統治のしくみ(2) 裁判所	講義 裁判所の組織、司法権の独立、違憲審査制について考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
7	人権総論	講義 「人権」の歴史(世界・日本)	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
8	自由権(1)表現の自由	講義 表現の自由の重要性とその限界について、判例・近年の動きを通して考える。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
9	自由権(2)人身の自由:適正手続の保障	講義 被疑者・被告人の権利 近年の冤罪事件について 裁判員裁判の諸問題	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
10	社会権(1)	講義 社会権の歴史 生存権と生活保護制度	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
11	社会権(2)	講義 教育を受ける権利 労働者の権利	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
12	法の下での平等	講義 平等権に関する最重要判例。 戦前からこれまでの女性の法的地位の変遷	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
13	新しい人権	講義 新しい人権—自己決定権をめぐる諸問題。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
14	憲法改正の問題	講義 これまでの憲法改正をめぐる動向を概観する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
15	まとめと復習	講義 これまで取り上げた憲法に関する重要判例を整理する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。

関連科目 法学入門

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法(第6版)	芦部信喜	岩波書店

評価方法(基準) 定期試験80%、平常点(レポート・学習態度など)20%によって総合的に評価します。
詳しくは初回の講義で説明します。
100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ 「憲法」の議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。気軽に質問してください。

担当者の研究室等 1号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	経済学	科目名(英文)	Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	紀国 正典
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

教養科目

<p>授業概要・目的</p>	<p>経済学は人間の生活全般に関係する学問です。このためその取り扱う範囲や課題は広大です。</p> <p>概論として表面をなぞって説明したとしても、とても2単位の講義日数では時間が足りません。</p> <p>それゆえ本講義では、「リスク管理・制御」、「生活者」、「現代性」という三つのキーワードで、講義テーマを絞り込みます。</p> <p>一つめの「リスク管理・制御」とは、人間の生存や幸福を妨げるいろんなリスク要因を学び、それを上手に管理・制御して、人間の持続的的幸福を実現することです。</p> <p>このための経済のあり方を、生活者の立場から、わかりやすく学び、考えます。さらに詐欺にあつたり、損失をかかえたり、借金漬けになつたりしないための生活知識を、わかりやすく学び、考えます。</p> <p>学生さんも、社会に出てから生涯かかわる生活問題ですので、興味・関心をもって参加していただけたらと思います。</p> <p>二つめの「生活者」とは、実際にこの社会で生活しているみなさん自身の立場から、社会や経済のあり方をみて、学び、考えることです。</p> <p>生活者の視点からみると、日本経済と世界経済の全体と問題点をとてもよく理解できます。また金融は誰でもがかわる生活取引ですので、その点、金融・国際金融から世の中をみると、いろんな謎がわかるのです。</p> <p>三つめの「現代性」とは、現実みなさんの目の前で起こっている経済現象を材料にして、講義をすすめることです。できるだけ最新のニュースや新聞記事を資料として配布し、テーマに関係したDVDを上映いたします。</p> <p>みなさんの身の回りで実際に起こっていることですので、興味・関心をもって、聞いていただけたらと思います。</p>								
<p>到達目標</p>	<p>講義の三つのキーワードの順序でいうと、到達目標は次の三つになります。</p> <p>第1に、人間の持続的的幸福を実現するための経済のあり方についての知識を学び、それを社会生活に活かしたり、自分も損失をかかえたり借金漬けになつたりしないための生活知識を身につけることです。</p> <p>第2に、生活者の視点から、日本経済と世界経済の出来事をよく理解できるようになることです</p> <p>第3に、自分の身の回りで実際に起こっている日本経済と世界経済について、興味・関心をもてるようにすることです。</p>								
<p>授業方法と留意点</p>	<p>まじめに努力すれば、その努力度を評価しますので、誰でも良い成績がとれる授業です。</p> <p>ただしマナー・モラルを守らない不真面目な学生さんは、単位を取れません。</p> <p>次の三つの講義方針で臨みます。</p> <p>(1) 努力がむくわれる講義 真面目に努力したことが成績に反映するよう工夫しております。</p> <p>(2) 参加型講義 学生さんが、毎回の講義について、意見カードで自分の感想や考えを述べてもらい、授業への努力集中度を成績に反映します。</p> <p>(3) モラル・マナーが守られる講義 私語でうるさい学生さん、およびスマホをいじっている学生さんは退出させます。 遅刻の多い学生さんはマイナス評価をします。</p> <p>講義意見交流の方法(参加型講義の実践方法)</p> <p>① 意見・質問・評価カードに書いて頂いた講義内容に関する質問・疑問のうち、重要で受講生みんなに関係するものについては、次の講義の最初に回答いたします。</p> <p>② 授業時間中に回答できなかった質問・疑問あるいは要望や相談事項について、紀国の回答を必要とするときは、次のメールアドレスに、携帯・スマホ・パソコンから送信してもらえばメール返信で回答いたします。件名に必ず「〇〇大学： 〇〇学部・氏名」を入れること。パソコンメールブロックは解除しておくこと。 紀国パソコン・メールアドレス (kinokuni@pure.biglobe.ne.jp)</p> <p>③ 紀国が代表を務める金融の公共性研究所のWebサイト (http://finance-public.org.jp) にアクセスして頂き、そのサイトの「大学講義意見交流N」ページに入ってもらえば、その「意見交流の広場」ページに、講義スライドを貼り付けてあります。確認と復習に使ってください。パスワードは(17sn8)です。</p> <p>意見交流の広場ページにコメント欄があり、ご意見があればそこに書いて送信して頂ければ、受講生みんなでご共有できます。多くの方のご参加を期待しています。</p> <p>「金融の公共性研究所」Webサイト (http://finance-public.org.jp) 「大学講義意見交流N」ページのパスワード (17sn8)</p>								
<p>科目学習の効果(資格)</p>	<p>生活の経済学という内容で講義しますので、教養の経済学としての科目学習効果は十分に得られると思います。</p>								
<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済学の概要とこの講義での授業方法および成績評価方法について知ります。 教材DVDで、スマホ・イ</td> <td>学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。</td> <td>必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	経済学の概要とこの講義での授業方法および成績評価方法について知ります。 教材DVDで、スマホ・イ	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題						
1	経済学の概要とこの講義での授業方法および成績評価方法について知ります。 教材DVDで、スマホ・イ	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。						

		インターネットの功罪と上手な付き合い方について考えます (情報の経済学)		
2		人間の持続的的幸福を実現する経済およびリスクとリスク管理制御方法について学びます。自然リスクの管理・制御方法について考えます (防災経済学)。 教材DVDで、大震災の予測と防災について考えます。	学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
3		リスク管理・制御の大失敗例として福島原発事故を取り上げ、事故の発生原因と原子力発電リスクについて考えます (エネルギー経済学)。 教材DVDで、ヒロシマ、チェルノブイリ、フクシマと続いた大惨事を振り返り、人類が核とどのように対処すべきなのかについて考えます。	学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
4		人間の持続的的幸福を妨げるだけでなく、人間もふくめ生物の大量絶滅も起こし得る地球温暖化問題について考えます (環境経済学①)。 教材DVDで、地球温暖化にどう対処すべきかについて考えます。	学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
5		地球リスク管理の制御方法と再生可能エネルギーについて考えます (環境経済学②)。 教材DVDで、持続可能な人類の生産と生活方法のあり方について考えます。	学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
6		買う取引にひそむリスクとリスク管理方法について考え、人間の持続的・幸福に貢献する消費のあり方について考えます (消費経済論)。 教材DVDで、先進国で安売りをするため、途上国で搾取をする国際ブラック企業のあくどさについて学びます。	学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
7		売る取引にひそむリスクとリスク管理方法について考えます (労働経済論)。 リスクとは、若者を使い捨てにするブラック企業やブラックバイトのことで。リスク管理とは、ブラック企業の見分け方とブラック企業・ブラックバイトへの対処の仕方のことです。 教材DVDで、ブラック企業とブラックバイトに立ち向かう若者の取組みを学びます。	学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
8		借りの取引にひそむリスクと多重債務問題およびその根底にある貧困・格差の現状について考えます (福祉経済論)。 教材DVDで、奨学金という借金が若者の学業と将来に重くのしかかっている現実とその対策について考えます。	学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
9		リスク管理・制御の大失敗例として世界金融危機を取り上げ、その発生原因と制御方法について考えます (国際金融論と国際経済論)。 教材DVDで、世界金融危機の引き金になったサブプライム・ローンの実態について学びます。	学習方法は、講義での説明、教材 DVD の上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
10		貯める取引のリスクとリス	学習方法は、講義での説明、教材 DVD の	必要があれば講義の際にその都度、指示いたしま

		ク管理方法および金融商品のリスクとリターンの法則と預貯金について学び、 教材DVDで、貯める方法と注意点についてわかりやすく学びます。	上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	す。
	11	株式、公社債と投資信託などの金融商品について学び、金融商品が経済格差を生み出すことについて考えます(金融商品と経済格差論)。 教材DVDで、富裕層や政治家が税金を逃避している実態について知ります。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
	12	円高・円安の意味するところを理解し、外国為替相場について学びます(外国為替論・国際経済論)。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
	13	円高・円安についての理解を基にして、外貨建金融商品について理解できるようにし、外貨建金融商品のリスク管理方法を考えます(国際金融論)。 教材DVDで、外貨建金融商品のリスクについて学びます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
	14	貯める取引にひそむ金融犯罪に巻き込まれない方法について考えます(金融消費者論・情報経済論)。 教材DVDで、金融犯罪に対処する方法を学びます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
	15	人間の持続的的幸福に寄与する金融取引について考えます(社会的責任金融論)。 教材DVDで、人間の持続的的幸福に寄与する社会的責任金融のあり方について学びます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。

関連科目 とくになし。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

評価方法 (基準)
 毎回の授業で提出してもらい意見・質問・評価カードを、ポイント評価(0ポイント、1ポイント、2ポイント)して、15回分を合計し、それを70点に換算した点数に期末試験の点数を加えて、成績を評価します。
 意見・質問・評価カードポイント換算点数(70%) + 期末試験点数(30%) = 評点
 コツコツと努力したことが、確実に成績に反映する公正な評価方法です。

学生へのメッセージ
 経済あるいは経済学についての予備知識はまったくありません。
 経済・金融あるいは経済学が苦手という学生さんこそ、大歓迎です。
 わかりやすく、おもしろく、楽しい授業を、いっしょに創り出していきましょう。

担当者の研究室等
 1号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	生物・化学の基礎	科目名(英文)	Biology and Chemistry
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	眞島 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生物、化学は、看護師を目指す学生が専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。したがって、十分な生物、化学の基礎知識を有することが必須であるが、高校での履修科目のみでは不十分な点も多い。更には、高校時代に生物、化学を選択しなかった、あるいは生物、化学のみを選択した学生もいる。従って、本科目では、以後の専門科目の履修に必要な生物、化学に関する基礎力を身につける。
到達目標	医療・健康に関連する領域はもちろん、自然界で生じる現象に対して基礎的な範囲で科学的に説明する。 将来、仕事を共にする医師・薬剤師等の医療スタッフとの共通知識基盤として、基本的な科学に基づいた思考を行う。
授業方法と留意点	講義（講義室）
科目学習の効果（資格）	生物、化学は、職業人の教養として必要であり、また、専門家を目指す上での基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	細胞の構造と生命誕生	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
3	原子と電子、電子の居場所	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
4	生命体を構成する物質	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
5	化学結合、溶質の化学	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
6	細胞の分裂・情報伝達・がん化	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
7	電磁波の科学、電磁波の使い方	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
8	生命体の受精と成長	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
9	仕事をする能力、熱のエネルギー、自由エネルギー、生体内のエネルギー	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
10	遺伝の仕組みと遺伝病	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
11	物質変化の速さ、溶液の化学	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
12	遺伝の仕組みと遺伝病、遺伝子の構造と機能	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
13	化学式、構造式の読み方	講義（講義室）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
14	遺伝子の構造と機能	講義（講義室）	教科書、参考書の予習復習
15	試験（生物・化学）	講義（講義室）	プリント

関連科目 人体の構造と機能（1年次前後期）、代謝栄養学（1年次後期）、感染と防御（1年次後期）、薬理学総論（2年次前期）、薬物治療学（2年次後期）

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理	岡田隆夫	羊土社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	やさしい物理化学—自然を楽しむための12講	小池 透	共立出版
3			

評価方法（基準） 授業修了後の定期試験で総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ 看護師を目指す上で、生物、化学の基礎は必要である。特に高等学校時代にこれらの科目を履修していない、あるいは3年間履修していない学生は、この機会に、高等学校の教科書や参考書も含めて、しっかりと学習することをすすめる。また、履修した学生でも、受験科目として勉強していない場合、自分が思うよりも力がついていないことが多いので、予習、復習を欠かさずに行うことをすすめる。

担当者の研究室等 1号館

備考 看護に関係する範囲を中心に、高等学校で学ぶ内容の復習から専門性の高い内容まで幅広い講義になります。限られた回数での早足の講義になります。また、大学の学習は、講義だけではなく、学生各自の自学自習をもって完結するものです。特に高等学校で生物、化学を十分に学習していない学生は、予習（教科書を読むだけでも構いません）、復習をしっかりと行うこと。高等学校の理科（生物・化学）の内容に自信がない者は、高校で用いた教科書、参考書、資料集等を残しておくこと。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 奈津子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP4◎		

教養科目

授業概要・目的	医療・ケアの専門職としてその社会的な責務を果たすためには、ケアの実践において人々の人権を尊重することが求められる。また科学技術の急速な進歩に伴う、医療現場における多くの倫理的な課題についての理解が必要である。本科目では、現代の医療が直面する倫理的諸問題の歴史的・社会的背景を、具体的事例を交えながら考察し、生命倫理と患者主体の医療の中で看護職の果たす役割について学習する。
到達目標	現代の医療は、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植・脳死、ターミナルケア等多くの倫理的問題を抱えている。このような倫理的問題の本質とさまざまな側面を、具体的事例を通して学ぶことで、自ら問題を抽出し、より良いケアを考える力を育む。
授業方法と留意点	『事例でまなぶ ケアの倫理』(G suppl 編集委員会編、メディカ出版)を教科書とし、レジュメを配布する。講義中心。
科目学習の効果 (資格)	看護職に就くものとして備えるべき高い倫理観の醸成に資し、看護の専門科目を学ぶ上での基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	生殖補助医療技術	講義：生殖補助医療技術について説明できる。女性の身体の道具化、生殖のビジネス化、子どもの出自を知る権利等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
3	出生前診断と選択的人工妊娠中絶	講義：出生前診断・着床前診断と、選択的人工妊娠中絶について説明できる。優生思想、優生保護法の倫理的問題、胎児条項、リプロダクティブ・ライツ、胚と胎児の道徳的地位等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
4	重症新生児治療の差し控え・中止	講義：新生児医療が直面する問題について説明できる。NICUにおける医療倫理、重症新生児の治療をめぐる諸ガイドライン等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
5	安楽死・尊厳死	講義：安楽死と尊厳死の違いについて説明できる。海外での安楽死・尊厳死をめぐる主要な出来事と関連法、日本における経緯と現状を理解する。患者と家族に対して医療者ができることを考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
6	脳死と臓器移植	講義：生体臓器移植・脳死臓器移植およびそれらが抱える問題について説明できる。脳死は人の死か、脳死患者と移植待機患者そしてそれぞれの家族の苦悩について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
7	子どもにおけるインフォームドコンセント	講義：子どもに医療におけるインフォームドコンセント (アセント) と親権、児童虐待の問題について説明できる。病気説明・告知や治療に関する自己決定の在り方、医療現場における児童虐待の発見と課題について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
8	患者のQOLとは何か	映像資料鑑賞：映像資料を通して、患者のQOLとは何か、自分が当事者であればどう考え行動するか、専門職医療者としては何ができるかを考える。	講義直後にレポート提出。
9	病気と差別	講義：HIV感染症と、その感染者やAIDS発症者をめぐる問題について説明できる。薬害HIV事件、強制HIV検査の是非、守秘義務と警告義務について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
10	難病を生きるということ	講義：難病と難病政策について説明できる。難病を抱えながら生きる人々に対し医療者ができること、患者とその家族の苦悩や負担について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
11	自己決定と遺伝カウンセリング	講義：遺伝子診断と遺伝カウンセリングについて説明できる。遺伝子診断をめぐる倫理的問題 (知る権利と知らないでいる権利、血縁者への情報提供、DTC遺伝子検査、遺伝子差別等) について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
12	認知症を抱えて	講義：認知症とそのケアの在り方について説明できる。患者のQOL、身体拘束、高齢者虐待、認知症患者が関わる事件・事故 (交通事故・行方不明など) 等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
13	ターミナルケア	講義：終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明できる。死の受容と延命治療、鎮静 (セデーション)、家族・遺族の悲嘆のケアの在り方等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
14	医療が患者に害をもたらす	講義：医療事故とインシデントおよびそ	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。ま

	とき	れらへの取り組みについて説明できる。実際に起こった医療事故例を振り返り、失敗に学ぶ医療安全体制の構築や患者の救済について考える。	た、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。																
15	医療倫理に関する事例の検討	講義：これまで学んできた、生命倫理・医療倫理における諸問題を、映像資料鑑賞を通して確認し、これからの医療と医療者に課せられた問題とあるべき姿について考える。	講義直後にレポート提出。																
関連科目	看護倫理をはじめとした看護専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事例でまなぶ ケアの倫理</td> <td>G supple 編集委員会編</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業中のレポート (20%)、定期試験 (80%) により評価する。100 点満点の 60 点以上で合格とする。																		
学生への メッセージ	医療・ケアの現場で起きている、あるいはこれから起きる可能性がある諸問題について学びます。病气や障害を抱える人に接するうえで大事にしなければならない、専門職としての考え方・視点とともに、様々な立場の当事者の視点や社会の関わりについても理解していく一助となればと思います。																		
担当者の 研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室																		
備考																			

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかけられないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 4月8日(土)	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (荻田・鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
	2	自己の探求 4月15日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
	3	自己の探求 4月16日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
	4	今、地域で何が起きているか 5月6日(土) 1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅都市」について調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
	5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月6日(土) 2限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
	6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月6日(土) 3限	大都市周辺市街地と地方農山村部とでは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (平田・稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
	7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 5月20日(土) 1限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林・内部)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
	8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 5月20日(土) 2限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (荻田・田中)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
	9	事前学習① 由良町関係者の講演 5月20日(土) 3限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状と課題をお聞かせします。	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
	10	事前学習② グループワーク 6月3日(土) 1、2限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。
	11	体験学習 (和歌山県由良町)	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。

	6月17日(土)終日		【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
12	プレゼンテーション講座 7月1日(土)1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく。 【事後学習】 スライドをつくってみる。																
13	事後学習① グループワーク 7月1日(土)2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
14	事後学習② 成果発表会 7月15日(土)1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
15	事後学習③ ふりかえり 7月15日(土)3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する。 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% 最終レポート 40% 60%で合格とする。																		
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																		
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																		
備考																			

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
2	地域(1, 2)に関する事前学習	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	地域(1, 2)に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
5	地域(3, 4)に関する事前学習	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
6	地域(3, 4)に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
8	地域(5, 6)に関する事前学習	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	地域(5, 6)に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	地域(7, 8)に関する事前学習	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	地域(7, 8)に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
14	全体のまとめと振り返りのためのグループワーク	北河内地域の活性化や課題の解決のための具体的なアクションプランを策定する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	プレゼンテーション	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	個人成果物(30%、提出物)、講演に対するグループごとの聴講態度(30%、ルーブリック)、グループワーク・プレゼンテーションの態度および成果物(40%、ルーブリック・提出物)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。
----------	---

学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか?
-----------	----------------------

担当者の研究室等	枚方キャンパス1号館6階(薬理学研究室)、寝屋川キャンパス11号館1階(教務課)
----------	--

備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。
----	--

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティブティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修: 自己紹介の原案を考える。 ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修: 企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修: NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本① ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修: 問題プリント①を解く。 ・事後学修: 問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修: CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修: 自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から行う。	・事前学修: 各自がテーマを見つける。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・CM比較プレゼンテーションを行う。 ・実際に企画を考える。	・事前学修: グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修: プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修: 最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の2年目のプロジェクトです。1年目は、古民家再生の概念設計を行い、小型の望遠鏡とプラネタリウムを製作しました。本年度は、詳細設計と改修工事、大型天体望遠鏡の製作、観望会イベントのノウハウ収集が主なテーマです。</p> <p>実施手順は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要:本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、7年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2017年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的:池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法:池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点:学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ:寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容: 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</p> <p>方法:授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題:内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる?</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる?</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は①由良町観光パンフレットの多言語化 ②ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦 ③「海の学校」の企画、運営を行います。								
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。								
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる パンフレットの原案作成 グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえてパンフレットに 使えそうな地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦の企画立案 企画案の議論を行う 事前学習：アイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる 7の企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 7の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 「海の日」イベント企画 事前学習：自分の案を企画する 事後学習：データ整理 10の企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 11の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 全体ふりかえり <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>								
関連科目	各学部マーケティング関連科目								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社
	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館
	3			
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 50% 提出物 50%			
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや種類・神話を交えて、交野市の小学生に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える上映プログラムを製作する。今年度は、中学生を対象に、上演を試行し、その結果も踏まえて、一方的でなく小学生が自分の星座をつくるなどの参加型のプレゼンテーションを開発する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2017年5月～2018年1月であり、月2回の全体ミーティングと年間9回の交野市での活動を予定している。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの概要と基本方針の説明(評価法の提示) ・プラネタリウム見学(連携団体との協議を含む) (1) 投影機本体の状態把握、ドーム(10mの半球形空間)の空間使用案と投影案を決定 (2) 年間計画の策定(到達目標の修正と日程の調整) ・プラネタリウム投影機のメンテナンスと並行して上映プログラムを決定 ・プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 ・交野市理科教室参加の中学生をゲストに、プレゼンテーション(中間発表)を試行 (3) 問題点の抽出と修正案の検討(連携団体との協議を含む) ・追加スライドの作成と上映プログラム全体の問題点の改善と内容の修正 ・トライアル上映会の試行と最終プログラムの策定(連携団体との協議を含む) ・交野市小学生(または交野市教育委員会関係者)を対象に上映会を試行 ・プロジェクトのまとめと今後の方向性を確認(連携団体との協議を含む) 上記の項目を2017年4月～2018年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ルーブリック評価表などで評価を行う。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、食品・お酒・化粧品から文具・雑貨に至るまで多種多様なものがある。本プロジェクトでは、各大学のオリジナル商品を調査し、それらを整理・分析することで、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を明らかにする。さらに、いくつかの商品候補について、商品開発に向けた具体的な方略を考え、次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報を収集することができる。 2. 情報を整理し、分析することができる。 3. お互いに意見を出し合い、それらを集約できる。 4. 結果を第三者に説明できる。 																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20名)までの少人数で活動を行う。そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げるための萌芽的な取り組みである。実施手順は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞やインターネット上の情報の中から、必要な情報を探し出す。 2. 集めた情報を一定の形式に整理する。 3. それらをインパクトの大きさおよび実現可能性の観点から整理・分析する。 4. お互いに意見を出し合い、摂南大学オリジナル商品の方向性を決定する。 5. 候補商品についてグループごとにプレゼンテーションを行い、候補商品を絞り込む。 6. 候補商品(1～数個)に対する連携企業を探す。 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、青笹教授室(1号館8階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。			
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	汎用的能力 (40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決 (30%)、貢献度 (30%) について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。			
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。			
担当者の研究室等	担当者の研究室等 1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、「ものづくり」の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。また、専門的に学んでいる学生と他分野で学んでいる学生とで協力し合うことにより、新しい発想や役割分担が出来るのでチーム全体の能力が向上することも期待する。																
授業方法と留意点	構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>課題名：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育</p> <p>授業概要・流れ 現場見学を実施し、実際の構造物を見て構造を理解し、また、橋梁の補修・補強の技術や耐震補強の技術を学ぶ。実際のフィールドで学んだことを活かし、橋梁模型をデザイン・製作する。さらに、橋梁模型コンペティションに参加して、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、「ものづくり」の真の楽しさを体験することである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。</p> <p>0. 専門知識の習得 (復習・新たに勉強)、現場見学を実施することによる学び、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定 (調査・ディスカッションなどで)、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会</p> <p>「前期」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加 <p>「後期」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加 																
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『基本を学ぶ構造力学』</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『新編 橋梁工学』</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版	2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版														
2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』	日本道路協会編	日本道路協会														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めないので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。また、確認テストを実施する。																
学生へのメッセージ	参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、「ものづくり」の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎。																
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>・学ぶのは、「ビジネス戦略」です。本PBLのプロジェクトテーマは、「交野市との連携事業～起業・創業を応援する取り組み～」です。文系・理系を問わず、それぞれの立場で地域社会（交野市）の異世代の人々と交流し、「ビジネス戦略」を考え、学生自身がこの授業・活動等をプロデュースします。</p> <p>・主な学修テーマは、以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新たにビジネスを始め、それを軌道に乗せるためには、何を、どのように準備・実践すれば良いのか？ ② 学生の目線と地域社会（交野市）の異世代の人々の目線は、何が違うのか？ ③ 学内の授業と学外の活動との相乗効果を、どう実現するのか？ ④ 自分自身がPBLプロジェクトから何を吸収し、また何が貢献できるのか？
到達目標	<p>【本PBLプロジェクトの到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、本PBLの到達目標です。 ・地域社会の実際のビジネス現場において「戦略」を分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 <p>【摂南大学PBLプロジェクト到達目標（全プロジェクト共通）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく分けて、学外のPBL活動と学内のPBL授業に分かれます。 <p>【学外PBL活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 交野市において、地域住民、行政、商工会議所、金融機関等と連携し、「起業・開業のビジネス戦略」について体験・活動します。 ② 各学生の希望に応じて小チームに分かれ、「交野おりひめ大学」（市民大学）における蕎麦づくり、地酒づくり、自然農法、歴史文化、商品企画等の戦略プロデュースにも関わってもらいます。 <p>【学内PBL授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 上記の学外活動におけるヒアリング結果、成果物等について学生同士で報告し、全員で情報共有するとともに、今後の課題について検討します。 ② 「起業・開業ビジネス」に関し、事例にもとづくアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業を実施します。学生同士のグループディスカッション、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく学びます。 <p>【授業・活動上の注意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 年間を通じて、単位取得に必要な授業・活動時間数を確保します。 ② 実際のPBL授業・活動は、土日祝日等に実施される場合があります。 ③ 先方(交野市関係者)のご事情等により、授業・活動内容が一部変更となる場合があります。 ④ 本PBL履修の募集定員は、30名(ゼミ生含む)程度です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【4月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小テスト～交野市の現状と課題～、②この授業の受講目的・ニーズの個別ヒアリング、③PBLガイダンス <p>【5月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①交野市の現地ビジネス視察、②交野市の現状と課題について整理 <p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 <p>【7月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①七イベントなど現地活動への参加・企画体験 ②「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 <p>【8～9月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小チーム(4～5人程度)に分かれ、複数の現地関係先へのヒアリング調査、面談メモ提出 ②後期PBL活動における所属小チームの決定 <p>【10～11月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小チーム(4～5人程度)に分かれ、現地でのPBL活動、毎回の活動報告提出 ②関連業界調査、資料・データ等収集、市役所、商工会議所、金融機関など関係先へのヒアリング、面談メモ提出 ③各チーム同士の報告会、反省と課題整理 <p>【12月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①成果と検証(何をアウトプットするのか?)、②最終成果発表準備 <p>【1月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終成果発表(学内) <p>【2～3月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①最終成果発表(学外、第三者評価含む)、②次年度への課題・引き継ぎ事項 <p>【事前学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず、毎回の授業・活動において、次回までの事前学習課題を学生自身で考えます。自分なりに取り組み、次回に発表できる様にして下さい。

	<p>【事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業・活動におけるポイント、キーワード、失敗体験などを記録・保存し、次回以降に活かし、実践できる様にして下さい。 																
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 2年次…企業論、3年次…経営戦略論、企業分析(経営戦略ケース分析)、ものづくりと経営など 各学生が所属する小チームのプロジェクトテーマに応じ、修得が好ましい授業科目を紹介します。 																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>① 本PBL 授業・活動に対する参加意欲・貢献度 (50%)、</p> <p>② 本PBL 授業・活動における成果物、プレゼン内容、プレゼン力 (25%)、</p> <p>③ 交野市関係者を含む学内外の第三者評価 (25%)</p> <p>による総合評価。</p> <p>ただし、原則として毎回の授業・活動の都度採点し、集計します。</p>																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> PBLの最大のメリットは、通常の授業では決して経験できない、実践的な現場体験学修ができることです。 35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ 失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。 																
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習（座学による） 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室 7号館3階 水野講師室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、実社会でも求められるリーダーシップを育成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる																		
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、タグラグビーを指導する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる(フィードバック)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。																		
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。																		
担当者の研究室等備考	総合体育館1F 内部研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は学生との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。</p> <p>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校だけでも多数活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の読み聞かせの練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。</p> <p>今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。</p> <p>プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>寝屋川市成美小学校地域協働協議会青少年部会のみなさんと連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。</p> <p>社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。</p> <p>①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関わりによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。</p>																
授業方法と留意点	<p>寝屋川市成美小学校地域協働協議会のメンバーとプログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進めます。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等</p> <p>7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける）</p> <p>9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） 小学生・保護者・協働協議会員を招待</p> <p>1月 最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>企画書、活動報告書、リーダーシップ、レポートを総合的に評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>経営学部と教職課程履修学生以外の学生の参加も歓迎します。</p>																
担当者の研究室等	<p>林研究室（7号館3階） 鶴坂研究室（11号館7階）</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 ビジネスパーソンのための夜間連続講演会『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営</p> <p>【概要と目的】 公益財団法人関西生産性本部が開催予定の『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営を通して、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を学習する。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>また、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>活動は、主に学内とOIT梅田タワーで行う。</p> <p>本学的な活動を行う前に、コミュニケーション研修やビジネスマナー研修を行う。</p> <p>アドバイスは教員に加えて、連携先の関西生産性本部の職員が行う。</p> <p>関西生産性本部のHPを必ず閲覧すること</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期のビジネスパーソン向けの講座の企画、講師の折衝、広報、講座の運営を公益財団法人関西生産性本部の担当者にアドバイスを受けながら実施し、身に付けたスキルを生かして後期の講座を実施する。その過程で、上記目標の達成を目指す。</p> <p>(2017年)</p> <p>3月 オリエンテーション(研修)</p> <p>3～5月 前期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HPなど)作成、告知等のマーケティング</p> <p>6～8月 講座実施、運営補助</p> <p>8～9月 前期まとめ、中間報告</p> <p>9～10月 後期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HPなど)作成、告知等のマーケティング</p> <p>11月 講座実施、運営補助</p> <p>(2018年)</p> <p>1月 学内PBL発表会</p> <p>2月 年間まとめ、年間の結果報告</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>PBLでの活動による成長内容をルーブリックで評価する (50%)</p> <p>提案書等のレポート (50%)</p> <p>60%で合格とする。</p>																
学生へのメッセージ	<p>本プロジェクトにおいてかかわる人々はすべて社会人ですので、社会人マナーが必要となります。</p> <p>社会人マナーが身につける学修態度が重要です。また、協働できる学生を求めます。</p>																
担当者の研究室等	<p>・荻田喜代一(乗学部教授・教務部長): 寝屋川キャンパス11号館10階あるいは教務課、枚方キャンパス1号館6階薬理学研究室(履修者には詳細な連絡先を周知します)</p> <p>・水野 武(教務部キャリア推進室): 寝屋川キャンパス、7号館3階</p> <p>・今井起代(就職課長): 寝屋川キャンパス10号館1階、就職部</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクトー中小企業にフォーカスしてー</p> <p>【目的】 本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を実践することを目的とする。</p> <p>【概要】 リーダーシップに関する理論的知識をベースに、若手リーダーに育成したいリーダーシップについて大手企業の管理職以上数名にインタビュー調査を行い、商工会議所にリーダーシップ研修の企画提案を行い評価してもらおう。また、プロジェクトのプロセスを通じて参加者のリーダーシップを開発することも目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、『主体性を持って前向きに取り組む力』、『自分とは異なった価値観を受け入れる力』、『課題を発見し、解決する力』を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>(1) リーダーシップに関する知見を知る (2) 企業の若手に求められるリーダーシップの内容を理解し、企画提案力を身につける (3) プロジェクトの活動を通じてリーダーシップを身につける</p> <p>以上の成果を得るため、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びを得ることが到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>まず、学内でのレクチャー、プロの研修講師によるリーダーシップ研修を受講することで、リーダーシップに関する知識とスキルの向上を図る。</p> <p>また、企業訪問を数回行い、実務家と交流を繰り返すことで組織社会化を促進する。</p> <p>最後に、このPBLのプロセス全体を通じて、参加者自らのリーダーシップを開発する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクトー中小企業にフォーカスしてー</p> <p>【内容】 (1) 基本的リーダーシップ理論の理解 (2) 実務家との交流による組織社会化の促進 (3) 提案およびフィードバックの繰り返しによる提案力の向上 (4) プロジェクトのプロセスを通じた自らのリーダーシップ開発</p> <p>【方法】 ・レクチャー ・リーダーシップ研修受講 ・企業訪問 ・本プロジェクト担当者へのプレゼンテーション ・研修講師へのプレゼンテーション ・商工会議所等へのプレゼンテーション ・中間報告会でのプレゼンテーション ・最終報告会でのプレゼンテーション</p> <p>【事前学習課題】 ・人材開発に関心を持ち、人材開発に関する書籍、新聞、雑誌などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 ・プロジェクトで得られたフィードバックを記録し、次回は必ずレベルアップできるようにPDCAサイクルをまわす習慣を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>まとめ役になれる！リーダーシップ入門</td> <td>小野善生</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備や出席回数、達成した内容、外部からの評価、メンバー間の相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊研究室、7号館3階 水野研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。 皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2. 計画を立て、段取りが組める 3. 小売業界の現状を理解する プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンス 小売業について学ぶ ロフトについて学ぶ <p>■5月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画提案の作成 梅田ロフトへの提言 プレゼンテーション実施 グループ決め ロフトでのミーティング <p>■8月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> 提言内容の実施準備 提言内容の実施 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間報告会 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ふりかえり 総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館8階 経営学部 栢木研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の2年目のプロジェクトです。1年目は、古民家再生の概念設計を行い、小型の望遠鏡とプラネタリウムを製作しました。本年度は、詳細設計と改修工事、大型天体望遠鏡の製作、観望会イベントのノウハウ収集が主なテーマです。</p> <p>実施手順は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないとイケないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要:本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、7年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2017年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的:池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法:池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点:学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ:寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容: 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</p> <p>方法:授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題:内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる?</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる?</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は①由良町観光パンフレットの多言語化 ②ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦 ③「海の学校」の企画、運営を行います。								
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。								
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する 3. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する 4. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する 5. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる 6. パンフレットの原案作成 グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえてパンフレットに 使えそうな地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む 7. ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦の企画立案 企画案の議論を行う 事前学習：アイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる 8. 7の企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 9. 7の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 10. 「海の日」イベント企画 事前学習：自分の案を企画する 事後学習：データ整理 11. 10企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 12. 11の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 13. 全体ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。								
関連科目	各学部マーケティング関連科目								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社
	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館
	3			
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 50% 提出物 50%			
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや種類・神話を交えて、交野市の小学生に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える上映プログラムを製作する。今年度は、中学生を対象に、上演を試行し、その結果も踏まえて、一方的でなく小学生が自分の星座をつくるなどの参加型のプレゼンテーションを開発する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2017年5月～2018年1月であり、月2回の全体ミーティングと年間9回の交野市での活動を予定している。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの概要と基本方針の説明(評価法の提示) ・プラネタリウム見学(連携団体との協議を含む) (1) 投影機本体の状態把握、ドーム(10mの半球形空間)の空間使用案と投影案を決定 (2) 年間計画の策定(到達目標の修正と日程の調整) ・プラネタリウム投影機のメンテナンスと並行して上映プログラムを決定 ・プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 ・交野市理科教室参加の中学生をゲストに、プレゼンテーション(中間発表)を試行 (3) 問題点の抽出と修正案の検討(連携団体との協議を含む) ・追加スライドの作成と上映プログラム全体の問題点の改善と内容の修正 ・トライアル上映会の試行と最終プログラムの策定(連携団体との協議を含む) ・交野市小学生(または交野市教育委員会関係者)を対象に上映会を試行 ・プロジェクトのまとめと今後の方向性を確認(連携団体との協議を含む) 上記の項目を2017年4月～2018年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ルーブリック評価表などで評価を行う。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、食品・お酒・化粧品から文具・雑貨に至るまで多種多様なものがある。本プロジェクトでは、各大学のオリジナル商品を調査し、それらを整理・分析することで、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を明らかにする。さらに、いくつかの商品候補について、商品開発に向けた具体的な方略を考え、次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報を収集することができる。 2. 情報を整理し、分析することができる。 3. お互いに意見を出し合い、それらを集約できる。 4. 結果を第三者に説明できる。 																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20名)までの少人数で活動を行う。そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げるための萌芽的な取り組みである。実施手順は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞やインターネット上の情報の中から、必要な情報を探し出す。 2. 集めた情報を一定の形式に整理する。 3. それらをインパクトの大きさおよび実現可能性の観点から整理・分析する。 4. お互いに意見を出し合い、摂南大学オリジナル商品の方向性を決定する。 5. 候補商品についてグループごとにプレゼンテーションを行い、候補商品を絞り込む。 6. 候補商品(1～数個)に対する連携企業を探す。 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、青笹教授室(1号館8階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博
ディプロマポリシー (DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B○, C科：II◎, L科：DP2◎, DP5△, DP6△, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科：DP1◎, DP7◎, N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	汎用的能力 (40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決 (30%)、貢献度 (30%) について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	担当者の研究室等 1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。また、専門的に学んでいる学生と他分野で学んでいる学生とで協力し合うことにより、新しい発想や役割分担が出来るのでチーム全体の能力が向上することも期待する。																
授業方法と留意点	構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>課題名：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育</p> <p>授業概要・流れ 現場見学を実施し、実際の構造物を見て構造を理解し、また、橋梁の補修・補強の技術や耐震補強の技術を学ぶ。実際のフィールドで学んだことを活かし、橋梁模型をデザイン・製作する。さらに、橋梁模型コンペティションに参加して、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験することである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。</p> <p>0. 専門知識の習得 (復習・新たに勉強)、現場見学を実施することによる学び、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定 (調査・ディスカッションなどで)、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会</p> <p>「前期」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加 <p>「後期」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加 																
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『基本を学ぶ構造力学』</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『新編 橋梁工学』</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版	2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版														
2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』	日本道路協会編	日本道路協会														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めないので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。また、確認テストを実施する。																
学生へのメッセージ	参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎。																
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>・学ぶのは、「ビジネス戦略」です。本PBLのプロジェクトテーマは、「交野市との連携事業～起業・創業を応援する取り組み～」です。文系・理系を問わず、それぞれの立場で地域社会（交野市）の異世代の人々と交流し、「ビジネス戦略」を考え、学生自身がこの授業・活動等をプロデュースします。</p> <p>・主な学修テーマは、以下のとおりです。</p> <p>① 新たにビジネスを始め、それを軌道に乗せるためには、何を、どのように準備・実践すれば良いのか？</p> <p>② 学生の目線と地域社会（交野市）の異世代の人々の目線は、何が違うのか？</p> <p>③ 学内の授業と学外の活動との相乗効果を、どう実現するのか？</p> <p>④ 自分自身がPBLプロジェクトから何を吸収し、また何が貢献できるのか？</p>
到達目標	<p>【本PBLプロジェクトの到達目標】</p> <p>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、本PBLの到達目標です。</p> <p>・地域社会の実際のビジネス現場において「戦略」を分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</p> <p>【摂南大学PBLプロジェクト到達目標（全プロジェクト共通）】</p> <p>・本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>
授業方法と留意点	<p>・大きく分けて、学外のPBL活動と学内のPBL授業に分かれます。</p> <p>【学外PBL活動】</p> <p>① 交野市において、地域住民、行政、商工会議所、金融機関等と連携し、「起業・開業のビジネス戦略」について体験・活動します。</p> <p>② 各学生の希望に応じて小チームに分かれ、「交野おりひめ大学」（市民大学）における蕎麦づくり、地酒づくり、自然農法、歴史文化、商品企画等の戦略プロデュースにも関わってもらいます。</p> <p>【学内PBL授業】</p> <p>① 上記の学外活動におけるヒアリング結果、成果物等について学生同士で報告し、全員で情報共有するとともに、今後の課題について検討します。</p> <p>② 「起業・開業ビジネス」に関し、事例にもとづくアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業を実施します。学生同士のグループディスカッション、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく学びます。</p> <p>【授業・活動上の注意点】</p> <p>① 年間を通じて、単位取得に必要な授業・活動時間数を確保します。</p> <p>② 実際のPBL授業・活動は、土日祝日等に実施される場合があります。</p> <p>③ 先方(交野市関係者)のご事情等により、授業・活動内容が一部変更となる場合があります。</p> <p>④ 本PBL履修の募集定員は、30名(ゼミ生含む)程度です。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【4月】</p> <p>①小テスト～交野市の現状と課題～、②この授業の受講目的・ニーズの個別ヒアリング、③PBLガイダンス</p> <p>【5月】</p> <p>①交野市の現地ビジネス視察、②交野市の現状と課題について整理</p> <p>【6月】</p> <p>・「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業</p> <p>【7月】</p> <p>①七イベントなど現地活動への参加・企画体験</p> <p>②「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業</p> <p>【8～9月】</p> <p>①小チーム(4～5人程度)に分かれ、複数の現地関係先へのヒアリング調査、面談メモ提出</p> <p>②後期PBL活動における所属小チームの決定</p> <p>【10～11月】</p> <p>①小チーム(4～5人程度)に分かれ、現地でのPBL活動、毎回の活動報告提出</p> <p>②関連業界調査、資料・データ等収集、市役所、商工会議所、金融機関など関係先へのヒアリング、面談メモ提出</p> <p>③各チーム同士の報告会、反省と課題整理</p> <p>【12月】</p> <p>①成果と検証(何をアウトプットするのか?)、②最終成果発表準備</p> <p>【1月】</p> <p>・最終成果発表(学内)</p> <p>【2～3月】</p> <p>①最終成果発表(学外、第三者評価含む)、②次年度への課題・引き継ぎ事項</p> <p>【事前学習課題】</p> <p>・必ず、毎回の授業・活動において、次回までの事前学習課題を学生自身で考えます。自分なりに取り組み、次回に発表できる様にして下さい。</p>

	<p>【事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業・活動におけるポイント、キーワード、失敗体験などを記録・保存し、次回以降に活かし、実践できる様にして下さい。 																
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 2年次…企業論、3年次…経営戦略論、企業分析(経営戦略ケース分析)、ものづくりと経営など 各学生が所属する小チームのプロジェクトテーマに応じ、修得が好ましい授業科目を紹介します。 																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>① 本PBL 授業・活動に対する参加意欲・貢献度 (50%)、 ② 本PBL 授業・活動における成果物、プレゼン内容、プレゼン力 (25%)、 ③ 交野市関係者を含む学内外の第三者評価 (25%) による総合評価。 ただし、原則として毎回の授業・活動の都度採点し、集計します。</p>																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> PBLの最大のメリットは、通常の授業では決して経験できない、実践的な現場体験学修ができることです。 35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ 失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。 																
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室 7号館3階 水野講師室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、実社会でも求められるリーダーシップを育成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる																		
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、タグラグビーを指導する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる(フィードバック)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。																		
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。																		
担当者の研究室等備考	総合体育館1F 内部研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は学生との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。</p> <p>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校だけでも多数活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の読み聞かせの練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。</p> <p>今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。</p> <p>プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>寝屋川市成美小学校区地域協働協議会青少年部会のみなさんと連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。</p> <p>社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。</p> <p>①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関わりによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。</p>																
授業方法と留意点	<p>寝屋川市成美小学校区地域協働協議会のメンバーとプログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進めます。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等</p> <p>7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション (アイスブレイキング、グループワーク) ②フィールドワークⅠ (例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場) ③フィールドワークⅡ (例えば、地元運動団体、地元商店街) ④フィールドワークⅢ (例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等) ⑤学習会 (例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける)</p> <p>9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示 (中間報公開を兼ねる) 小学生・保護者・協働協議会員を招待</p> <p>1月 最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>企画書、活動報告書、リーダーシップ、レポートを総合的に評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>経営学部と教職課程履修学生以外の学生の参加も歓迎します。</p>																
担当者の研究室等	<p>林研究室 (7号館3階) 鶴坂研究室 (11号館7階)</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 ビジネスパーソンのための夜間連続講演会『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営</p> <p>【概要と目的】 公益財団法人関西生産性本部が開催予定の『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営を通して、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を学習する。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>また、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>活動は、主に学内とOIT梅田タワーで行う。</p> <p>本学的な活動を行う前に、コミュニケーション研修やビジネスマナー研修を行う。</p> <p>アドバイスは教員に加えて、連携先の関西生産性本部の職員が行う。</p> <p>関西生産性本部のHPを必ず閲覧すること</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期のビジネスパーソン向けの講座の企画、講師の折衝、広報、講座の運営を公益財団法人関西生産性本部の担当者にアドバイスを受けながら実施し、身に付けたスキルを生かして後期の講座を実施する。その過程で、上記目標の達成を目指す。</p> <p>(2017年)</p> <p>3月 オリエンテーション(研修)</p> <p>3～5月 前期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HPなど)作成、告知等のマーケティング</p> <p>6～8月 講座実施、運営補助</p> <p>8～9月 前期まとめ、中間報告</p> <p>9～10月 後期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HPなど)作成、告知等のマーケティング</p> <p>11月 講座実施、運営補助</p> <p>(2018年)</p> <p>1月 学内PBL発表会</p> <p>2月 年間まとめ、年間の結果報告</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>PBLでの活動による成長内容をルーブリックで評価する(50%)</p> <p>提案書等のレポート(50%)</p> <p>60%で合格とする。</p>																
学生へのメッセージ	<p>本プロジェクトにおいてかかわる人々はすべて社会人ですので、社会人マナーが必要となります。</p> <p>社会人マナーが身につける学修態度が重要です。また、協働できる学生を求めます。</p>																
担当者の研究室等	<p>・荻田喜代一(乗学部教授・教務部長): 寝屋川キャンパス11号館10階あるいは教務課、枚方キャンパス1号館6階薬理学研究室(履修者には詳細な連絡先を周知します)</p> <p>・水野 武(教務部キャリア推進室): 寝屋川キャンパス、7号館3階</p> <p>・今井起代(就職課長): 寝屋川キャンパス10号館1階、就職部</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクトー中小企業にフォーカスしてー</p> <p>【目的】 本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を実践することを目的とする。</p> <p>【概要】 リーダーシップに関する理論的知識をベースに、若手リーダーに育成したいリーダーシップについて大手企業の管理職以上数名にインタビュー調査を行い、商工会議所にリーダーシップ研修の企画提案を行い評価してもらおう。また、プロジェクトのプロセスを通じて参加者のリーダーシップを開発することも目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、『主体性を持って前向きに取り組む力』、『自分とは異なった価値観を受け入れる力』、『課題を発見し、解決する力』を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>(1) リーダーシップに関する知見を知る (2) 企業の若手に求められるリーダーシップの内容を理解し、企画提案力を身につける (3) プロジェクトの活動を通じてリーダーシップを身につける</p> <p>以上の成果を得るため、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びを得ることが到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>まず、学内でのレクチャー、プロの研修講師によるリーダーシップ研修を受講することで、リーダーシップに関する知識とスキルの向上を図る。</p> <p>また、企業訪問を数回行い、実務家と交流を繰り返すことで組織社会化を促進する。</p> <p>最後に、このPBLのプロセス全体を通じて、参加者自らのリーダーシップを開発する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクトー中小企業にフォーカスしてー</p> <p>【内容】 (1) 基本的リーダーシップ理論の理解 (2) 実務家との交流による組織社会化の促進 (3) 提案およびフィードバックの繰り返しによる提案力の向上 (4) プロジェクトのプロセスを通じた自らのリーダーシップ開発</p> <p>【方法】 ・レクチャー ・リーダーシップ研修受講 ・企業訪問 ・本プロジェクト担当者へのプレゼンテーション ・研修講師へのプレゼンテーション ・商工会議所等へのプレゼンテーション ・中間報告会でのプレゼンテーション ・最終報告会でのプレゼンテーション</p> <p>【事前学習課題】 ・人材開発に関心を持ち、人材開発に関する書籍、新聞、雑誌などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 ・プロジェクトで得られたフィードバックを記録し、次回は必ずレベルアップできるようにPDCAサイクルをまわす習慣を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>まとめ役になれる！リーダーシップ入門</td> <td>小野善生</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備や出席回数、達成した内容、外部からの評価、メンバー間の相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊研究室、7号館3階 水野研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2. 計画を立て、段取りが組める 3. 小売業界の現状を理解する プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンス 小売業について学ぶ ロフトについて学ぶ <p>■5月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画提案の作成 梅田ロフトへの提言 プレゼンテーション実施 グループ決め ロフトでのミーティング <p>■8月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> 提言内容の実施準備 提言内容の実施 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間報告会 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ふりかえり 総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館8階 経営学部 栢木研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室																
備考																	

科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。本科目では、日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。コミュニケーションの諸場面に生じる問題を通して、円滑な意志疎通のあり方を探る。
到達目標	日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。それを通じてコミュニケーションの諸場面に生じる問題を乗り越え、円滑な意志疎通が可能なる力を身につける。
授業方法と留意点	講義による授業方法。適宜演習も取り入れる。
科目学習の効果(資格)	特になし

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義と演習	授業時に指示する
2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
4	言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
5	言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
6	言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
7	非言語コミュニケーション①	講義と演習	授業時に指示する
8	非言語コミュニケーション②	講義と演習	授業時に指示する
9	非言語コミュニケーション③	講義と演習	授業時に指示する
10	非言語コミュニケーション④	講義と演習	授業時に指示する
11	コミュニケーションと文化①	講義と演習	授業時に指示する
12	コミュニケーションと文化②	講義と演習	授業時に指示する
13	コミュニケーション・スキルとは何か①	講義と演習	授業時に指示する
14	コミュニケーション・スキルとは何か②	講義と演習	授業時に指示する
15	コミュニケーション・スキルとは何か③	講義と演習	授業時に指示する

関連科目 国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション学など

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験 70%、平常点 30%で評価します。講義に出席するのは当然のことです。よって出席したことが点数にはつながりません。ただし講義時に①授業での質問に対する積極的な応答、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢などで注意を受けた場合や意欲が極めて低いと判断した場合は減点法で評価します。

学生へのメッセージ 積極的な参加を求めます。

担当者の研究室等 1号館2階 非常勤講師室

備考 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

教養科目

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	授業では統計理論の基本を学び、実際にエクセルや統計ソフトを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	統計の基本を理解し、正しい統計解析を行えるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。																																																																		
科目学習の 効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>統計とは</td><td>統計の役割と種類、尺度</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>2</td><td>統計の基本(1)</td><td>度数分布、ヒストグラム</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>3</td><td>統計の基本(2)</td><td>代表値(平均値、中央値、最頻値など)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>4</td><td>統計の基本(3)</td><td>代表値と散布度(分散、標準偏差など)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>5</td><td>相関と回帰</td><td>相関係数と回帰直線</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>6</td><td>確率分布(1)</td><td>正規分布、標準正規分布、確率、累積確率</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>7</td><td>確率分布(2)</td><td>二項分布、χ^2乗分布</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>8</td><td>確率分布(3)</td><td>F分布、t分布</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>9</td><td>母集団と標本(1)</td><td>標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>10</td><td>母集団と標本(2)</td><td>中心極限定理</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>11</td><td>母集団と標本(3)</td><td>母分散と標本分散</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>12</td><td>推定(1)</td><td>母集団の平均値の推定、95%信頼区間(1)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>13</td><td>推定(2)</td><td>母集団の平均値の推定、95%信頼区間(2)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>14</td><td>検定(1)</td><td>Z検定(1)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> <tr><td>15</td><td>検定(2)</td><td>Z検定(2)</td><td>PCでのデータの扱いに慣れること</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	PCでのデータの扱いに慣れること	2	統計の基本(1)	度数分布、ヒストグラム	PCでのデータの扱いに慣れること	3	統計の基本(2)	代表値(平均値、中央値、最頻値など)	PCでのデータの扱いに慣れること	4	統計の基本(3)	代表値と散布度(分散、標準偏差など)	PCでのデータの扱いに慣れること	5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	PCでのデータの扱いに慣れること	6	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	PCでのデータの扱いに慣れること	7	確率分布(2)	二項分布、 χ^2 乗分布	PCでのデータの扱いに慣れること	8	確率分布(3)	F分布、t分布	PCでのデータの扱いに慣れること	9	母集団と標本(1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること	10	母集団と標本(2)	中心極限定理	PCでのデータの扱いに慣れること	11	母集団と標本(3)	母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること	12	推定(1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間(1)	PCでのデータの扱いに慣れること	13	推定(2)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間(2)	PCでのデータの扱いに慣れること	14	検定(1)	Z検定(1)	PCでのデータの扱いに慣れること	15	検定(2)	Z検定(2)	PCでのデータの扱いに慣れること
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
2	統計の基本(1)	度数分布、ヒストグラム	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
3	統計の基本(2)	代表値(平均値、中央値、最頻値など)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
4	統計の基本(3)	代表値と散布度(分散、標準偏差など)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
6	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
7	確率分布(2)	二項分布、 χ^2 乗分布	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
8	確率分布(3)	F分布、t分布	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
9	母集団と標本(1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
10	母集団と標本(2)	中心極限定理	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
11	母集団と標本(3)	母分散と標本分散	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
12	推定(1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間(1)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
13	推定(2)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間(2)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
14	検定(1)	Z検定(1)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
15	検定(2)	Z検定(2)	PCでのデータの扱いに慣れること																																																																
関連科目	疫学・保健統計																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>やさしい統計学</td><td>片平潤彦</td><td>桐書房</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしい統計学	片平潤彦	桐書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	PCに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。授業時間以外にも積極的にPCを使うこと。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西鶴 智香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>●概要:「自分のキャリア」=「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのものこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積めばいいのか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。</p> <p>●看護師という職業は、これから、職務・職域拡大についてどのように変革しようとしているかを知り、キャリアデザインの参考にします。</p>
到達目標	<p>●到達目標:2年次の自分なりに、で構いません。看護師になって自分は何がやりたいのか、自分がやりがいを持てるのは何か、自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでも具体的に描けるようになることを目標とします。</p> <p>●私と皆さん、皆さん同士、のディスカッションを中心に進めていきます。「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気にせず、自分の意見を言えるようになること」も目標としています。</p>
授業方法と留意点	<p>●毎回のテーマ講義後、少人数でのディスカッション・全体でのディスカッションを実施。</p> <p>●回によっては、配布したワークシートを記入しながらのディスカッションもあります。</p> <p>●毎回終了時に、レポート提出あります。</p> <p>●毎回、周りを気にせず、自分の意見を述べることを求めます。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。</p> <p>●自分を理解できることで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<p>●講義概要、講師自身のキャリア形成、社会の現状とキャリアデザインの重要性</p> <p>●「上手に議論する方法」について説明</p>	<p>●「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどういうふうに関わっているのか、しっかりと理解しましょう。</p> <p>●多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であることを理解しましょう。</p>
2	「看護師」という職業を考える!	職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。	日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみましょう。
3	日本の医療業界の現状課題、将来予測から看護師の職域を考える!	日本の世界に誇る国民皆保険制度、医療・介護の将来像、医療業界の問題点についてディスカッション。その中で看護師はどのような職域で、どんなニーズがありそうか調べる。	新聞記事等にある内容から、現在の医療業界の現状を読んでおいて下さい。自分がリーダーだったら、日本の医療制度をどのように変化させたいか、看護師にどのように活躍させたいか、意見を考えておいて下さい。
4	自分自身を知る①	求められる「社会人基礎力」は、自分は何の程度出来ているかチェック。自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。	「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分の行動目標を立てます。率直に意見を言い合う面白さ、を実感しましょう。
5	自分自身を知る②	「自分に自信がある、ない」は何に起因されているのか。自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。	患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみましょう。
6	リーダーシップを考える	社会で求められるリーダーになるには、何を身につければいいのか。	今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。
7	自分の生涯キャリアを考える①	結婚、出産、転職、介護等、人生に起こりうるイベントでも、自分のキャリアデザインを修正していくことも迫られる可能性があることを知しましょう。	看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。目標に向かってどのような道をたどっているのか、調べる。
8	自分の生涯キャリアを考える②	自分のキャリアデザインシート作成	友人、家族にも意見をもらい、参考にしながら作成してみましょう。
9	「チーム医療」で働くとは①	講義形式、ワーク	「チーム医療で働く」とは何か?今、先輩方はどのように働いているか、まとめてみよう
10	「チーム医療」で働くとは②	発表、ディスカッション	「チーム医療」では看護師がどのように働いているのか、まとめたものを発表します。相手にわかりやすく伝える能力も開発します
11	看護師のキャリア開発・キャリアパス①	講義形式、ワーク	看護師としてのキャリアをスタート後、どのように能力を磨いていくのか、探ってみます
12	看護師のキャリア開発・キャリアパス②	発表、ディスカッション	ある病院のキャリア開発について、事例として、調べたものを発表してもらいます
13	「自分はこんな人、こんな看護師になりたい」①	講義形式、ワーク	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。
14	「自分はこんな人、こんな看護師になりたい」②	発表	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。
15	まとめ～「自分のキャリア」は何を目指しているのか	「自分のキャリアは自己責任」を理解し、セルフカウンセリング力をつける重要性について	常に、「なぜそうなのか?」を考えるクセをつけ、率直に自分の意見を言い、また他人を受容する力をつけましょう。

関連科目	特記なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通じて作成するワークシートを完成させ、講義終了時のレポートと合わせて提出することを必須要件とする。 ・出席回数・講義中に使用するワークシート記入・講義終了後レポート内容 60% ディスカッションでの発言・受講態度40% ※評価ポイント <ul style="list-style-type: none"> ・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。 ・ディスカッションで自分の考えを積極的に発言し、また他人の意見に耳を傾け受容し、コミュニケーションをとっているか。 			
学生への メッセージ	<p>自分の人生プランを一から描けるのは、若い時にだけできること。 この講義を通して、自分自身のこと、人生で絶対やりたいこと、等を整理し、これからの人生を、自立できて、迷うことなく明るく進んでほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻厳禁！前半の講義進行に影響が出るので慎むこと。 ・私語厳禁！誰かが発言している際に私語を慎むのは、大人の常識！ 意見を言いたい時には、手を挙げて発言すること。 ・自立した大人を目指すため、様々なアドバイスをします。耳が痛いことも言うかもしれませんが、皆さんが社会人になって「残念な人だ」と言われないために、と思っははっきりと注意します。ご理解下さい。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師			
備考	メールアドレス chika@career-position.com			

科目名	英語IV	科目名(英文)	English IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業では、医療、看護、科学に関する英文学術論文を読解できる能力を養う。また、より多くの情報を得るために、インターネット等を用いた学術論文の収集方法を学習し、学術論文の要点を把握する能力を修得することを目的とする。さらに、医療現場等で必要とされる実用的な英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。
到達目標	1) 医療、看護、科学等に関する英語の代表的な用語を列挙し、その内容を説明できる。 2) 医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 3) 医療、看護、科学等に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。 4) インターネット等を用いて学術論文の読解に必要な情報を収集できる。 5) 医療、看護、科学等に関する英文学術論文を読解し、その内容を説明できる。
授業方法と留意点	医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読解します。また、英文学術論文を読み、その内容に関する説明資料の作成・発表を行います。辞書を必ず持参して下さい。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(1)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
2	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(2)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
3	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(3)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
4	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(4)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
5	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(5)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
6	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(6)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
7	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(7)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
8	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(8)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
9	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(9)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
10	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(10)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
11	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(11)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
12	英文の学術論文の読み方(1)	学術論文の読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
13	英文の学術論文の読み方(2)	学術論文のデータの読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
14	英文の学術論文の要約作成	学術論文の要約を作成する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。
15	英文の学術論文の内容発表と全体のまとめ	学術論文の内容を発表する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。

関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「プリント」を講義で配付します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	耳から学ぶ楽しいナース英語	野口ジュディ、川越栄子、仁平雅子	講談社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>学術論文の発表に用いるプレゼン資料 (20%)、各授業中の発表と学術論文発表 (20%) および定期試験 (60%) で総合的に評価します。なお、出席、受講態度不良の者については20点を限度に減点することがあります。</p>			
学生への メッセージ	<p>本講義は、アドバンス型の英語の講義です。英語の論文を毎週読んでいただきますので、講義外での、予習・準備が相当必要になります。意欲的態度で臨み、積極的に授業に参加し、発表して下さい。</p>			
担当者の 研究室等	1号館5階 生化学研究室 (薬学部)			
備考	<p>事前学習：次回の授業範囲の単語、慣用語句等に関する学習および要約作成・発表に必要な情報調査等 (1時間×15回) 事後学習：授業で用いた英語文章の単語等の復習 (0.5時間×15回)</p>			

キャリア形成科目



科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	西鶴 智香
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎		

授業概要・目的	<p>●概要：「自分のキャリア」＝「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積めばいいのか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。</p> <p>●看護師という職業は、これから、職務・職域拡大についてどのように変革しようとしているかを知り、自分のキャリアデザインの参考にします。</p>
到達目標	<p>●到達目標：1年次の自分なりに、で構いません。看護師になって自分は何がやりたいのか、自分がやりがいを持てるのは何か、自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでも具体的に描けるようになることを目標とします。</p> <p>●「大学生」である皆さんには、大人としての態度、意見を求めます。講義を通して、自立し成長することを目標とします。</p> <p>●私と皆さん、皆さん同士、のディスカッションを中心に進めていきます。「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気にせず、自分の意見を言えるようになること」も目標としています。</p>
授業方法と留意点	<p>●毎回のテーマ講義後、少人数でのディスカッション・全体でのディスカッションを実施。</p> <p>回によっては、配布したワークシートを記入しながらのディスカッションもあります。</p> <p>●毎回終了時に、レポート提出あります。</p> <p>●毎回、周りを気にせず、自分の意見を述べることを求めます。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。</p> <p>●自分を理解できることで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●講義概要、講師自身のキャリア形成、社会の現状とキャリアデザインの重要性 ●「上手に議論する方法」について説明 	<ul style="list-style-type: none"> ●「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどのようなふう動いているのか、しっかりと理解しましょう。 ●多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であることを理解しましょう。
2	「看護師」という職業を考える！	職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。	日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみましょう。	
3	自分自身を知る①「社会人基礎力」	求められる「社会人基礎力」は、自分ほどの程度出来ているかチェック。自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。	「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分の行動目標を立てます。率直に意見を言い合う面白さ、を実感しましょう。	
4	自分自身を知る②「自己肯定」と「自己効力」	「自分を認めていくことが多様性理解につながる」「自分に自信がある、ないは何に起因されているのか」。物の捉え方の練習、自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。	多様性を理解できる包容力のある人になりましょう。そのために物の捉え方の練習をしていきます。患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみましょう。	
5	リーダーシップを考える	社会で求められるリーダーになるには、何を身につければいいのか。	今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。	
6	自分の生涯キャリアを考える	結婚、出産、転職、介護等、人生に起こりうるイベントでも、自分のキャリアデザインを修正していくことも迫られる可能性があることを知ります。自分のキャリアデザインシート作成します。	看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。目標に向かってどのような道をたどっているのか、調べる。	
7	「自分はこんな人、こんな看護師になります！」	各自発表	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。	
8	まとめ～節目ごとに「自分のキャリアデザイン」を。	「自分のキャリアは自己責任」時代。今後、自分の人生の節目ごとに、自分で生涯キャリアを設計、修正することの意義を理解する。	自分の人生は自分で決める。常に、「なぜそうなのか？」を考えるクセをつけ、率直に自分の意見を言い、また他人を受容する力をつけましょう。	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目	特記なし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通じて作成するワークシートを完成させ、講義終了時のレポートと合わせ提出することを必須要件とする。 ・出席回数・講義中に使用するワークシート記入・講義終了後レポート内容 60% ディスカッションでの発言・受講態度40% ※評価ポイント <ul style="list-style-type: none"> ・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。 ・ディスカッションで自分の考えを積極的に発言し、また他人の意見に耳を傾け受容し、コミュニケーションをとっているか。 			
学生への メッセージ	自分の人生プランを一から描けるのは、若い時にだけできること。 この講義を通して、自分自身のこと、人生で絶対やりたいこと、等を整理し、これからの人生を、自立できて、迷うことなく明るく進んでほしいと思います。 <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻厳禁！前半の講義進行に影響が出るので慎むこと。 ・私語厳禁！誰かが発言している際に私語を慎むのは、大人の常識！ 意見を言いたい時には、手を挙げて発言すること。 ・自立した大人を目指すため、様々なアドバイスをします。耳が痛いことも言うかもしれませんが、皆さんが社会人になって「残念な人だ」と言われないために、と思っははっきりと注意します。ご理解下さい。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師			
備考	メールアドレス chika@career-position.com			

科目名	キャリア入門	科目名(英文)	Introduction to Career
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8◎		

授業概要・目的	高校生から大学生への円滑な移行に向けて、摂南大学看護学部生として、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的とする。
到達目標	1) 大学で看護学を学ぶための基礎的な学習技術を習得する。 2) 自身で学び考えるための基礎的能力を習得する。 3) 看護学生としての自己管理能力を身につける。 4) キャリア体験と動機づけによって看護の目標志向を育む。
授業方法と留意点	・講義、薬学部との合同演習、現役看護職との交流会を実施します。 ・薬学部での合同演習では、責任感をもって個々の役割を担って下さい。 ・現役看護職との交流では、貴重な機会となりますので、自らの将来や目標を見据え、質問したいことを事前に考えてくるようにして下さい。
科目学習の効果(資格)	専門職への意識を高め、目標に向かって主体的に、学習をすすめていくことができる。 看護師としての成長のみならず、人間的に成長することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習課題	事後学習課題
1	履修ガイダンス・履修指導	摂南大学生として卒業時に目指す姿履修内容、方法および学習を深める方法について学ぶ	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
2	学生生活ガイダンス	充実した学生生活を過ごすために心がけること、大学の規範や社会の一員としてのマナーや姿勢を身に付ける	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
3	先輩から学ぼう	小グループで上級生との交流することを通じて、具体的な学習方法や大学生活を知り、見通しをたてる	事前学習課題：大学生活の実際や学習方法について、質問したいことをまとめる	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
4	大学生基礎力レポートの振り返り	入学時に実施した大学生基礎力レポートの結果をもとに、自身の傾向と課題を見出し、今後の大学生活の目標を明確にする	事後学習課題：大学生基礎力の結果を見つめ、今後の自己課題や目標を明確にする	
5	キャリアガイダンス	看護師国家資格について、看護職としての就職について理解し、目標を明確にする。目標達成に向けて自分自身が取り組むべき課題を明らかにする	事前学習課題：ファーストイヤースタディガイドを読んでおく	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
6	チームビルディング	チームワークとは何か、チーム医療とは何かを明確にし、薬学部生とのグループワークを行う	事前学習課題：チームとは、チームワークとは、チーム医療とは何かについて調べておく	事後学習課題：チームにおける自分の果たすべき役割についてまとめる
7	生命の尊厳と人間の尊重「緩和医療について」	ゲストスピーカーを招いて、緩和医療について学ぶ	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。	事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる
8	「緩和医療について」チームアプローチを考える	事前学習内容をグループで共有し合い、薬学部生ともに緩和医療におけるチームアプローチについてグループで検討する	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。	事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる
9	チーム医療「在宅医療について」	ゲストスピーカーを招いて、在宅医療、チーム連携について学ぶ。	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。	事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる
10	「在宅医療について」、チームアプローチを考える	事前学習内容をグループで共有し合い、薬学部生ともに在宅医療におけるチームアプローチについてグループで検討する。	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。	事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる
11	グループ発表会	緩和医療、在宅医療について、グループで検討した内容を発表する	事前事後学習課題：グループで検討した内容を発表するための準備をし、最終プロダクトを仕上げる	
12	グループ発表会	緩和医療、在宅医療について、グループで検討した内容を発表する	事前事後学習課題：グループで検討した内容を発表するための準備をし、最終プロダクトを仕上げる	
13	私のキャリア①	専門看護師について（資格取得の方法、役割、具体的な実践内容等）	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
14	私のキャリア②	連携 4 病院の現役看護師をゲストスピーカーとして招き、自身のキャリア体験や活動内容について学ぶ	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる	事後学習課題：さらに知りたいことを深める
15	私のキャリア②	グループに分かれて、現役看護職と交流し、看護の実際や看護師のキャリア経験を聞き、自分の未来を見通す	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる	事後学習課題：さらに知りたいことを深める

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		

キャリア形成科目

	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク等の参加態度 20%、提出物 80%			
学生への メッセージ	自分の将来の目標を明確にし、それに向かって着実に前進できるよう、具体的な計画を立てましょう。			
担当者の 研究室等	研究室 17 鎌田			
備考	ゲストスピーカーの都合によりシラバス内容が一部変更することがあります。			

科目名	患者安全	科目名(英文)	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	辻 琢己・岩崎 綾乃・鎌田 佳奈美・眞島 崇・森谷 利香・吉川 有葵
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	薬学部生とともに学ぶ経験を通して、看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技術・態度を身につけるために、医療倫理及び世界標準の患者安全について学び、医療チームの中での看護師が果たすべき責任および役割を学ぶ。
到達目標	<p>(1) 看護師の使命 一般目標：医療の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、看護師としての使命感を身につける。 【患者安全と薬害の防止】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療にかかわるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) 2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。 3. 医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。 4. 医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 <p>(2) 看護師に求められる倫理観 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。 【医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。 <p>【患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) 2. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) <p>(3) 多職種連携協働とチーム医療 一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種との連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) <p>(4) 人と社会に関わる看護師 一般目標：人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と看護師の関わりを認識する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 2. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)
授業方法と留意点	講義、自己学習、小グループ討論、発表会を行います。 教科書、プリント等を用います。
科目学習の効果(資格)	チーム医療における患者の安全の守る看護師の役割を学修する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1回(世界標準の患者安全1) ○WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 ○医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。	講義、自己学習 教材：ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
2	2-5回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療にかかわるのリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
3	6回(世界標準の患者安全2) ○医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	講義、自己学習 教材：ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
4	7-10回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療に関わるリスクを認	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。

		<p>識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</p> <p>○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</p> <p>○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</p> <p>○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</p> <p>○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)</p> <p>○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p>														
5	<p>11 回 (世界標準の患者安全3)</p> <p>○医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。</p> <p>○患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。</p> <p>○患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。</p>	<p>講義、自己学習</p> <p>教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント</p>	<p>事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。</p> <p>事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。</p>													
6	<p>12-15回 (指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。)</p> <p>○医療に関わるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</p> <p>○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</p> <p>○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</p> <p>○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</p> <p>○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)</p> <p>○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p>	<p>自己学習、小グループ討論、発表会</p>	<p>事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。</p> <p>事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。</p>													
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド</td> <td>相馬孝博</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版	2						
番号	書籍名	著者名	出版社名													
1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版													
2																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名											
番号	書籍名	著者名	出版社名													
評価方法(基準)	①レポートや発表用資料等の成果物、②SGD、発表、質疑応答等での観察記録(以上40点)及び③臨時試験(60点)を合わせ100点とし、60点以上を合格とします。															
学生へのメッセージ	医療事故(医療行為に関する予期しない結果)は、日々発生しています。これを未然に防ぐことは、患者さんを守るだけでなく、医療従事者自身を守ることにもなります。本科目では、薬剤師、看護師、医師等の医療従事者になりきって、積極的に考え、悩んで下さい。															
担当者の研究室等	辻:1号館3階(病態医学研究室), 岩崎:1号館4階(臨床薬理学研究室), 眞島:1号館2階(実践薬学分野), 鎌田:7号館3階, 森谷:7号館3階, 吉川:7号館3階															
備考	修学状況(受講態度等)が不良の場合、20点を限度に減点することがあります。 事前事後学習に要する時間数は全授業を通じて15時間必要とします。 課題やレポート等に関するフィードバックは、講義及び小グループ討論の中で、適宜、行います。															

科目名	患者安全	科目名 (英文)	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	辻 琢己・岩崎 綾乃・鎌田 佳奈美・眞島 崇・森谷 利香・吉川 有葵
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	薬学部生とともに学ぶ経験を通して、看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技術・態度を身につけるために、医療倫理及び世界標準の患者安全について学び、医療チームの中での看護師が果たすべき責任および役割を学ぶ。
到達目標	<p>(1) 看護師の使命 一般目標：医療の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、看護師としての使命感を身につける。 【患者安全と薬害の防止】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療にかかわるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) 2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。 3. 医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。 4. 医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 <p>(2) 看護師に求められる倫理観 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。 【医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。 <p>【患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) 2. 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) <p>(3) 多職種連携協働とチーム医療 一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種との連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) <p>(4) 人と社会に関わる看護師 一般目標：人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と看護師の関わりを認識する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 2. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)
授業方法と留意点	講義、自己学習、小グループ討論、発表会を行います。 教科書、プリント等を用います。
科目学習の効果 (資格)	チーム医療における患者の安全の守る看護師の役割を学修する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1回 (世界標準の患者安全 1) ○WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 ○医療に関するリスクマネジメントにおける看護師の責任と義務を説明できる。	講義、自己学習 教材：ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
2	2-5回 (指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療にかかわるのリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) ○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度) ○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) ○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) ○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) ○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
3	6回 (世界標準の患者安全 2) ○医療に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	講義、自己学習 教材：ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。
4	7-10回 (指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。) ○医療に関わるリスクを認	自己学習、小グループ討論、発表会	事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。

		<p>識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</p> <p>○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</p> <p>○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</p> <p>○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</p> <p>○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)</p> <p>○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p>		
5	11 回 (世界標準の患者安全3)	<p>○医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。</p> <p>○患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。</p> <p>○患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。</p>	<p>講義、自己学習</p> <p>教材:ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント</p>	<p>事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。</p> <p>事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。</p>
6	12-15 回 (指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。)	<p>○医療に関わるリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</p> <p>○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</p> <p>○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</p> <p>○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</p> <p>○看護師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)</p> <p>○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p>	<p>自己学習、小グループ討論、発表会</p>	<p>事前学習:実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。</p> <p>事後学習:他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。</p>
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
評価方法(基準)	①レポートや発表用資料等の成果物、②SGD、発表、質疑応答等での観察記録(以上40点)及び③臨時試験(60点)を合わせ100点とし、60点以上を合格とします。			
学生へのメッセージ	医療事故(医療行為に関する予期しない結果)は、日々発生しています。これを未然に防ぐことは、患者さんを守るだけでなく、医療従事者自身を守ることにもなります。本科目では、薬剤師、看護師、医師等の医療従事者になりきって、積極的に考え、悩んで下さい。			
担当者の研究室等	辻:1号館3階(病態医学研究室), 岩崎:1号館4階(臨床薬理学研究室), 眞島:1号館2階(実践薬学分野), 鎌田:7号館3階, 森谷:7号館3階, 吉川:7号館3階			
備考	修学状況(受講態度等)が不良の場合、20点を限度に減点することがあります。事前事後学習に要する時間数は全授業を通じて15時間必要とします。課題やレポート等に関するフィードバックは、講義及び小グループ討論の中で、適宜、行います。			

科目名	患者コミュニケーション	科目名(英文)	Communication for Patients
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 結華, 岩崎 綾乃, 眞島 崇, 眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	チーム医療の場面における、患者と医療者のコミュニケーションの基本的概念を習得し、薬学部・看護学部生の共同学習を通して体験的に学ぶ。看護学部生と薬学部生が共同で学ぶことを通じて、薬学部生/看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技能・態度を身につける。本科目では、医療の現場におけるコミュニケーションを、小グループにおける効果的なチーム作りによってリーダーシップ・メンバーシップを意識しながら体験的学習を通して習得する。ケア場面のコミュニケーション、チーム医療に必要なコミュニケーション技法について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者?医療者間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 ・医療を受ける患者を理解し(特に心理プロセス)、コミュニケーション上の配慮を述べることができる。 ・患者?医療者のコミュニケーション(会話)に必要な技法について述べることができる。 ・上記の技法について、模擬的な場面を設定し、体験的に学習し、発表、リフレクションができる。
授業方法及び留意点	講義と、小グループによるディスカッション(SGD)を通して学ぶ。
科目学習の効果(資格)	キャリア形成科目として、今後のチーム医療学習、および様々な現場でのコミュニケーション場面での実践につながる科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業オリエンテーション、医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性	合同講義を行う 授業オリエンテーション、医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性について解説する。	事前課題: テキスト付録のDVDを視聴し、指定箇所を読んでくる。 事後課題: 個人ワークシート記録
2	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(1) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成	
3	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(2) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成	
4	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(3) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成	
5	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(4) クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出	
6	医療を受ける患者の心理プロセス	合同講義を行う。 医療を受ける患者がどのような心理プロセスを経験するのかについて、事例を交えた講義で学ぶ。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題: 個人ワークシート記録	
7	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(1) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成	
8	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(2) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成	
9	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(3) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮し	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成	

キャリア形成科目

			たコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	
	10	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
	11	患者コミュニケーションの基本的技法	合同講義を行う。患者コミュニケーションの基本的技法、体験的に学ぶポイントと、設定作りについて解説する。	事前課題：課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題：個人ワークシート記録
	12	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（1） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	13	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（2） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	14	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（3） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	15	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。 学びのまとめを行う。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
関連科目	看護対人関係論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル	内富 庸介/藤森 麻衣子編著	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	成果物（個人ワークシート記録、発表会用資料等）の提出状況（30%）、最終レポートの内容および提出状況（30%）、態度・パフォーマンスに関する観察記録（ピア評価を含む）（40%）で評価する（100点満点中60点以上で合格）。なお、修学状況（受講態度等）が不良の場合、20点を限度に減点することがある。			
学生への メッセージ	薬学部との共同学習により、より深く患者-医療者間のコミュニケーションについて学ぶとともに、チーム医療について互いに考えを深める機会にしましょう。			
担当者の 研究室等	田中：7号館3階（看護学部研究室9） 眞野：7号館3階（看護学部研究室19） 岩崎：1号館4階（臨床薬理学研究室） 眞島：1号館2階（眞島講師室）			
備考	課題（グループ発表資料等）については、発表時にフィードバックを行い、口頭発表であれば、教員から総括のコメントを行う			

科目名	患者コミュニケーション	科目名(英文)	Communication for Patients
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 結華, 岩崎 綾乃, 眞島 崇, 眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	チーム医療の場面における、患者と医療者のコミュニケーションの基本的概念を習得し、薬学部・看護学部生の共同学習を通して体験的に学ぶ。看護学部生と薬学部生が共同で学ぶことを通じて、薬学部生/看護職者としてのキャリア形成を行い、医療人としてふさわしい知識・技能・態度を身につける。本科目では、医療の現場におけるコミュニケーションを、小グループにおける効果的なチーム作りによってリーダーシップ・メンバーシップを意識しながら体験的学習を通して習得する。ケア場面のコミュニケーション、チーム医療に必要なコミュニケーション技法について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者?医療者間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 ・医療を受ける患者を理解し(特に心理プロセス)、コミュニケーション上の配慮を述べることができる。 ・患者?医療者のコミュニケーション(会話)に必要な技法について述べるができる。 ・上記の技法について、模擬的な場面を設定し、体験的に学習し、発表、リフレクションができる。
授業方法及び留意点	講義と、小グループによるディスカッション(SGD)を通して学ぶ。
科目学習の効果(資格)	キャリア形成科目として、今後のチーム医療学習、および様々な現場でのコミュニケーション場面での実践につながる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション、医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性	合同講義を行う 授業オリエンテーション、医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性について解説する。	事前課題: テキスト付録のDVDを視聴し、指定箇所を読んでくる。 事後課題: 個人ワークシート記録
2	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(1) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
3	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(2) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
4	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(3) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント: 立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
5	ワーク1: 医療の場における患者?医療者間のコミュニケーションの特徴(4) クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
6	医療を受ける患者の心理プロセス	合同講義を行う。 医療を受ける患者がどのような心理プロセスを経験するのかについて、事例を交えた講義で学ぶ。 教材: テキスト、配布物	事前課題: 課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題: 個人ワークシート記録
7	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(1) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
8	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(2) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成
9	ワーク2: 患者の心理プロセスを体験的に理解する(3) クラス別SGD	ワーク: ①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮し	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成

キャリア形成科目

			たコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	
	10	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
	11	患者コミュニケーションの基本的技法	合同講義を行う。患者コミュニケーションの基本的技法、体験的に学ぶポイントと、設定作りについて解説する。	事前課題：課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題：個人ワークシート記録
	12	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（1） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	13	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（2） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	14	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（3） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
	15	ワーク3：患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。 学びのまとめを行う。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
関連科目	看護対人関係論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル	内富 庸介/藤森 麻衣子編著	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	成果物（個人ワークシート記録、発表会用資料等）の提出状況（30%）、最終レポートの内容および提出状況（30%）、態度・パフォーマンスに関する観察記録（ピア評価を含む）（40%）で評価する（100点満点中60点以上で合格）。なお、修学状況（受講態度等）が不良の場合、20点を限度に減点することがある。			
学生への メッセージ	薬学部との共同学習により、より深く患者-医療者間のコミュニケーションについて学ぶとともに、チーム医療について互いに考えを深める機会にしましょう。			
担当者の 研究室等	田中：7号館3階（看護学部研究室9） 眞野：7号館3階（看護学部研究室19） 岩崎：1号館4階（臨床薬剤学研究室） 眞島：1号館2階（眞島講師室）			
備考	課題（グループ発表資料等）については、発表時にフィードバックを行い、口頭発表であれば、教員から総括のコメントを行う			

專 門 基 礎 科 目



科目名	病院薬学演習	科目名(英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	X
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真穂・小西 麗子・小森 浩二・三田村 しのぶ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	チーム医療を担える看護師になるために、模擬処方せんを用いて調剤や服薬指導を実践する中で、病院内で薬剤を取り扱う際の注意点や薬剤に関わる基本的な実務を理解する。
到達目標	チーム医療を担える看護師になるために、演習を通して薬剤に関わる基本的な実務を理解し、薬剤に関する基本的な知識、技能を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義（7号館にて実施）と演習（6号館にて実施）を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果（資格）	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	調剤の基本（計数調剤・散剤・水剤・軟膏剤）を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
3	調剤の基本を実践する 計数調剤/軟膏剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
4	調剤の基本を実践する 計数調剤/軟膏剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
5	調剤の基本を実践する 水剤/散剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
6	調剤の基本を実践する 水剤/散剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
7	基本的な処方箋の意図を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
8	注射剤の基本的な計算が出来る	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
9	注射剤調剤（混注）の基本を理解する	講義（菊田・小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
10	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/調剤薬の 監査 前半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
11	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/調剤薬の 監査 後半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/消毒剤調 製・医薬品管理 前半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
13	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/消毒剤調 製・医薬品管理 後半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
14	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 前半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。
15	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 後半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。

関連科目	薬理学総論、薬物治療学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本[技能]	上村直樹、平井みどり	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち－臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 70% (発表内容を含む) および成果物 30%で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中 60点以上で合格。			
学生への メッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称など初めて目にする知識もあるとは思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。			
担当者の 研究室等	6号館 3階 医療薬学研究室			
備考	講義前の予習 (教科書を読む) : 1時間×15回 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間×15回			

科目名	病院薬学演習	科目名(英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	Y
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真穂・小西 麗子・小森 浩二・三田村 しのぶ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	チーム医療を担える看護師になるために、模擬処方せんを用いて調剤や服薬指導を実践する中で、病院内で薬剤を取り扱う際の注意点や薬剤に関わる基本的な実務を理解する。
到達目標	チーム医療を担える看護師になるために、演習を通して薬剤に関わる基本的な実務を理解し、薬剤に関する基本的な知識、技能を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義（7号館にて実施）と演習（6号館にて実施）を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果（資格）	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	調剤の基本（計数調剤・散剤・水剤・軟膏剤）を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
3	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
4	調剤の基本を実践する 計数調剤／軟膏剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
5	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 前半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
6	調剤の基本を実践する 水剤／散剤 後半	演習（菊田・小森他） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
7	基本的な処方箋の意図を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
8	注射剤の基本的な計算が出来る	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
9	注射剤調剤（混注）の基本を理解する	講義（菊田・小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
10	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の 監査 前半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
11	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製／調剤薬の 監査 後半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調 製・医薬品管理 前半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
13	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製／消毒剤調 製・医薬品管理 後半	演習（菊田・小森他） （6号館1階 無菌調製実習室・ 2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
14	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 前半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。
15	医薬品情報提供書の作成の 基本を理解し、服薬指導を実 践する（発表会） 後半	演習（菊田・小森他）	演習で行った内容を復習しておいてください。

関連科目	薬理学総論、薬物治療学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本[技能]	上村直樹、平井みどり	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち－臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 70% (発表内容を含む) および成果物 30%で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中 60点以上で合格。			
学生への メッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称など初めて目にする知識もあるとは思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。			
担当者の 研究室等	6号館 3階 医療薬学研究室			
備考	講義前の予習 (教科書を読む) : 1時間×15回 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間×15回			

科目名	カウンセリング論	科目名(英文)	Counseling
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮川 貴美子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的
臨床現場で役に立つカウンセリングの基礎理論と技法を学び、援助的なコミュニケーションとは何かを考える力を育てることを目的とする。ここではカウンセリングの基本となる「きくこと」の援助的な意味を学び、カウンセリングの対話と日常的対話の違いを理解することを目指すものである。これら講義による知的理解に加えて、「聴く・聴いてもらう」「聴く・語る」という自らの体験実習と、さまざまな映像資料を通して、援助的対話のあり方とは何か、カウンセリングの基本的要素である「傾聴」を学び、カウンセリングについての理解を深めていく。

到達目標
カウンセリングの基礎を学ぶとともに、対象者に寄り添い、傾聴する構えを習得することができる。

授業方法と留意点
授業はプリントを使用して講義形式により行うとともに、補助的に映像資料を用いたり、さまざまな実習(実習1～実習8)を行う予定である。講義による知的理解に加えて、これらの実習を通して受講生それぞれの体験的理解を目指している。実習では、ペアやグループでの作業が多くなるので、受講生の主体的な参加が求められる。また実習の体験をもとにレポートが課されるので、欠席・遅刻をするとレポートの作成ができないだけでなく他のメンバーへも迷惑をかけることになる。したがって、やむをえない場合を除き、原則として欠席・遅刻は認めない。

授業中に数回、宿題レポートを提出してもらう予定である。レポートの提出期限については、指定の日時を厳守すること。期日を過ぎたものについては、いかなる理由であっても受け付けない(ただし学校感染症などによる欠席の場合は、公的な証明書類の提出をもって考慮する)。

毎回、授業の最後に講義を受けて気づいたこと、感じたこと、考えたこと、疑問に思うこと、講師への質問などを自由にまとめる「コメントカード」を提出してもらい、書かれた内容について次回の授業の中で、教員から全体へ向けてのフィードバックを行う。この「コメントカード」の提出は「授業への積極的関与度」をはかる指標とするともに、学生と教員との双方向コミュニケーションをめざすものである。

科目学習の効果(資格)
看護の現場で役に立つカウンセリングの態度と技法を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: カウンセリングとは	・授業のねらいと授業概要の概説。 ・カウンセリングとは何かを考えるきっかけをつくる(実習1)	授業内容をふりかえって、次回の授業に備えましょう。
2	心理療法の歴史	心理療法の歴史と理論を概観する。	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
3	心理療法とカウンセリング	・心理臨床における心理療法とカウンセリング ・心理療法の構造	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
4	対人援助の方法としてのカウンセリング	・対人援助としてのカウンセリングの意味 ・援助的なコミュニケーションとは何か(実習2)	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
5	カウンセリングにおける応答のあり方	・カウンセリング場面の実際を知る ・援助的な応答とは何かを考えるきっかけを作る(実習3)	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
6	カウンセリングにおける援助の技法	・カウンセリングの方法論 ・カウンセリングの目的 ・基本的なカウンセリング技法 ・共感とは	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
7	クライアント中心療法	C.R. ロジャーズの理論を学ぶ	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
8	カウンセリングの実際	映像資料を通して、カウンセリングの理論と技法の理解を深める。	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
9	援助的なコミュニケーションとは	コミュニケーション実習(実習4、実習5、実習6)を通して、カウンセリングについて体験的に理解する。	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
10	「聴く」ことを考える	・自分の聴き方の特徴に気づく ・傾聴の意義について考える(実習7)	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
11	カウンセリングにおけるラポールと転移・逆転移	・ラポールとは ・転移・逆転移とは	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
12	カウンセリングのロールプレイ	クライアント役とカウンセラー役を体験してみる(実習8)。	実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
13	カウンセリングの実際	資料映像を通して、終末期にある人に対する援助的コミュニケーションのあり方を考える。	終末期を生きるということの意味を考えてみましょう。
14	看護師のメンタルヘルス	・メンタルヘルスとは何か ・ストレスコーピング ・看護師のメンタルヘルスの必要性	自分のメンタルヘルスについて考えてみましょう。
15	まとめ	授業全体をふりかえる	授業全体をふりかえって整理し、期末試験に備えましょう。

関連科目 臨床心理学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

評価方法(基準)
期末試験の成績(60%)とレポートの評価および授業への積極的関与度(40%)をもって、総合的に評価する。
上記の「授業方法と留意点」にあるように、ほぼ毎回の授業の最後には「コメントカード」の提出があり、このコメントカードの記述内容により授業への積極的関与の程度を判断する。

学生へのメッセージ
カウンセリング論は実践の学である。したがって知的な理解だけでは臨床の現場では役に立たないとの観点から、この授業では講義による知的理解に加えて、さまざまな実習が用意されている。実習に対しては主体的に参加することが求められる。また受講生諸君には、この授業を通して看護師としての対人援助のあり方について考える機会としてほしい。

担当者の研究室等
1号館2階 非常勤講師室

備考

専門基礎科目

科目名	疫学・保健統計	科目名(英文)	Epidemiology and Health Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	集団の健康を扱い、人々の健康の維持・増進、そして疾病予防を目指す公衆衛生では、集団の健康や疾病発生に関連する情報の入手とその解析が不可欠である。そうした情報を見通し適切な対策を立てる上でも欠かせない。本講義では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的考え方及び方法について学ぶ。また、疫学で用いられる統計とその基礎について学び、日本人の健康を表す人口・出生・死亡に関わる保健統計の理解も深める。
到達目標	疫学および保健統計を含む統計学の基本を学び、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果(資格)	健康に関する事象について、論理的捉え方・考え方ができるようになる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疫学の概要	疫学の考え方、歴史	・第1回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
2	疫学指標	割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
3	疫学研究デザイン(1)	因果推論、介入研究(1)	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
4	疫学研究デザイン(2)	介入研究(2)、観察研究(1)	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
5	疫学研究デザイン(3)	観察研究(2)	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
6	誤差とバイアス(1)	偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
7	誤差とバイアス(2)	情報バイアス、選択バイアス、交絡、交絡の調整	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
8	スクリーニング	検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC曲線	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
9	母集団の平均値の推定(1)	区間推定、有意水準、95%信頼区間の考え方	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
10	母集団の平均値の推定(2)	演習	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
11	平均値の差の検定(1)	有意水準とP値の考え方	・前回学習内容を資料と教科書で復習すること ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと

				<ul style="list-style-type: none"> ・わからない点を次回までに解決しておくこと 																
	12	平均値の差の検定 (2)	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜) 																
	13	母集団の割合の推定	区間推定、有意水準、95%信頼区間の考え方、演習	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜) 																
	14	割合の差の検定 (1)	有意水準と P 値の考え方、演習 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜) 																
	15	割合の差の検定 (2)	演習 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を資料と教科書で復習すること (30分) ・わからない点を解決すること (適宜) 																
関連科目	情報リテラシー II																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめて学ぶやさしい疫学 ～疫学への招待～</td> <td>日本疫学会</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめて学ぶやさしい疫学 ～疫学への招待～	日本疫学会	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめて学ぶやさしい疫学 ～疫学への招待～	日本疫学会	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために</td> <td>片平 洵彦</td> <td>桐書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために	片平 洵彦	桐書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために	片平 洵彦	桐書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、疫学・保健統計を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。 																			
担当者の研究室等	7号館3階24																			
備考	なし																			

科目名	看護関係法規	科目名 (英文)	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	(概要) ・看護職は保健医療福祉サービスに携わる多くの職種と連携し、対象となる人々の健康を回復・維持・増進する。 ・チーム医療の中で看護職がどのような役割を担い、職務を遂行する必要があるのか理解するために、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ、保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を学ぶ必要がある。 ・看護職として職務を遂行するための根拠や判断基準が修得できるよう学ぶ。
到達目標	・保健師助産師看護師法の目的を説明できるようになる。 ・「ヒヤリ・ハット」、「医療事故」および「医療過誤」の区別を理解する。 ・医療従事者の行政責任、民事責任および刑事責任の内容を正しく理解する。 ・保健師助産師看護師法および周辺の医事法、医薬品医療機器等法、環境衛生法、社会保険法、労働法の重要事項を理解する。
授業方法と留意点	ミニレクチャーと事前課題に基づいたディスカッション形式で行う。 必要に応じてレジュメを配布する。
科目学習の効果 (資格)	看護専門職業人として必要な看護に関する法規の基本的事項を学び、職務を遂行するための根拠や判断基準の知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法の概念	・講義概要の説明 ・厚生行政のしくみ	・教科書の入手 ・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
2	看護法 (1)	・保健師助産師看護師法	・事前：教科書該当箇所の精読 看護学概論で学んだ内容を復習しておく ・事後：要点をノートに整理
3	看護法 (2)	・看護師等の人材確保の促進に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
4	医事法と看護 (1)	・医療法	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
5	医事法と看護 (2)	・医師法等医療関係職種に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
6	保健衛生法と看護 (1)	・共通保健法 ・分野別保健法	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
7	保健衛生法と看護 (2)	・感染症に関する法律 ・食品に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
8	薬務法と看護	・薬事一般に関する法律	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
9	労働法と看護	・労務法 ・社会基盤整備	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
10	看護事故の法的責任 (1)	・患者の人権と患者の権利 ・患者の自己決定権	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
11	看護事故の法的責任 (2)	・医療過誤 ・刑事上の責任 ・民事上の責任 ・行政上の責任	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
12	看護職と介護職の協働	・介護職の資格制度と教育 目的・定義・免許・業務	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
13	看護学生の臨地実習と法の 関係	・臨地実習における事故の法的責任	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
14	時事的な医療関連の法律	医療関連法律のトピックス	・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理
15	全体のふりかえりとまとめ		・事前：教科書該当箇所の精読 提示された課題に取り組む ・事後：要点をノートに整理

関連科目 法学入門、日本国憲法、保健医療福祉行政論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令	森山 幹夫	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護師を目指す人のための関係法規	森田=野畑/編著	法律文化社
2	私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法	田村やよひ	日本看護協会出版会	

専門基礎科目

	3		
評価方法 (基準)	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 70%、課題・グループワーク 30%		
学生への メッセージ	看護職に関する法律へ関心をもち、テレビ・新聞・インターネットなどから情報を得て、身の回りで体験している事象と関連付けて学んでいきましょう。実習とも関係があります。		
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室28 松本		
備考			

発行 2017年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪市寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

発行 2017年4月

常翔学園 摂南大学

枚方校地

〒573-0101

大阪市枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3101 【枚方事務室】

